

第26回
文京区政に関する世論調査
報告書

令和6年12月
文京区

はじめに

文京区では、平成22年6月に策定した基本構想に掲げる将来都市像の実現に向け、区民等との協働・協治の下、様々な行政課題の解決に取り組んでまいりました。それにより、年少人口の増加傾向が続き、令和5年には人口が23万人を超え、「選ばれる自治体」としても発展を続けております。

令和6年3月に策定した、令和6年度から9年度までを計画期間とする第2期の「文の京」総合戦略では、区が解決すべき主要課題を明らかにし、施策や事業の展開には絶えず検証を加えるとともに、SDGsやSociety5.0の視点も生かしながら、分野や領域を超えた柔軟な発想により、効果的・効率的な事業展開を図るなど、社会状況の変化に適応する課題解決型の区政運営を推進しています。

また、区では、区政を話し合う集い、広聴はがき、区民の声（ホームページ）など各種の広聴活動を行い、区民の皆様のご意見、ご要望の把握に努めております。

世論調査は、この広聴活動の一環として、3年に一度実施しております。第26回となる今回の調査では、「定住意向」「区政運営」「人権・ダイバーシティ」「防災・安全」「協働・協治」「消費者相談」「文化・芸術・スポーツ」「高齢者・障害者」「子育て・教育」「健康・保健」「住環境・まちづくり」「環境・循環型社会」「議会」の13項目について調査を実施しました。この調査結果につきましては、今後の区政運営の貴重な基礎資料として活用させていただきます。

おわりに、調査にご協力いただきました区民の皆様に心からお礼申し上げます。

令和6年12月

文京区長 成澤 廣修

I 調査の概要

1. 調査の目的	3
2. 調査の内容	3
3. 調査の設計	3
4. 回収結果	3
5. 地区区分	4
6. 集計にあたって	4
7. 分析にあたって	5
8. 母集団との比較	5
9. 回答者の特性	6

II 調査結果の分析

1. 定住意向	11
1-1 居住年数	11
1-2 定住・転出意向	13
1-3 住み続けたい理由	16
2. 区政運営	21
2-1 関心のある区の施策	21
2-2 関心のある区の施策への関わり	24
2-3 区の施策に対する満足度	27
2-4 満足に感じている区の施策	30
2-5 不満に感じている区の施策	33
2-6 さらに力を入れてほしい区の施策	36
2-7 区の財政状況に対する関心	39
2-8 区の財政状況に対する印象	43
2-9 財政の健全化を進めていくために必要なこと	47
2-10 手続きのデジタル化により実現すると良いと思う区のサービス	49
2-11 インターネットで申請・届出等ができると思う行政手続きや 区のサービス	52
3. 人権・ダイバーシティ	57
3-1 人権や差別・偏見問題に関して区が力を入れるべきもの	57
4. 防災・安全	61
4-1 防犯対策で強化してほしいこと	61
4-2 特殊詐欺対策で強化してほしいこと	64
4-3 区が「在宅避難」を推進していることの認知度	67
4-4 災害への備え	70
4-5 区からの災害情報の提供方法の認知度	73
4-6 防災行政無線の使用方法	76

目 次

5. 協働・協治	81
5-1 地域で実施されている活動への関心	81
5-2 現在参加している地域活動	85
5-3 現在参加している地域活動の分野	88
5-4 今後参加してみたい地域活動	91
5-5 町会・自治会の加入状況	94
5-6 町会・自治会への参加意欲	98
5-7 町会・自治会に期待すること	102
6. 消費者相談	107
6-1 「消費者相談室」の認知度	107
7. 文化・芸術・スポーツ	111
7-1 文京ふるさと歴史館と森鷗外記念館があることの認知度	111
7-2 安心してスポーツに親しむことができる環境のために必要なこと	113
8. 高齢者・障害者	117
8-1 成年後見制度に関する認知度	117
8-2 「高齢者あんしん相談センター」の認知度	120
8-3 「フレイル」の認知度	123
8-4 「合理的配慮」の認知度	126
8-5 「ヘルプマーク」と「ヘルプカード」の認知度	129
8-6 手話が日本語とは異なる独自の文法をもつ言語であることの認知度	132
9. 子育て・教育	137
9-1 「子どもの権利」の認知度	137
9-2 「部活動の地域連携・地域移行」が進められていることの認知度	140
9-3 青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきこと	143
10. 健康・保健	149
10-1 現在も引き続き行っている感染症対策	149
10-2 区の保健医療施策に関する情報の入手方法	152
11. 住環境・まちづくり	157
11-1 自転車の安全利用対策	157
11-2 公園再整備にあたり求める役割	160
11-3 「文京区公共の場所における喫煙等の禁止に関する条例」の認知度	163
12. 環境・循環型社会	169
12-1 環境について知りたい情報	169
12-2 ごみ減量のために取り組むべきこと	171
13. 議会	175
13-1 区議会の活動の認知媒体	175
13-2 区議会の活動として期待すること	177
13-3 区議会ホームページの閲覧頻度	179

Ⅲ 質問と回答	183
---------	-----

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、区民の区政に対する意識や意向、意見や要望等を統計的手法によつて的確に把握することを目的として行った。

2. 調査の内容

- | | |
|----------------|----------------|
| (1) 定住意向 | (8) 高齢者・障害者 |
| (2) 区政運営 | (9) 子育て・教育 |
| (3) 人権・ダイバーシティ | (10) 健康・保健 |
| (4) 防災・安全 | (11) 住環境・まちづくり |
| (5) 協働・協治 | (12) 環境・循環型社会 |
| (6) 消費者相談 | (13) 議会 |
| (7) 文化・芸術・スポーツ | |

3. 調査の設計

- | | |
|------------|----------------------------|
| (1) 調査地域 | 文京区全域 |
| (2) 調査対象 | 文京区在住の満18歳以上の個人（住民基本台帳による） |
| (3) 標本数 | 2,500サンプル |
| (4) 対象者の抽出 | 層化2段無作為抽出法（5地区に分類し対象者を抽出） |
| (5) 調査方法 | 郵送配布・郵送回収またはインターネット回答 |
| (6) 調査期間 | 令和6年8月26日（月）～9月9日（月） |
| (7) 調査機関 | 株式会社エスピー研 |

4. 回収結果

(1) 地区別

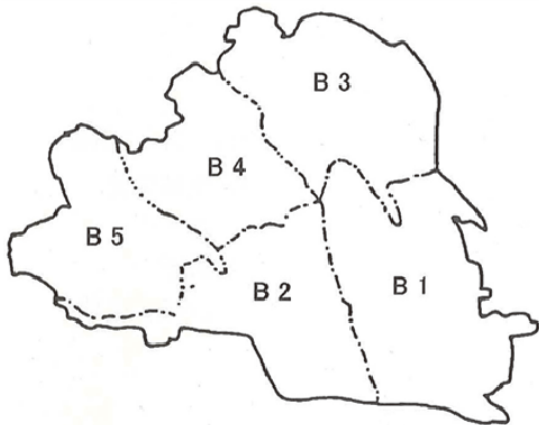
	満18歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
全体	170,499	100.0%	2,500	1,032	41.3%
B1地区	41,805	24.5%	607	232	38.2%
B2地区	34,096	20.0%	501	214	42.7%
B3地区	40,875	24.0%	609	257	42.2%
B4地区	28,564	16.8%	413	171	41.4%
B5地区	25,159	14.7%	370	146	39.5%
地区不明	-	-	-	12	-

※満18歳以上人口：令和6年8月1日現在

(2) 回収方法別

	有効回収数	構成比
全体	1,032	100.0%
郵送	573	55.5%
インターネット	459	44.5%

5. 地区区分



地区	町名(丁目)
B 1	根津、弥生、本郷、湯島、西片、白山(1丁目)、向丘(1丁目)
B 2	後楽、春日、水道、小石川(1～4丁目)、関口(1丁目)、小日向(1丁目)、白山(2丁目)
B 3	千駄木、本駒込、向丘(2丁目)、白山(5丁目)
B 4	千石、白山(3・4丁目)、大塚(3・4丁目)、小石川(5丁目)
B 5	音羽、目白台、大塚(1・2・5・6丁目)、関口(2・3丁目)、小日向(2～4丁目)

6. 集計にあたって

- (1) 図表中の「n」(number of caseの略)は、各設問の回答者数を示し、比率算出の基数である。
- (2) 集計は百分率とし、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても100.0%ちょうどにならず、1%の範囲で増減することがある。
- (3) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (4) 集計は、①単純集計、②フェイスシートとのクロス集計、③設問間のクロス集計の3種類を行った。
- (5) 標本誤差は回答者数と得られた結果の比率によって異なるが、層化二段無作為抽出法による場合の誤差(信頼度95%)は次の式によって得られる。

$$b = 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b : 標本誤差(二段抽出の場合)
 N : 母集団全体
 n : 比率算出の基数(回答者数)
 P : 回答比率

今回の調査結果の場合、誤差及び信頼の範囲は下表のとおりであり、「ある設問の回答者数が1,032人で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その答比率の誤差の範囲は、最高でも±4.31である」というようにみる。

〈標本誤差早見表〉(信頼度:95%)

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,032	±2.64	±3.52	±4.03	±4.31	±4.40
900	±2.83	±3.77	±4.32	±4.62	±4.71
800	±3.00	±4.00	±4.58	±4.90	±5.00
400	±4.24	±5.66	±6.48	±6.93	±7.07
200	±6.00	±8.00	±9.17	±9.80	±10.00
100	±8.49	±11.31	±12.96	±13.86	±14.14

※Nはnより非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

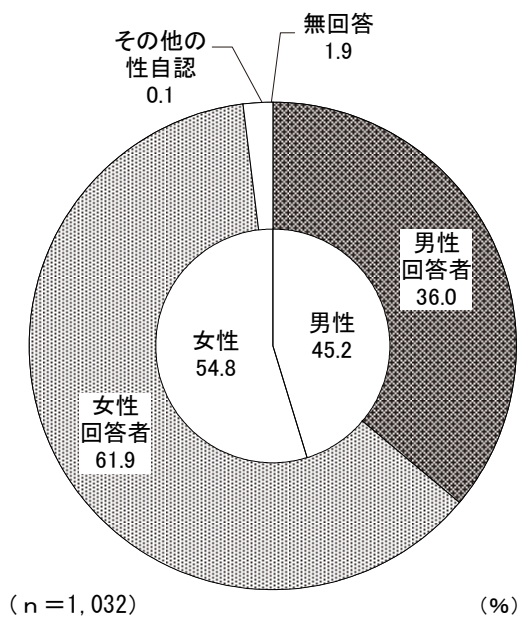
7. 分析にあたって

- (1) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (2) クロス結果の帯グラフや表について、表側（分析の軸）となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、表側（分析の軸）の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。
- (3) 複数回答の設問におけるクロス結果の棒グラフは、上位10項目に限定している場合があり、その際、「その他」は対象から除き表示していない。
- (4) クロス集計時に、基数（n）が小さい数字になる場合は誤差が大きいため注意が必要であり、コメントを省略していることがある。
- (5) ライフステージの分類は以下のとおりである。

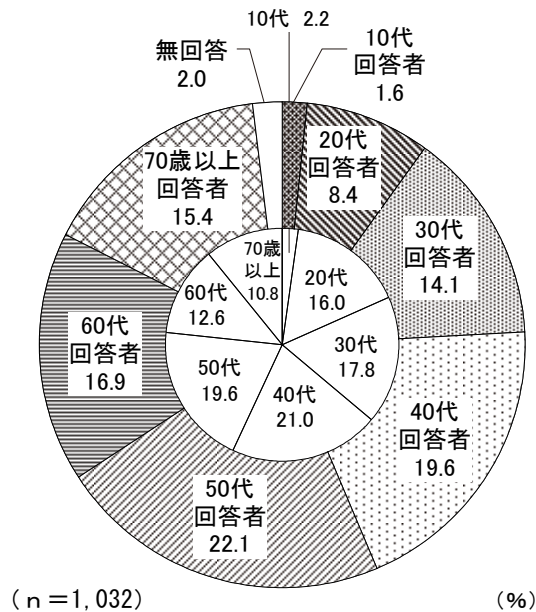
・ 独身期 ……………	40 歳未満の独身者
・ 家族形成期 ……	40 歳未満の子どもがいない夫婦、 または一番上の子どもが就学前の人
・ 家族成長前期 ……	一番上の子どもが小・中学生の人
・ 家族成長後期 ……	一番上の子どもが高校・大学生の人
・ 家族成熟期 ……	64 歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
・ 老齢期 ……………	65 歳以上の人
・ その他 ……………	40 歳～64 歳の独身者、40 歳～64 歳の子どもがいない夫婦など

8. 母集団との比較

(1) 性別構成



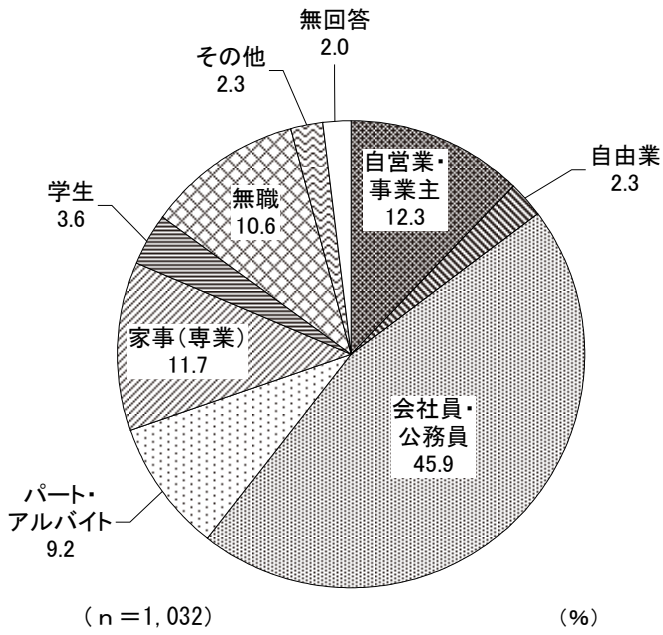
(2) 年代構成



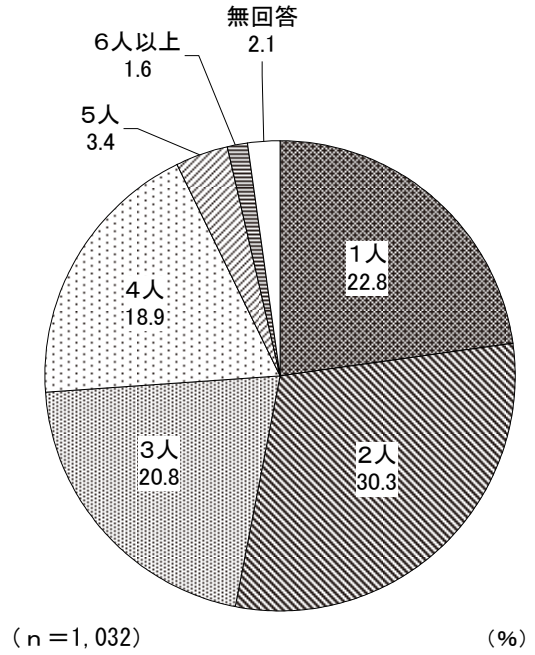
※円内は母集団の、外円は調査回答者の構成比を表している。

9. 回答者の特性

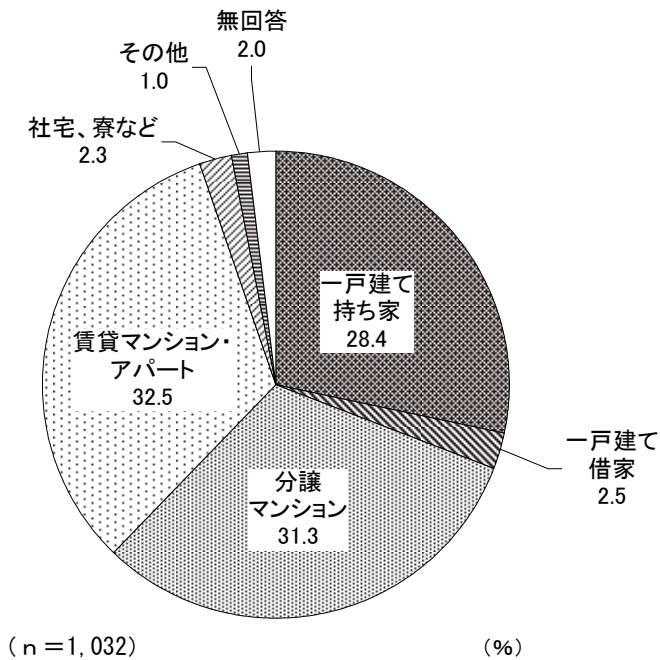
(1) 職業



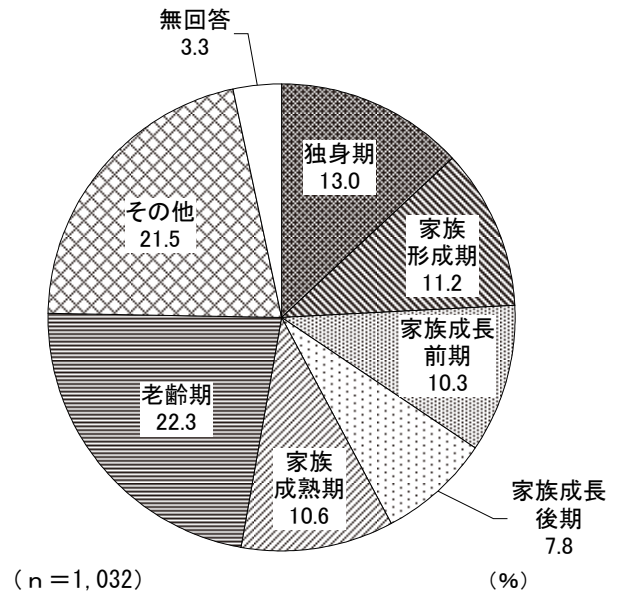
(2) 家族人数



(3) 居住形態



(4) ライフステージ



Ⅱ 調査結果の分析

1. 定住意向

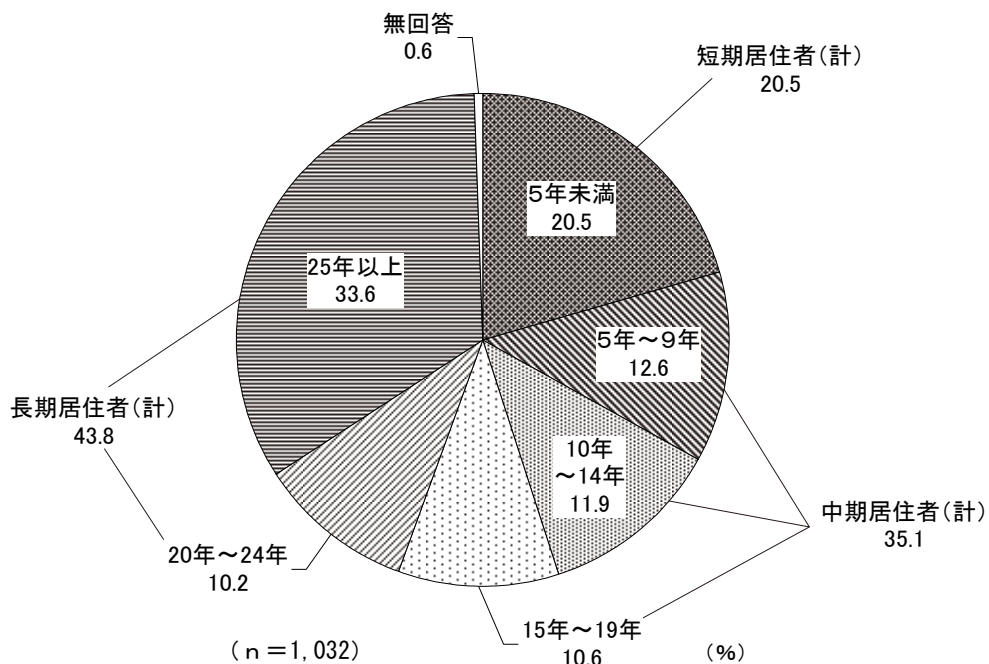
-
- 1-1 居住年数
 - 1-2 定住・転出意向
 - 1-3 住み続けたい理由
-

1. 定住意向

1-1 居住年数

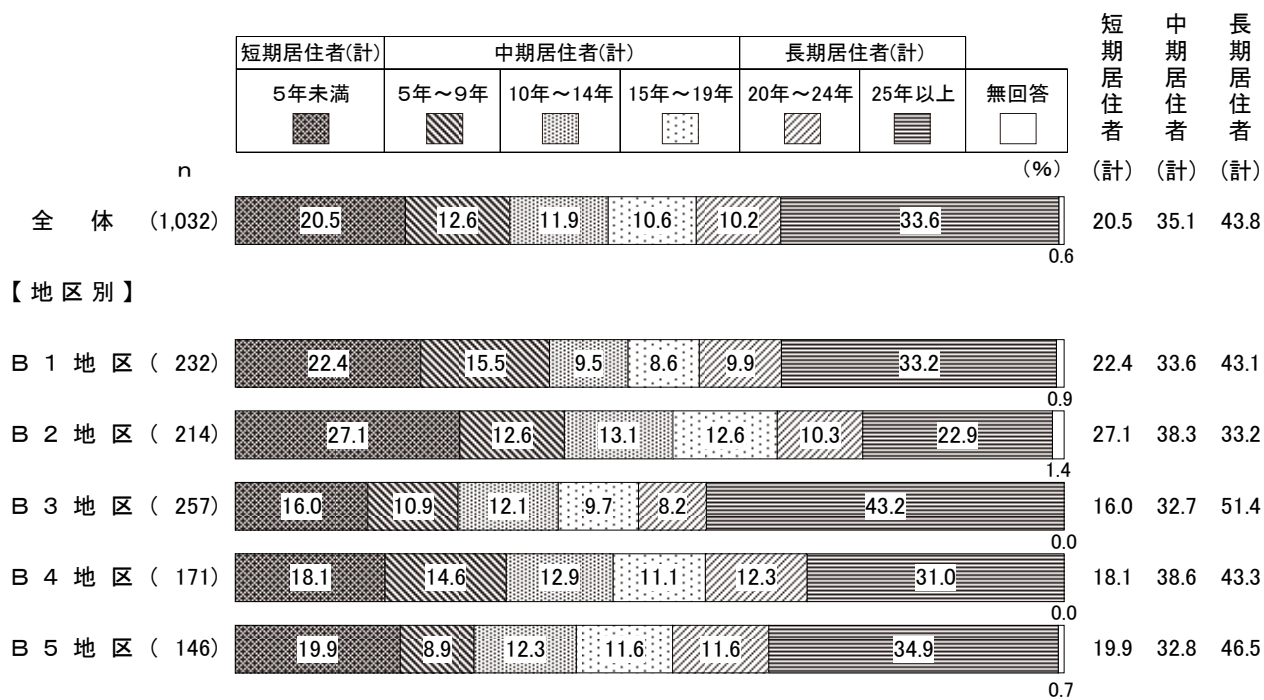
問1 文京区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つ)

図1-1-1 居住年数



居住年数をたずねたところ、「5年未満」の『短期居住者(計)』(20.5%)が約2割、「5年～9年」(12.6%)、「10年～14年」(11.9%)、「15年～19年」(10.6%)を合わせた『中期居住者(計)』(35.1%)が3割半ば、「20年～24年」(10.2%)と「25年以上」(33.6%)を合わせた『長期居住者(計)』(43.8%)が4割を超えている。(図1-1-1)

図 1 - 1 - 2 居住年数一地区別



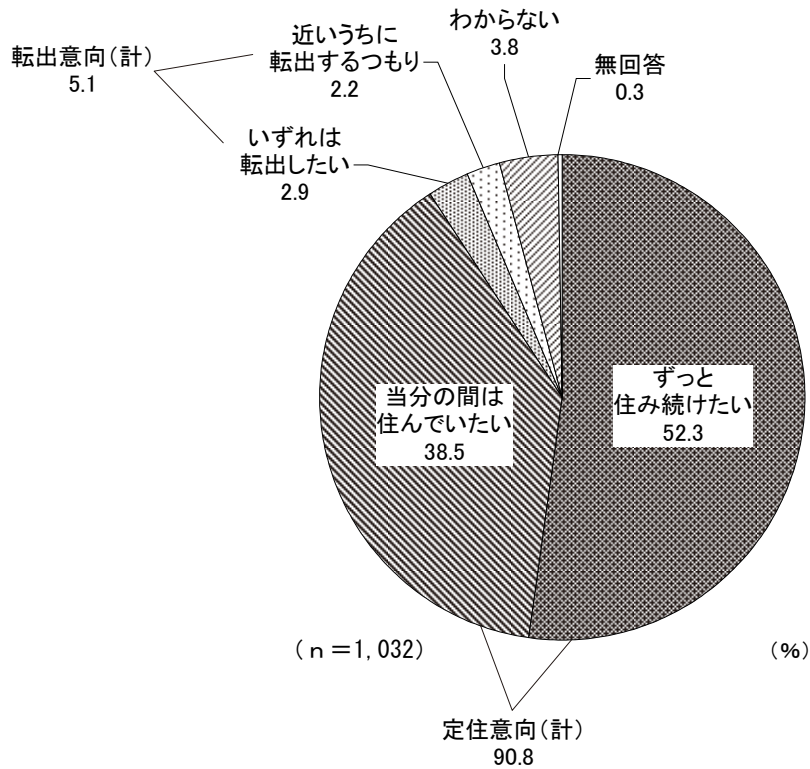
地区別にみると、『短期居住者(計)』はB 2地区で3割近くと多くなっている。『中期居住者(計)』はB 2地区とB 4地区で4割近くと多くなっている。『長期居住者(計)』はB 3地区で5割を超えて多くなっている。(図 1 - 1 - 2)

※地区区分は4ページ参照

1-2 定住・転出意向

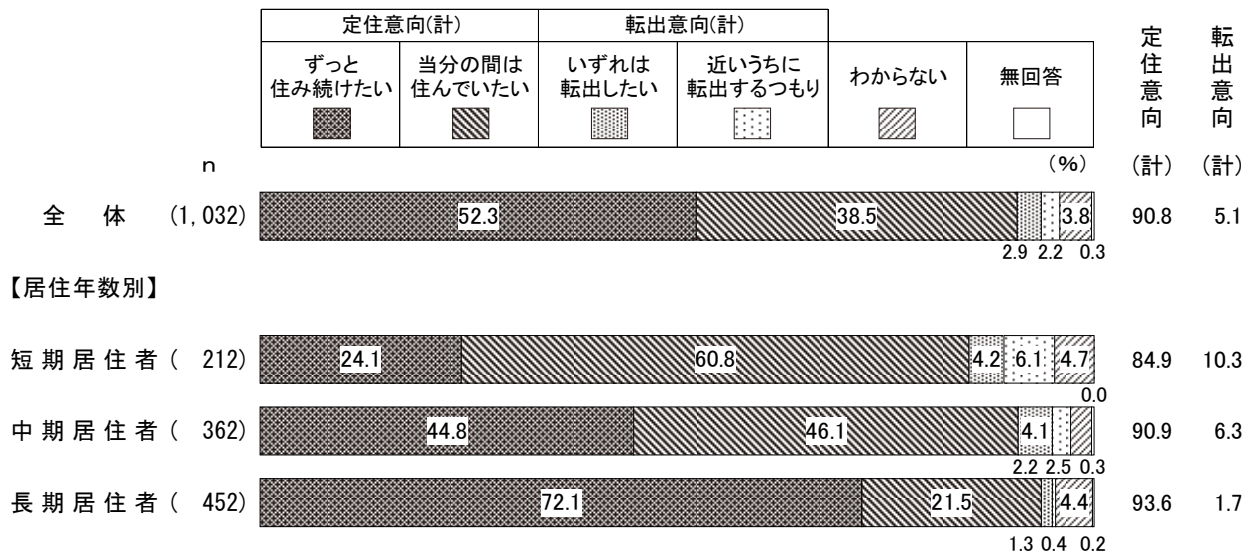
問2 これからも文京区に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

図1-2-1 定住・転出意向



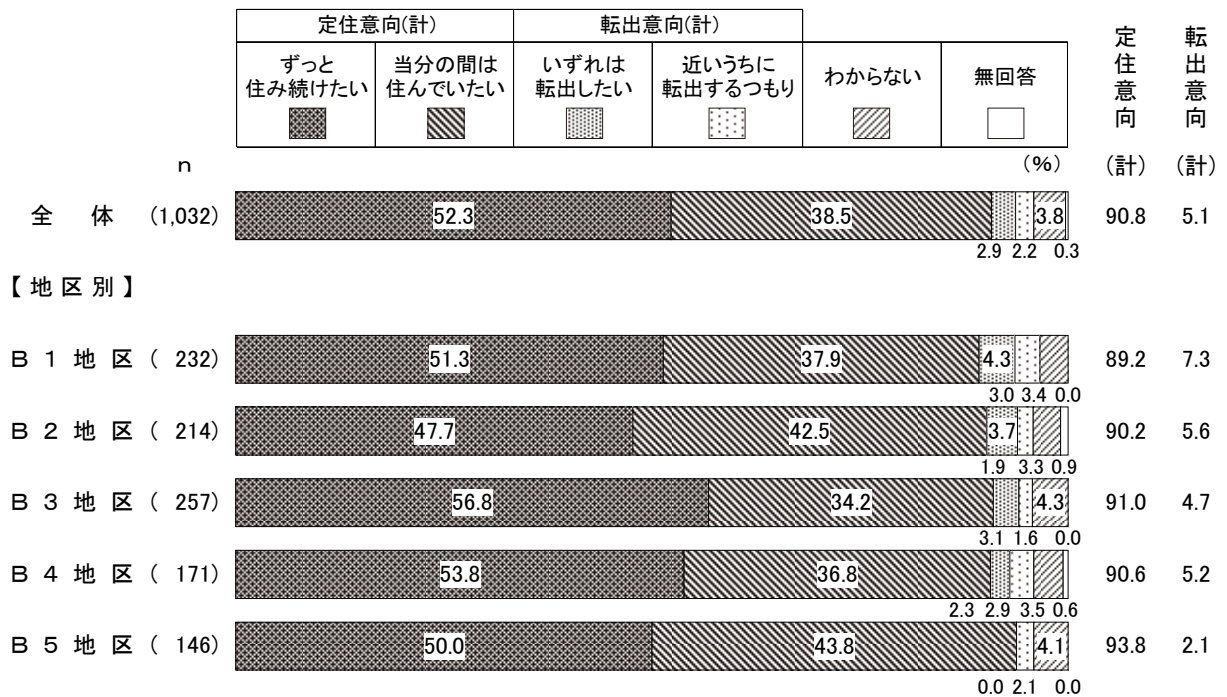
定住・転出意向をたずねたところ、これからも文京区に「ずっと住み続けたい」(52.3%)が5割を超え、これに「当分の間は住んでいたい」(38.5%)を合わせた『定住意向(計)』(90.8%)が約9割となっている。一方、「いずれは転出したい」(2.9%)と「近いうちに転出するつもり」(2.2%)を合わせた『転出意向(計)』(5.1%)は1割未満となっている。(図1-2-1)

図 1-2-2 定住・転出意向—居住年数別



居住年数別にみると、「ずっと住み続けたい」は居住年数が長くなるほど割合が高く、長期居住者で7割を超えている。『定住意向 (計)』は居住年数が長くなるほど割合が高く、長期居住者で9割を超えている。(図 1-2-2)

図 1-2-3 定住・転出意向—地区別

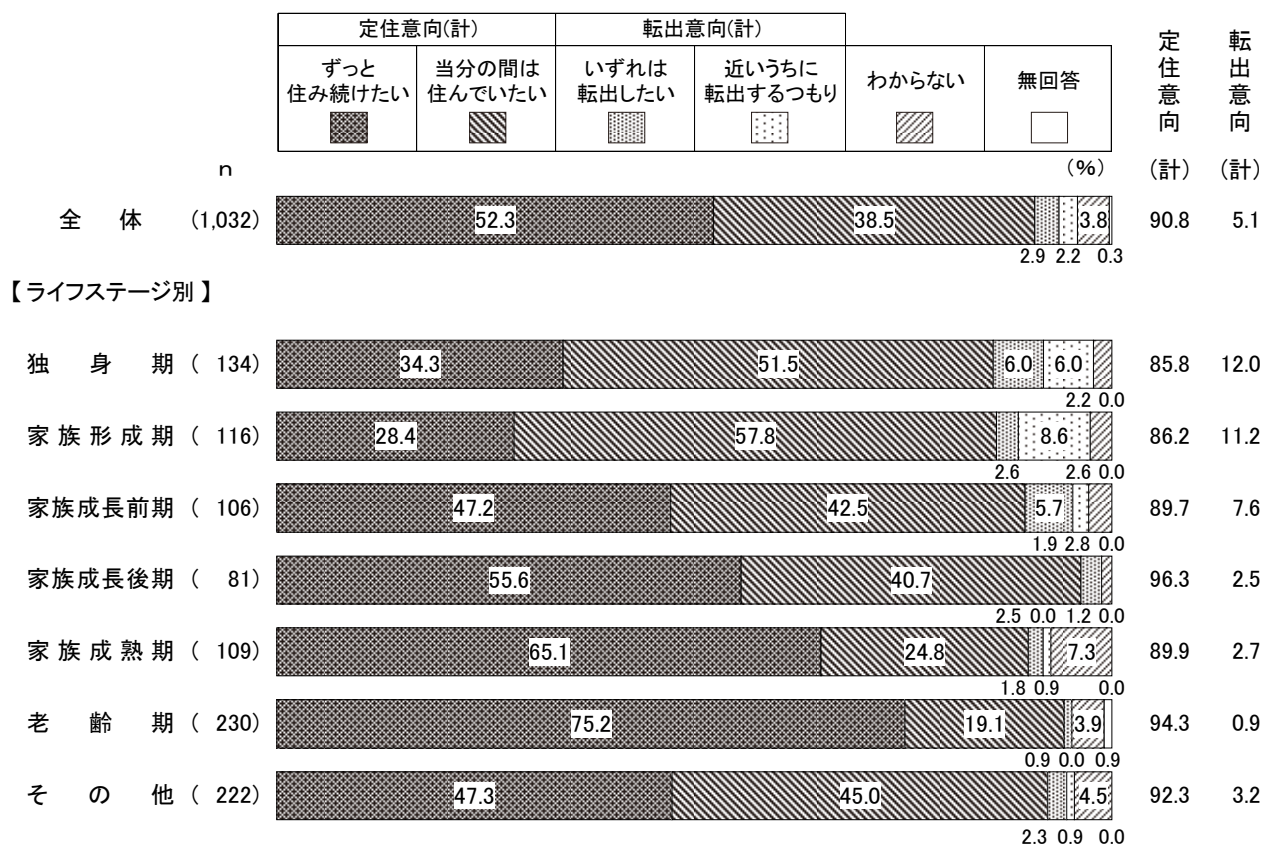


地区別にみると、『定住意向 (計)』はB 1地区を除くすべての地区で9割台となっている。

(図 1-2-3)

※地区区分は4ページ参照

図 1-2-4 定住・転出意向－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「ずっと住み続けたい」は老齢期で7割半ば、家族成熟期で6割半ばと多くなっている。『定住意向(計)』は家族成長後期と老齢期で9割半ばと多くなっている。

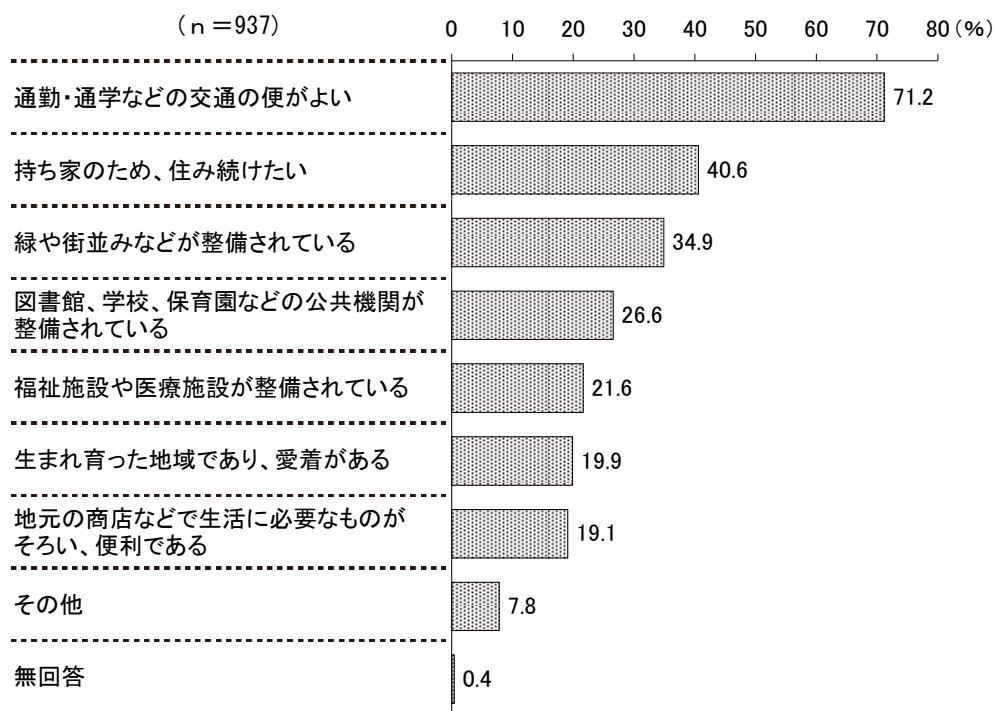
(図 1-2-4)

1-3 住み続けたい理由

【問2で「ずっと住み続けたい」または「当分の間は住んでいたい」と回答された方にうかがいます】

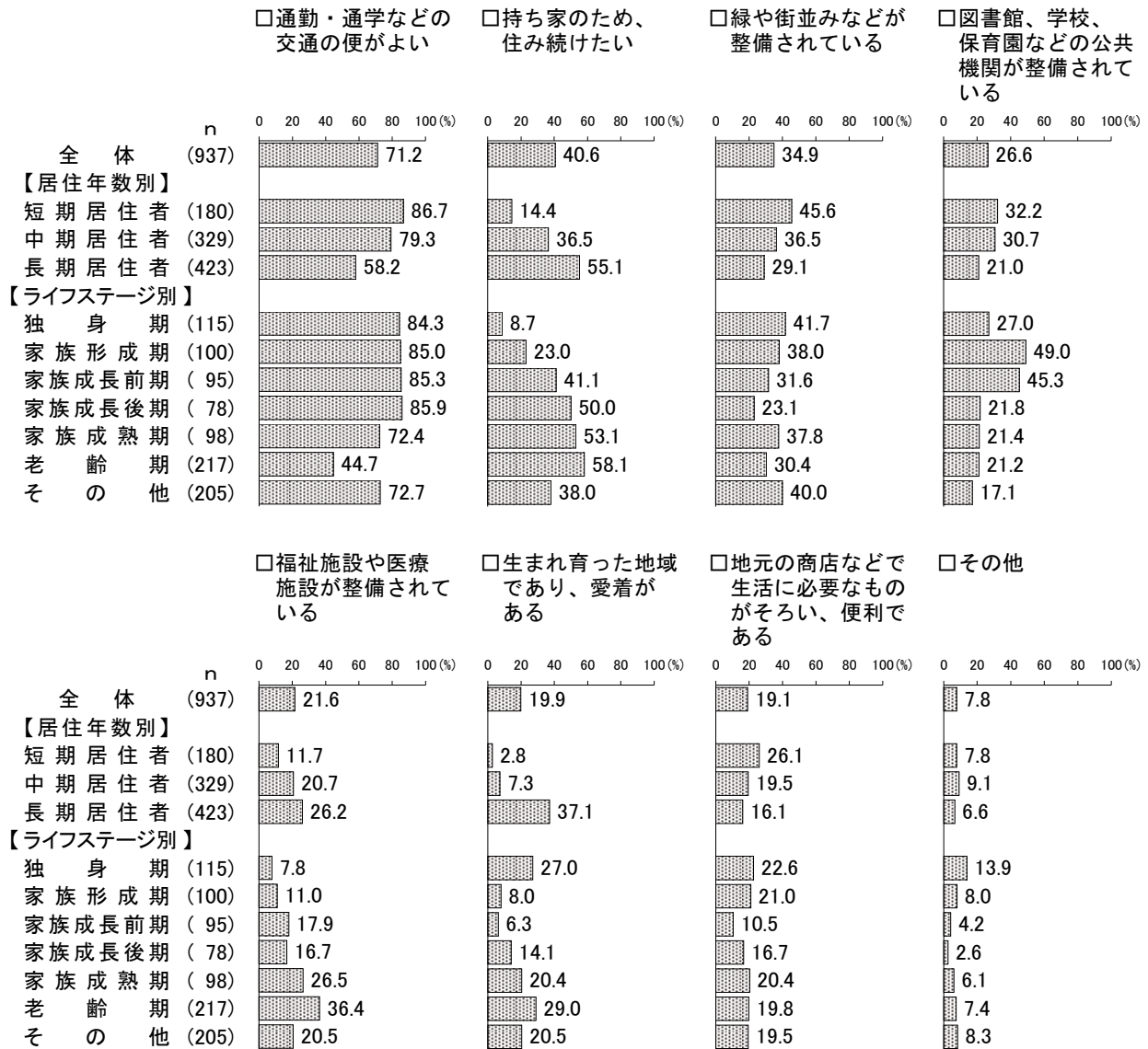
問2-1 住み続けたいと思う理由を3つ以内でお選びください。(○は3つまで)

図1-3-1 住み続けたい理由



これからも文京区に「ずっと住み続けたい」または「当分の間は住んでいたい」と答えた方(937人)に、住み続けたい理由をたずねたところ、「通勤・通学などの交通の便がよい」(71.2%)が7割を超えて最も多く、次いで「持ち家のため、住み続けたい」(40.6%)、「緑や街並みなどが整備されている」(34.9%)、「図書館、学校、保育園などの公共機関が整備されている」(26.6%)などの順となっている。(図1-3-1)

図 1-3-2 住み続けたい理由—居住年数別／ライフステージ別



居住年数別にみると、「通勤・通学などの交通の便がよい」、「緑や街並みなどが整備されている」、「図書館、学校、保育園などの公共機関が整備されている」、「地元の商店などで生活に必要なものがそろい、便利である」は居住年数が短くなるほど割合が高くなっている。一方、「持ち家のため、住み続けたい」、「福祉施設や医療施設が整備されている」、「生まれ育った地域であり、愛着がある」は居住年数が長くなるほど割合が高くなっている。

ライフステージ別にみると、「通勤・通学などの交通の便がよい」は家族成長後期、家族成長前期、家族形成期、独身期で8割半ばと多くなっている。「持ち家のため、住み続けたい」は老齢期で6割近くと多くなっている。「図書館、学校、保育園などの公共機関が整備されている」は家族形成期で約5割と多くなっている。(図 1-3-2)

2. 区政運営

-
- 2-1 関心のある区の施策
 - 2-2 関心のある区の施策への関わり
 - 2-3 区の施策に対する満足度
 - 2-4 満足に感じている区の施策
 - 2-5 不満に感じている区の施策
 - 2-6 さらに力を入れてほしい区の施策
 - 2-7 区の財政状況に対する関心
 - 2-8 区の財政状況に対する印象
 - 2-9 財政の健全化を進めていくために必要なこと
 - 2-10 手続きのデジタル化により実現すると良いと思う区のサービス
 - 2-11 インターネットで申請・届出等ができる则认为良いと思う行政手続きや区のサービス
-

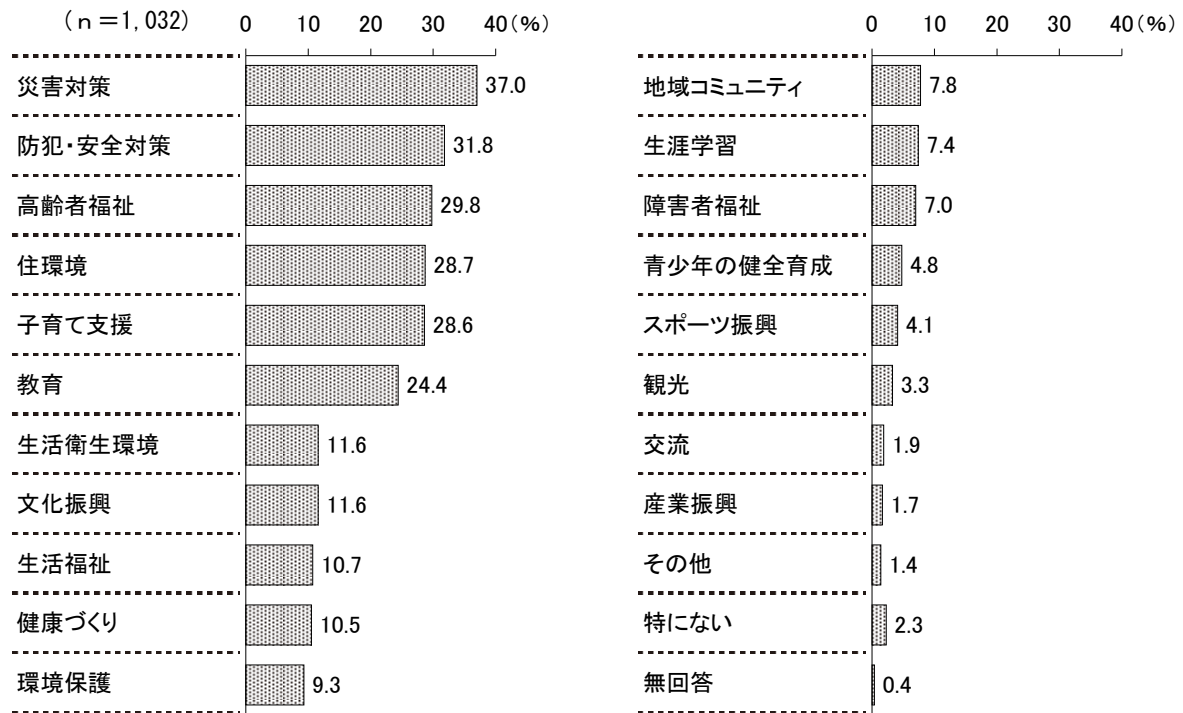
2. 区政運営

2-1 関心のある区の施策

問3 次の区の施策のうち、あなたが関心のある分野を、3つ以内でお選びください。

(○は3つまで)

図2-1-1 関心のある区の施策



関心のある区の施策についてたずねたところ、「災害対策」(37.0%)が4割近くで最も多く、次いで「防犯・安全対策」(31.8%)、「高齢者福祉」(29.8%)、「住環境」(28.7%)などの順となっている。(図2-1-1)

表 2-1-1 関心のある区の施策—性別／性・年代別（上位5項目）

(%)

属性		順位	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体			1,032	災害対策 (37.0)	防犯・安全対策 (31.8)	高齢者福祉 (29.8)	住環境 (28.7)	子育て支援 (28.6)
性 別	男 性		372	災害対策 (34.1)	防犯・安全対策 (33.9)	住環境 (31.7)	子育て支援 (29.3)	高齢者福祉 (25.8)
	女 性		639	災害対策 (37.9)	高齢者福祉 (31.5)	防犯・安全対策 (30.5)	子育て支援 (28.8)	住環境 (26.9)
性・ 年代別	男 性	10・20代	35	教育 (37.1)	防犯・安全対策 (31.4)	子育て支援／災害対策 (28.6)		生活衛生環境／ 住環境 (25.7)
		30 代	58	子育て支援 (56.9)	教育 (41.4)	防犯・安全対策 (31.0)	住環境 (29.3)	災害対策 (25.9)
		40 代	70	子育て支援 (48.6)	教育 (41.4)	災害対策 (38.6)	住環境／防犯・安全対策 (27.1)	
		50 代	82	住環境／防犯・安全対策 (39.0)		災害対策 (37.8)	高齢者福祉 (22.0)	子育て支援 (19.5)
		60 代	60	高齢者福祉 (50.0)	災害対策／防犯・安全対策 (40.0)		住環境 (25.0)	子育て支援／ 環境保護 (16.7)
		70歳以上	67	高齢者福祉 (55.2)	住環境 (38.8)	防犯・安全対策 (32.8)	災害対策 (29.9)	文化振興 (13.4)
	女 性	10・20代	68	子育て支援 (41.2)	災害対策 (39.7)	防犯・安全対策 (32.4)	教育 (29.4)	住環境 (26.5)
		30 代	86	子育て支援 (65.1)	教育 (45.3)	災害対策／防犯・安全対策 (36.0)		住環境 (20.9)
		40 代	132	子育て支援 (43.9)	教育 (37.1)	災害対策 (34.1)	住環境 (31.1)	防犯・安全対策 (27.3)
		50 代	145	災害対策 (44.1)	高齢者福祉 (38.6)	防犯・安全対策 (35.9)	住環境 (26.2)	子育て支援 (16.6)
		60 代	113	高齢者福祉 (50.4)	災害対策 (46.0)	住環境 (29.2)	防犯・安全対策 (20.4)	文化振興 (16.8)
		70歳以上	92	高齢者福祉 (62.0)	防犯・安全対策 (33.7)	住環境／災害対策 (25.0)		環境保護 (15.2)

上位5項目を性別にみると、男女ともに第1位は「災害対策」となっている。第2位は、男性では「防犯・安全対策」、女性では「高齢者福祉」となっている。

性・年代別にみると、「子育て支援」は男性の30代と40代、女性の40代以下の年代で第1位となっている。「高齢者福祉」は男女ともに60代以上の年代で第1位となっている。「教育」は男性10・20代で第1位となっている。「住環境」と「防犯・安全対策」は男性50代で同率の第1位となっている。「災害対策」は女性50代で第1位となっている。(表2-1-1)

表 2-1-2 関心のある区の施策－ライフステージ別（上位5項目）

(%)

属性		順位	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体			1,032	災害対策 (37.0)	防犯・安全対策 (31.8)	高齢者福祉 (29.8)	住環境 (28.7)	子育て支援 (28.6)
ライフ ステージ 別	独 身 期		134	災害対策 (41.8)	防犯・安全対策 (35.8)	子育て支援 (28.4)	教育／住環境 (26.9)	
	家 族 形 成 期		116	子育て支援 (81.9)	教育 (55.2)	防犯・安全対策 (25.9)	災害対策 (24.1)	住環境 (23.3)
	家 族 成 長 前 期		106	子育て支援 (67.9)	教育 (58.5)	住環境 (32.1)	防犯・安全対策 (25.5)	災害対策 (20.8)
	家 族 成 長 後 期		81	子育て支援 (40.7)	災害対策 (34.6)	高齢者福祉 (32.1)	防犯・安全対策 (30.9)	教育 (29.6)
	家 族 成 熟 期		109	災害対策 (51.4)	高齢者福祉 (39.4)	防犯・安全対策 (30.3)	住環境 (24.8)	子育て支援 (15.6)
	老 齢 期		230	高齢者福祉 (59.6)	災害対策 (31.7)	防犯・安全対策 (30.4)	住環境 (29.1)	健康づくり (13.5)
	そ の 他		222	災害対策 (47.7)	防犯・安全対策 (37.8)	高齢者福祉 (32.0)	住環境 (30.6)	文化振興 (15.8)

上位5項目をライフステージ別にみると、「災害対策」は独身期、家族成熟期、その他で第1位となっている。「子育て支援」は家族形成期、家族成長前期、家族成長後期で第1位となっている。「高齢者福祉」は高齢期で第1位となっている。（表2-1-2）

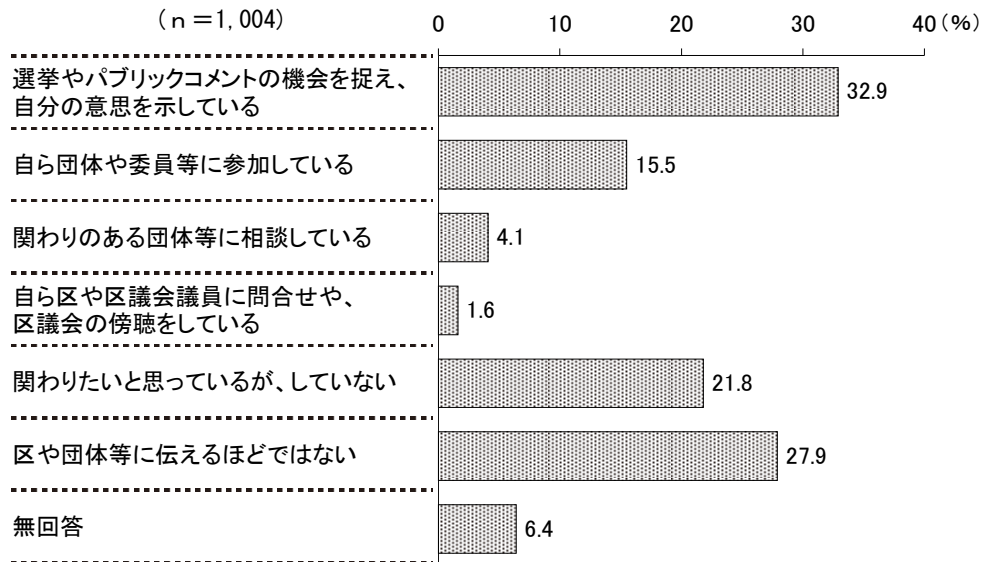
2-2 関心のある区の施策への関わり

【問3で関心のある区の施策が「ある」と回答された方にうかがいます】

問3-1 関心のある区の施策の分野について、どのように関わっていますか。

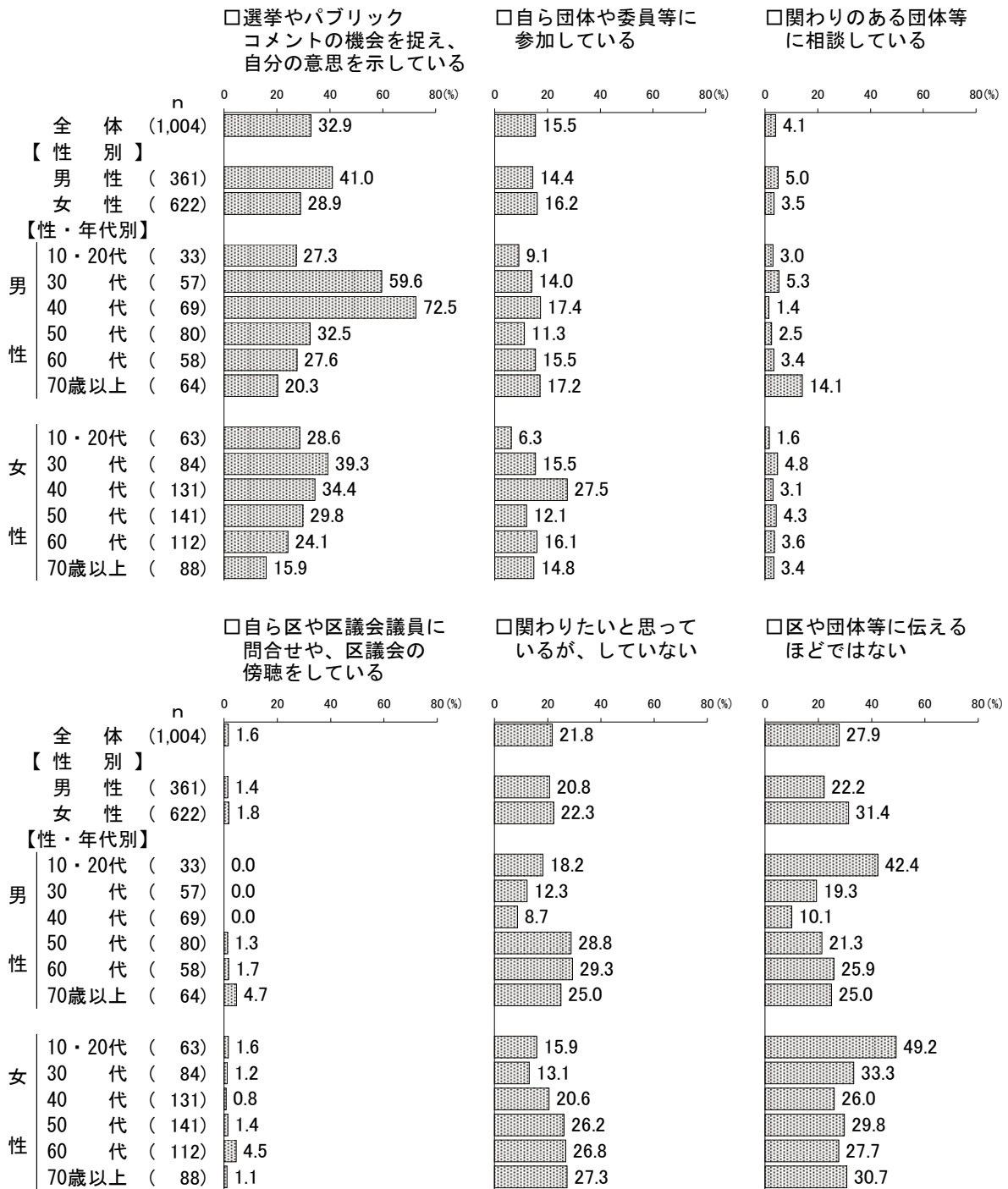
(〇はいくつでも)

図2-2-1 関心のある区の施策への関わり



関心のある区の施策が「ある」と答えた方(1,004人)に、関心のある区の施策の分野について、どのように関わっているかたずねたところ、関わっている中では、「選挙やパブリックコメントの機会を捉え、自分の意思を示している」(32.9%)が3割を超えて最も多く、次いで「自ら団体や委員等に参加している」(15.5%)などの順となっている。一方、「関わりたいと思っているが、していない」(21.8%)が2割を超え、「区や団体等に伝えるほどではない」(27.9%)は3割近くとなっている。(図2-2-1)

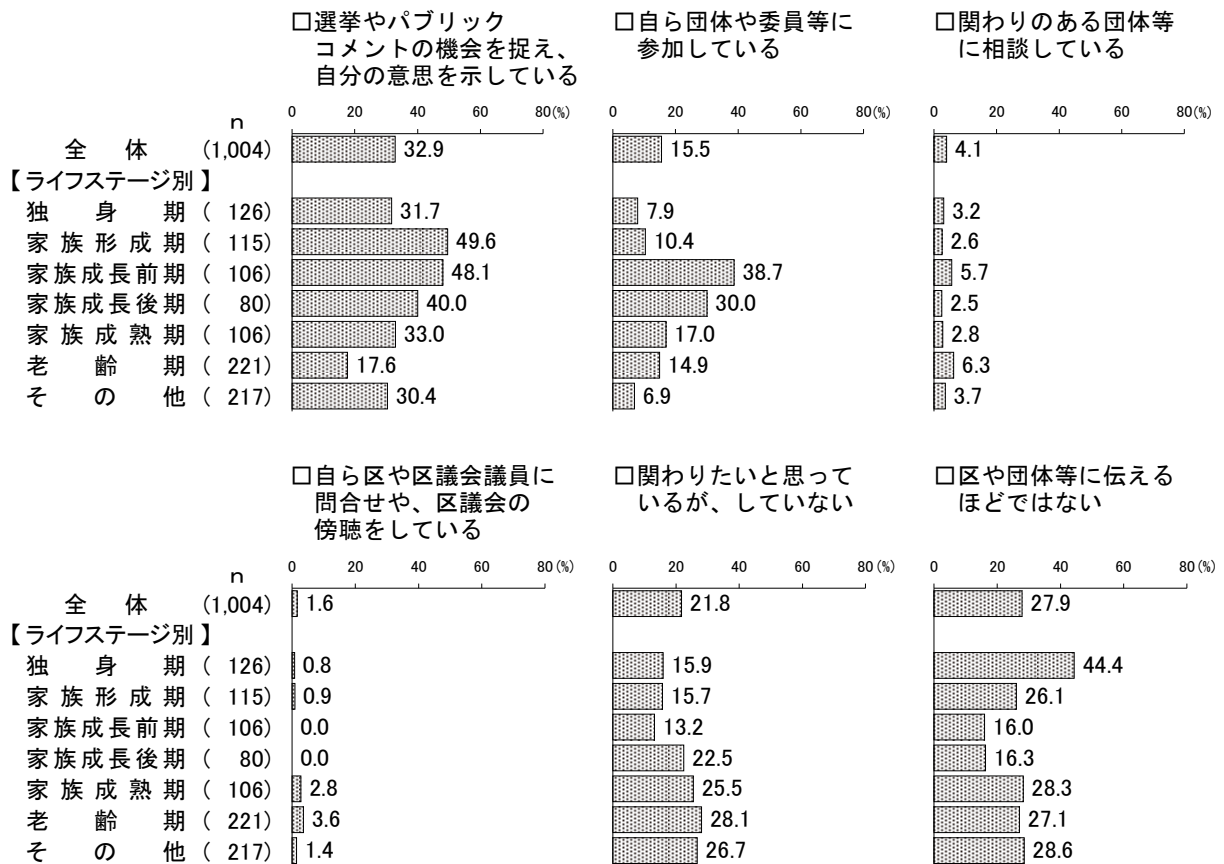
図 2-2-2 関心のある区の施策への関わりー性別／性・年代別



性別にみると、「選挙やパブリックコメントの機会を捉え、自分の意思を示している」は男性の方が女性より12.1ポイント高くなっている。一方、「区や団体等に伝えるほどではない」は女性の方が男性より9.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「選挙やパブリックコメントの機会を捉え、自分の意思を示している」は男性40代で7割を超えて多くなっている。「自ら団体や委員等に参加している」は女性40代で3割近くと多くなっている。「区や団体等に伝えるほどではない」は男女ともに10・20代で4割台と多くなっている。(図 2-2-2)

図 2-2-3 関心のある区の施策への関わりーライフステージ別

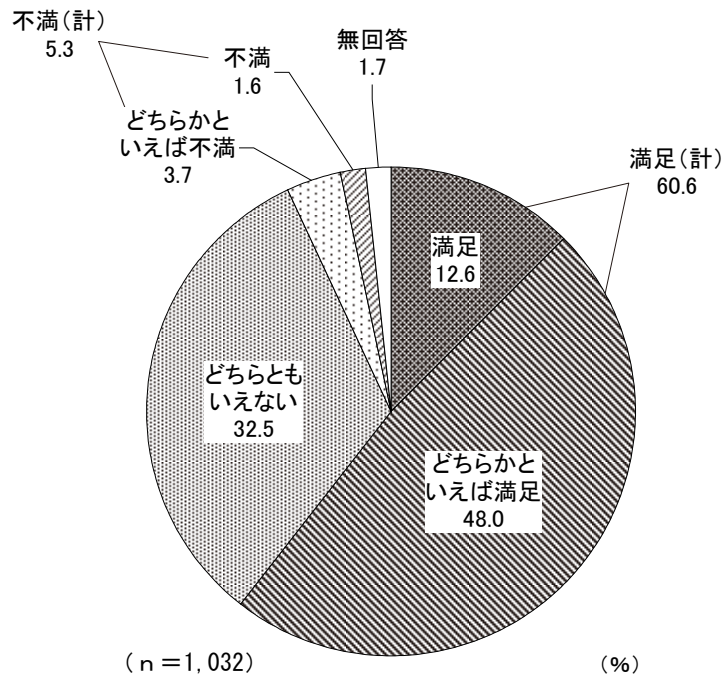


ライフステージ別にみると、「選挙やパブリックコメントの機会を捉え、自分の意思を示している」は家族形成期で5割と多くなっている。「自ら団体や委員等に参加している」は家族成長前期で4割近くと多くなっている。「区や団体等に伝えるほどではない」は独身期で4割半ばと多くなっている。(図 2-2-3)

2-3 区の施策に対する満足度

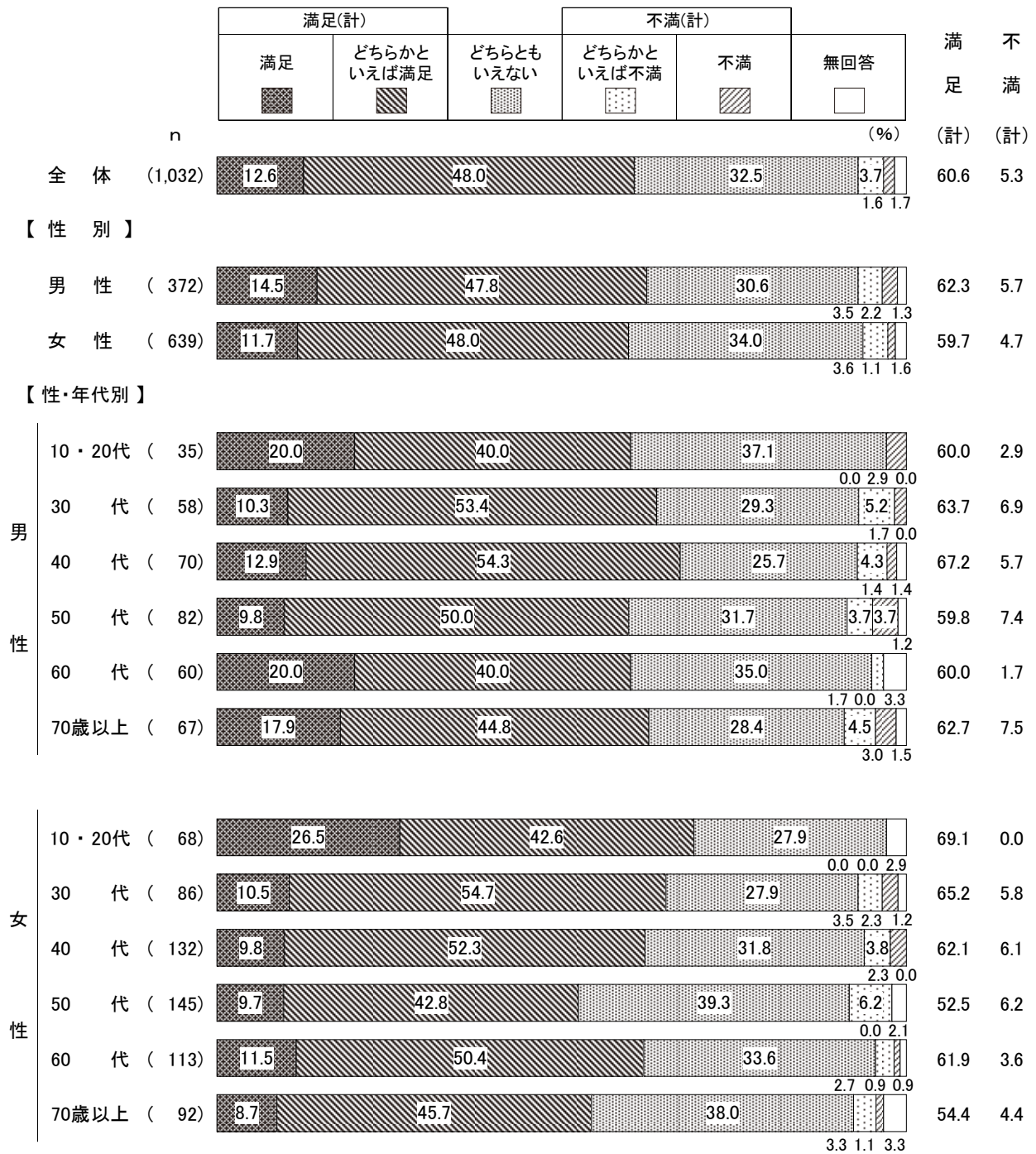
問4 文京区の施策に対する満足度を教えてください。(○は1つ)

図2-3-1 区の施策に対する満足度



区の施策に対する満足度についてたずねたところ、「満足」(12.6%)と「どちらかといえば満足」(48.0%)を合わせた『満足(計)』(60.6%)は約6割となっている。一方、「どちらかといえば不満」(3.7%)と「不満」(1.6%)を合わせた『不満(計)』(5.3%)は1割未満となっている。また、「どちらともいえない」(32.5%)は3割を超えている。(図2-3-1)

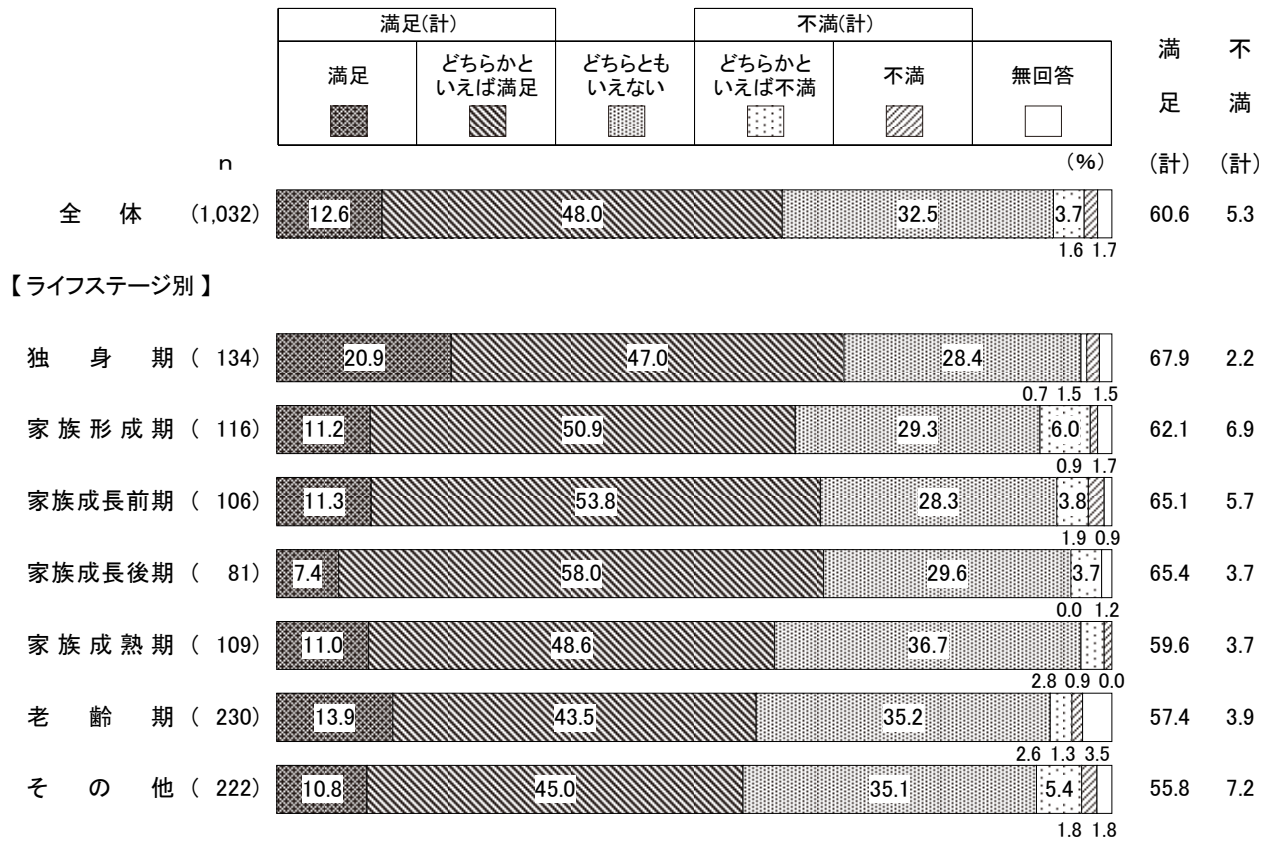
図2-3-2 区の施策に対する満足度—性別／性・年代別



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、『満足(計)』は女性10・20代で約7割、男性40代で7割近くと多くなっている。(図2-3-2)

図 2-3-3 区の施策に対する満足度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、『満足 (計)』は独身期で7割近くと多くなっている。

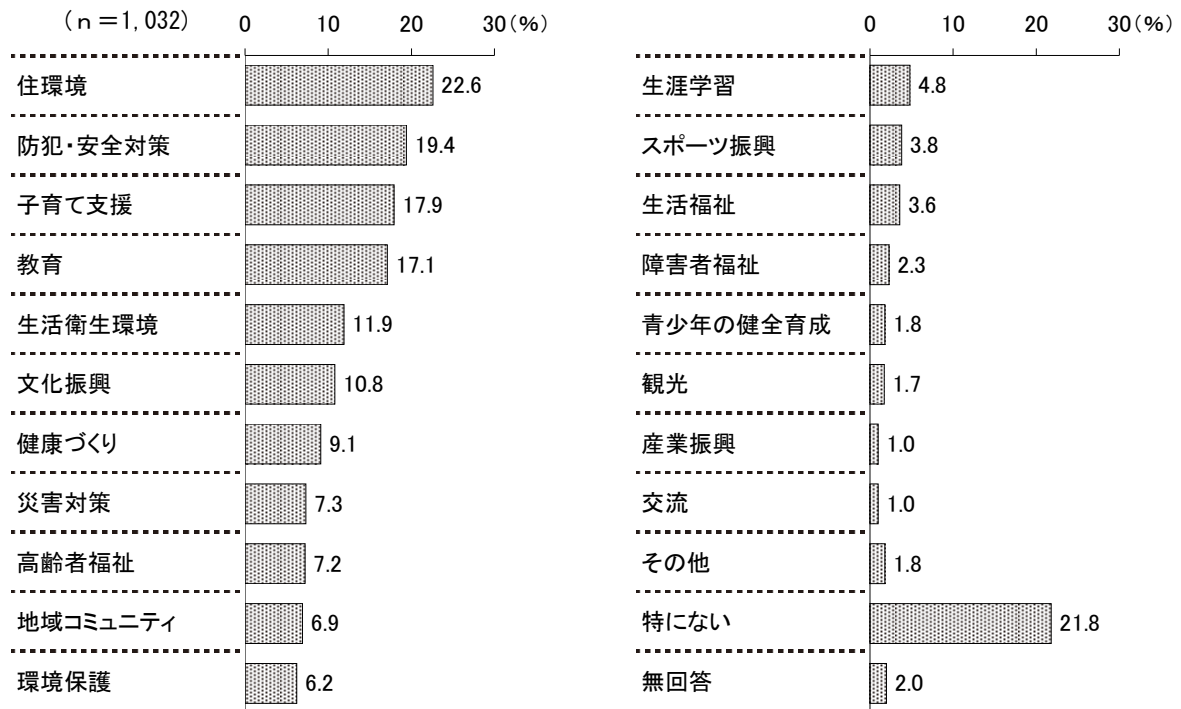
(図 2-3-3)

2-4 満足に感じている区の施策

問5 区の施策のうち、満足に感じているものを、3つ以内でお選びください。

(○は3つまで)

図2-4-1 満足に感じている区の施策



満足を感じる区の施策についてたずねたところ、「住環境」(22.6%)が2割を超えて最も多く、次いで「防犯・安全対策」(19.4%)、「子育て支援」(17.9%)、「教育」(17.1%)などの順となっている。また、「特にない」(21.8%)は2割を超えている。(図2-4-1)

表 2-4-1 満足に感じている区の施策—性別／性・年代別（上位5項目）

(%)

属性		順位	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体			1,032	住環境 (22.6)	防犯・安全対策 (19.4)	子育て支援 (17.9)	教育 (17.1)	生活衛生環境 (11.9)
性 別	男 性		372	住環境 (24.7)	防犯・安全対策 (22.6)	教育 (16.7)	子育て支援 (15.6)	生活衛生環境 (9.9)
	女 性		639	住環境 (21.8)	子育て支援 (19.6)	教育／防犯・安全対策 (17.5)		生活衛生環境 (13.5)
性・ 年代別	男 性	10・20代	35	住環境 (31.4)	防犯・安全対策 (28.6)	教育 (22.9)	生活福祉／生活衛生環境 (11.4)	
		30代	58	防犯・安全対策 (25.9)	子育て支援 (22.4)	住環境 (20.7)	教育 (15.5)	災害対策 (12.1)
		40代	70	子育て支援 (35.7)	住環境 (32.9)	教育 (21.4)	防犯・安全対策 (18.6)	文化振興 (14.3)
		50代	82	防犯・安全対策 (26.8)	住環境 (22.0)	生活衛生環境 (14.6)	子育て支援／教育 (13.4)	
		60代	60	住環境 (20.0)	教育／高齢者福祉 (15.0)		健康づくり／文化振興／ 防犯・安全対策 (13.3)	
		70歳以上	67	住環境／防犯・安全対策 (23.9)		高齢者福祉 (17.9)	教育／文化振興 (14.9)	
	女 性	10・20代	68	住環境 (32.4)	防犯・安全対策 (29.4)	生活衛生環境 (22.1)	教育 (19.1)	地域コミュニティ (8.8)
		30代	86	住環境 (31.4)	子育て支援 (27.9)	教育 (18.6)	防犯・安全対策 (17.4)	生活衛生環境 (16.3)
		40代	132	子育て支援 (35.6)	住環境 (24.2)	教育 (19.7)	防犯・安全対策 (17.4)	生活衛生環境 (12.9)
		50代	145	教育 (20.0)	子育て支援／防犯・安全対策 (19.3)		文化振興 (14.5)	住環境 (13.1)
		60代	113	住環境 (22.1)	健康づくり／文化振興 (17.7)		教育 (16.8)	生活衛生環境 (15.0)
		70歳以上	92	健康づくり (26.1)	高齢者福祉 (21.7)	住環境 (15.2)	防犯・安全対策 (14.1)	生涯学習 (13.0)

上位5項目を性別にみると、男女ともに第1位は「住環境」となっている。第2位は、男性では「防犯・安全対策」、女性では「子育て支援」となっている。

性・年代別にみると、「住環境」は男性の10・20代と60代以上の年代、女性の30代以下の年代と60代で同率を含め第1位となっている。「防犯・安全対策」は男性の30代、50代、70歳以上で同率を含め第1位となっている。「子育て支援」は男女ともに40代で第1位となっている。「教育」は女性50代で第1位となっている。「健康づくり」は女性70歳以上で第1位となっている。（表2-4-1）

表 2-4-2 満足に感じている区の施策－ライフステージ別（上位 5 項目）

(%)

属性	順位	n	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
全 体		1,032	住環境 (22.6)	防犯・安全対策 (19.4)	子育て支援 (17.9)	教育 (17.1)	生活衛生環境 (11.9)
ライフ ス テ ー ジ 別	独 身 期	134	住環境 (31.3)	防犯・安全対策 (29.9)	生活衛生環境 (20.9)	教育 (18.7)	災害対策 (8.2)
	家 族 形 成 期	116	子育て支援 (32.8)	住環境 (27.6)	教育 (15.5)	防犯・安全対策 (14.7)	地域コミュニティ ／文化振興／ 災害対策 (8.6)
	家 族 成 長 前 期	106	子育て支援 (48.1)	教育 (31.1)	住環境 (23.6)	防犯・安全対策 (22.6)	生活衛生環境 (12.3)
	家 族 成 長 後 期	81	子育て支援 (50.6)	教育 (23.5)	住環境 (16.0)	生活衛生環境 (13.6)	防犯・安全対策 (12.3)
	家 族 成 熟 期	109	教育 (22.9)	防犯・安全対策 (19.3)	住環境 (18.3)	文化振興 (17.4)	子育て支援 (13.8)
	老 齢 期	230	住環境 (19.6)	高齢者福祉 (18.7)	健康づくり (17.8)	防犯・安全対策 (15.2)	文化振興 (13.9)
	そ の 他	222	住環境 (22.1)	防犯・安全対策 (21.2)	文化振興 (12.6)	生活衛生環境 (10.8)	教育 (9.9)

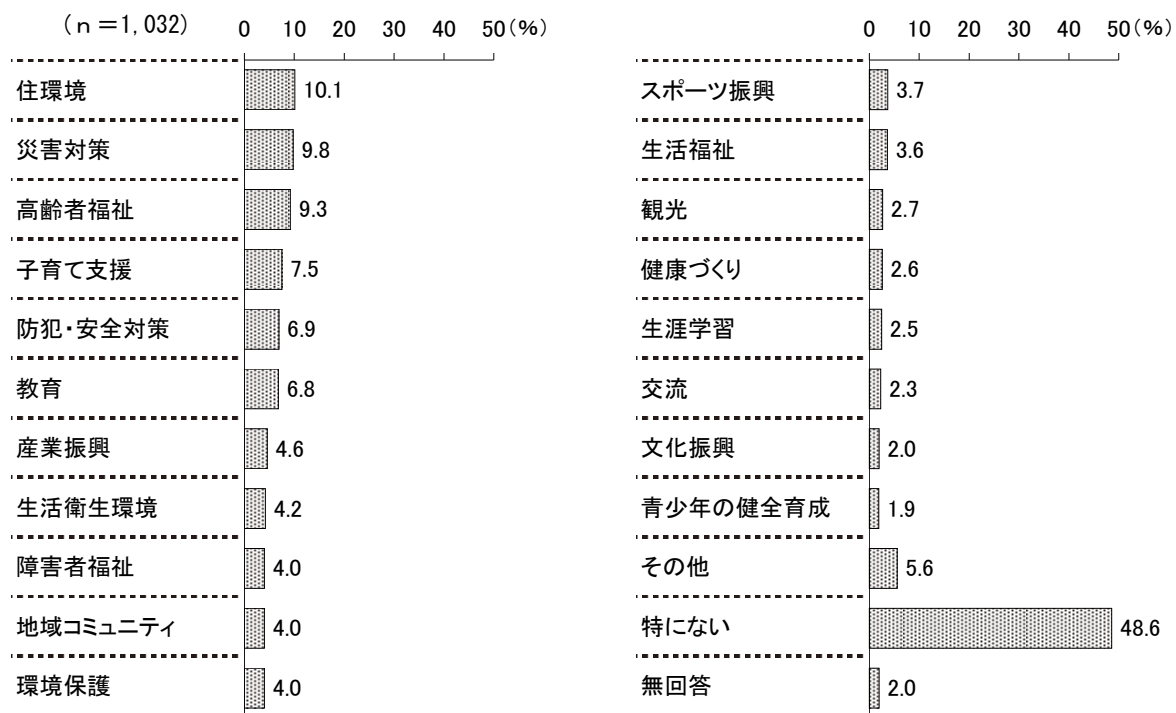
上位 5 項目をライフステージ別にみると、「子育て支援」は家族形成期、家族成長前期、家族成長後期で第 1 位となっている。「住環境」は独身期、老齢期、その他で第 1 位となっている。「教育」は家族成熟期で第 1 位となっている。(表 2-4-2)

2-5 不満に感じている区の施策

問6 区の施策のうち、不満に感じているものを、3つ以内でお選びください。

(○は3つまで)

図2-5-1 不満に感じている区の施策



不満を感じる区の施策についてたずねたところ、「住環境」(10.1%)、「災害対策」(9.8%)、「高齢者福祉」(9.3%)が約1割となっている。また、「特にない」(48.6%)は5割近くとなっている。

(図2-5-1)

表 2-5-1 不満に感じている区の施策—性別／性・年代別（上位5項目）

(%)

属性		順位	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体			1,032	住環境 (10.1)	災害対策 (9.8)	高齢者福祉 (9.3)	子育て支援 (7.5)	防犯・安全対策 (6.9)
性 別	男 性		372	住環境 (11.8)	災害対策 (10.2)	子育て支援 (8.1)	防犯・安全対策 (7.3)	教育 (7.0)
	女 性		639	高齢者福祉 (10.3)	災害対策 (9.4)	住環境 (8.9)	子育て支援 (7.4)	教育 (6.6)
性・ 年代別	男 性	10・20代	35	子育て支援／スポーツ振興 (11.4)		教育／観光／住環境 (8.6)		
		30代	58	子育て支援 (19.0)	教育 (15.5)	住環境 (10.3)	障害者福祉／スポーツ振興 (6.9)	
		40代	70	住環境 (18.6)	災害対策 (15.7)	生活衛生環境 (11.4)	教育 (10.0)	子育て支援 (7.1)
		50代	82	住環境 (13.4)	災害対策 (11.0)	子育て支援／高齢者福祉 (8.5)		教育／産業振興 (7.3)
		60代	60	災害対策／防犯・安全対策 (16.7)		高齢者福祉 (13.3)	生活衛生環境／住環境 (11.7)	
		70歳以上	67	高齢者福祉／災害対策 (11.9)		防犯・安全対策 (7.5)	生活衛生環境／生涯学習／ 住環境 (6.0)	
	女 性	10・20代	68	子育て支援 (7.4)	教育／高齢者福祉 (5.9)		産業振興／観光／住環境 (4.4)	
		30代	86	子育て支援 (15.1)	教育 (14.0)	住環境 (11.6)	地域コミュニティ (7.0)	青少年の 健全育成／ 生活衛生環境 (5.8)
		40代	132	災害対策 (13.6)	子育て支援 (12.9)	教育 (12.1)	住環境 (8.3)	防犯・安全対策 (6.8)
		50代	145	高齢者福祉／災害対策 (11.7)		住環境 (9.0)	生活福祉 (6.9)	防犯・安全対策 (6.2)
		60代	113	高齢者福祉 (18.6)	災害対策 (10.6)	住環境 (9.7)	産業振興 (8.8)	環境保護／ 防犯・安全対策 (7.1)
		70歳以上	92	高齢者福祉 (16.3)	防犯・安全対策 (9.8)	住環境 (8.7)	災害対策 (6.5)	障害者福祉／ 生活福祉／ 産業振興／ 生涯学習／交流 (4.3)

上位5項目を性別にみると、第1位は、男性では「住環境」、女性では「高齢者福祉」となっている。男女ともに第2位は「災害対策」となっている。

性・年代別にみると、「子育て支援」は男女ともに30代以下の年代で同率を含め第1位となっている。「災害対策」は男性の60代以上の年代、女性の40代と50代で同率を含め第1位となっている。「高齢者福祉」は男性70歳以上、女性の50代以上の年代で同率を含め第1位となっている。「住環境」は男性の40代と50代で第1位となっている。「スポーツ振興」は男性10・20代で同率を含め第1位となっている。「防犯・安全対策」は男性60代で同率を含め第1位となっている。

(表 2-5-1)

表 2-5-2 不満に感じている区の施策－ライフステージ別（上位5項目）

(%)

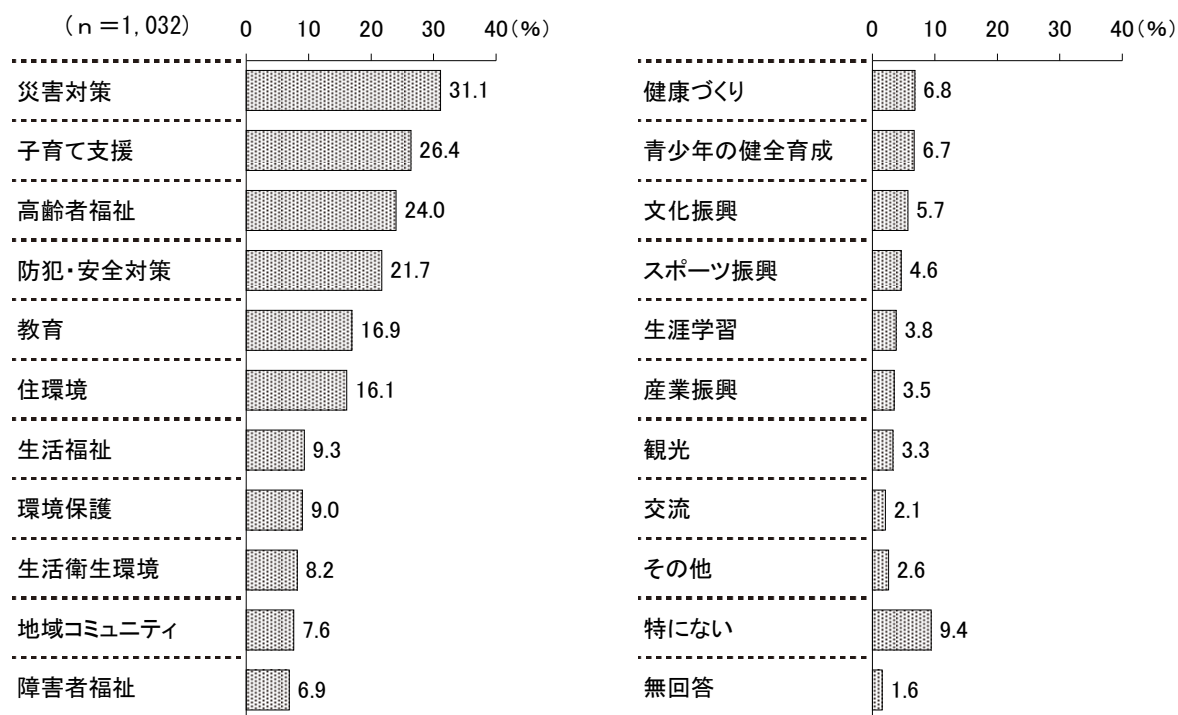
属性		順位	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体			1,032	住環境 (10.1)	災害対策 (9.8)	高齢者福祉 (9.3)	子育て支援 (7.5)	防犯・安全対策 (6.9)
ライフ ス テ ー ジ 別	独 身 期		134	子育て支援／観光 (7.5)		住環境 (6.7)	スポーツ振興 (6.0)	教育／産業振興 (5.2)
	家 族 形 成 期		116	子育て支援 (19.0)	教育 (18.1)	住環境 (12.9)	青少年の 健全育成 (6.9)	生活衛生環境／ 地域コミュニティ／ スポーツ振興／ 災害対策 (3.4)
	家 族 成 長 前 期		106	子育て支援 (22.6)	住環境 (18.9)	教育 (17.9)	災害対策 (15.1)	スポーツ振興 (8.5)
	家 族 成 長 後 期		81	住環境 (16.0)	高齢者福祉 (13.6)	教育 (12.3)	子育て支援／防犯・安全対策 (11.1)	
	家 族 成 熟 期		109	災害対策 (13.8)	高齢者福祉 (11.9)	生活福祉 (8.3)	地域コミュニティ／環境保護／ 防犯・安全対策 (5.5)	
	老 齢 期		230	高齢者福祉 (16.5)	災害対策／防犯・安全対策 (10.9)		住環境 (10.0)	生活衛生環境／ 産業振興／ 環境保護 (4.8)
	そ の 他		222	災害対策 (11.3)	高齢者福祉 (10.4)	産業振興 (7.2)	住環境 (6.8)	障害者福祉／ 防犯・安全対策 (5.4)

上位5項目をライフステージ別にみると、「子育て支援」は独身期、家族形成期、家族成長前期で同率を含め第1位となっている。「災害対策」は家族成熟期とその他で第1位となっている。「観光」は独身期で同率を含め第1位となっている。「住環境」は家族成長後期で第1位となっている。「高齢者福祉」は老齢期で第1位となっている。（表2-5-2）

2-6 さらに力を入れてほしい区の施策

問7 区の施策のうち、さらに力を入れるべきだと考えるものを、3つ以内でお選びください。(○は3つまで)

図2-6-1 さらに力を入れてほしい区の施策



さらに力を入れてほしい区の施策についてたずねたところ、「災害対策」(31.1%)が3割を超えて最も多く、次いで「子育て支援」(26.4%)、「高齢者福祉」(24.0%)、「防犯・安全対策」(21.7%)などの順となっている。(図2-6-1)

表2-6-1 さらに力を入れてほしい区の施策—性別／性・年代別（上位5項目）

(%)

属性		順位	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体			1,032	災害対策 (31.1)	子育て支援 (26.4)	高齢者福祉 (24.0)	防犯・安全対策 (21.7)	教育 (16.9)
性 別	男 性		372	子育て支援 (29.3)	災害対策 (28.5)	防犯・安全対策 (25.3)	教育 (22.0)	住環境 (21.8)
	女 性		639	災害対策 (32.6)	高齢者福祉 (26.1)	子育て支援 (24.9)	防犯・安全対策 (19.4)	教育 (14.2)
性・ 年代別	男 性	10・20代	35	子育て支援／教育 (31.4)		住環境 (20.0)	地域コミュニティ／災害対策 (17.1)	
		30代	58	子育て支援 (55.2)	教育 (41.4)	住環境 (19.0)	災害対策 (15.5)	防犯・安全対策 (12.1)
		40代	70	子育て支援 (38.6)	教育 (35.7)	災害対策 (31.4)	住環境 (27.1)	防犯・安全対策 (22.9)
		50代	82	災害対策 (37.8)	防犯・安全対策 (34.1)	高齢者福祉／住環境 (26.8)		子育て支援 (22.0)
		60代	60	防犯・安全対策 (35.0)	高齢者福祉／災害対策 (31.7)		子育て支援 (21.7)	住環境 (20.0)
		70歳以上	67	高齢者福祉 (34.3)	災害対策 (28.4)	防犯・安全対策 (25.4)	住環境 (14.9)	子育て支援 (11.9)
	女 性	10・20代	68	子育て支援 (38.2)	災害対策 (26.5)	教育／住環境 (14.7)		高齢者福祉 (10.3)
		30代	86	子育て支援 (48.8)	教育 (32.6)	災害対策 (26.7)	住環境／防犯・安全対策 (14.0)	
		40代	132	災害対策 (36.4)	子育て支援 (31.1)	教育 (24.2)	防犯・安全対策 (21.2)	高齢者福祉／ 住環境 (17.4)
		50代	145	高齢者福祉 (38.6)	災害対策 (35.9)	防犯・安全対策 (22.8)	子育て支援 (15.9)	住環境 (11.0)
		60代	113	高齢者福祉 (38.9)	災害対策 (35.4)	防犯・安全対策 (23.0)	環境保護 (19.5)	子育て支援／ 生活福祉／ 地域コミュニティ (13.3)
		70歳以上	92	高齢者福祉 (32.6)	災害対策 (28.3)	防犯・安全対策 (20.7)	生活福祉 (15.2)	子育て支援／ 住環境 (12.0)

上位5項目を性別にみると、第1位は、男性では「子育て支援」、女性では「災害対策」となっている。第2位は、男性では「災害対策」、女性では「高齢者福祉」となっている。

性・年代別にみると、「子育て支援」は男性の40代以下の年代、女性の30代以下の年代で同率を含め第1位となっている。「高齢者福祉」は男性70歳以上、女性の50代以上の年代で第1位となっている。「災害対策」は男性50代と女性40代で第1位となっている。「教育」は男性10・20代で同率を含め第1位となっている。「防犯・安全対策」は男性60代で第1位となっている。（表2-6-1）

表 2-6-2 さらに力を入れてほしい区の施策－ライフステージ別（上位 5 項目）

(%)

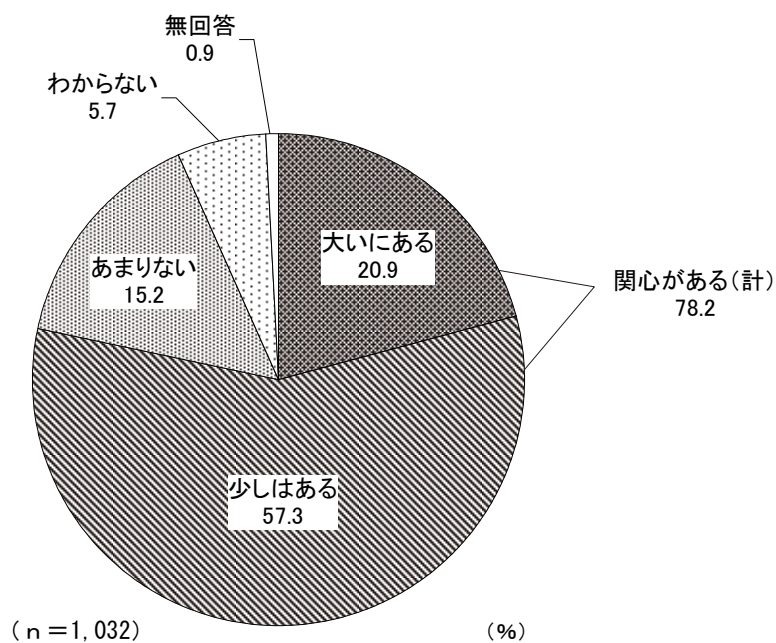
属性		順位	n	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
全 体			1,032	災害対策 (31.1)	子育て支援 (26.4)	高齢者福祉 (24.0)	防犯・安全対策 (21.7)	教育 (16.9)
ライフ ステージ 別	独 身 期		134	子育て支援 (34.3)	災害対策 (24.6)	住環境 (17.2)	教育 (15.7)	生活福祉 (10.4)
	家 族 形 成 期		116	子育て支援 (62.9)	教育 (49.1)	災害対策 (18.1)	青少年の健全育成／住環境 (15.5)	
	家 族 成 長 前 期		106	子育て支援 (43.4)	教育 (39.6)	災害対策 (27.4)	防犯・安全対策 (20.8)	住環境 (19.8)
	家 族 成 長 後 期		81	災害対策 (37.0)	高齢者福祉 (30.9)	子育て支援／防犯・安全対策 (28.4)		住環境 (18.5)
	家 族 成 熟 期		109	高齢者福祉 (40.4)	災害対策 (30.3)	子育て支援 (23.9)	防犯・安全対策 (20.2)	地域コミュニティ／ 環境保護 (13.8)
	老 齢 期		230	高齢者福祉 (34.3)	災害対策 (29.1)	防犯・安全対策 (25.7)	住環境 (14.8)	子育て支援 (13.0)
	そ の 他		222	災害対策 (41.0)	高齢者福祉 (30.6)	防犯・安全対策 (29.3)	住環境 (20.7)	生活福祉 (13.5)

上位 5 項目をライフステージ別にみると、「子育て支援」は独身期、家族形成期、家族成長前期で第 1 位となっている。「災害対策」は家族成長後期とその他で第 1 位となっている。「高齢者福祉」は家族成熟期と老齢期で第 1 位となっている。（表 2-6-2）

2-7 区の財政状況に対する関心

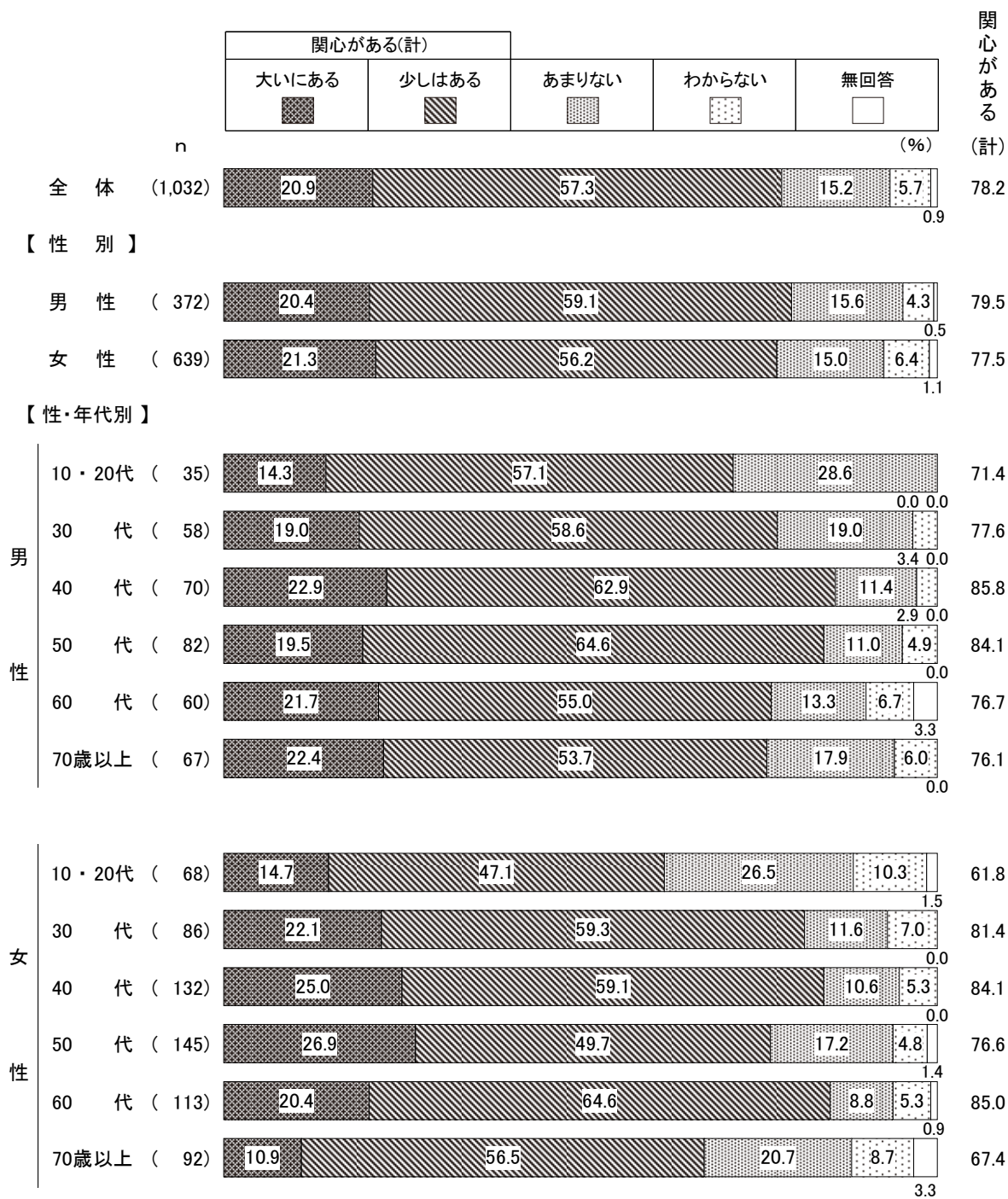
問8 区の財政状況に関心がありますか。(○は1つ)

図2-7-1 区の財政状況に対する関心



区の財政状況に対する関心についてたずねたところ、「大いにある」(20.9%)と「少しはある」(57.3%)を合わせた『関心がある(計)』(78.2%)は8割近くとなっている。一方、「あまりない」(15.2%)は1割半ば、「わからない」(5.7%)は1割未満となっている。(図2-7-1)

図2-7-2 区の財政状況に対する関心—性別／性・年代別

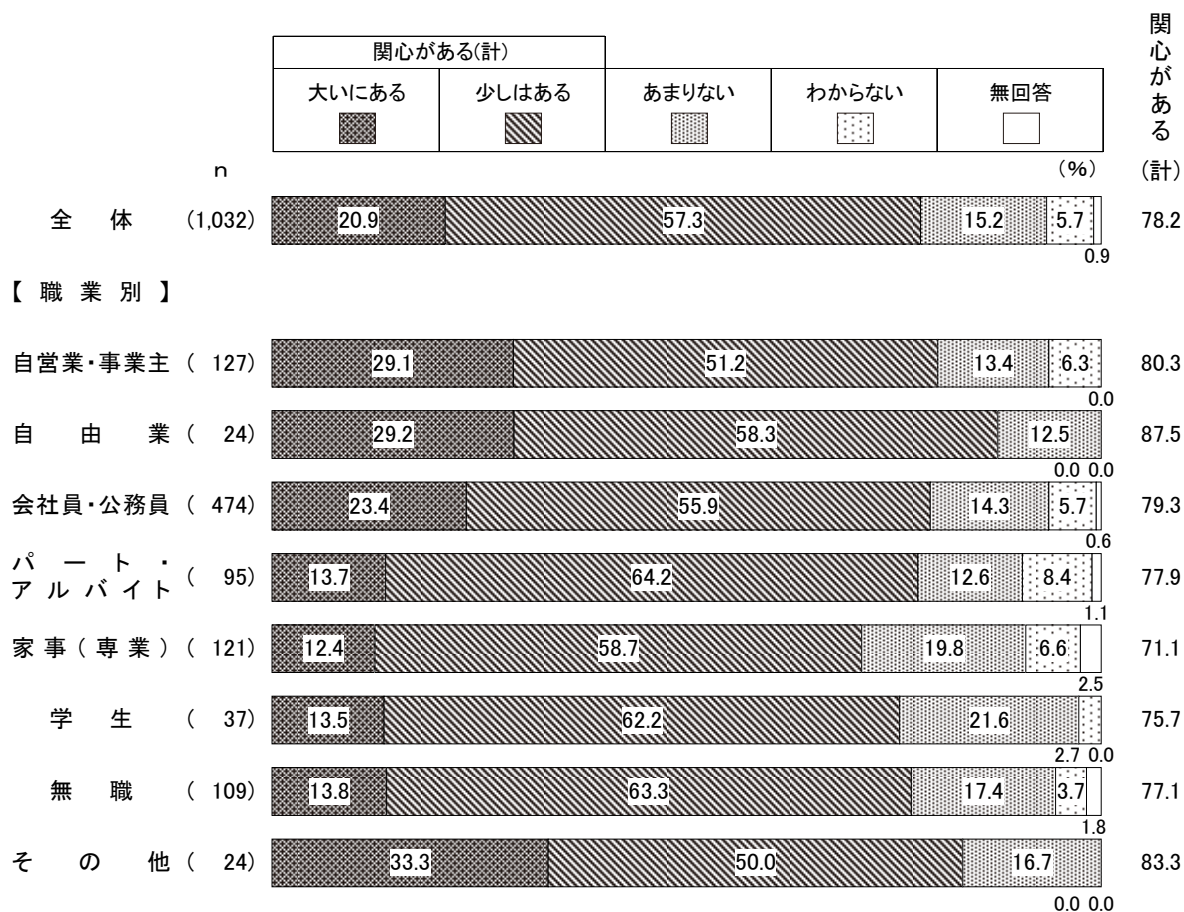


性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、『関心がある（計）』は男性の40代と50代、女性の40代と60代で8割半ばと多くなっている。一方、「あまりない」は男女ともに10・20代で3割近くと多くなっている。

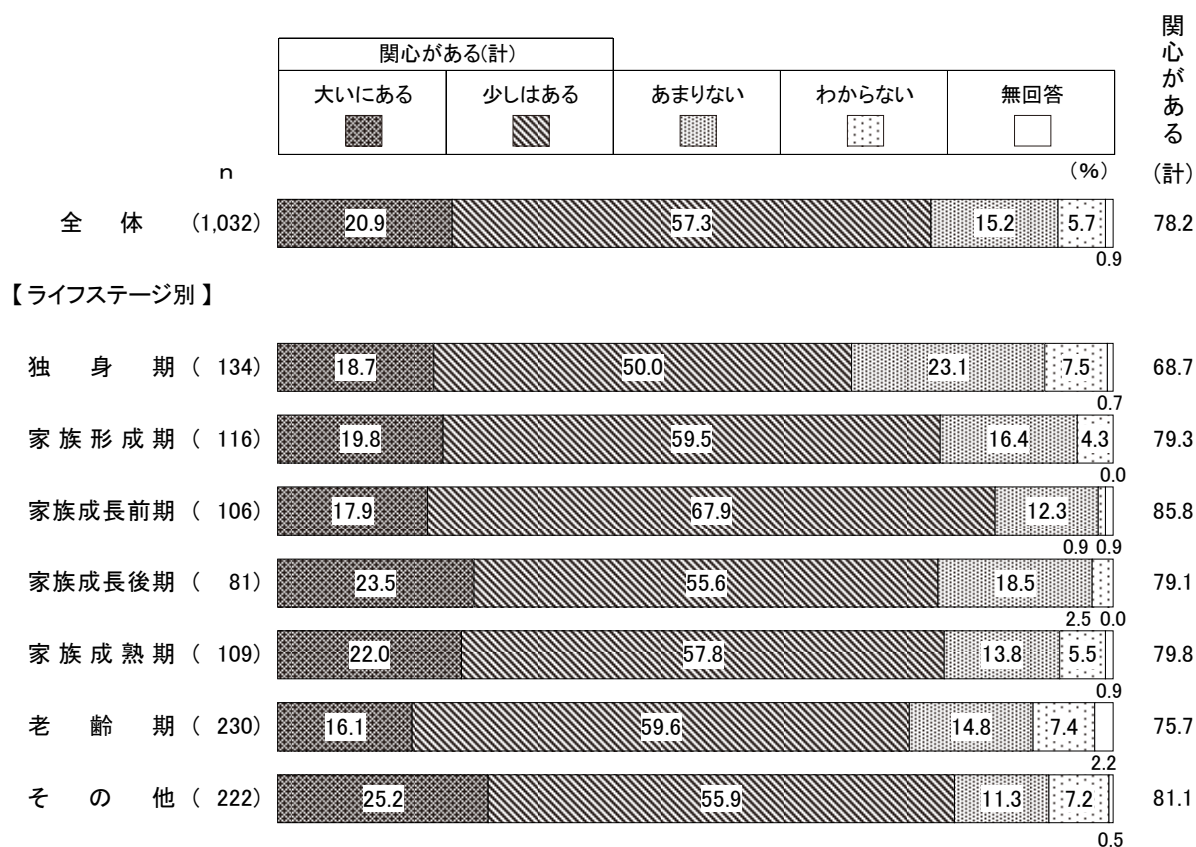
(図2-7-2)

図 2-7-3 区の財政状況に対する関心—職業別



職業別にみると、『関心がある（計）』は自由業で9割近くと多くなっている。一方、「あまりない」は学生で2割を超えて多くなっている。（図2-7-3）

図 2-7-4 区の財政状況に対する関心—ライフステージ別

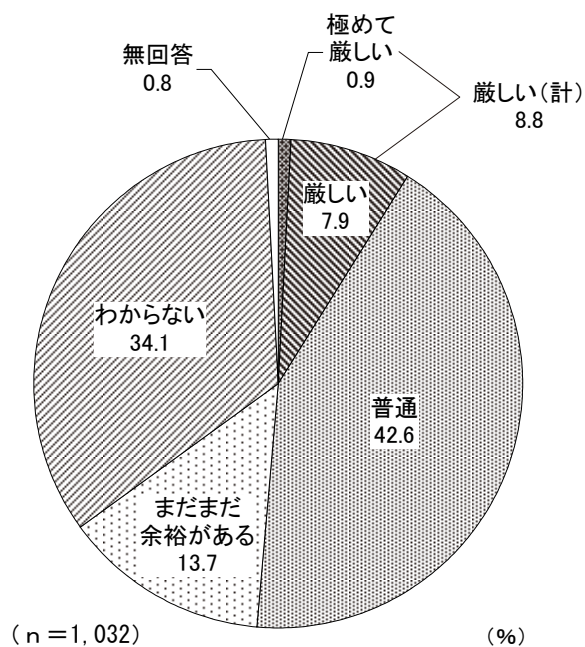


ライフステージ別にみると、『関心がある（計）』は家族成長前期で8割半ばと多くなっている。一方、「あまりない」は独身期で2割を超えて多くなっている。（図2-7-4）

2-8 区の財政状況に対する印象

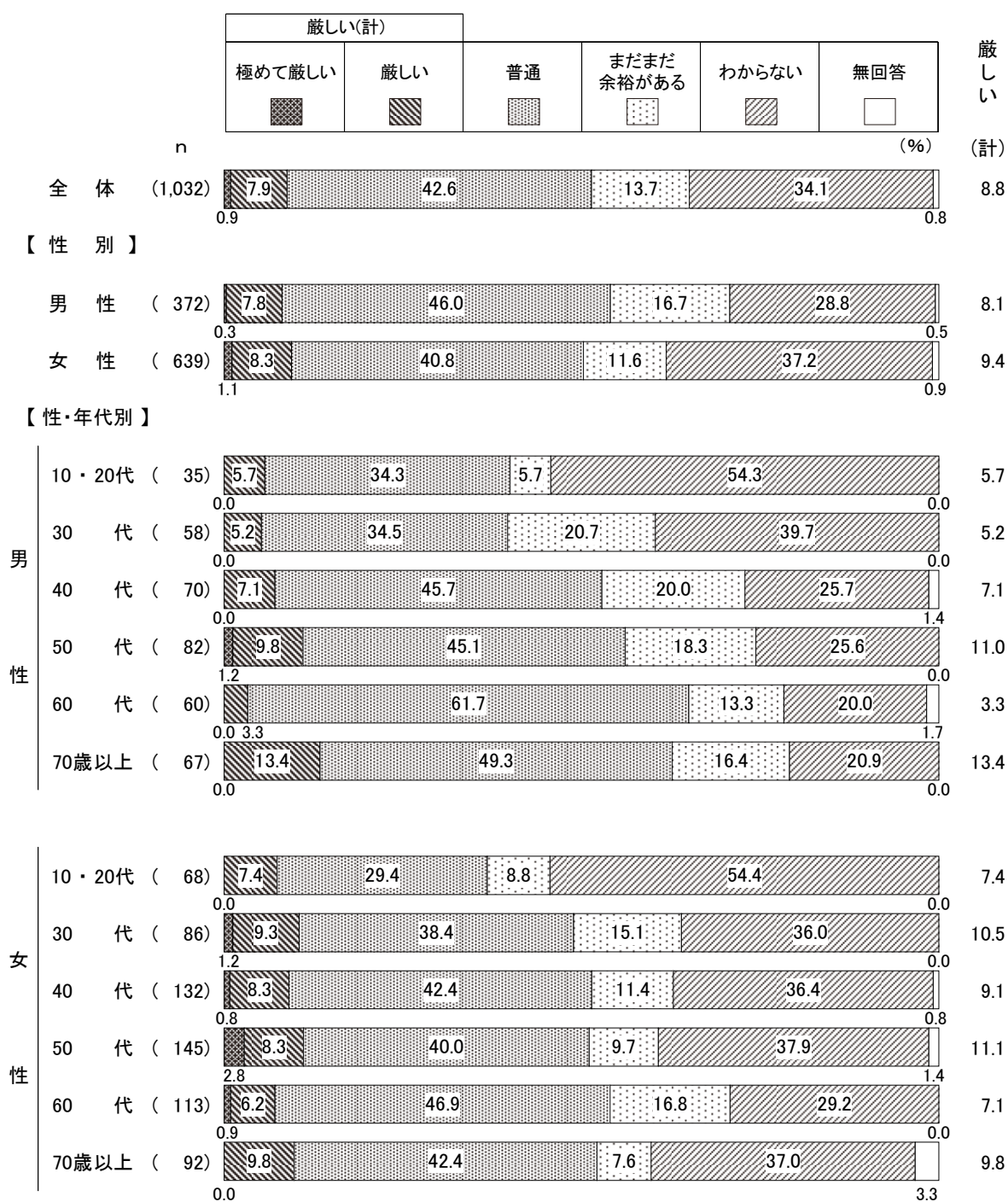
問9 区の財政状況について、どのような印象をお持ちですか。(○は1つ)

図2-8-1 区の財政状況に対する印象



区の財政状況に対する印象についてたずねたところ、「普通」(42.6%)が4割を超えて最も多くなっている。「極めて厳しい」(0.9%)と「厳しい」(7.9%)を合わせた『厳しい(計)』(8.8%)は1割未満、「まだまだ余裕がある」(13.7%)は1割を超えている。(図2-8-1)

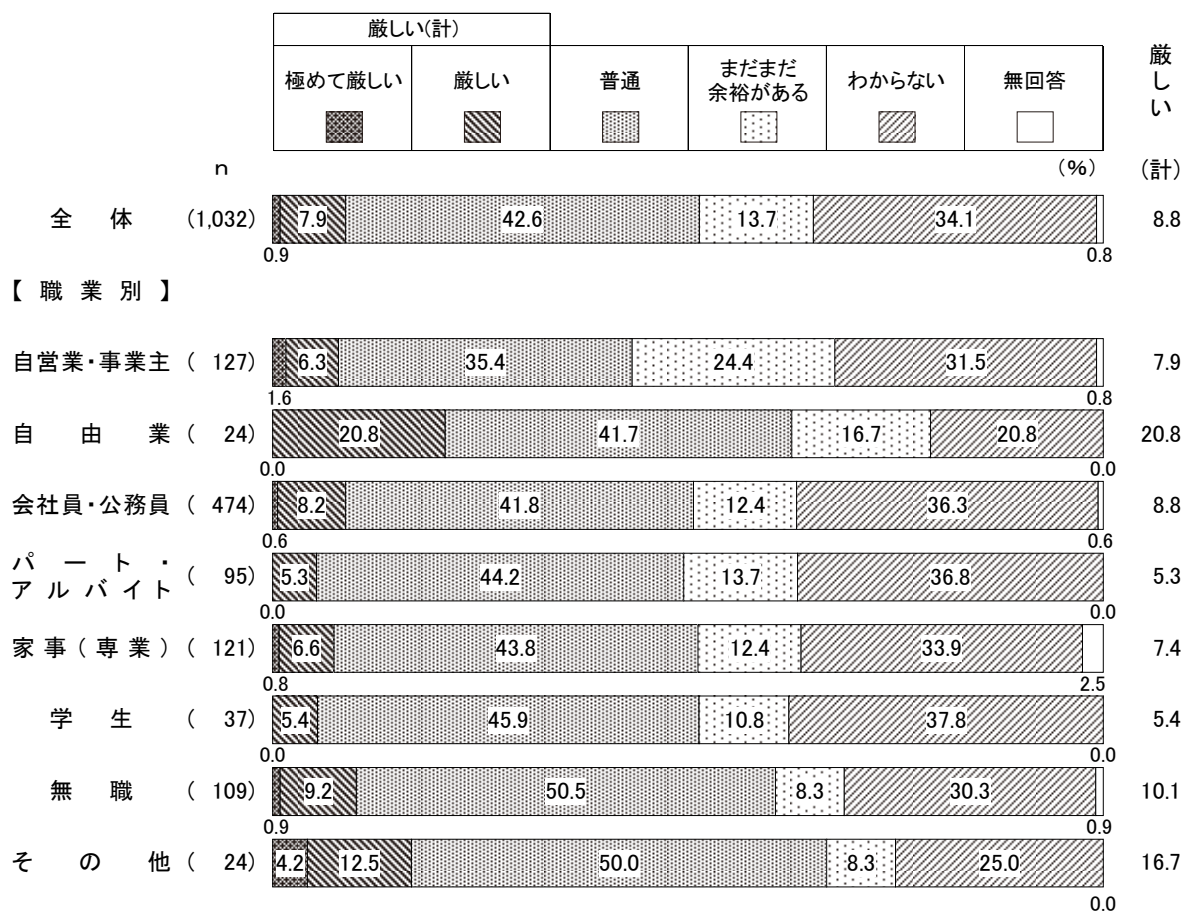
図2-8-2 区の財政状況に対する印象－性別／性・年代別



性別にみると、「普通」は男性の方が女性より5.2ポイント、「まだまだ余裕がある」は男性の方が女性より5.1ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「普通」は男性60代で6割を超えて多くなっている。「まだまだ余裕がある」は男性の30代と40代で約2割と多くなっている。(図2-8-2)

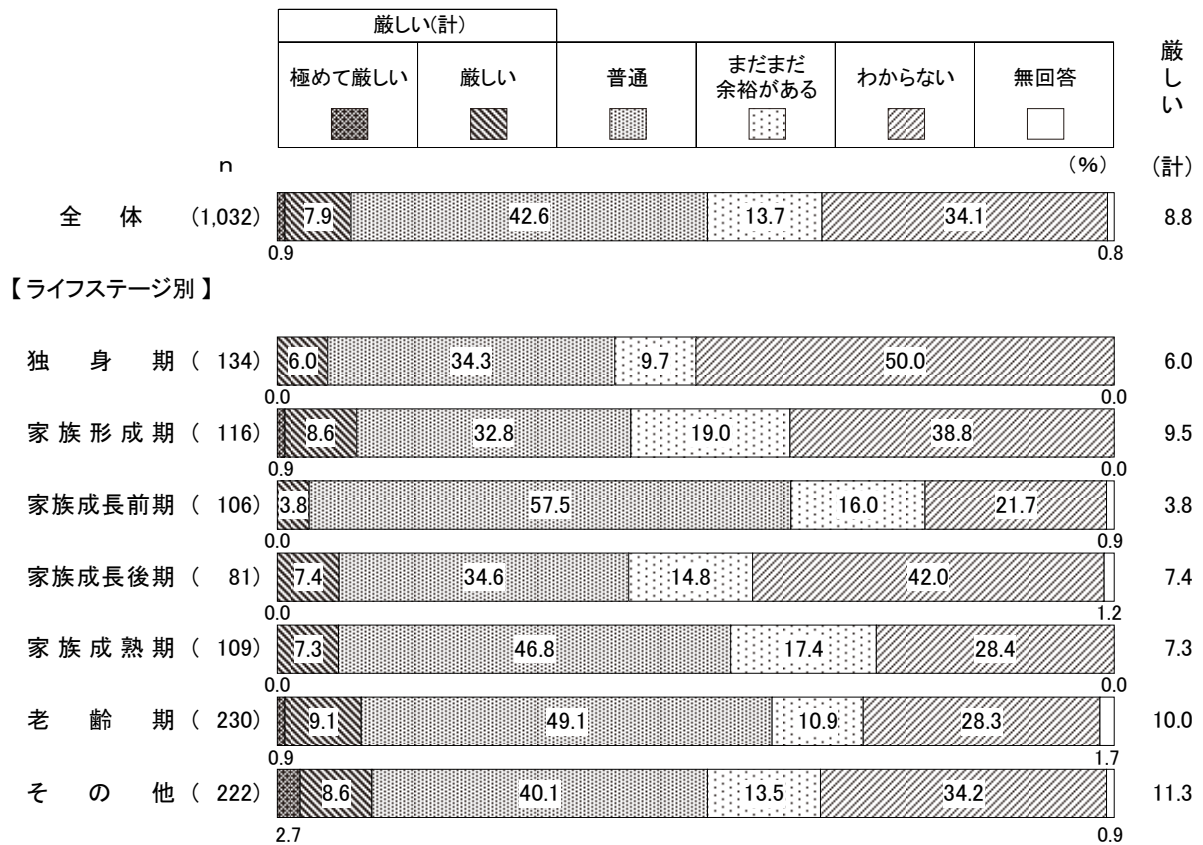
図 2-8-3 区の財政状況に対する印象—職業別



職業別にみると、『厳しい(計)』は自由業で約2割と多くなっている。「普通」は無職で約5割と多くなっている。「まだまだ余裕がある」は自営業・事業主で2割半ばと多くなっている。

(図 2-8-3)

図 2-8-4 区の財政状況に対する印象－ライフステージ別



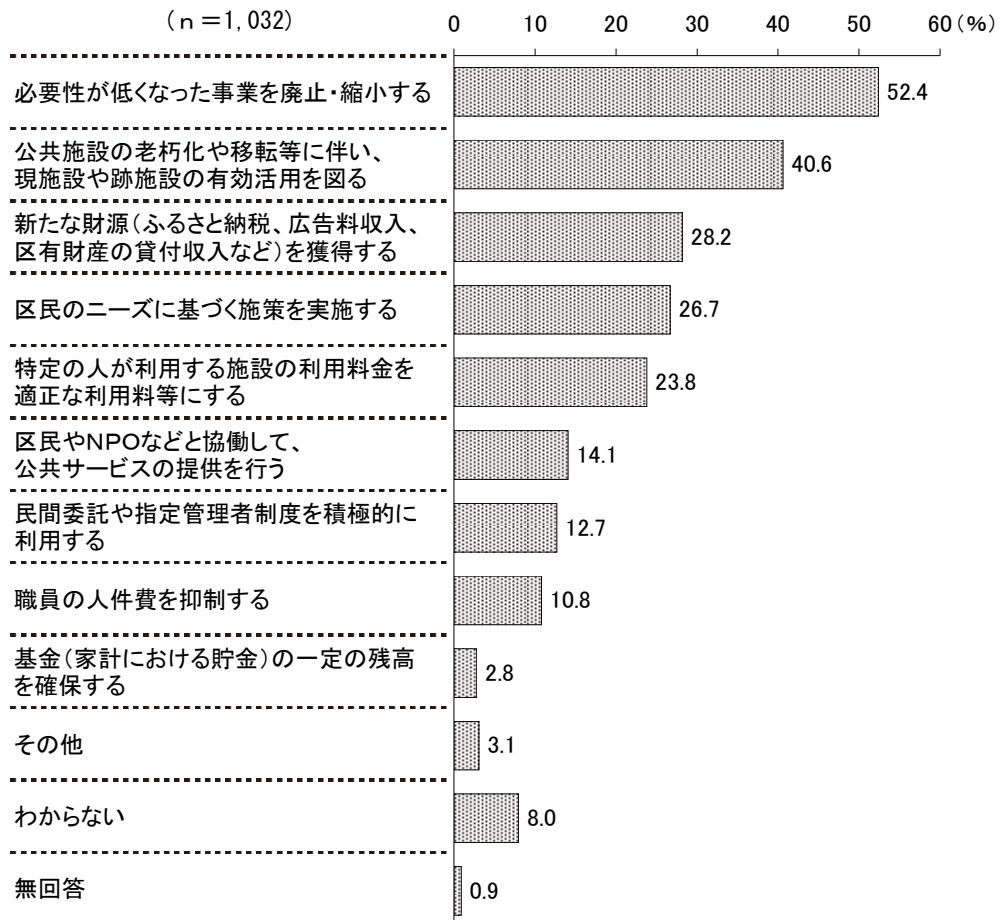
ライフステージ別にみると、「普通」は家族成長前期で6割近くと多くなっている。

(図 2-8-4)

2-9 財政の健全化を進めていくために必要なこと

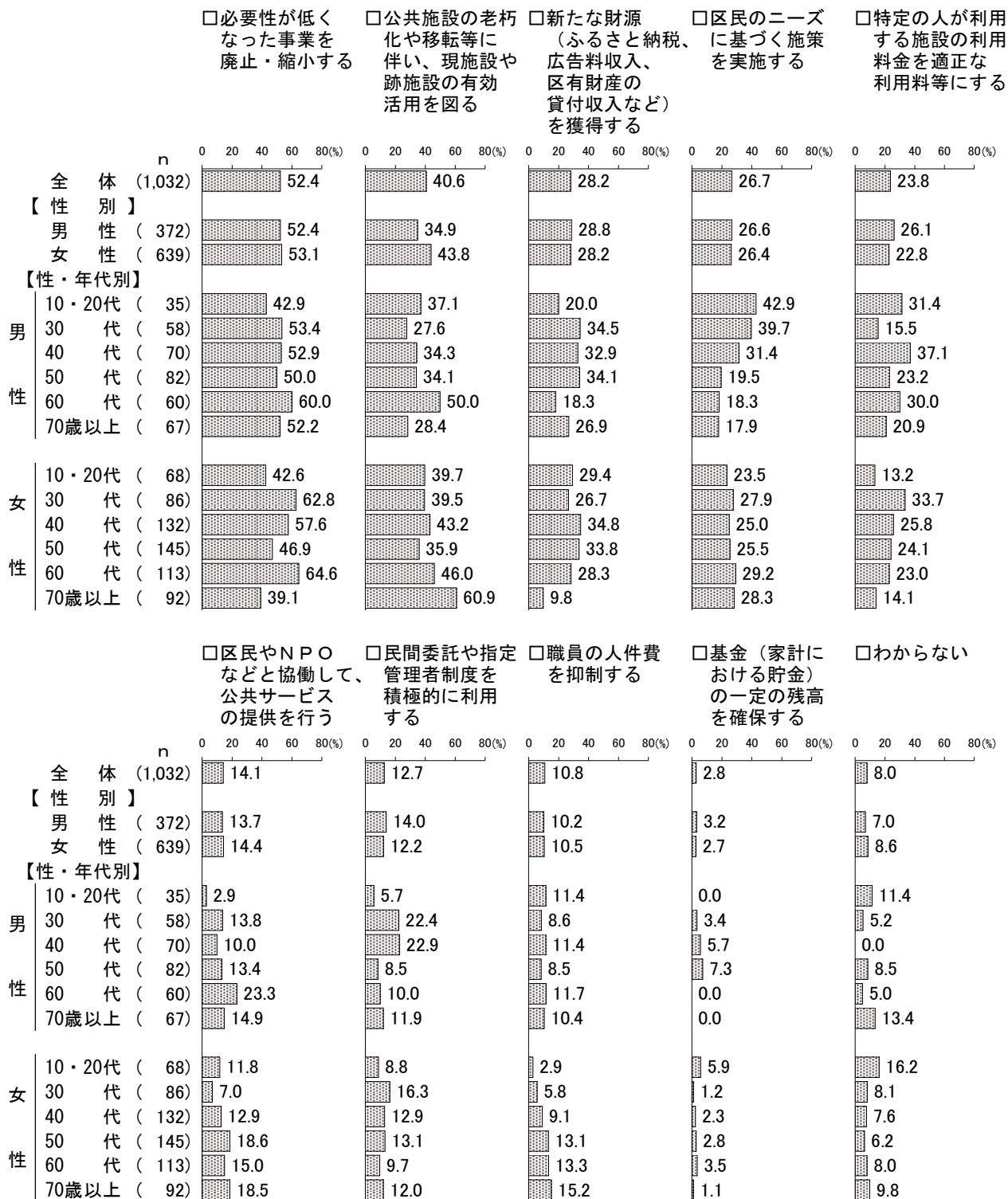
問10 財政の健全化を更に進めていくには、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。3つ以内でお選びください。(〇は3つまで)

図2-9-1 財政の健全化を進めていくために必要なこと



財政の健全化を更に進めていくために必要なことについてたずねたところ、「必要性が低くなった事業を廃止・縮小する」(52.4%)が5割を超えて最も多く、次いで「公共施設の老朽化や移転等に伴い、現施設や跡施設の有効活用を図る」(40.6%)、「新たな財源(ふるさと納税、広告料収入、区有財産の貸付収入など)を獲得する」(28.2%)、「区民のニーズに基づく施策を実施する」(26.7%)などの順となっている。(図2-9-1)

図 2-9-2 財政の健全化を進めていくために必要なこと—性別／性・年代別



性別にみると、「公共施設の老朽化や移転等に伴い、現施設や跡施設の有効活用を図る」は女性の方が男性より8.9ポイント高くなっている。一方、「特定の人が利用する施設の利用料金を適正な利用料等にする」は男性の方が女性より3.3ポイント高くなっている。

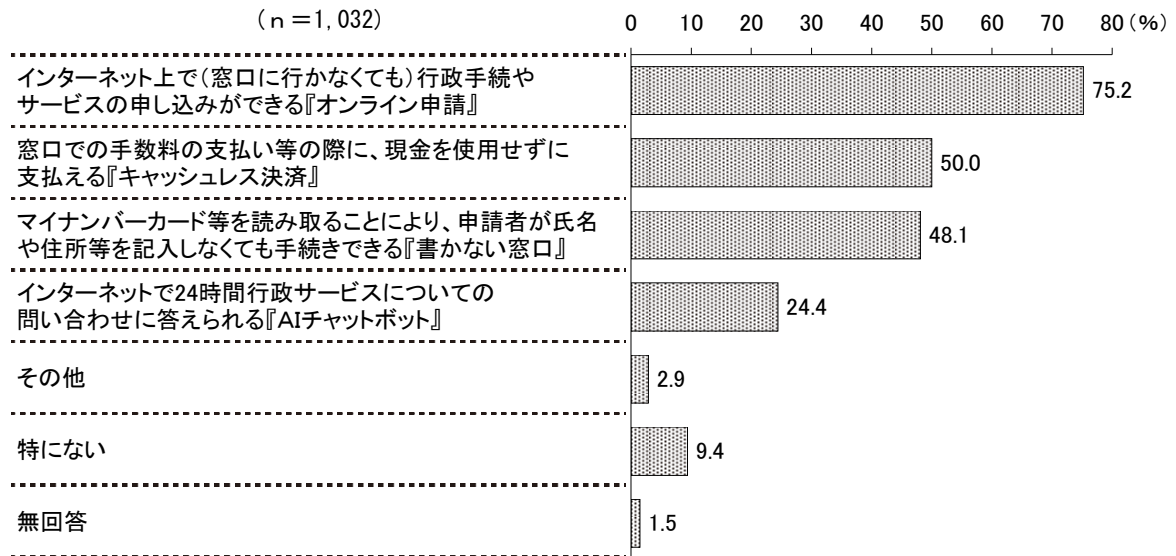
性・年代別にみると、「必要性が低くなった事業を廃止・縮小する」は女性60代で6割半ばと多くなっている。「公共施設の老朽化や移転等に伴い、現施設や跡施設の有効活用を図る」は女性70歳以上で約6割と多くなっている。(図2-9-2)

2-10 手続きのデジタル化により実現すると良いと思う区のサービス

問11 手続きのデジタル化により実現すると良いと思う区のサービスは何ですか。

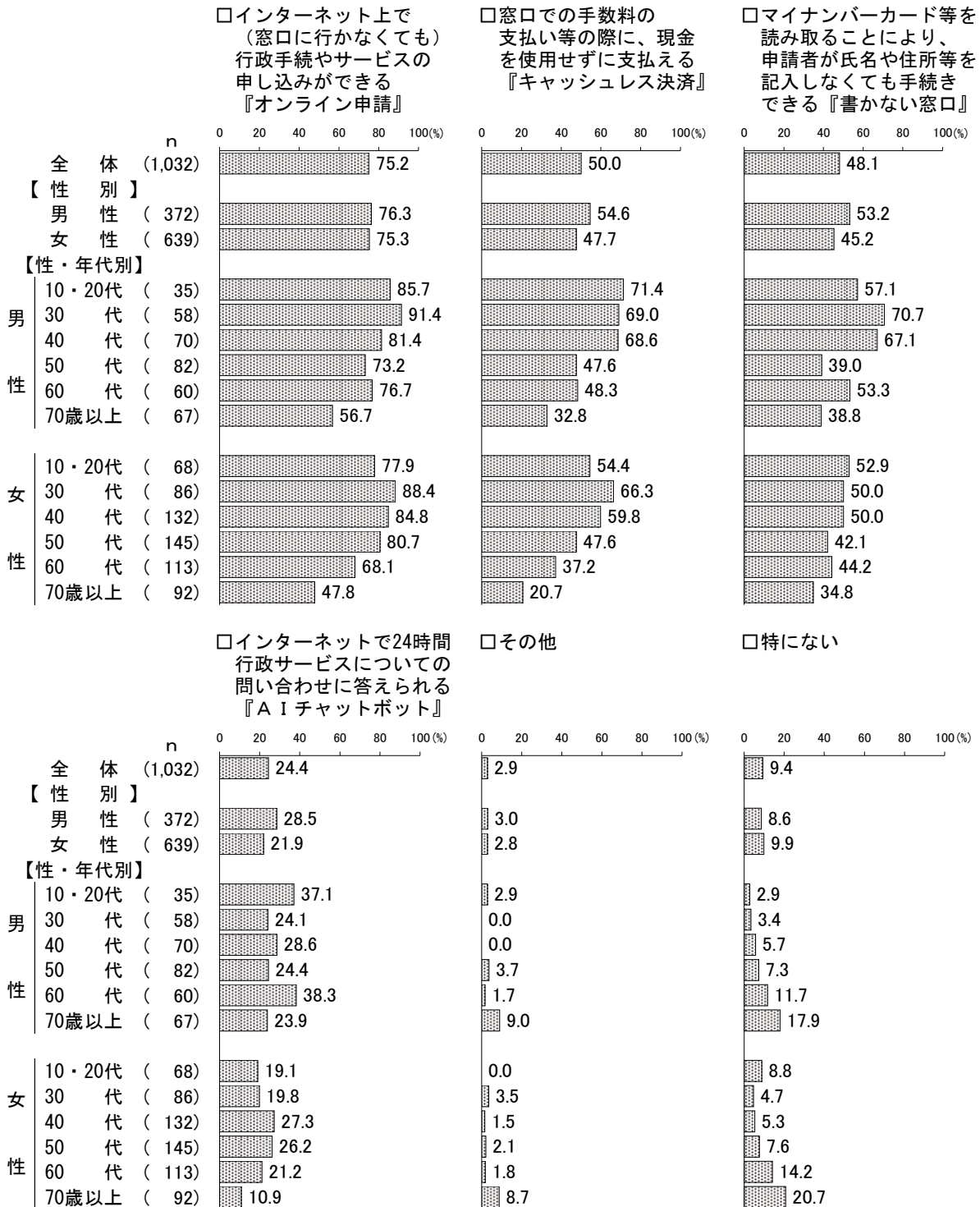
(○はいくつでも)

図2-10-1 手続きのデジタル化により実現すると良いと思う区のサービス



手続きのデジタル化により実現すると良いと思う区のサービスについてたずねたところ、「インターネット上で(窓口に行かなくても)行政手続やサービスの申し込みができる『オンライン申請』」(75.2%)が7割半ばで最も多く、次いで「窓口での手数料の支払い等の際に、現金を使用せずに支払える『キャッシュレス決済』」(50.0%)、「マイナンバーカード等を読み取ることにより、申請者が氏名や住所等を記入しなくても手続きできる『書かない窓口』」(48.1%)などの順となっている。(図2-10-1)

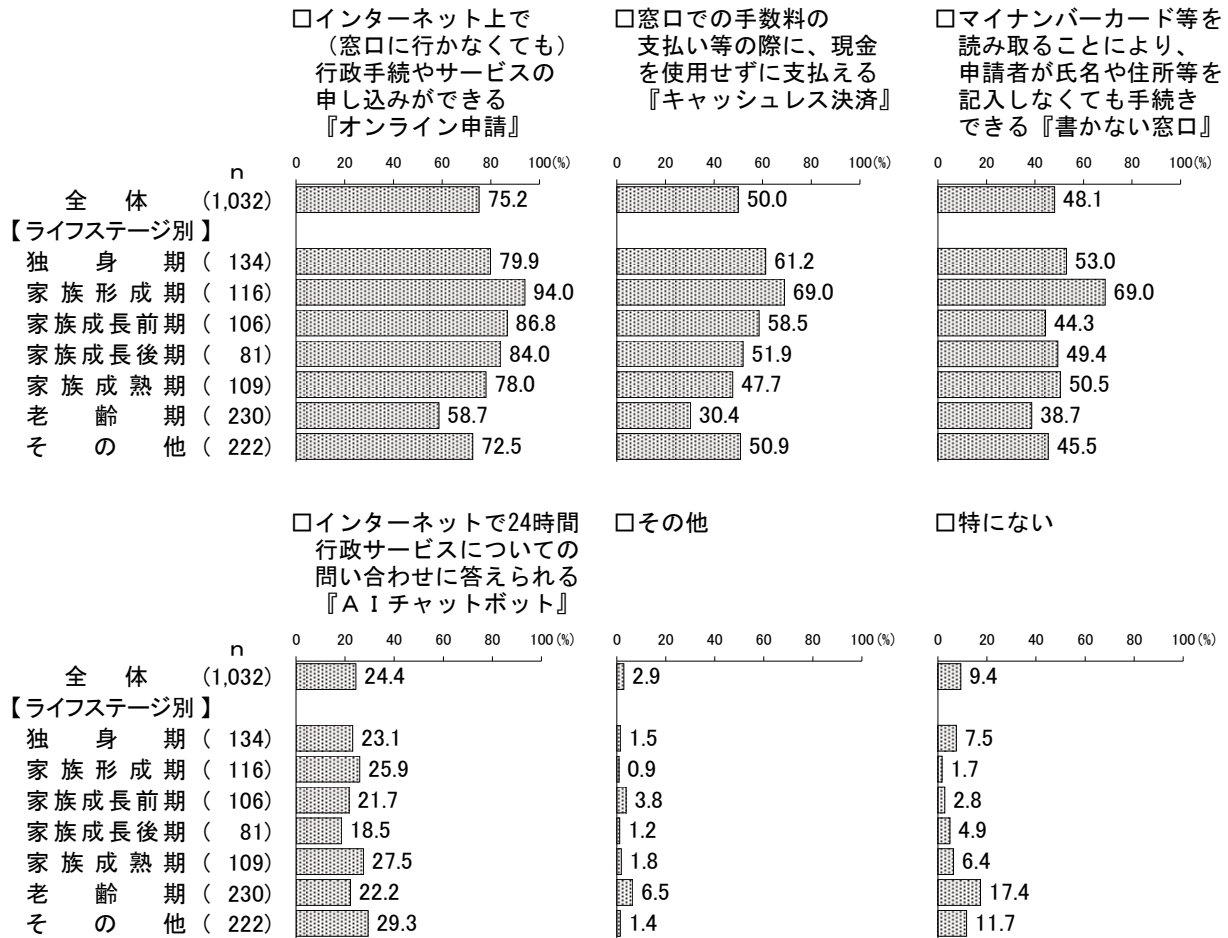
図2-10-2 手続きのデジタル化により実現すると良いと思う区のサービス－性別／性・年代別



性別にみると、「マイナンバーカード等を読み取ることにより、申請者が氏名や住所等を記入しなくても手続きできる『書かない窓口』」は男性の方が女性より8.0ポイント、「窓口での手数料の支払い等の際に、現金を使用せずに支払える『キャッシュレス決済』」は男性の方が女性より6.9ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「インターネット上で（窓口に行かなくても）行政手続やサービスの申し込みができる『オンライン申請』」は男性30代で9割を超えて多くなっている。「窓口での手数料の支払い等の際に、現金を使用せずに支払える『キャッシュレス決済』」は男性10・20代で7割を超えて多くなっている。（図2-10-2）

図 2-10-3 手続きのデジタル化により実現すると良いと思う区のサービスライフステージ別



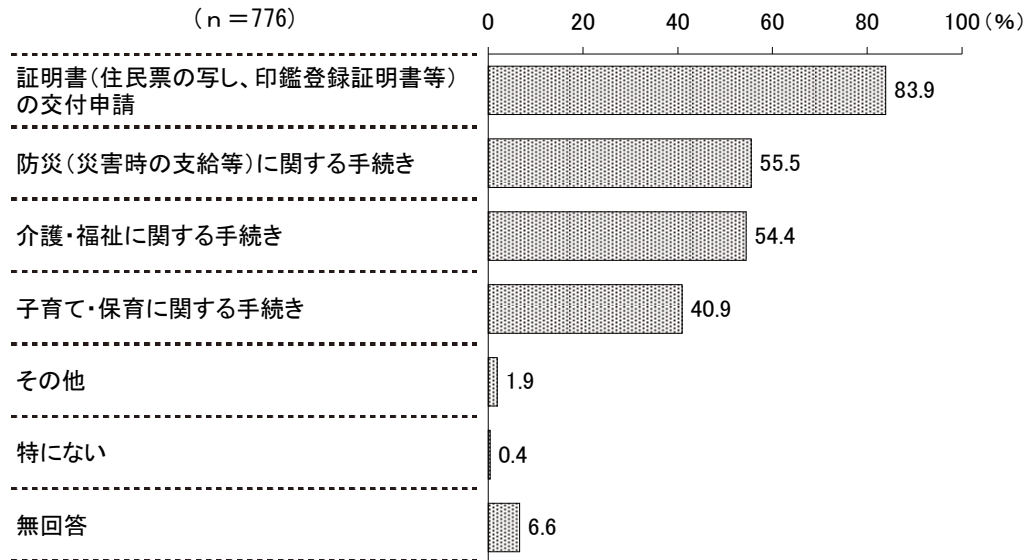
ライフステージ別にみると、「インターネット上で（窓口に行かなくても）行政手続やサービスの申し込みができる『オンライン申請』」は家族形成期で9割半ばと多くなっている。「窓口での手数料の支払い等の際に、現金を使用せずに支払える『キャッシュレス決済』」は家族形成期で約7割と多くなっている。（図 2-10-3）

2-11 インターネットで申請・届出等ができるの良いと思う行政手続きや区のサービス

【問11で「インターネット上で（窓口に行かなくても）行政手続きやサービスの申し込みができる『オンライン申請』」と回答された方にうかがいます】

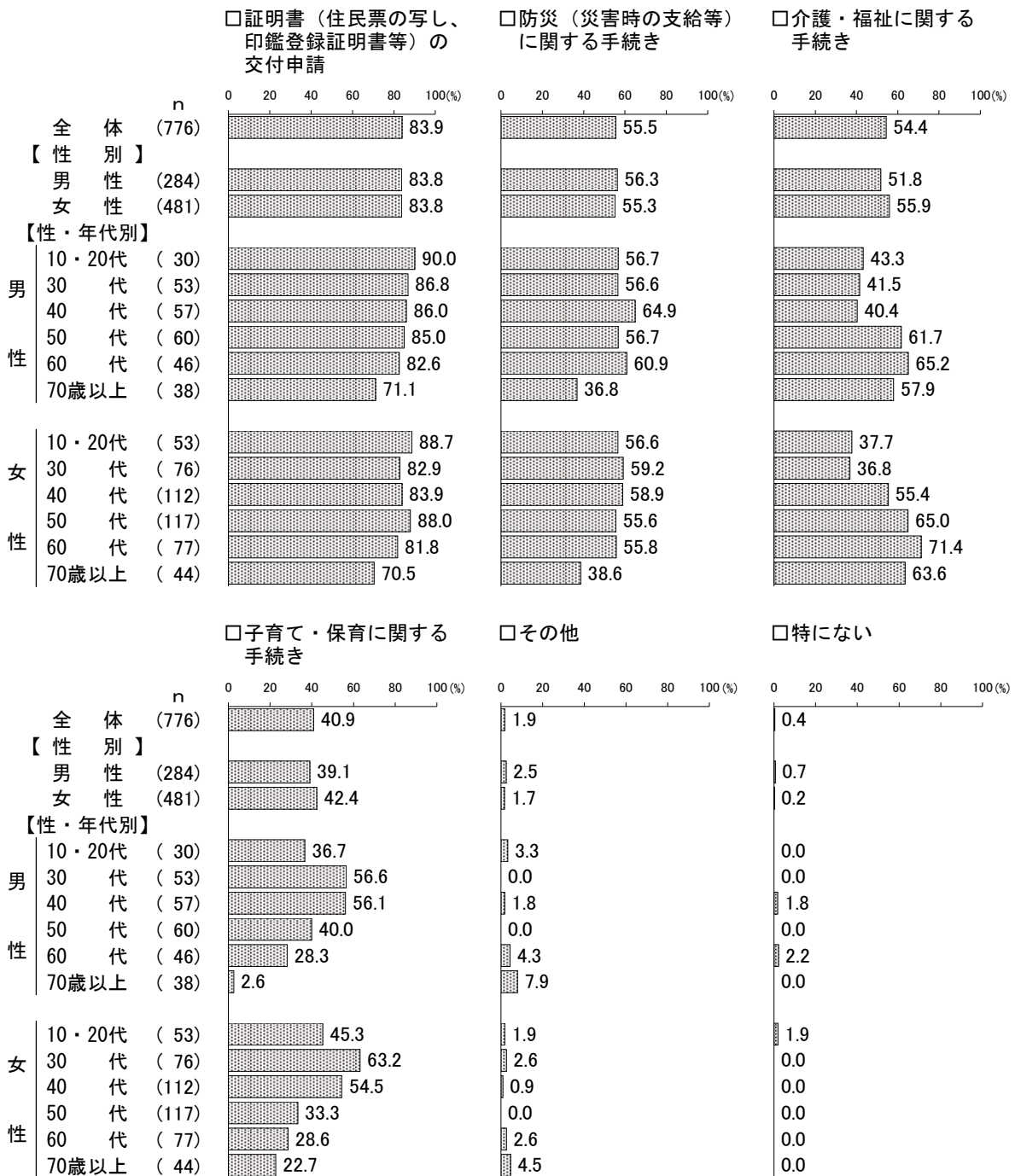
問11-1 インターネットで申請・届出等ができるの良いと思う行政手続きや区のサービスは何ですか。（〇はいくつでも）

図2-11-1 インターネットで申請・届出等ができるの良いと思う行政手続きや区のサービス



手続きのデジタル化により実現すると良いと思う区のサービスで「インターネット上で（窓口に行かなくても）行政手続きやサービスの申し込みができる『オンライン申請』」と答えた方（776人）に、インターネットで申請・届出等ができるの良いと思う行政手続きや区のサービスをたずねたところ、「証明書（住民票の写し、印鑑登録証明書等）の交付申請」（83.9%）が8割を超えて最も多く、次いで「防災（災害時の支給等）に関する手続き」（55.5%）、「介護・福祉に関する手続き」（54.4%）、「子育て・保育に関する手続き」（40.9%）などの順となっている。（図2-11-1）

図2-11-2 インターネットで申請・届出等ができると思う行政手続きや区のサービス
—性別／性・年代別



性別にみると、「介護・福祉に関する手続き」は女性の方が男性より4.1ポイント、「子育て・保育に関する手続き」は女性の方が男性より3.3ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「証明書（住民票の写し、印鑑登録証明書等）の交付申請」は男性10・20代で9割と多くなっている。「防災（災害時の支給等）に関する手続き」は男性40代で6割半ばと多くなっている。「介護・福祉に関する手続き」は女性60代で7割を超えて多くなっている。

(図2-11-2)

3. 人権・ダイバーシティ

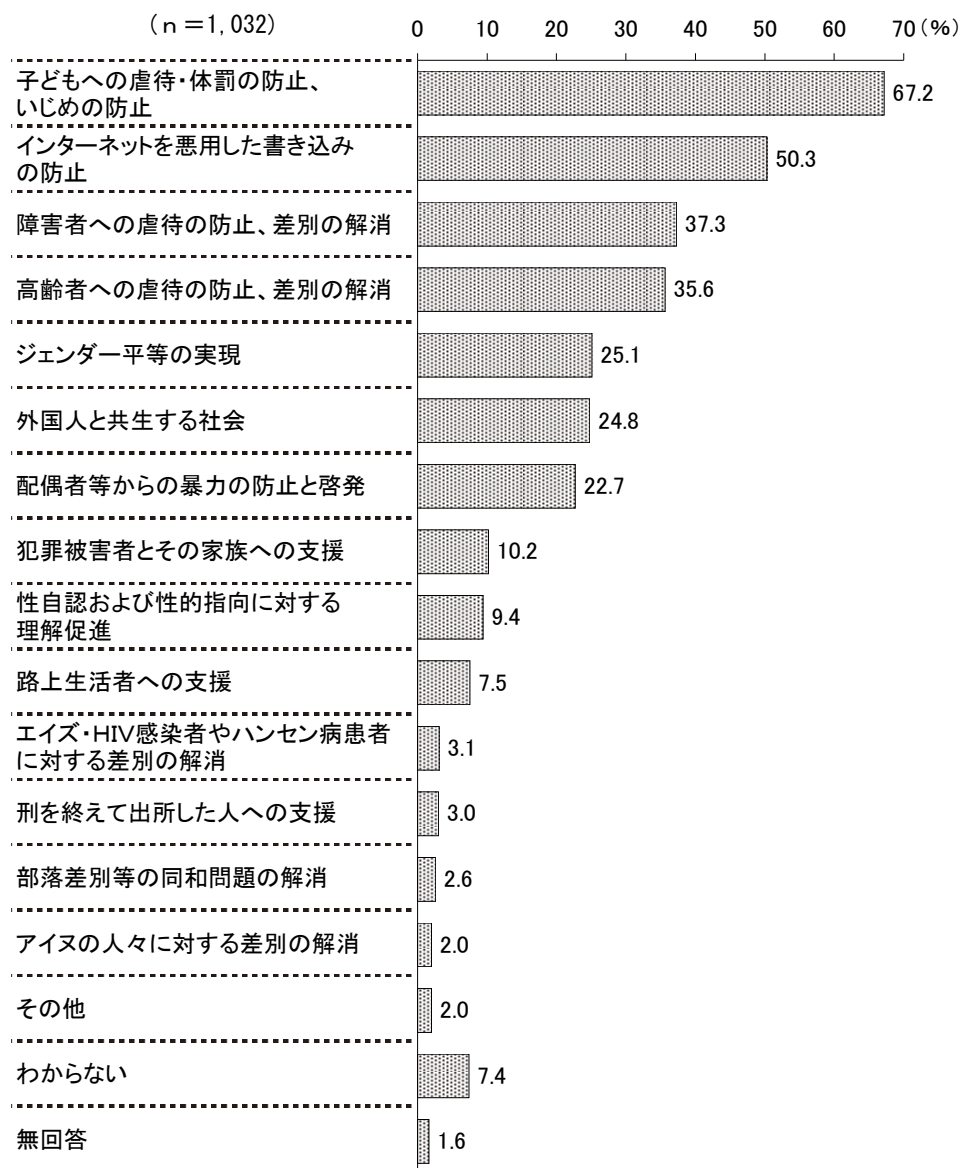
3-1 人権や差別・偏見問題に関して区が力を入れるべきもの

3. 人権・ダイバーシティ

3-1 人権や差別・偏見問題に関して区が力を入れるべきもの

問12 人権や差別・偏見についての問題の周知・理解や解決のために、区が今後どのようなことに力を入れていくべきと考えますか。5つ以内でお選びください。(〇は5つまで)

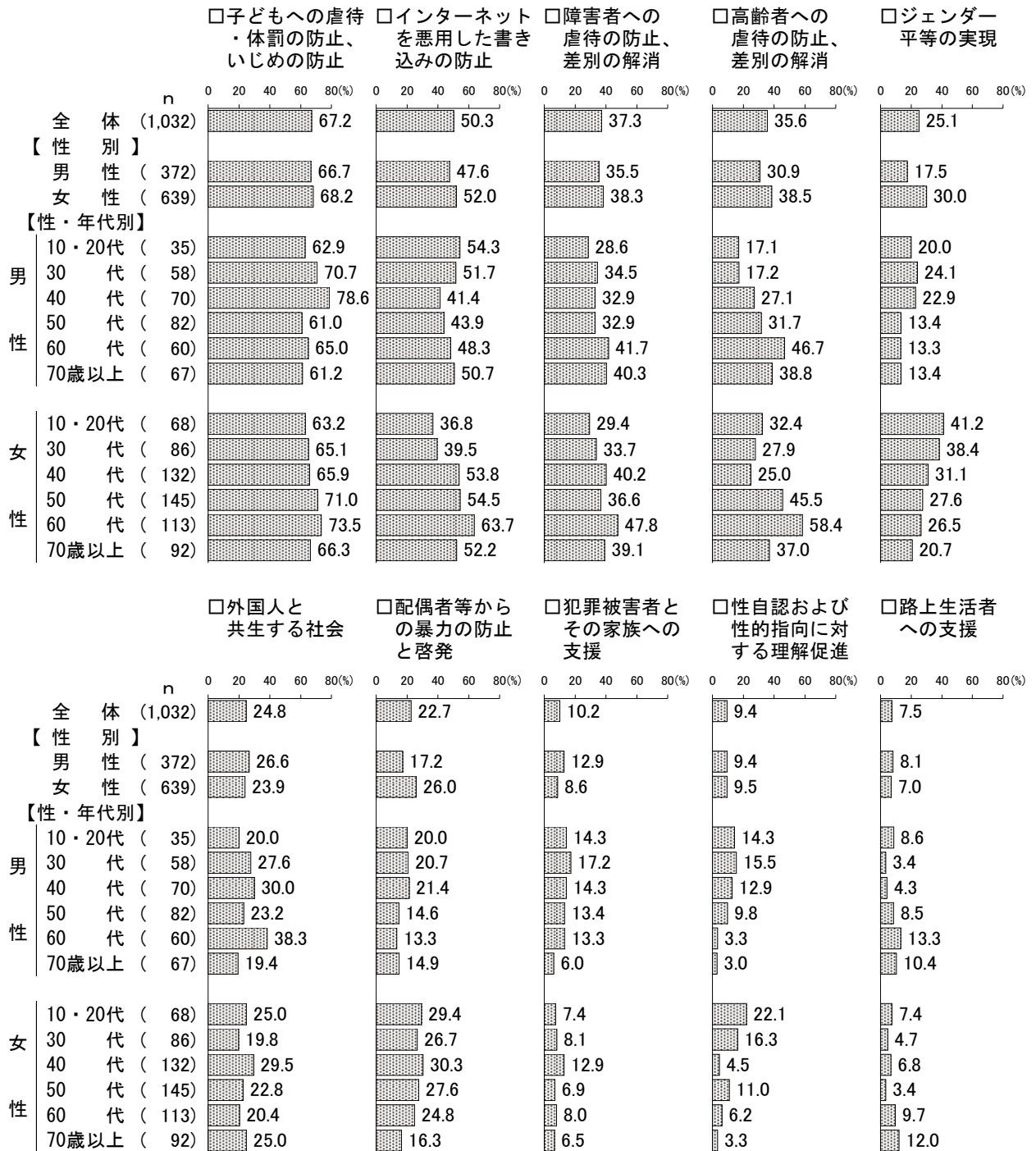
図3-1-1 人権や差別・偏見問題に関して区が力を入れるべきもの



人権や差別・偏見問題に関して区が力を入れるべきものについてたずねたところ、「子どもへの虐待・体罰の防止、いじめの防止」(67.2%)が7割近くで最も多く、次いで「インターネットを悪用した書き込みの防止」(50.3%)、「障害者への虐待の防止、差別の解消」(37.3%)、「高齢者への虐待の防止、差別の解消」(35.6%)などの順となっている。(図3-1-1)

図3-1-2 人権や差別・偏見問題に関して区が力を入れるべきもの

—性別／性・年代別（上位10項目）



上位10項目を性別にみると、「ジェンダー平等の実現」は女性の方が男性より12.5ポイント、「配偶者等からの暴力の防止と啓発」は女性の方が男性より8.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「犯罪被害者とその家族への支援」は男性の方が女性より4.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「子どもへの虐待・体罰の防止、いじめの防止」は男性40代で8割近くと多くなっている。「インターネットを悪用した書き込みの防止」は女性60代で6割を超えて多くなっている。「高齢者への虐待の防止、差別の解消」は女性60代で6割近くと多くなっている。

(図3-1-2)

4. 防災・安全

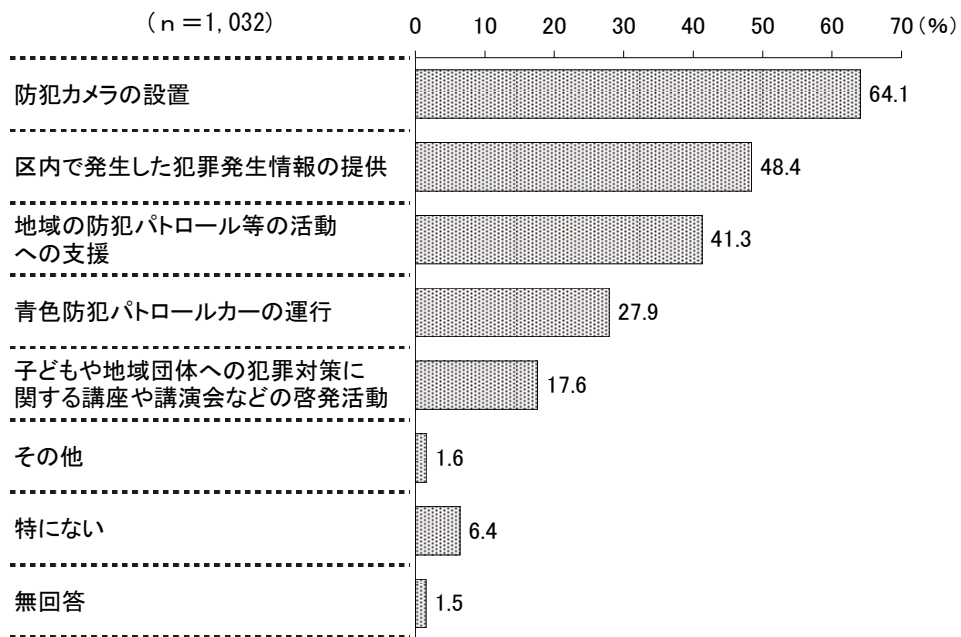
-
- 4-1 防犯対策で強化してほしいこと
 - 4-2 特殊詐欺対策で強化してほしいこと
 - 4-3 区が「在宅避難」を推進していることの認知度
 - 4-4 災害への備え
 - 4-5 区からの災害情報の提供方法の認知度
 - 4-6 防災行政無線の使用方法
-

4. 防災・安全

4-1 防犯対策で強化してほしいこと

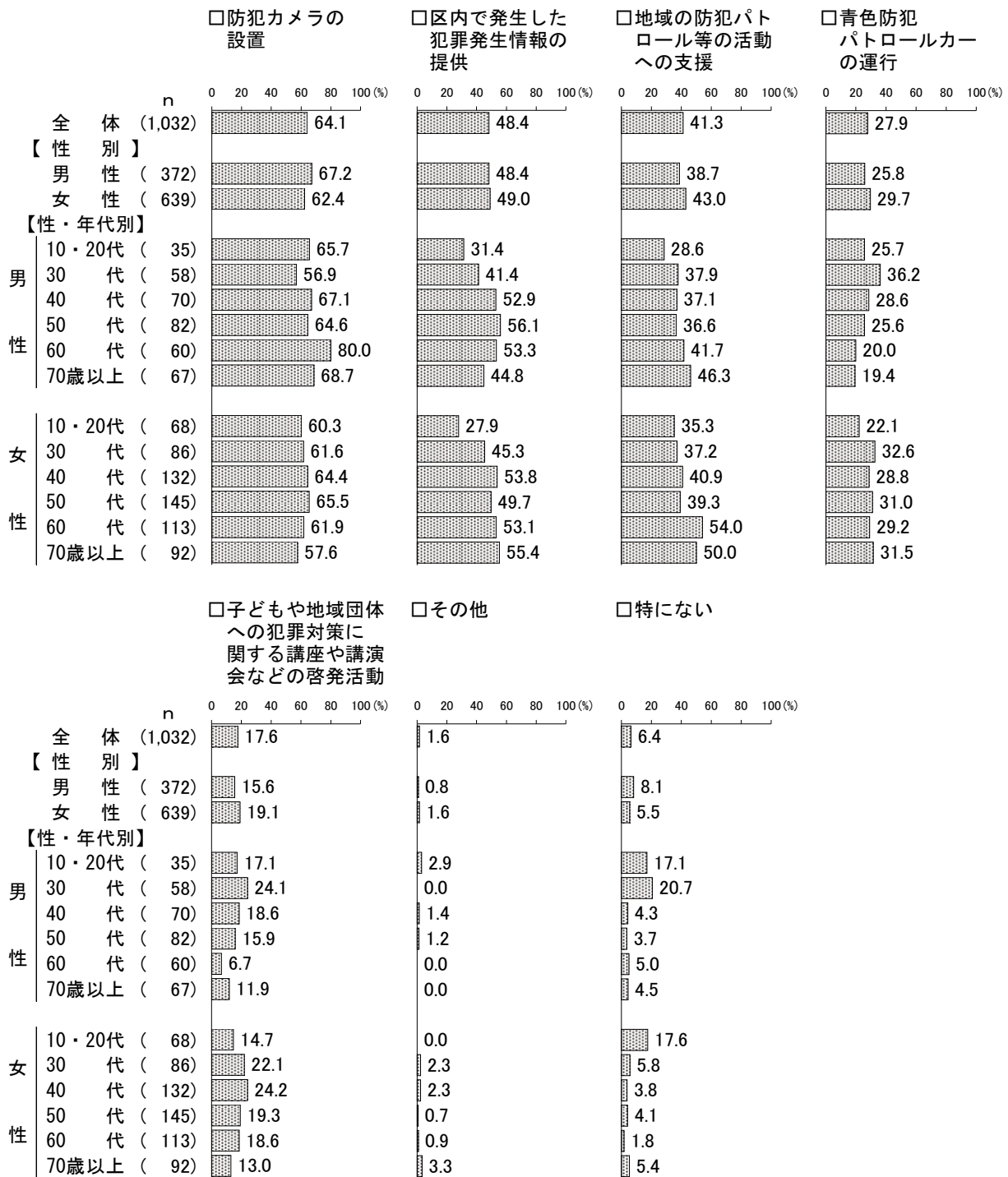
問13 警察以外の区や地域団体等が行う防犯対策で強化してほしいことは何ですか。3つ以内でお選びください。(〇は3つまで)

図4-1-1 防犯対策で強化してほしいこと



警察以外の区や地域団体等が行う防犯対策で強化してほしいことについてたずねたところ、「防犯カメラの設置」(64.1%)が6割半ばで最も多く、次いで「区内で発生した犯罪発生情報の提供」(48.4%)、「地域の防犯パトロール等の活動への支援」(41.3%)、「青色防犯パトロールカーの運行」(27.9%)などの順となっている。(図4-1-1)

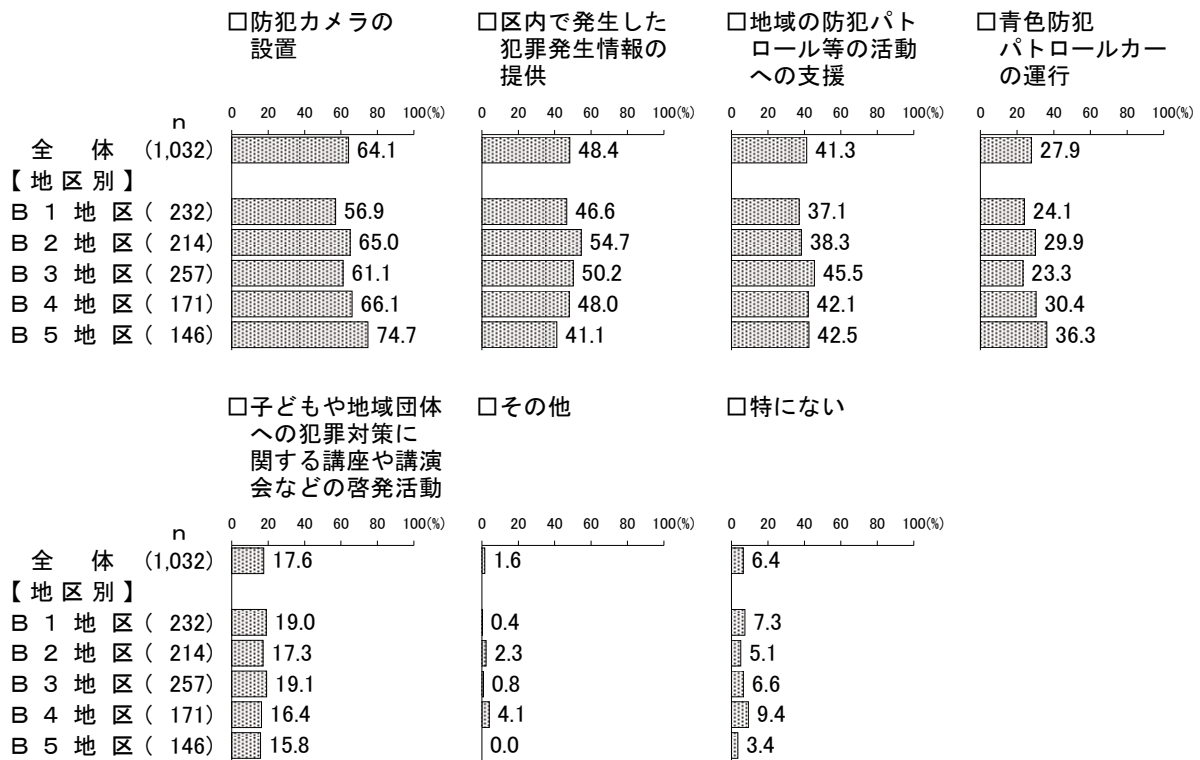
図 4-1-2 防犯対策で強化してほしいこと－性別／性・年代別



性別にみると、「防犯カメラの設置」は男性の方が女性より4.8ポイント高くなっている。一方、「地域の防犯パトロール等の活動への支援」は女性の方が男性より4.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「防犯カメラの設置」は男性60代で8割と多くなっている。「区内で発生した犯罪発生情報の提供」は男性50代と女性70歳以上で5割半ばと多くなっている。「地域の防犯パトロール等の活動への支援」は女性60代で5割半ばと多くなっている。(図4-1-2)

図4-1-3 防犯対策で強化してほしいこと—地区別



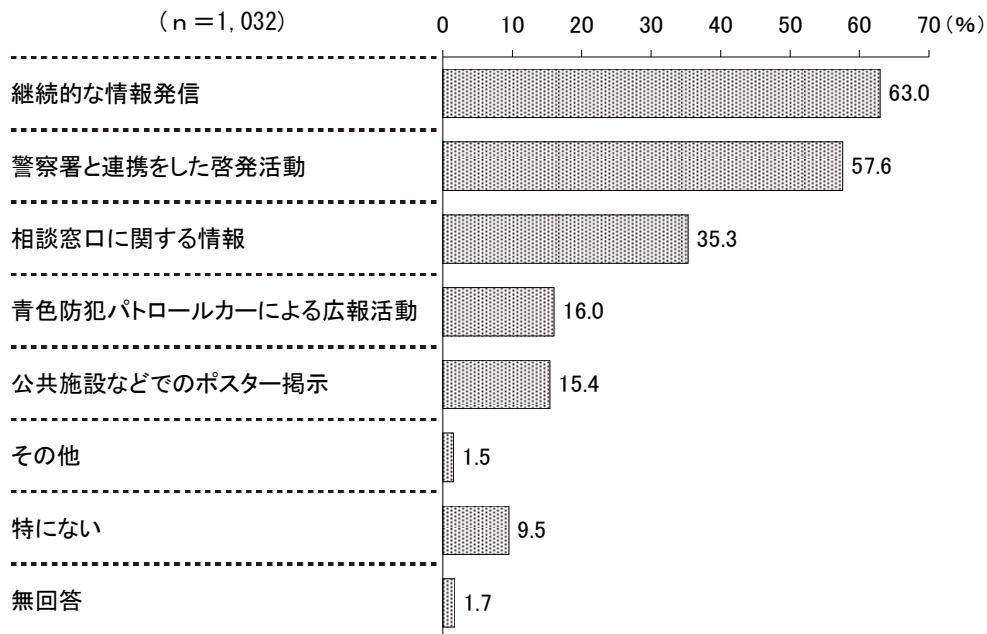
地区別にみると、「防犯カメラの設置」はB5地区で7割半ばと多くなっている。「区内で発生した犯罪発生情報の提供」はB2地区で5割半ばと多くなっている。「地域の防犯パトロール等の活動への支援」はB3地区で4割半ばと多くなっている。(図4-1-3)

※地区区分は4ページ参照

4-2 特殊詐欺対策で強化してほしいこと

問14 区が行う特殊詐欺対策で強化してほしいことは何ですか。3つ以内でお選びください。
(○は3つまで)

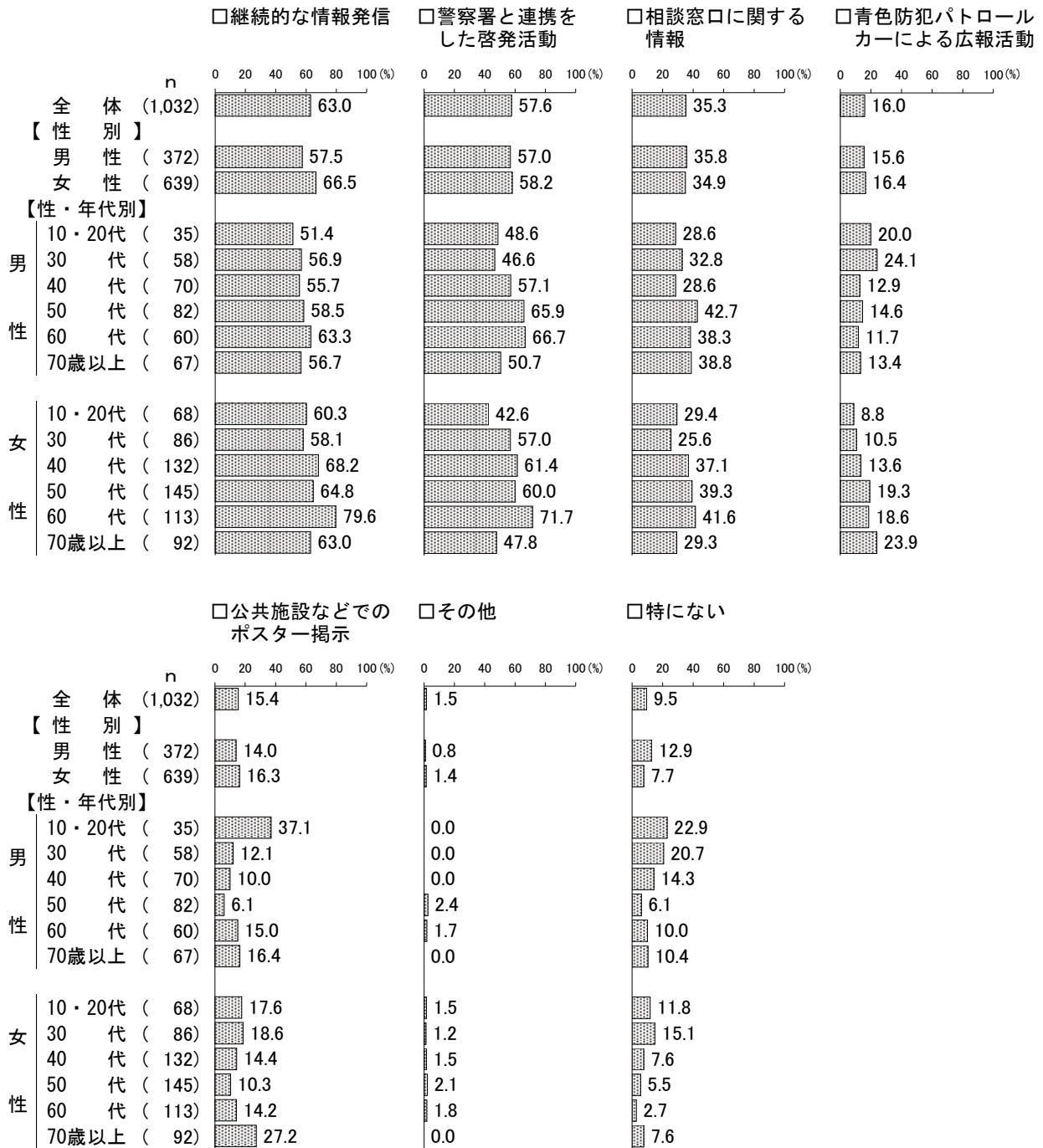
図4-2-1 特殊詐欺対策で強化してほしいこと



特殊詐欺対策で強化してほしいことについてたずねたところ、「継続的な情報発信」(63.0%)が6割を超えて最も多く、次いで「警察署と連携をした啓発活動」(57.6%)、「相談窓口に関する情報」(35.3%)、「青色防犯パトロールカーによる広報活動」(16.0%)などの順となっている。

(図4-2-1)

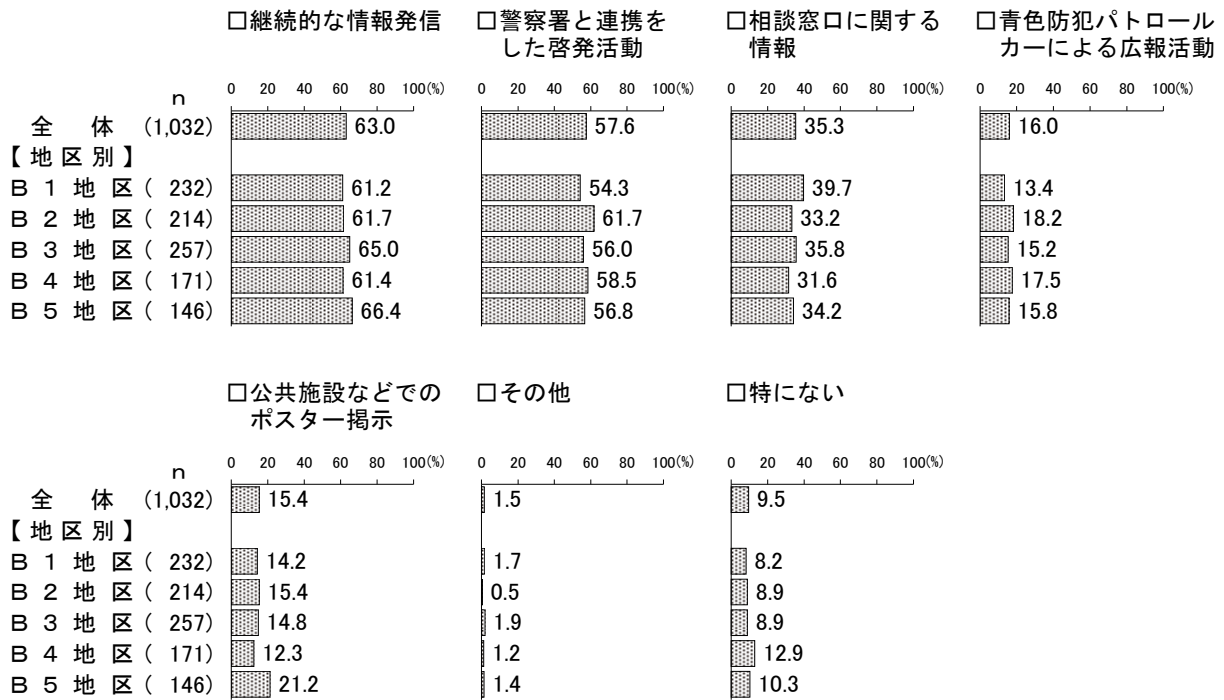
図4-2-2 特殊詐欺対策で強化してほしいこと－性別／性・年代別



性別にみると、「継続的な情報発信」は女性の方が男性より9.0ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「継続的な情報発信」は女性60代で8割と多くなっている。「警察署と連携をした啓発活動」は女性60代で7割を超えて多くなっている。「相談窓口に関する情報」は男性50代と女性60代で4割を超えて多くなっている。(図4-2-2)

図4-2-3 特殊詐欺対策で強化してほしいこと―地区別



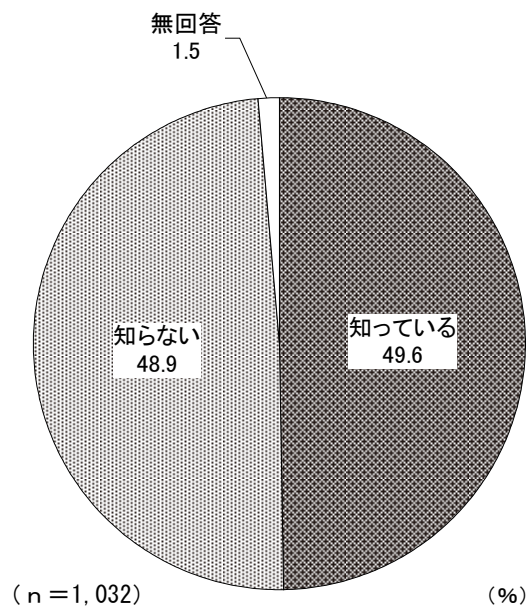
地区別にみると、「継続的な情報発信」はB3地区とB5地区で6割半ばと多くなっている。「警察署と連携をした啓発活動」はB2地区で6割を超えて多くなっている。「相談窓口に関する情報」はB1地区で4割と多くなっている。(図4-2-3)

※地区区分は4ページ参照

4-3 区が「在宅避難」を推進していることの認知度

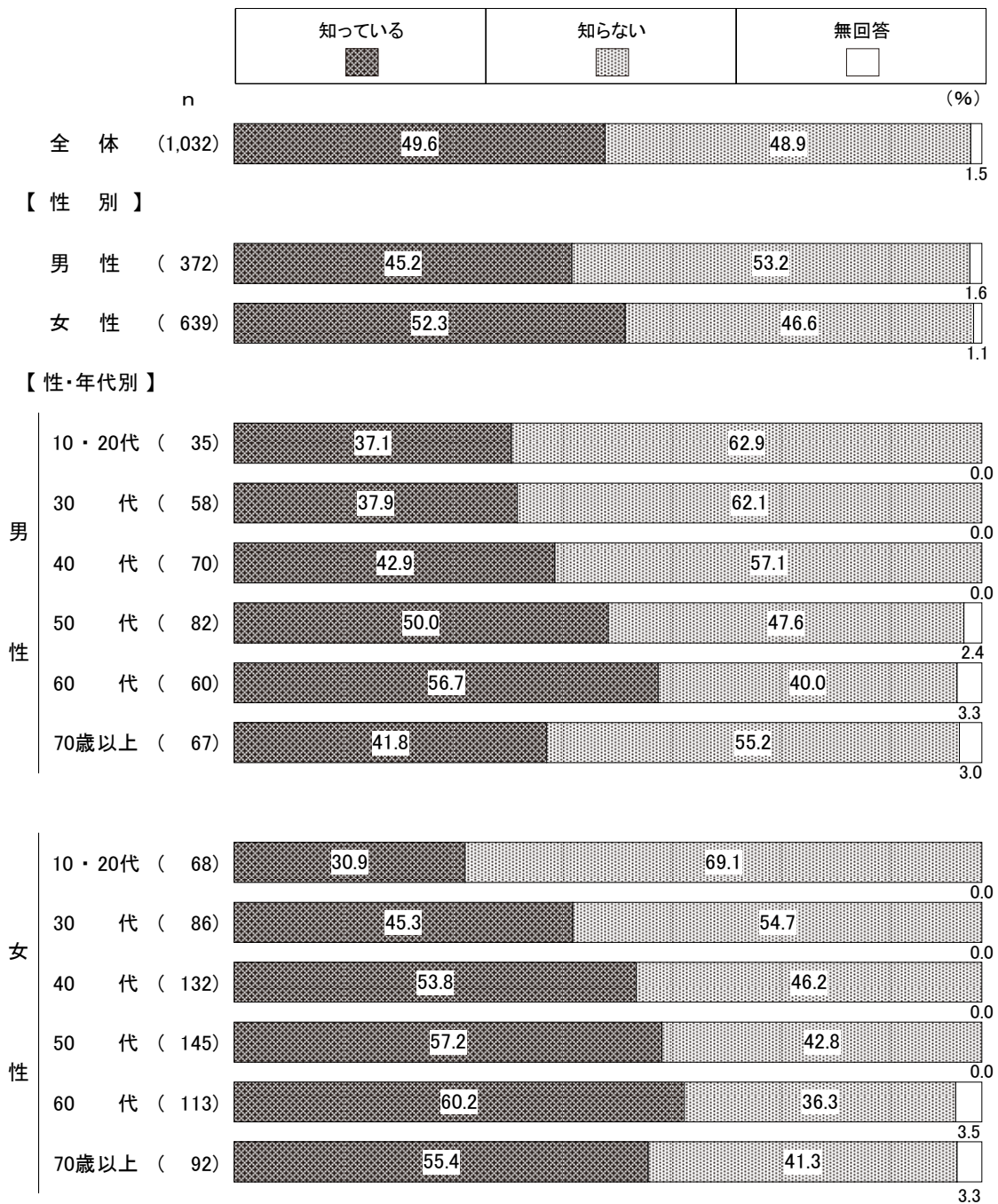
問15 あなたは、災害時に自宅の損傷や倒壊の危険性が少ない場合は、避難所への避難ではなく、自宅での生活を継続する「在宅避難」を区が推進していることを知っていますか。
(○は1つ)

図4-3-1 区が「在宅避難」を推進していることの認知度



「在宅避難」を区が推進していることを知っているかたずねたところ、「知っている」(49.6%)が5割、「知らない」(48.9%)は5割近くとなっている。(図4-3-1)

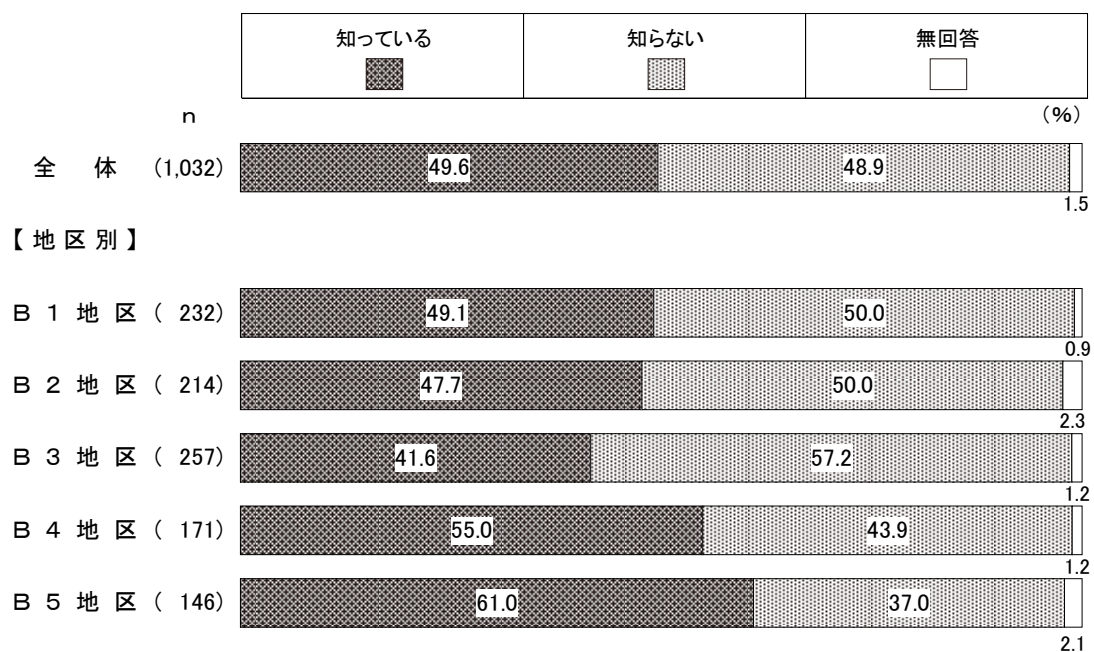
図 4-3-2 区が「在宅避難」を推進していることの認知度—性別／性・年代別



性別にみると、「知っている」は女性の方が男性より7.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っている」は女性60代で6割と多くなっている。一方、「知らない」は女性10・20代で約7割と多くなっている。(図 4-3-2)

図4-3-3 区が「在宅避難」を推進していることの認知度—地区別



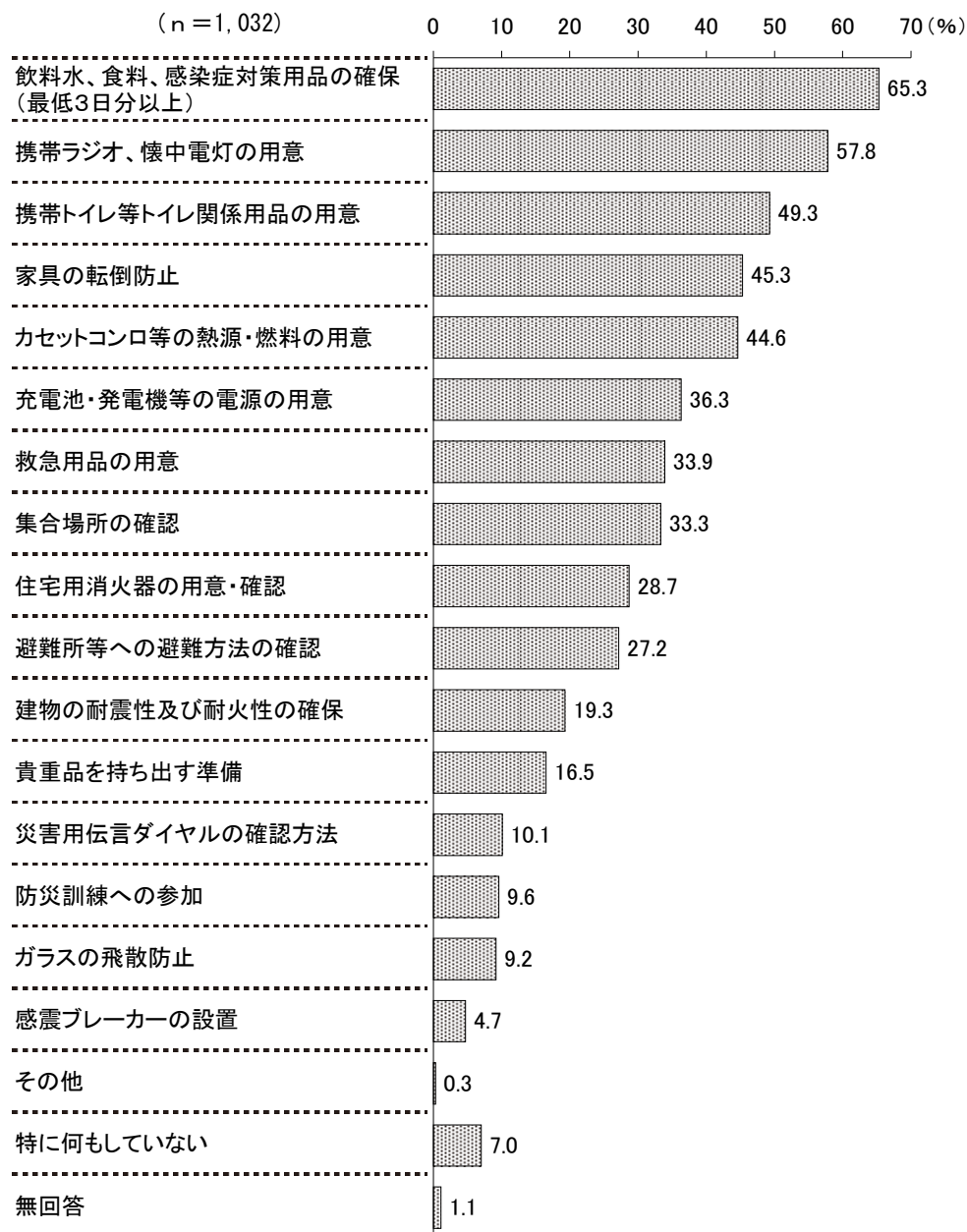
地区別にみると、「知っている」はB5地区で6割を超えて多くなっている。一方、「知らない」はB3地区で6割近くと多くなっている。(図4-3-3)

※地区区分は4ページ参照

4-4 災害への備え

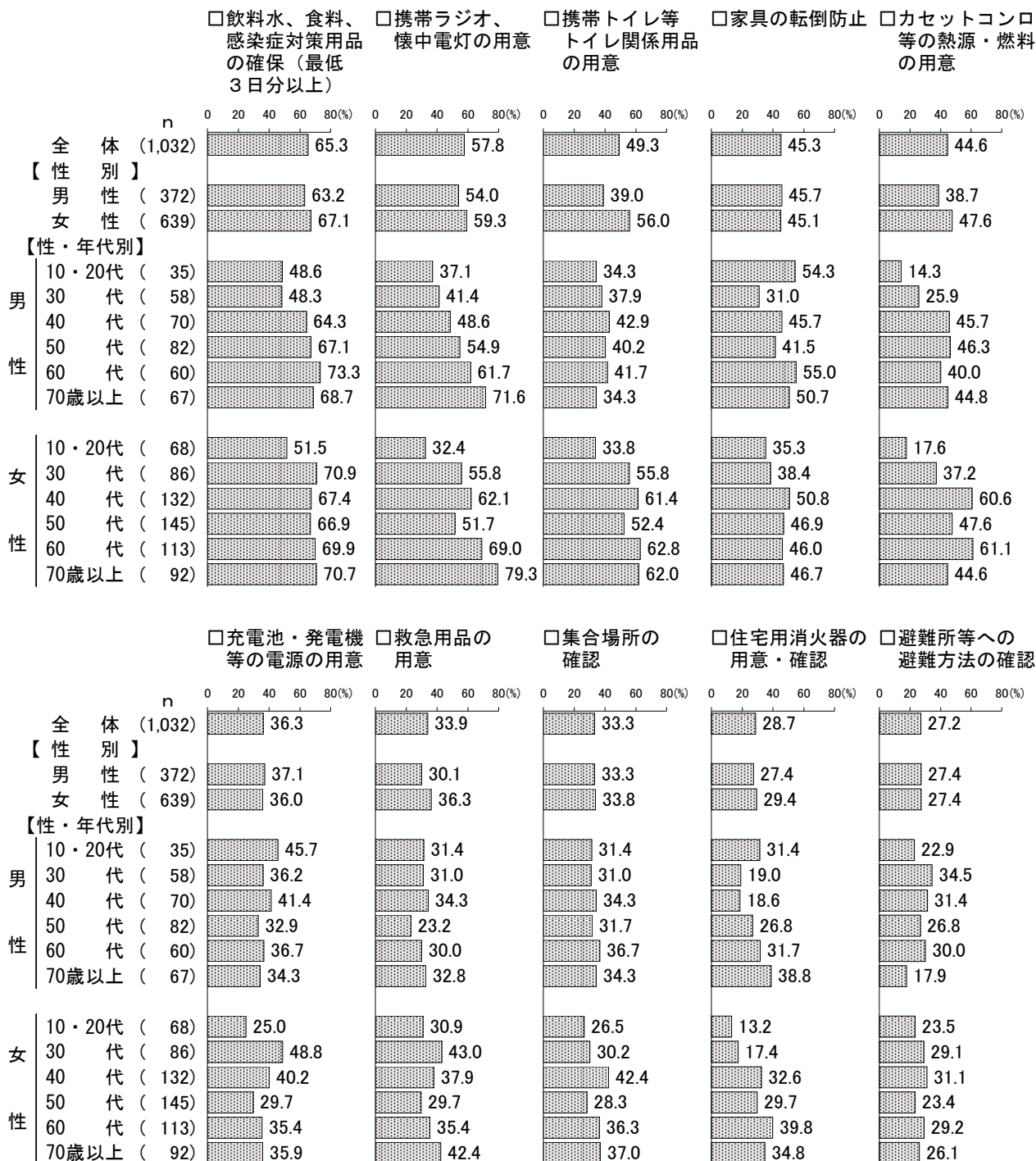
問16 あなたは、災害に備えてどのような対策をしていますか。(〇はいくつでも)

図4-4-1 災害への備え



災害への備えについてたずねたところ、「飲料水、食料、感染症対策用品の確保（最低3日分以上）」（65.3%）が6割半ばで最も多く、次いで「携帯ラジオ、懐中電灯の用意」（57.8%）、「携帯トイレ等トイレ関係用品の用意」（49.3%）、「家具の転倒防止」（45.3%）、「カセットコンロ等の熱源・燃料の用意」（44.6%）などの順となっている。（図4-4-1）

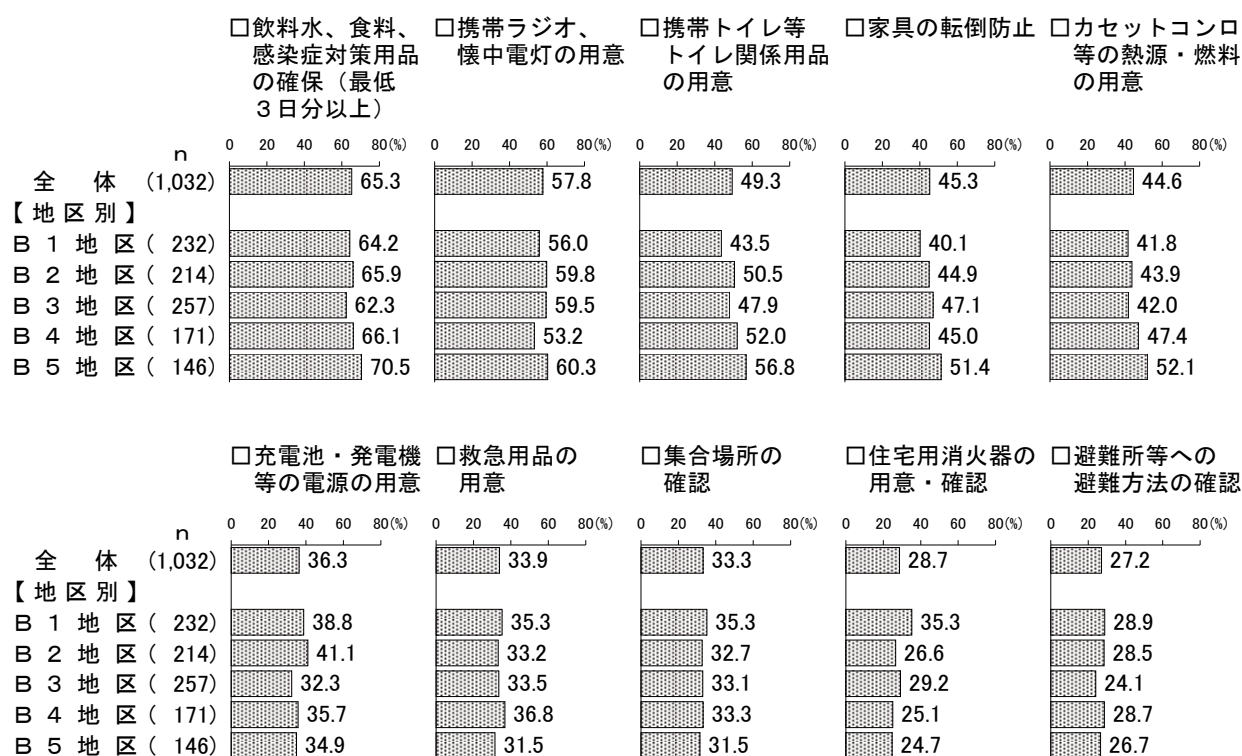
図4-4-2 災害への備え－性別／性・年代別（上位10項目）



上位10項目を性別にみると、「携帯トイレ等トイレ関係用品の用意」は女性の方が男性より17.0ポイント、「カセットコンロ等の熱源・燃料の用意」は女性の方が男性より8.9ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「飲料水、食料、感染症対策用品の確保（最低3日分以上）」は男性60代で7割を超えて多くなっている。「携帯ラジオ、懐中電灯の用意」は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が高く、女性70歳以上で約8割となっている。（図4-4-2）

図4-4-3 災害への備え—地区別（上位10項目）



上位10項目を地区別にみると、「飲料水、食料、感染症対策用品の確保（最低3日以上）」はB5地区で約7割と多くなっている。「携帯トイレ等トイレ関係用品の用意」はB5地区で6割近くと多くなっている。「カセットコンロ等の熱源・燃料の用意」はB5地区で5割を超えて多くなっている。（図4-4-3）

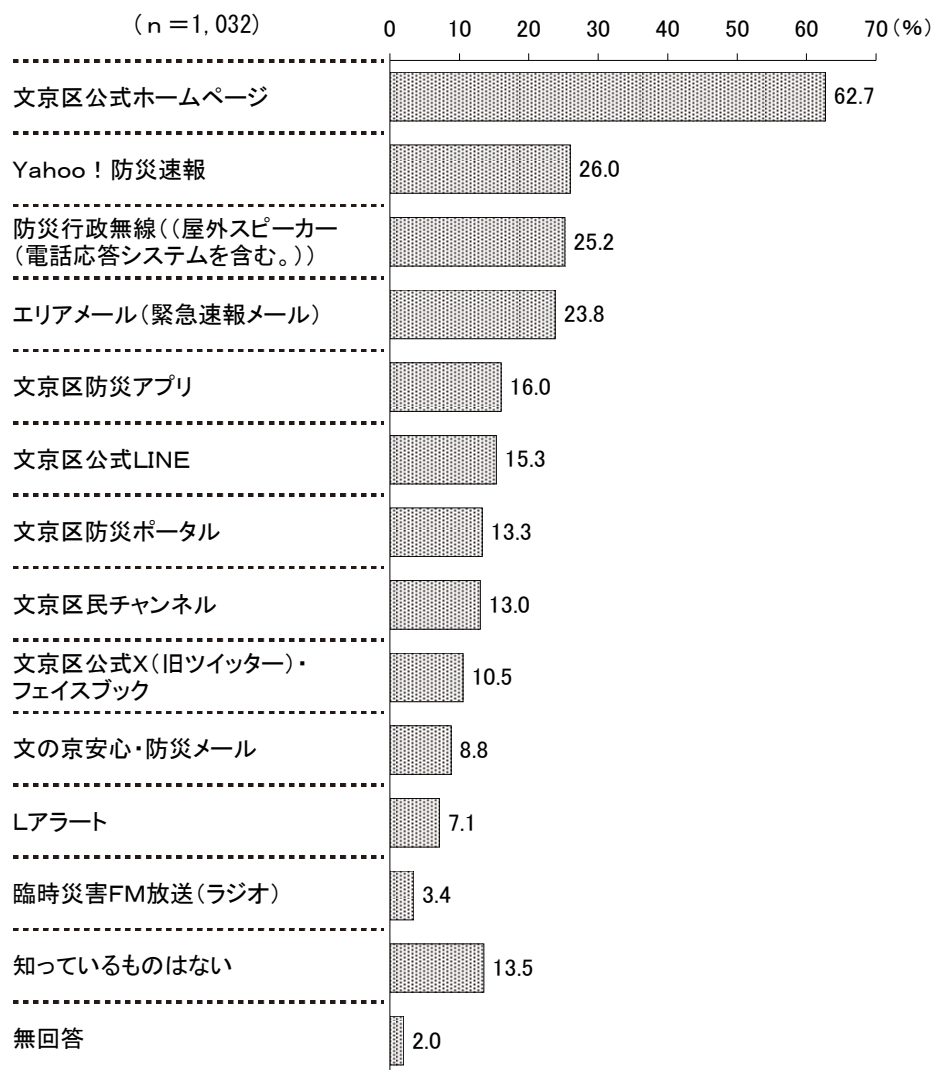
※地区区分は4ページ参照

4-5 区からの災害情報の提供方法の認知度

問17 区からの災害情報の提供方法について、知っているものをすべてお選びください。

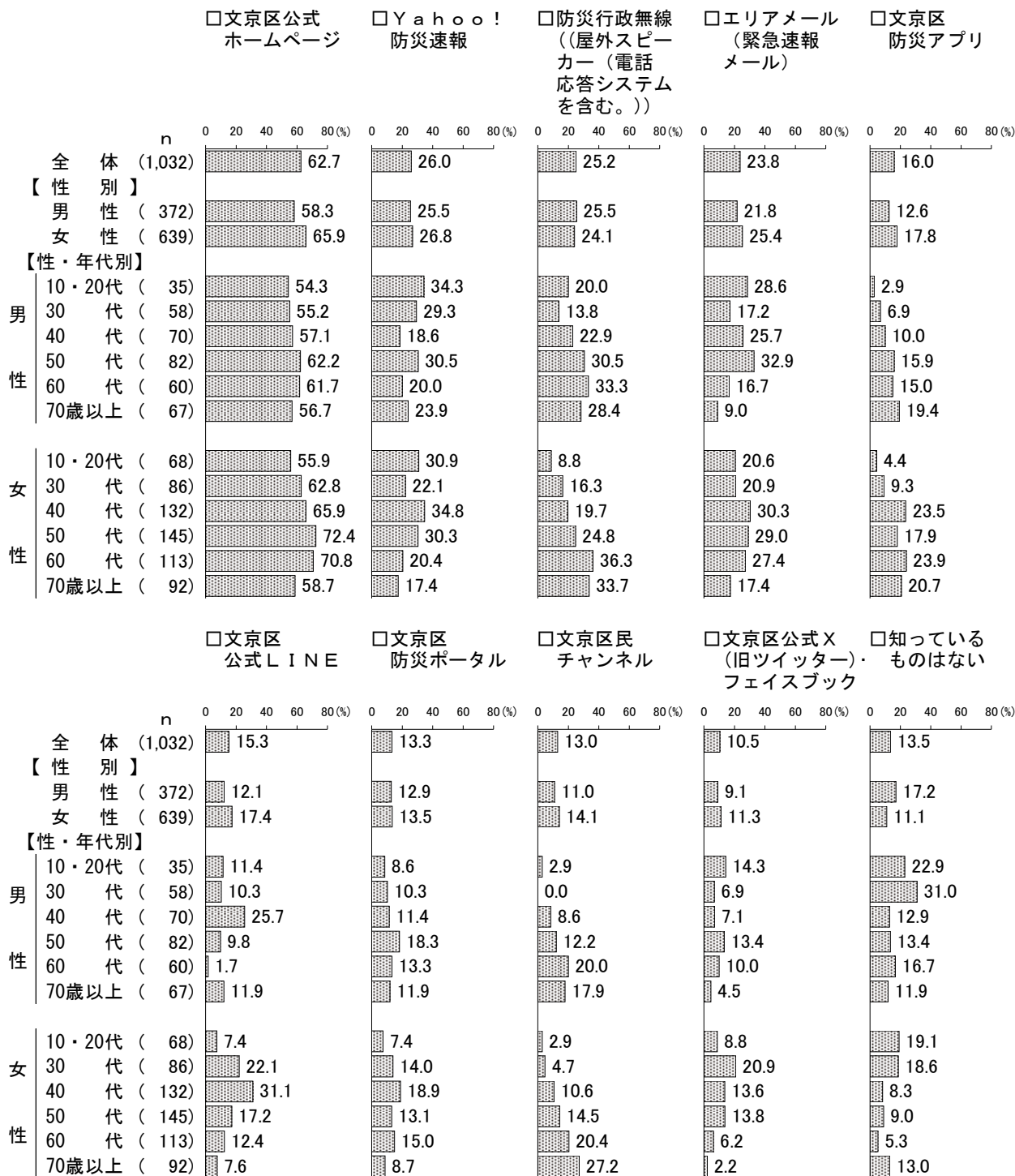
(○はいくつでも)

図4-5-1 区からの災害情報の提供方法の認知度



区からの災害情報の提供方法の認知度についてたずねたところ、「文京区公式ホームページ」(62.7%)が6割を超えて最も多く、次いで「Yahoo! 防災速報」(26.0%)、「防災行政無線((屋外スピーカー(電話応答システムを含む。))」(25.2%)、「エリアメール(緊急速報メール)」(23.8%)などの順となっている。(図4-5-1)

図4-5-2 区からの災害情報の提供方法の認知度—性別／性・年代別（上位10項目）

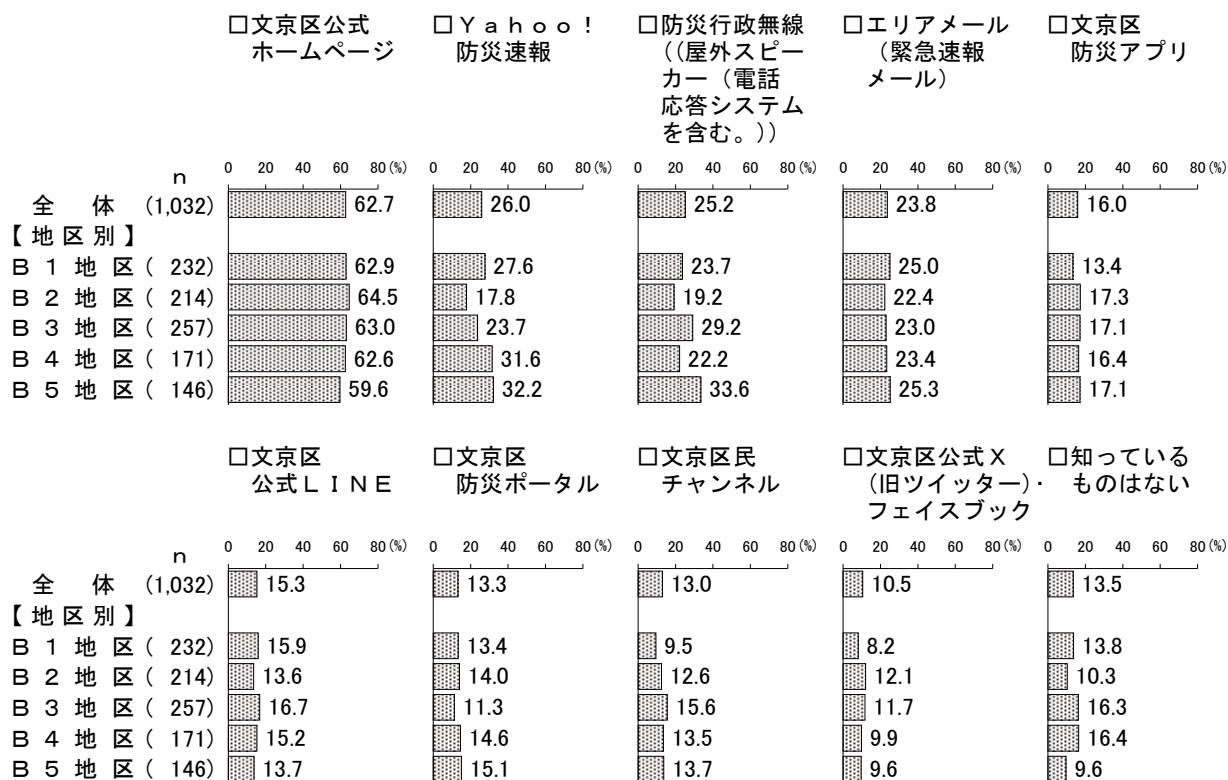


上位10項目を性別にみると、「文京区公式ホームページ」は女性の方が男性より7.6ポイント、「文京区公式LINE」は女性の方が男性より5.3ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「文京区公式ホームページ」は女性の50代と60代で7割台と多くなっている。「Yahoo!防災速報」は女性40代と男性10・20代で3割半ばと多くなっている。「防災行政無線（屋外スピーカー（電話応答システムを含む。）」は女性60代で3割半ばと多くなっている。

(図4-5-2)

図4-5-3 区からの災害情報の提供方法の認知度—地区別（上位10項目）



上位10項目を地区別にみると、「文京区公式ホームページ」はB2地区で6割半ばと多くになっている。「Yahoo! 防災速報」はB4地区とB5地区で3割を超えて多くになっている。「防災行政無線 ((屋外スピーカー (電話応答システムを含む。))」はB5地区で3割を超えて多くになっている。

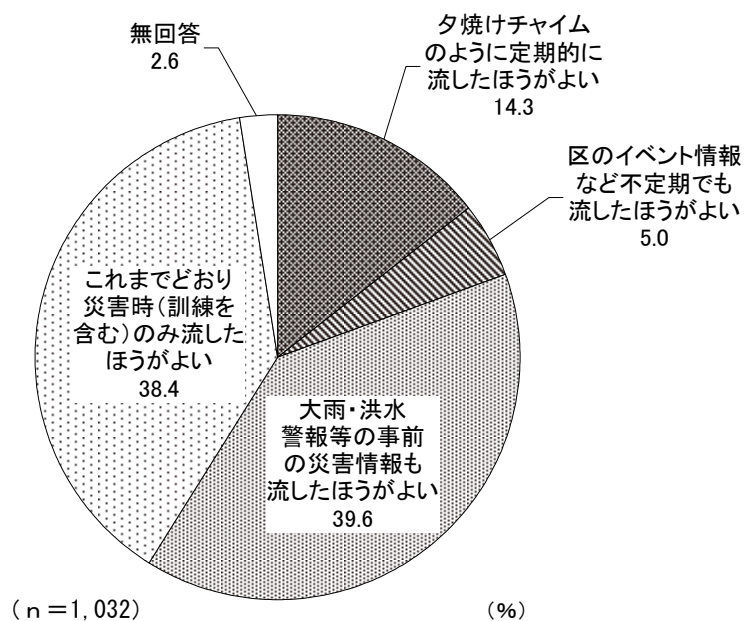
(図4-5-3)

※地区区分は4ページ参照

4-6 防災行政無線の使用方法

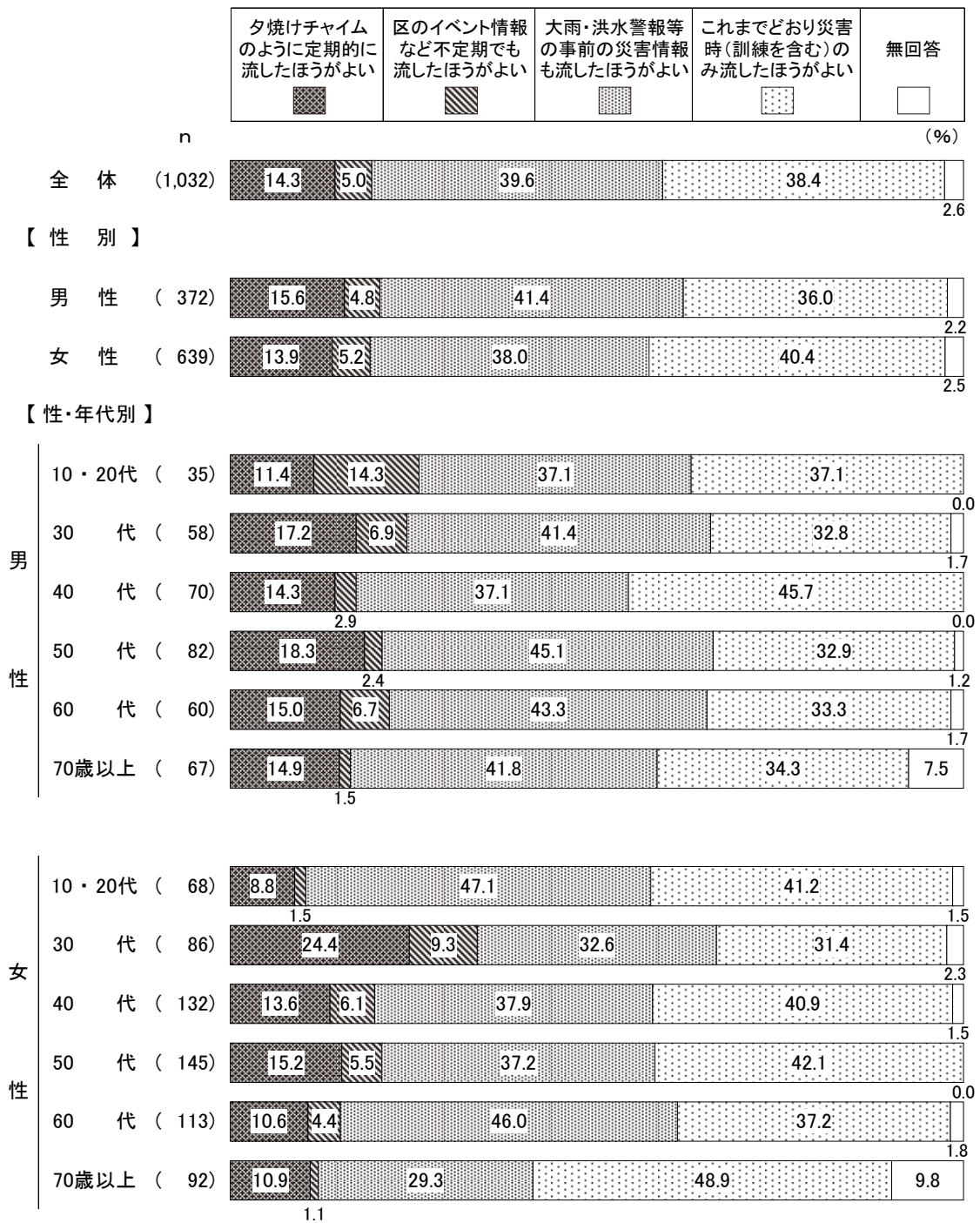
問18 区では、災害情報を広域的に伝達する目的で、「防災行政無線（屋外スピーカー）」を公園や区立学校等に設置しております。現在は、緊急性を強調するため、訓練を除き災害時のみ使用していますが、その使用方法について、あなたが最も適切と思うものをお選びください。（○は1つ）

図4-6-1 防災行政無線の使用方法



防災行政無線の使用方法についてたずねたところ、「大雨・洪水警報等の事前の災害情報も流したほうがよい」(39.6%)が4割で最も多く、次いで「これまでどおり災害時(訓練を含む)のみ流したほうがよい」(38.4%)、「夕焼けチャイムのように定期的に流したほうがよい」(14.3%)、「区のイベント情報など不定期でも流したほうがよい」(5.0%)の順となっている。(図4-6-1)

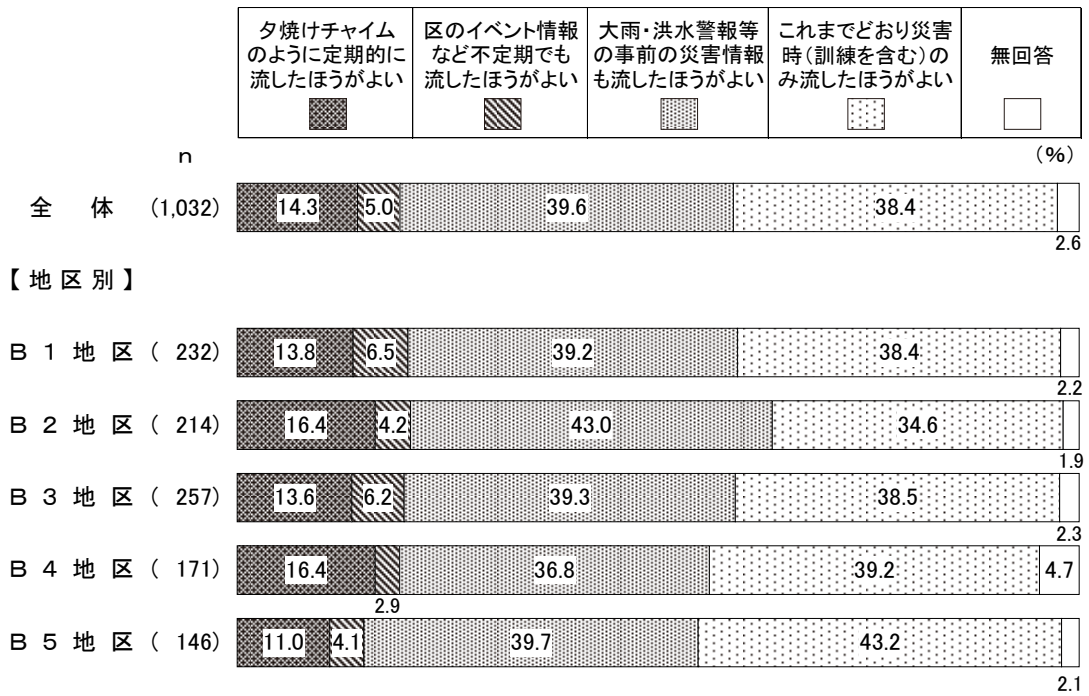
図4-6-2 防災行政無線の使用方法－性別／性・年代別



性別にみると、「これまでどおり災害時(訓練を含む)のみ流したほうがよい」は女性の方が男性より4.4ポイント高くなっている。一方、「大雨・洪水警報等の事前の災害情報も流したほうがよい」は男性の方が女性より3.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「夕焼けチャイムのように定期的に流したほうがよい」は女性30代で2割半ばと多くなっている。「大雨・洪水警報等の事前の災害情報も流したほうがよい」は女性10・20代で5割近くと多くなっている。「これまでどおり災害時(訓練を含む)のみ流したほうがよい」は女性70歳以上で5割近くと多くなっている。(図4-6-2)

図 4-6-3 防災行政無線の使用方法—地区別



地区別にみると「大雨・洪水警報等の事前の災害情報も流したほうがよい」はB 2地区で4割を超えて多くなっている。「これまでどおり災害時(訓練を含む)のみ流したほうがよい」はB 5地区で4割を超えて多くなっている。(図 4-6-3)

※地区区分は4ページ参照

5. 協働・協治

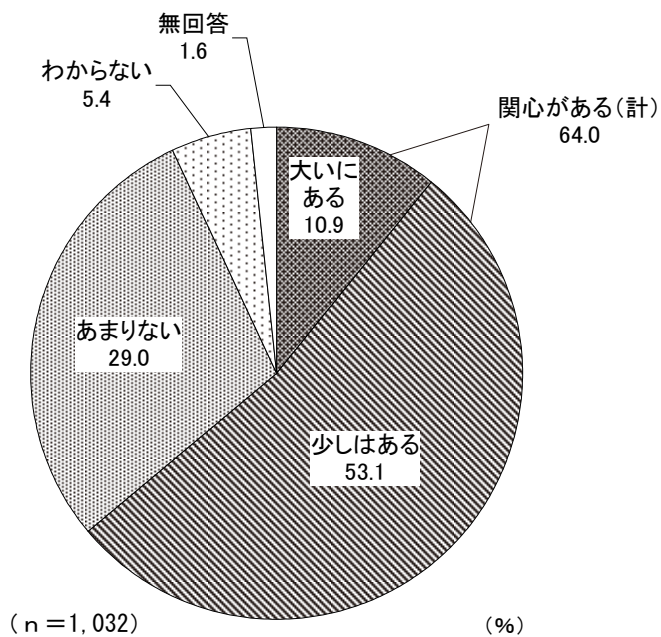
-
- 5-1 地域で実施されている活動への関心
 - 5-2 現在参加している地域活動
 - 5-3 現在参加している地域活動の分野
 - 5-4 今後参加してみたい地域活動
 - 5-5 町会・自治会の加入状況
 - 5-6 町会・自治会への参加意欲
 - 5-7 町会・自治会に期待すること
-

5. 協働・協治

5-1 地域で実施されている活動への関心

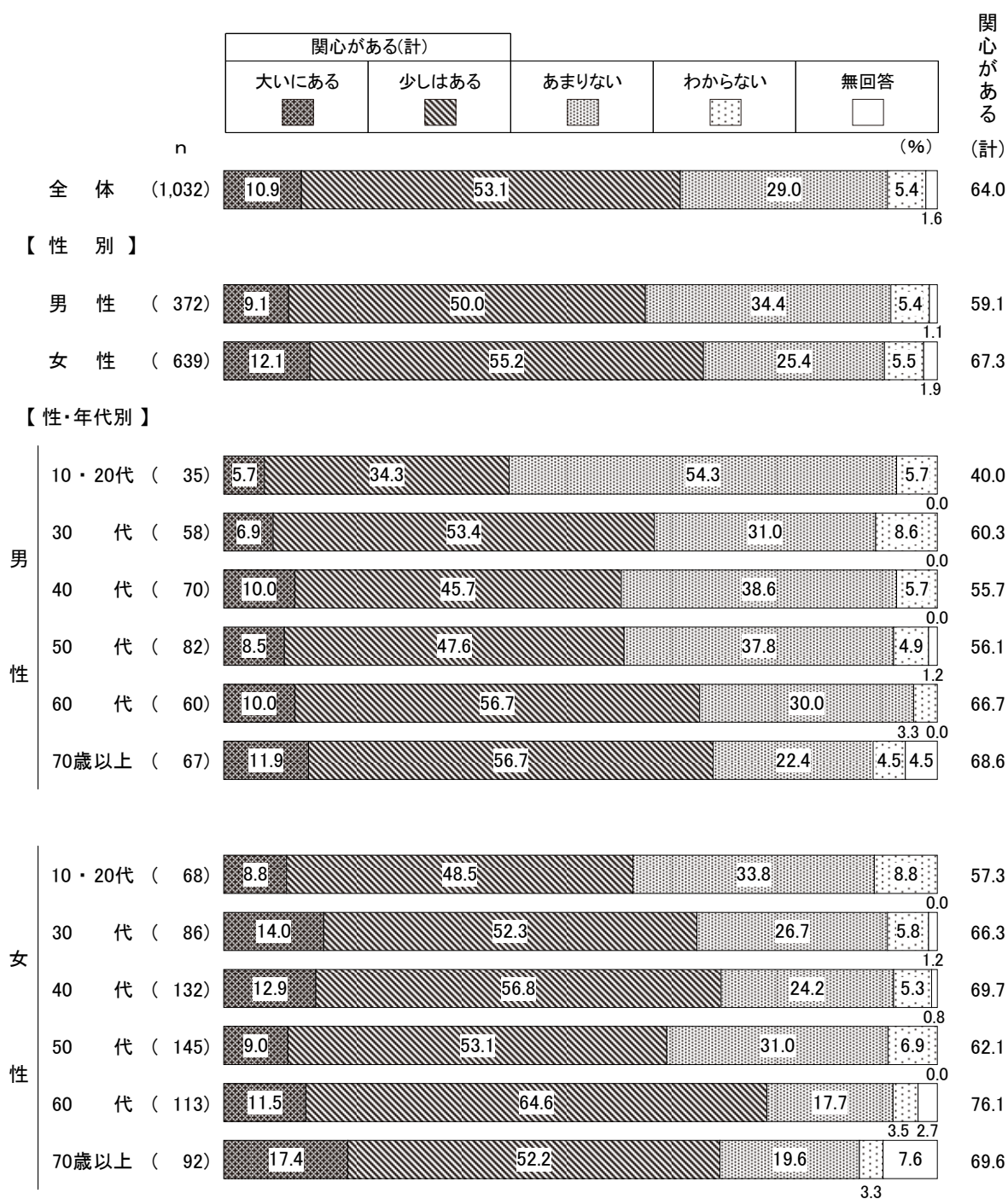
問19 協働・協治とは、地域の課題解決のため、互いに連携・協力することを言いますが、お住まいの地域で実施されている活動に関心がありますか。(○は1つ)

図5-1-1 地域で実施されている活動への関心



地域で実施されている活動への関心についてたずねたところ、「大いにある」(10.9%)と「少しはある」(53.1%)を合わせた『関心がある(計)』(64.0%)が6割半ばとなっている。一方、「あまりない」(29.0%)は約3割、「わからない」(5.4%)は1割未満となっている。(図5-1-1)

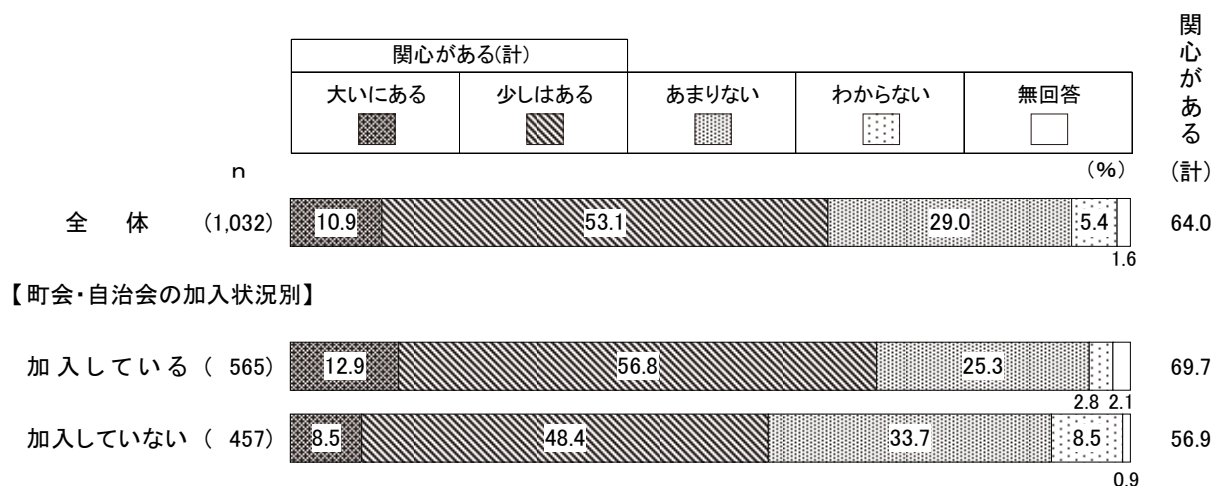
図5-1-2 地域で実施されている活動への関心—性別／性・年代別



性別にみると、『関心がある (計)』は女性の方が男性より8.2ポイント高くなっている。

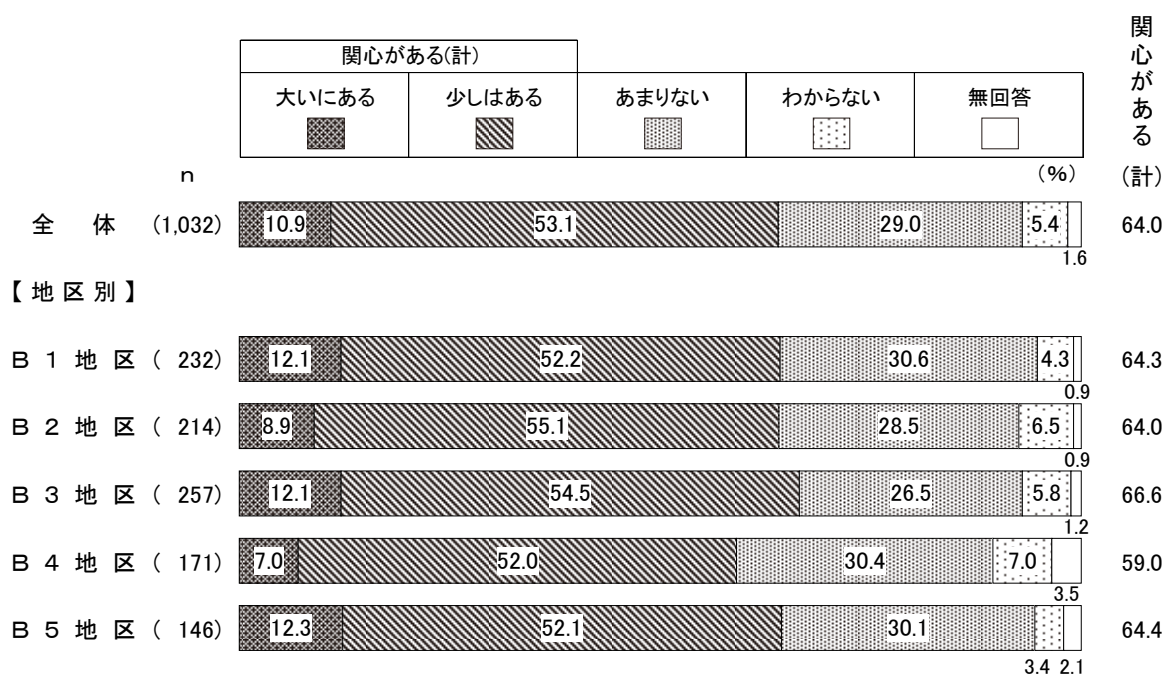
性・年代別にみると、『関心がある (計)』は女性60代で7割半ばと多くなっている。一方、「あまりない」は男性10・20代で5割半ばと多くなっている。(図5-1-2)

図5-1-3 地域で実施されている活動への関心—町会・自治会の加入状況別



町会・自治会の加入状況別にみると、『関心がある(計)』は加入している人の方が加入していない人より12.8ポイント高くなっている。(図5-1-3)

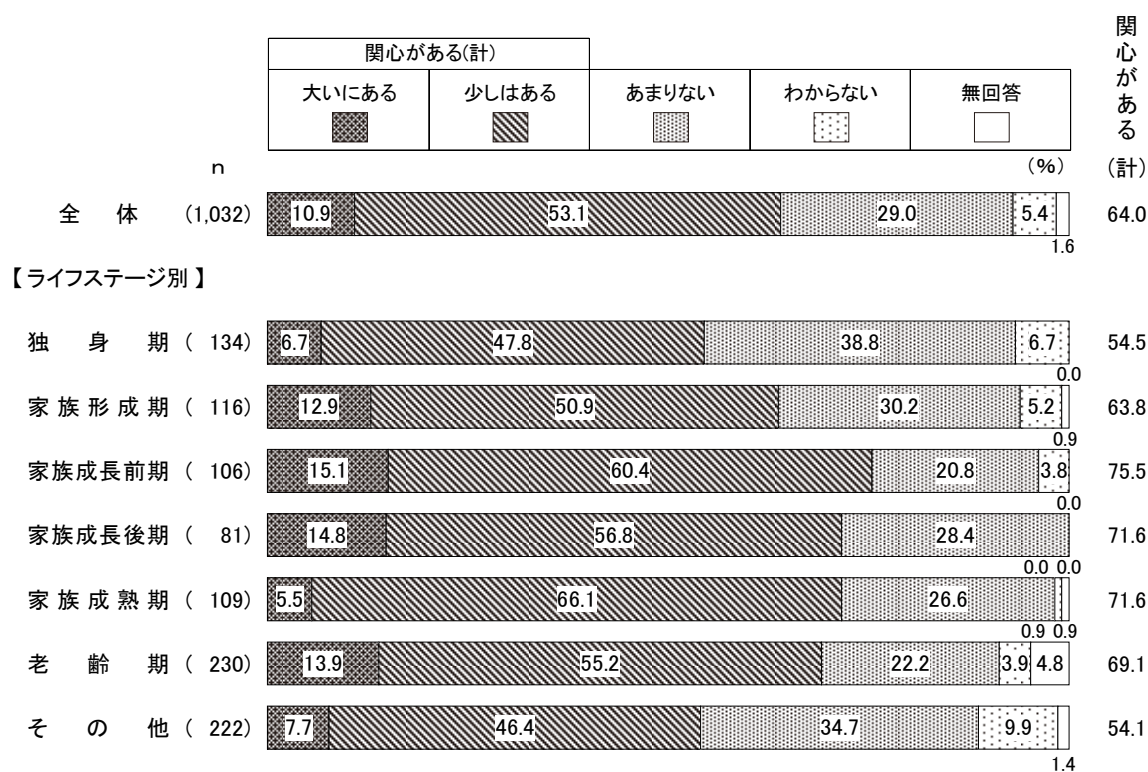
図5-1-4 地域で実施されている活動への関心—地区別



地区別にみると、『関心がある(計)』はB3地区で7割近くと多くなっている。(図5-1-4)

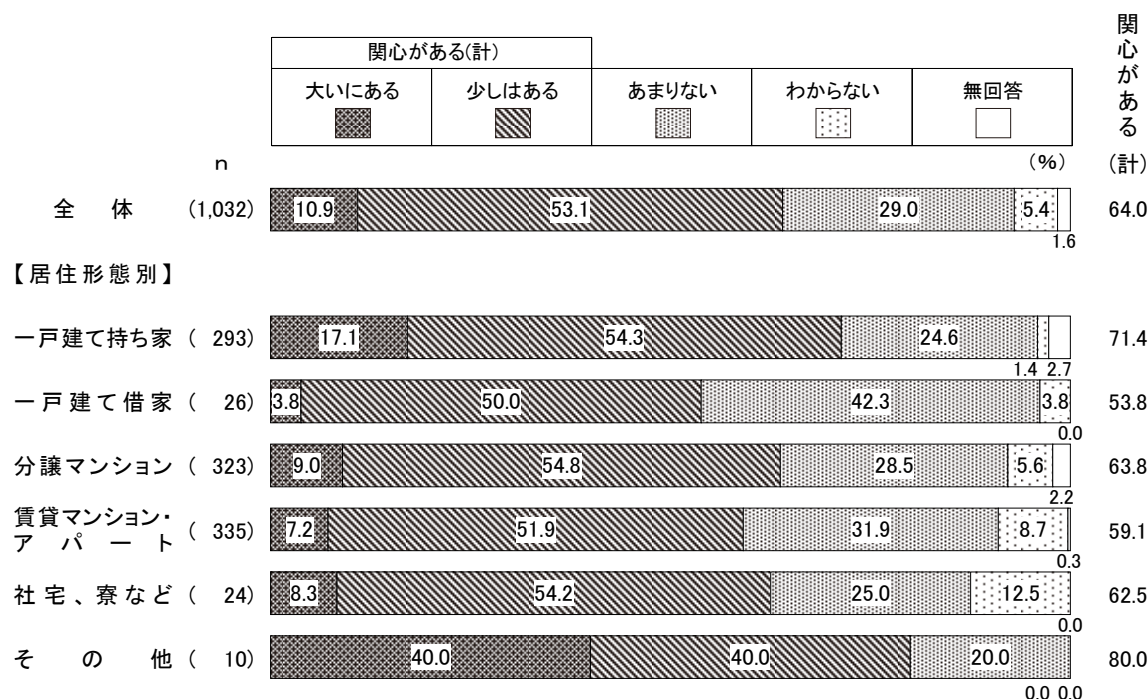
※地区区分は4ページ参照

図5-1-5 地域で実施されている活動への関心—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、『関心がある（計）』は家族成長前期で7割半ばと多くなっている。一方、「あまりない」は独身期で4割近くと多くなっている。（図5-1-5）

図5-1-6 地域で実施されている活動への関心—居住形態別

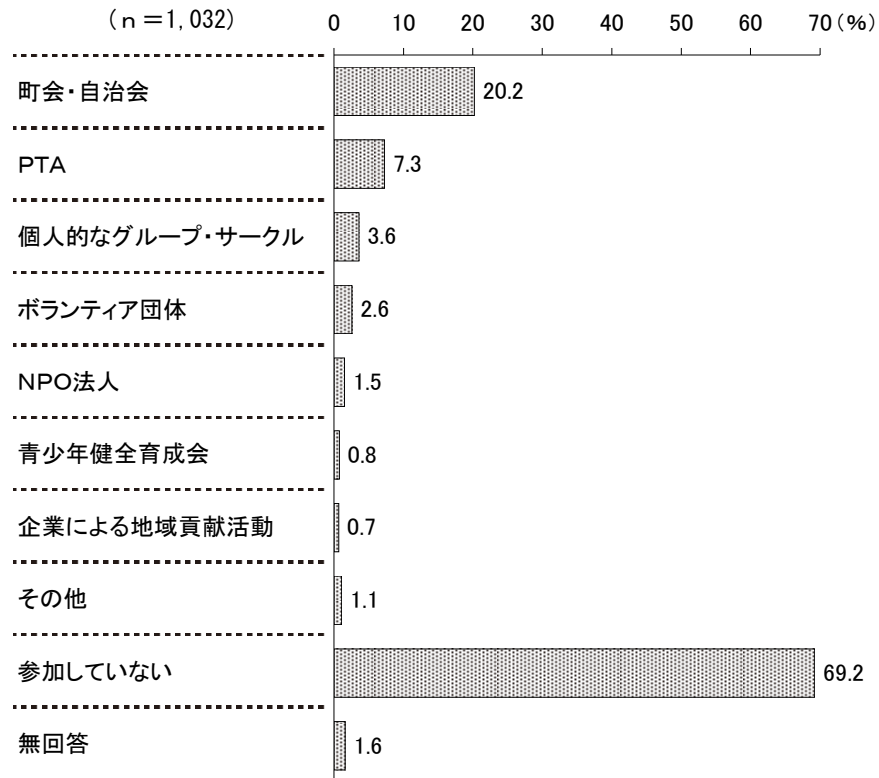


居住形態別にみると、『関心がある（計）』は一戸建て持ち家で7割を超えて多くなっている。一方、「あまりない」は一戸建て借家で4割を超えて多くなっている。（図5-1-6）

5-2 現在参加している地域活動

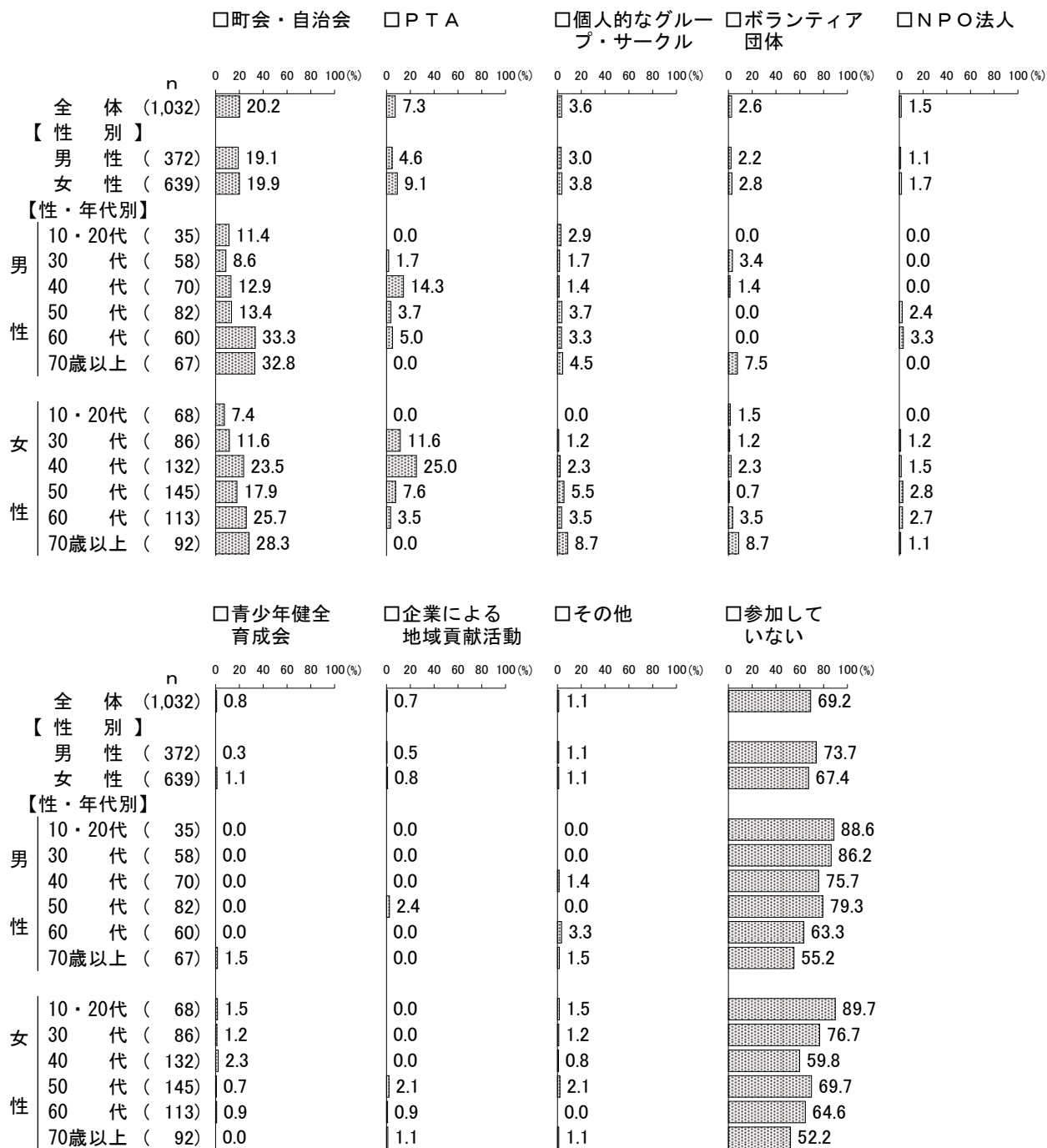
問20 区内でNPO、ボランティア団体及び町会・自治会等の地域に貢献する活動を行っている団体、組織やグループの活動に参加していますか。次の中から参加しているものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

図5-2-1 現在参加している地域活動



現在参加している地域活動についてたずねたところ、「町会・自治会」(20.2%)が2割で最も多く、次いで「PTA」(7.3%)、「個人的なグループ・サークル」(3.6%)などの順となっている。一方、「参加していない」(69.2%)は約7割となっている。(図5-2-1)

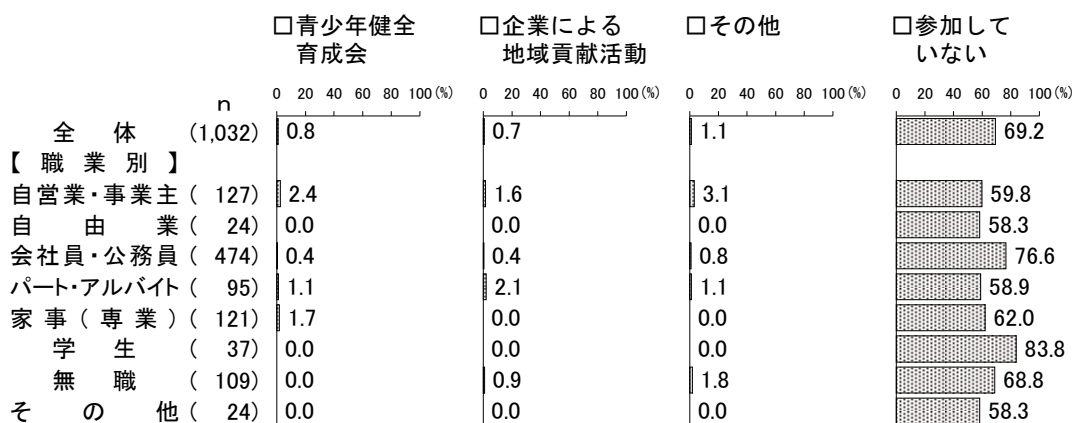
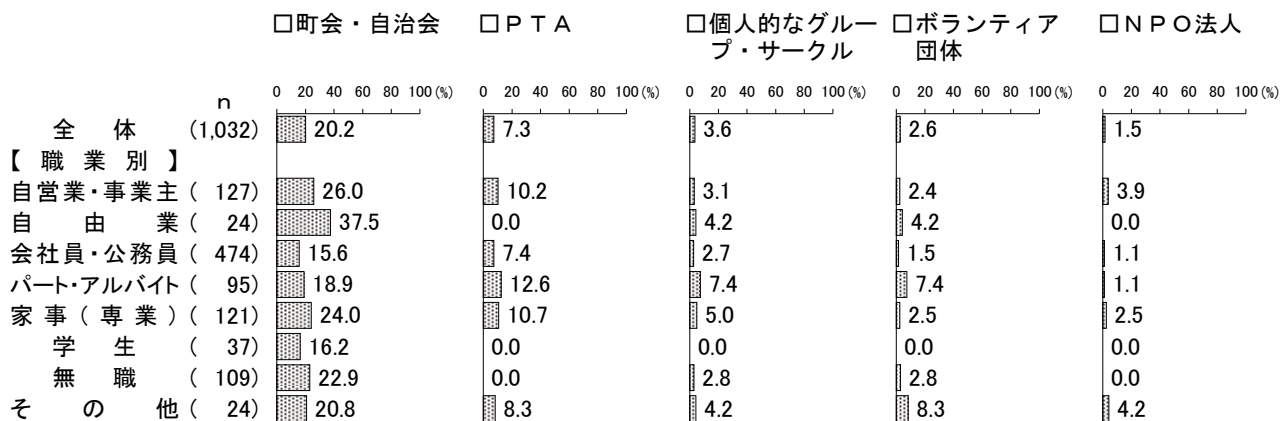
図5-2-2 現在参加している地域活動—性別／性・年代別



性別にみると、「参加していない」は男性の方が女性より6.3ポイント高くなっている。一方、「P T A」は女性の方が男性より4.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「町会・自治会」は男性の60代と70歳以上で3割を超えて多くなっている。「P T A」は女性40代で2割半ばと多くなっている。「参加していない」は女性10・20代で9割と多くなっている。(図5-2-2)

図5-2-3 現在参加している地域活動-職業別



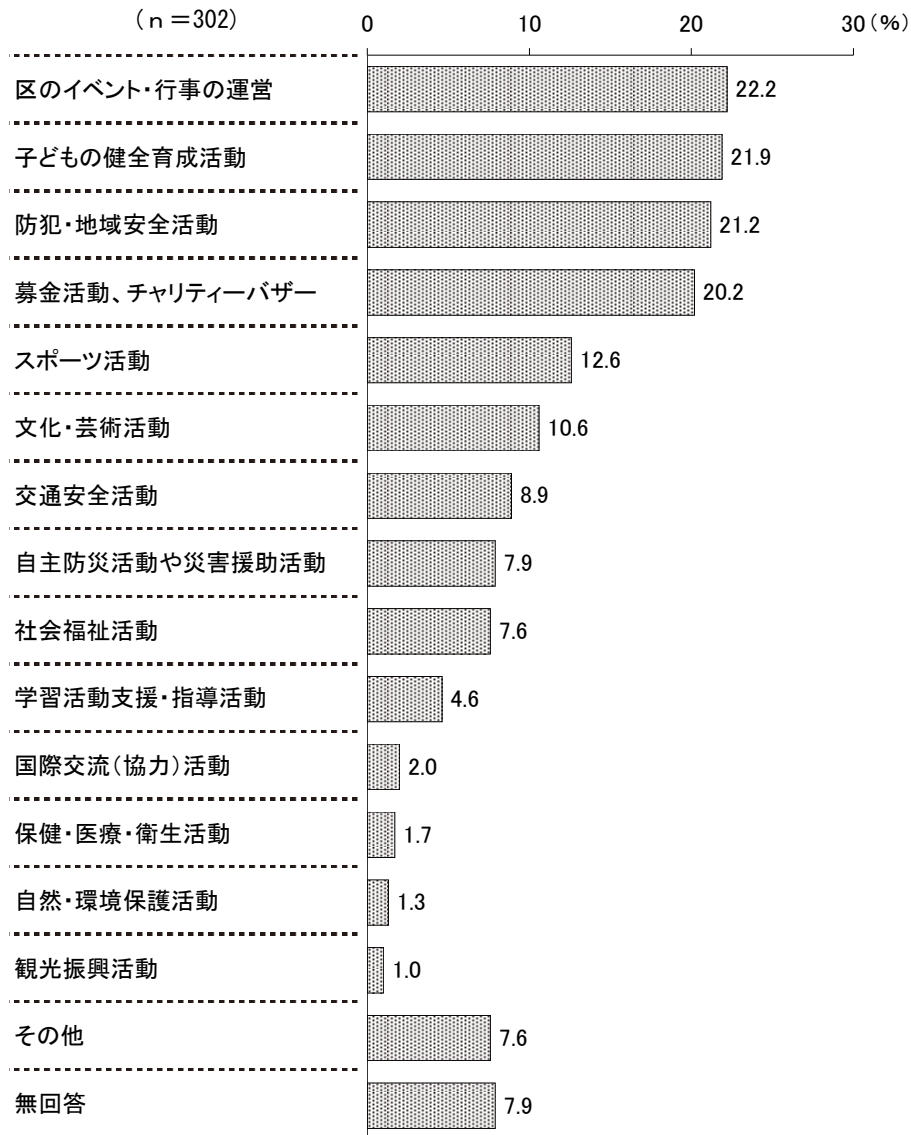
職業別にみると、「町会・自治会」は自由業で4割近くと多くなっている。「参加していない」は学生で8割を超え、会社員・公務員で8割近くと多くなっている。(図5-2-3)

5-3 現在参加している地域活動の分野

【問20で「地域活動に参加している」と回答した方に】

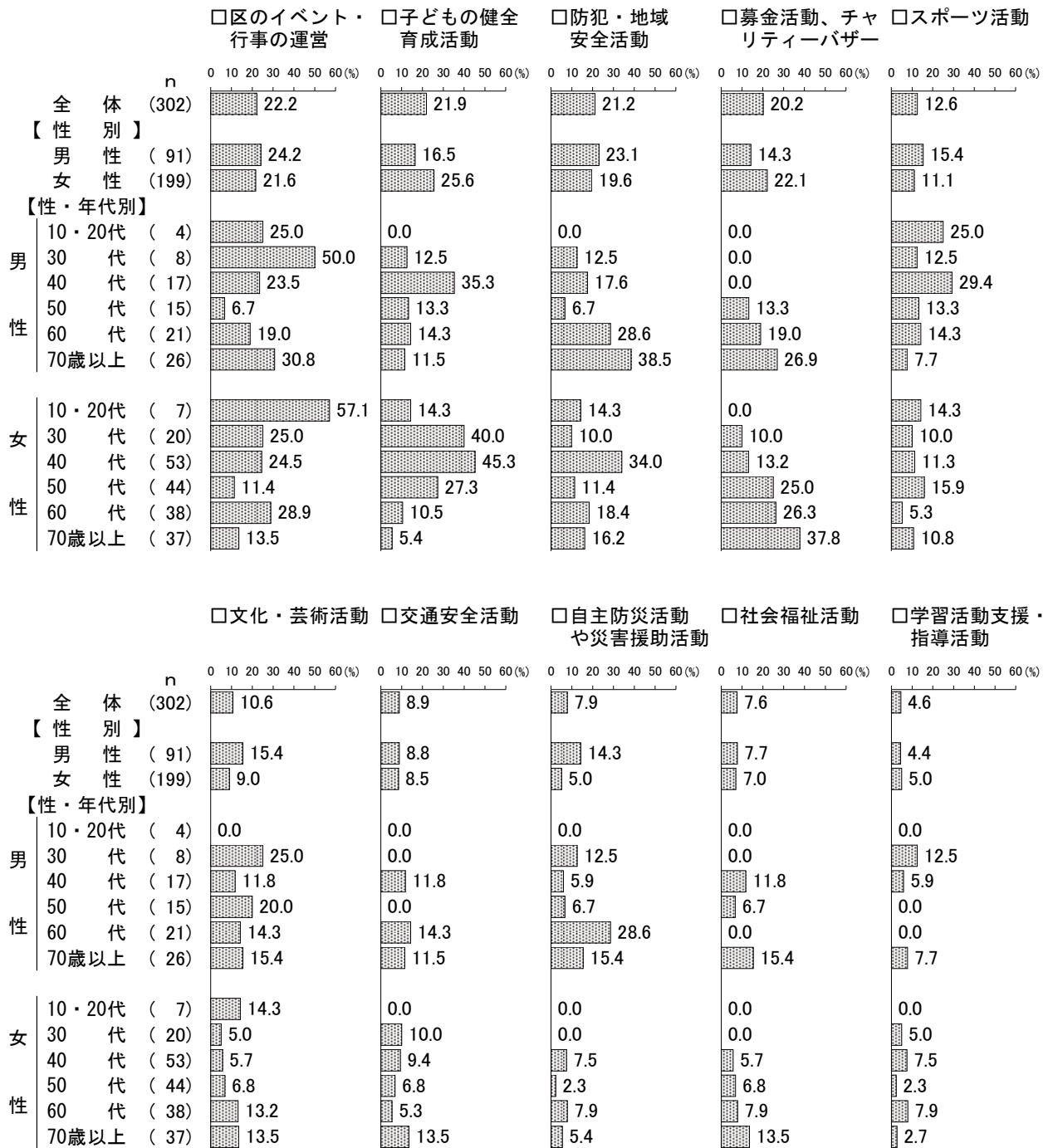
問20-1 その活動はどのような分野ですか。参加しているものを、すべてお選びください。
(○はいくつでも)

図5-3-1 現在参加している地域活動の分野



「地域活動に参加している」と答えた方(302人)に、参加している地域活動の分野についてたずねたところ、「区イベント・行事の運営」(22.2%)が2割を超えて最も多く、次いで「子どもの健全育成活動」(21.9%)、「防犯・地域安全活動」(21.2%)、「募金活動、チャリティーバザー」(20.2%)などの順となっている。(図5-3-1)

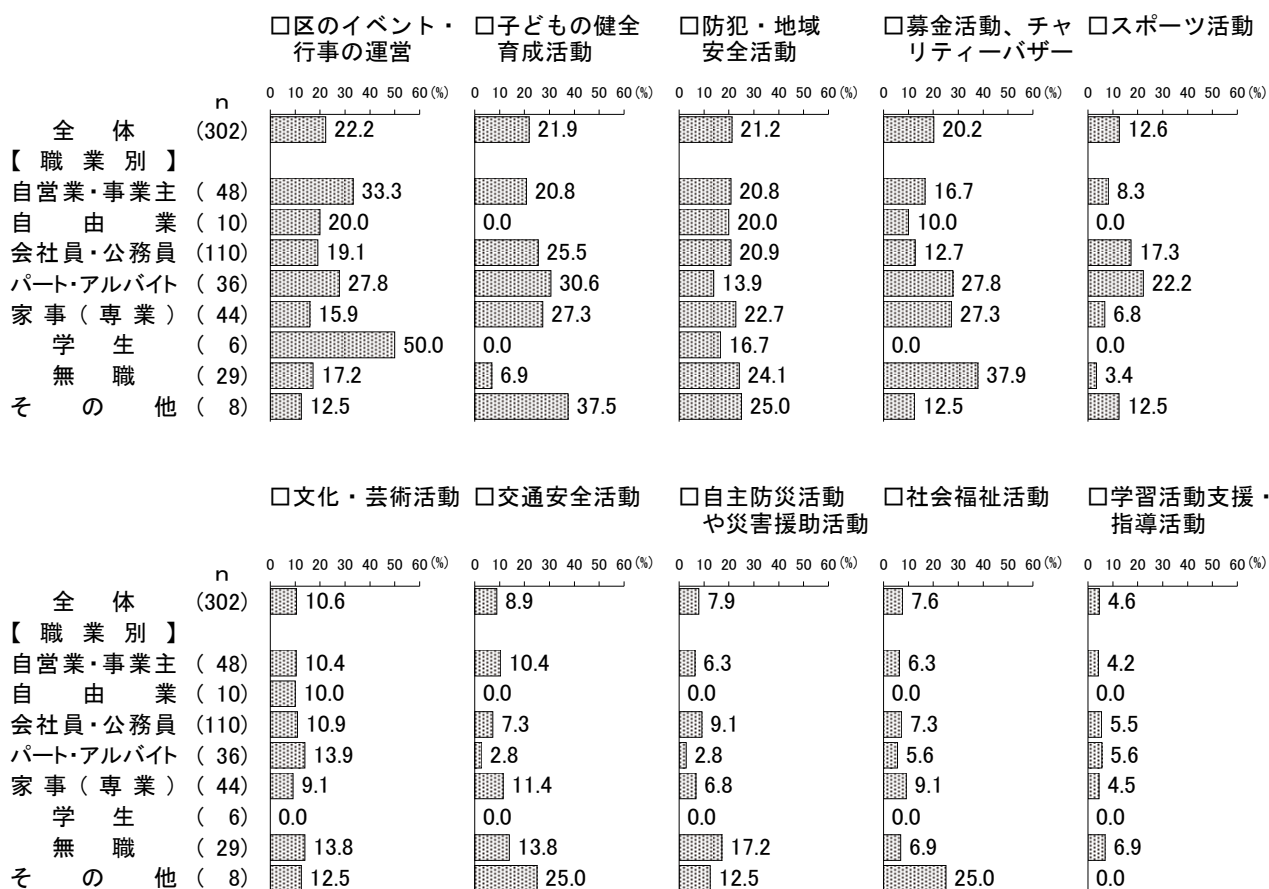
図5-3-2 現在参加している地域活動の分野—性別／性・年代別（上位10項目）



上位10項目を性別にみると、「自主防災活動や災害援助活動」は男性の方が女性より9.3ポイント高くなっている。一方、「子どもの健全育成活動」は女性の方が男性より9.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「子どもの健全育成活動」は女性40代で4割半ばと多くなっている。「防犯・地域安全活動」は男性70歳以上で4割近くと多くなっている。「募金活動、チャリティーバザー」は女性70歳以上で4割近くと多くなっている。(図5-3-2)

図5-3-3 現在参加している地域活動の分野—職業別（上位10項目）

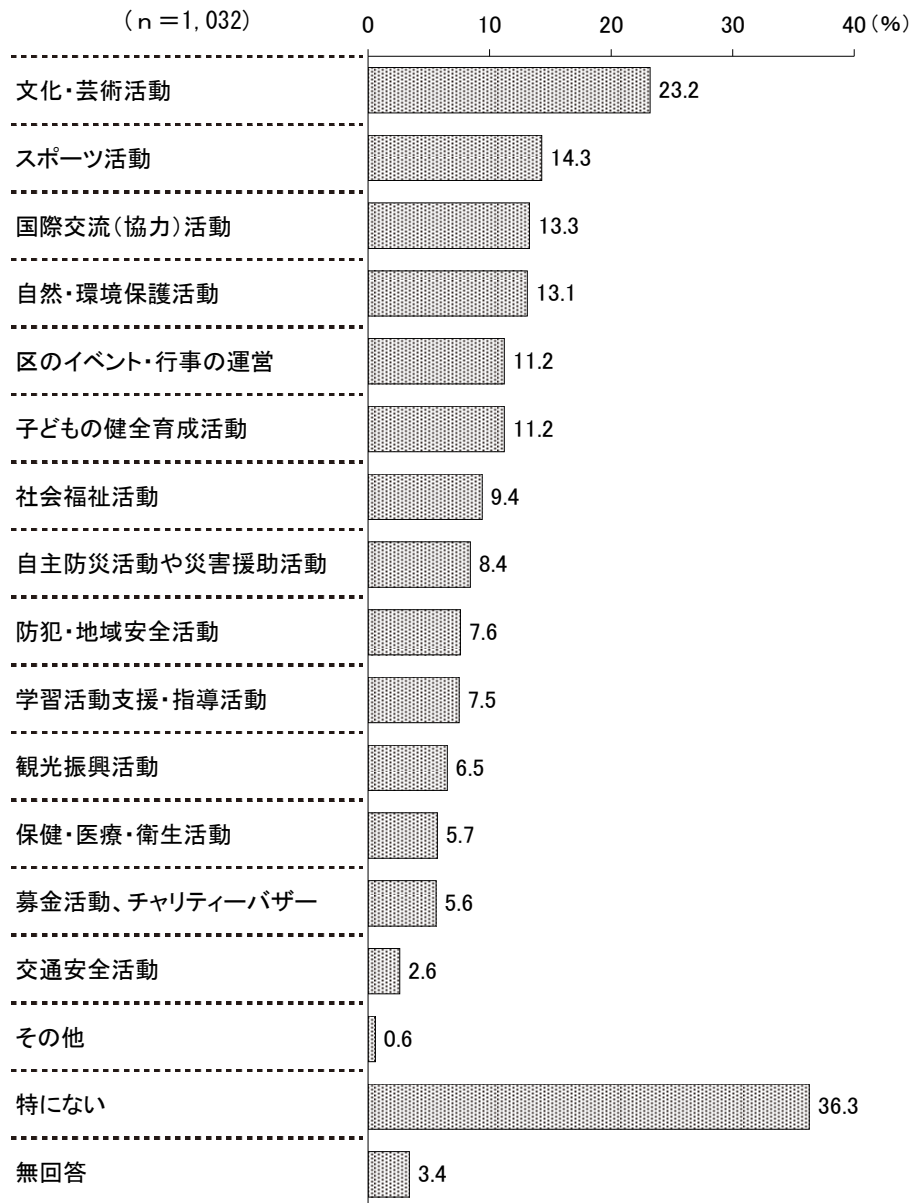


上位10項目を職業別にみると、「区イベント・行事の運営」は自営業・事業主で3割を超えて多くなっている。「子どもの健全育成活動」はパート・アルバイトで約3割と多くなっている。「募金活動、チャリティーバザー」は無職で4割近くと多くなっている。(図5-3-3)

5-4 今後参加してみたい地域活動

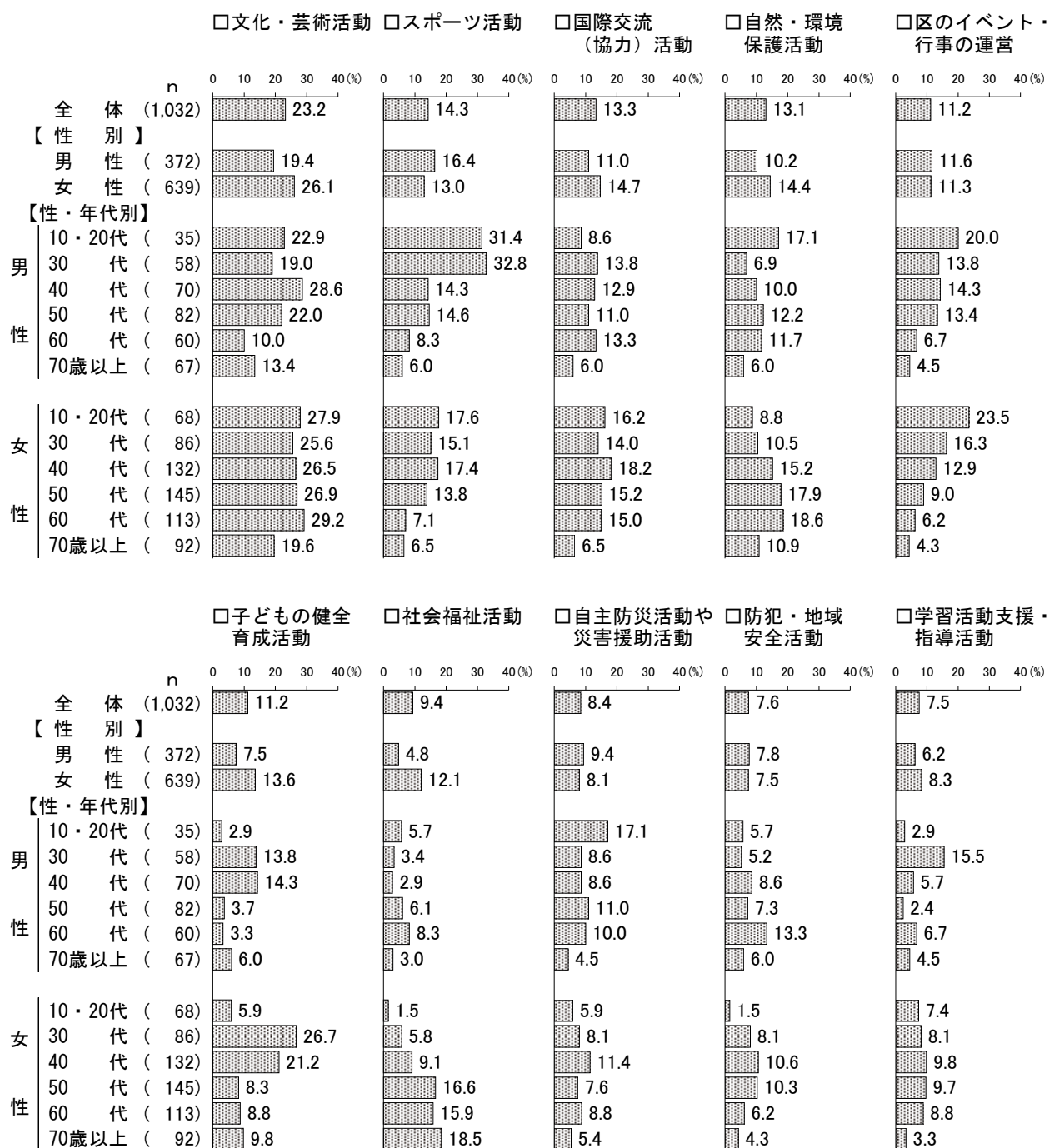
問21 今後参加してみたいと思う地域での活動は、どのような分野ですか。すべてお選びください。(〇はいくつでも)

図5-4-1 今後参加してみたい地域活動



今後参加してみたい地域活動についてたずねたところ、「文化・芸術活動」(23.2%)が2割を超えて最も多く、次いで「スポーツ活動」(14.3%)、「国際交流(協力)活動」(13.3%)、「自然・環境保護活動」(13.1%)などの順となっている。一方、「特にない」(36.3%)は3割半ばとなっている。(図5-4-1)

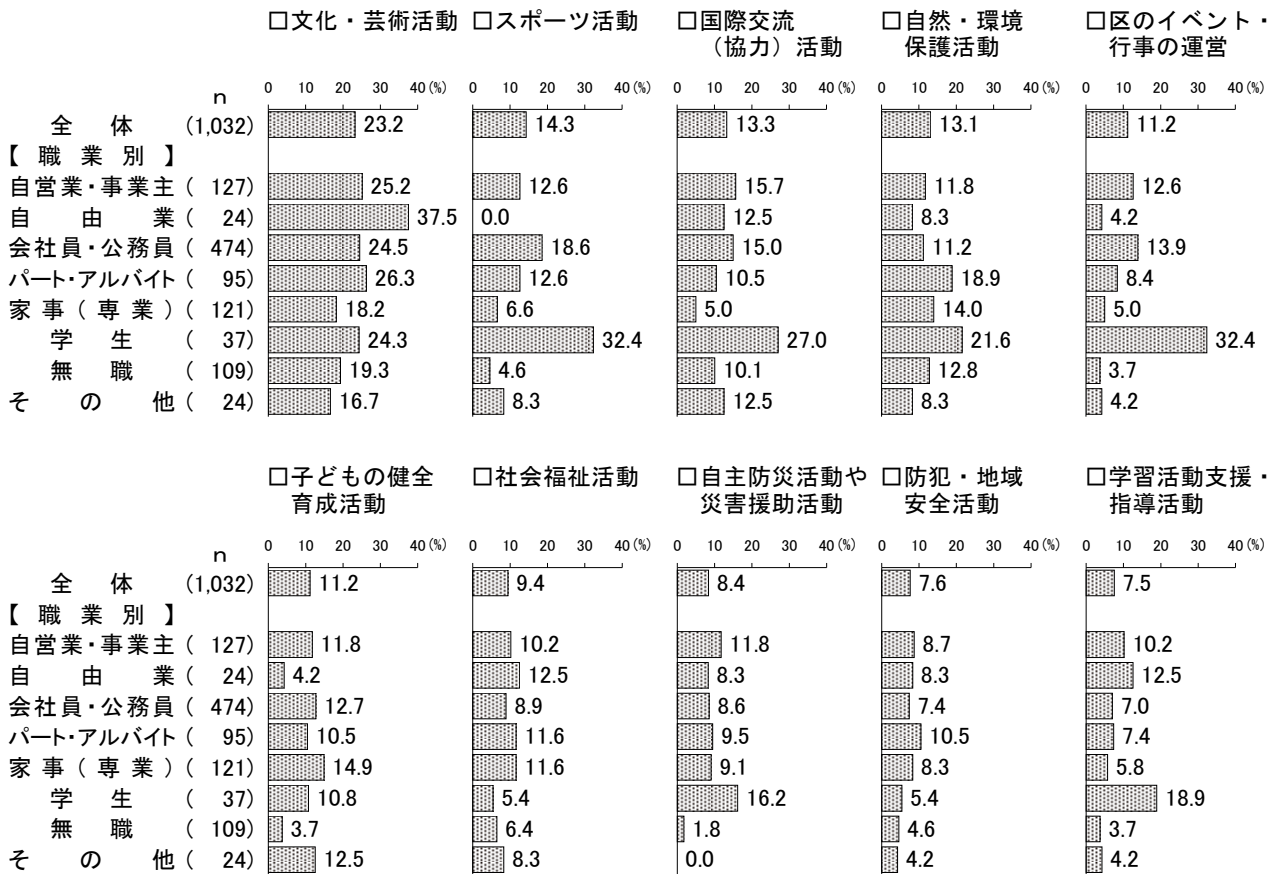
図5-4-2 今後参加してみたい地域活動—性別／性・年代別（上位10項目）



上位10項目を性別にみると、「社会福祉活動」は女性の方が男性より7.3ポイント、「文化・芸術活動」は女性の方が男性より6.7ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「文化・芸術活動」は女性60代で約3割と多くなっている。「スポーツ活動」は男性の10・20代と30代で3割を超えて多くなっている。「子どもの健全育成活動」は女性30代で3割近くと多くなっている。(図5-4-2)

図5-4-3 今後参加してみたい地域活動－職業別（上位10項目）

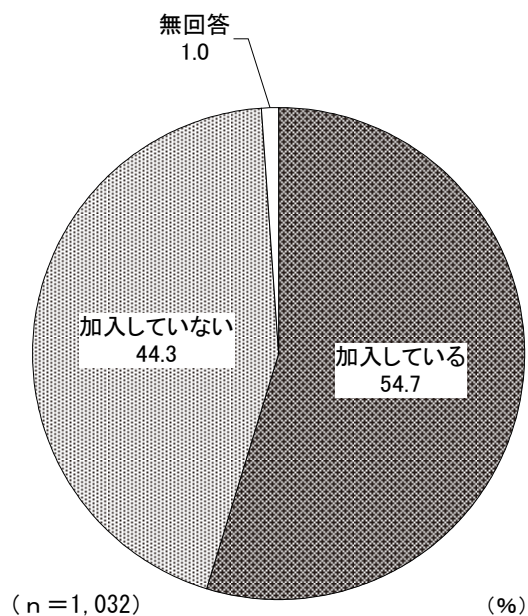


上位10項目を職業別にみると、「文化・芸術活動」は自由業で4割近くと多くなっている。「スポーツ活動」は学生で3割を超えて多くなっている。「区のイベント・行事の運営」は学生で3割を超えて多くなっている。（図5-4-3）

5-5 町会・自治会の加入状況

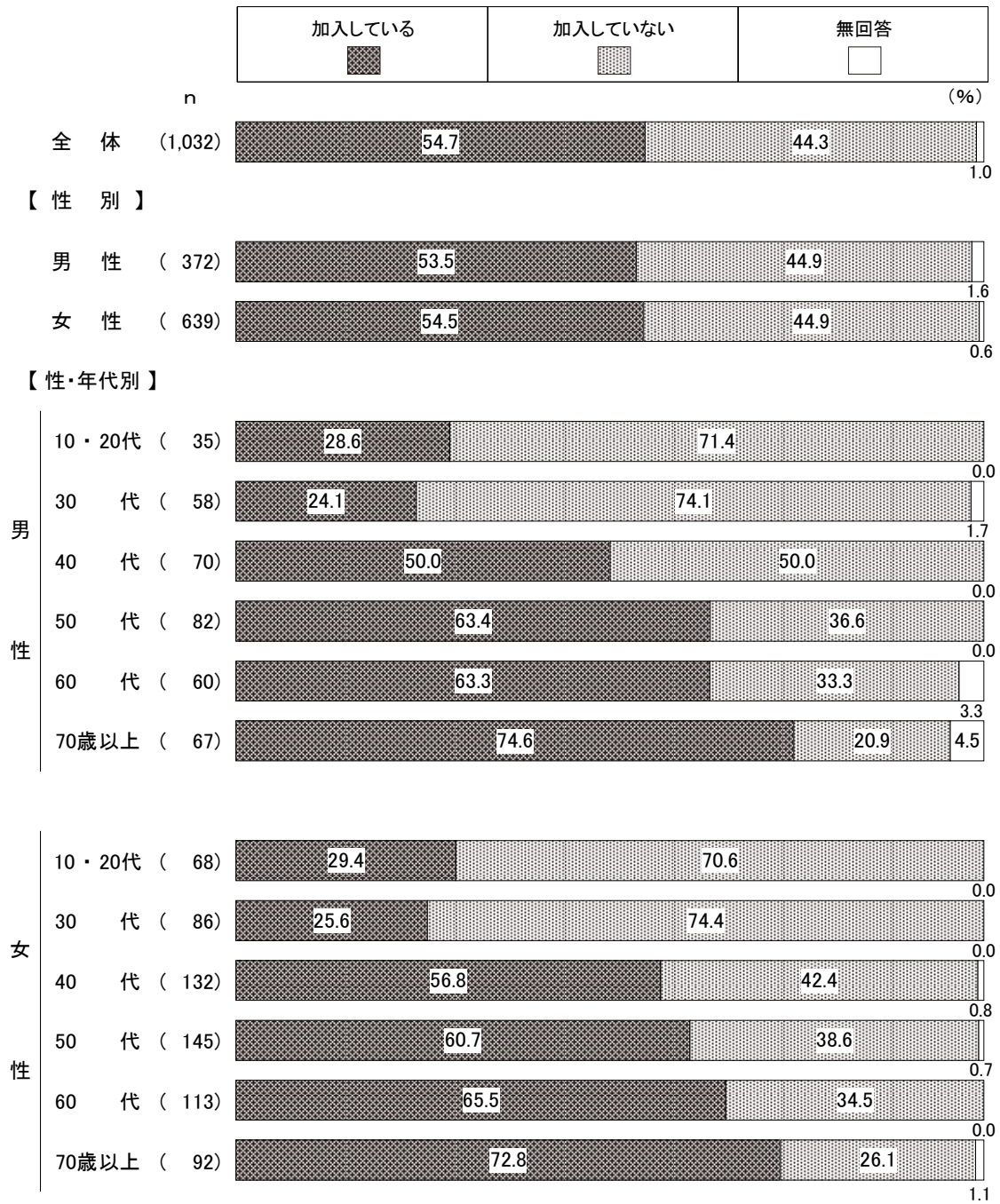
問22 町会や自治会に加入していますか。(○は1つ)

図5-5-1 町会・自治会の加入状況



町会・自治会の加入状況についてたずねたところ、「加入している」(54.7%)が5割半ば、「加入していない」(44.3%)は4割半ばとなっている。(図5-5-1)

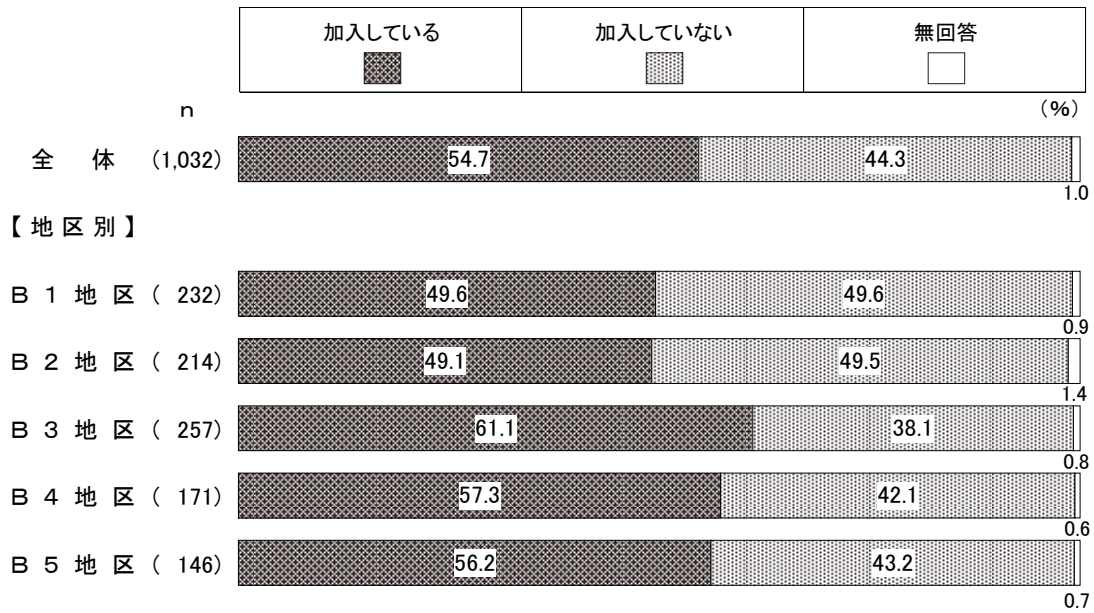
図5-5-2 町会・自治会の加入状況－性別／性・年代別



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「加入している」は男女ともに70歳以上で7割台と多くなっている。一方、「加入していない」は男女ともに30代以下の年代で7割台と多くなっている。(図5-5-2)

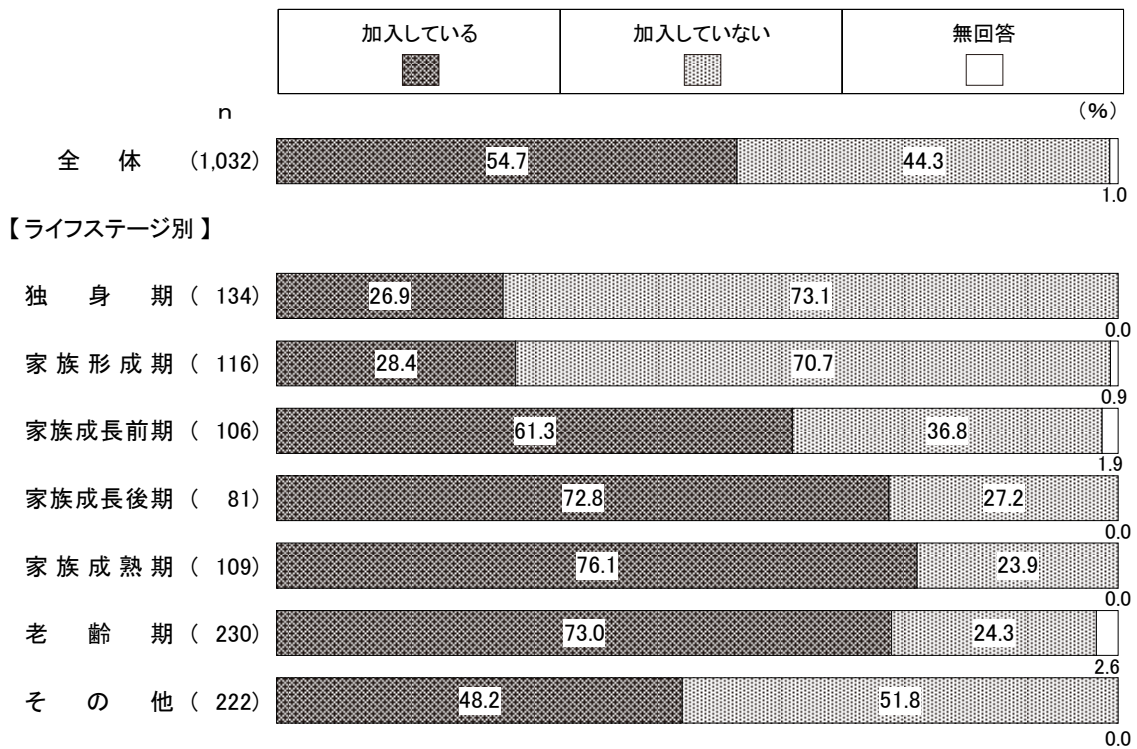
図 5-5-3 町会・自治会の加入状況—地区別



地区別にみると、「加入している」はB 3地区で6割を超えて多くなっている。一方、「加入していない」はB 1地区とB 2地区で5割と多くなっている。(図 5-5-3)

※地区区分は4ページ参照

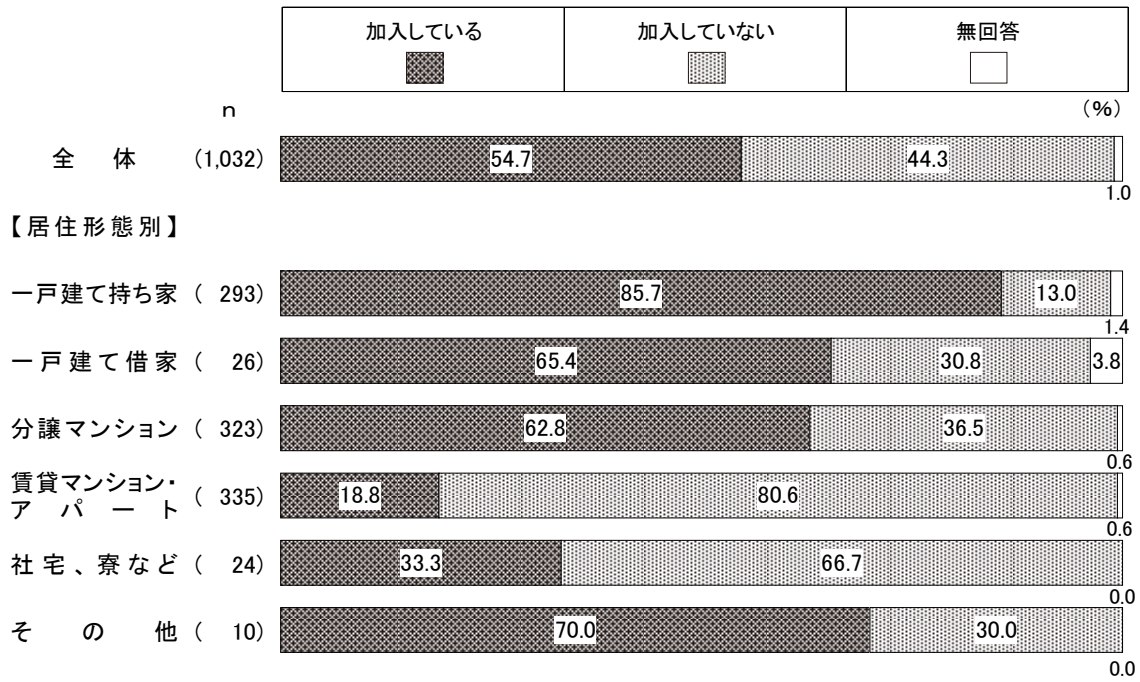
図 5-5-4 町会・自治会の加入状況—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「加入している」は家族成長後期、家族成熟期、老齢期で7割台と多くなっている。一方、「加入していない」は独身期と家族形成期で7割台と多くなっている。

(図 5-5-4)

図5-5-5 町会・自治会の加入状況－居住形態別

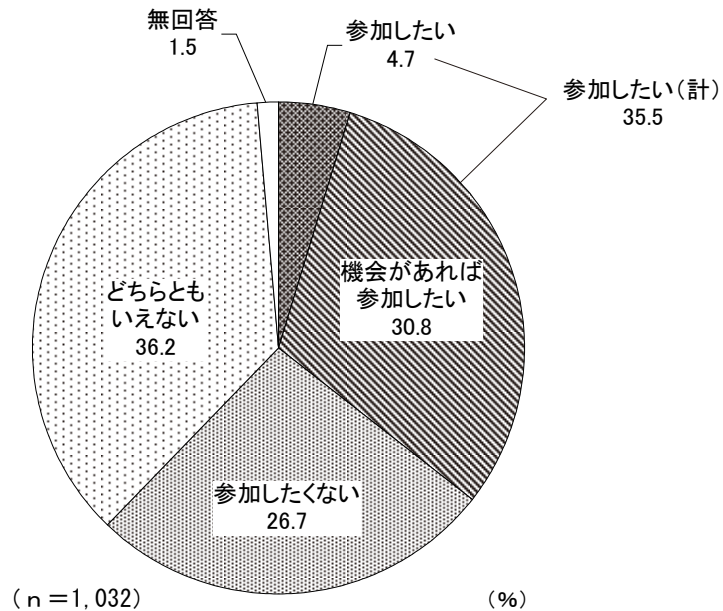


居住形態別にみると、「加入している」は一戸建て持ち家で8割半ばと多くなっている。一方、「加入していない」は賃貸マンション・アパートで約8割と多くなっている。(図5-5-5)

5-6 町会・自治会への参加意欲

問23 町会や自治会活動に参加したいと思えますか。(○は1つ)

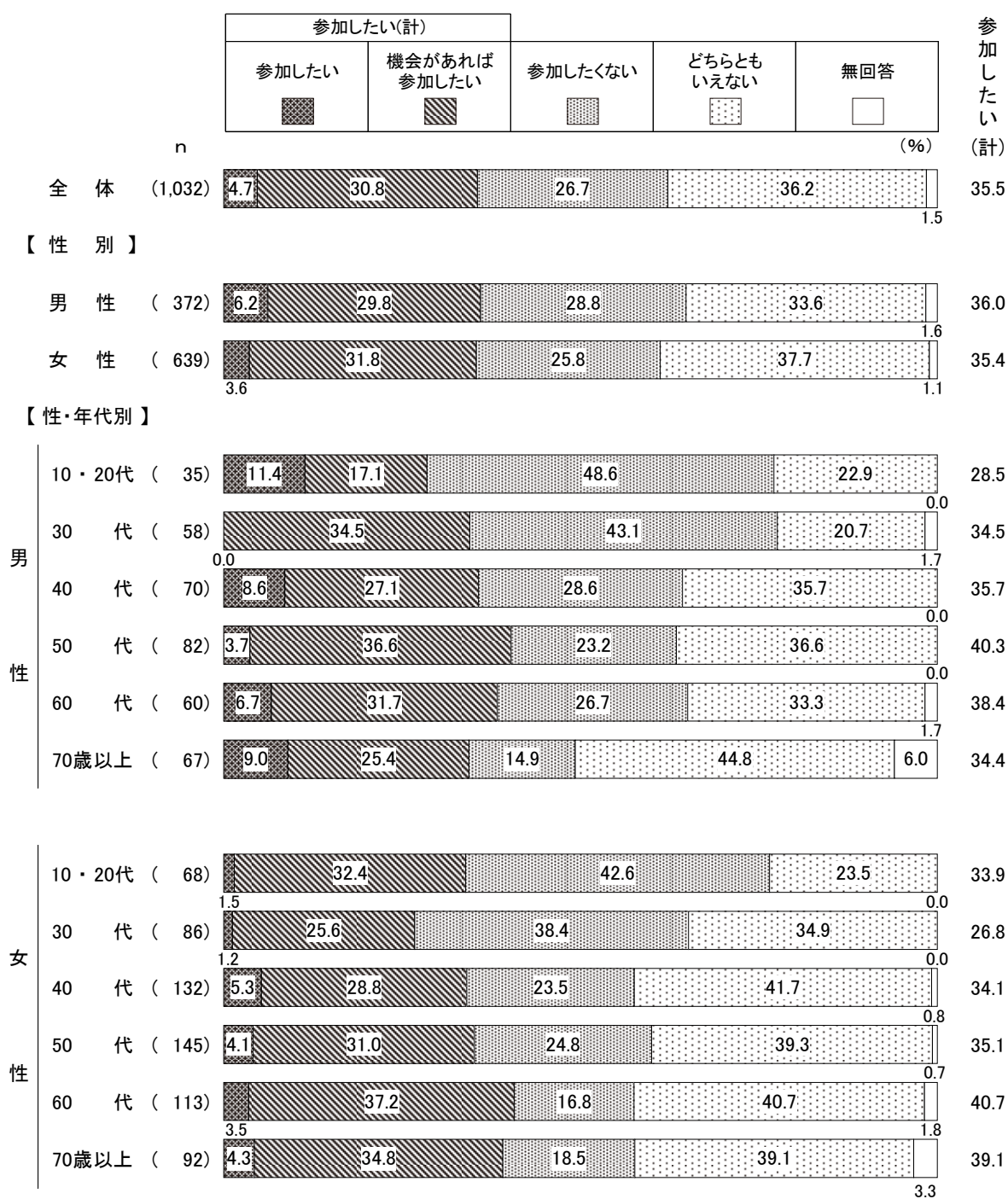
図5-6-1 町会・自治会への参加意欲



町会・自治会への参加意欲についてたずねたところ、「参加したい」(4.7%)と「機会があれば参加したい」(30.8%)を合わせた『参加したい(計)』(35.5%)が3割半ばとなっている。一方、「参加したくない」(26.7%)は3割近く、「どちらともいえない」(36.2%)は3割半ばとなっている。

(図5-6-1)

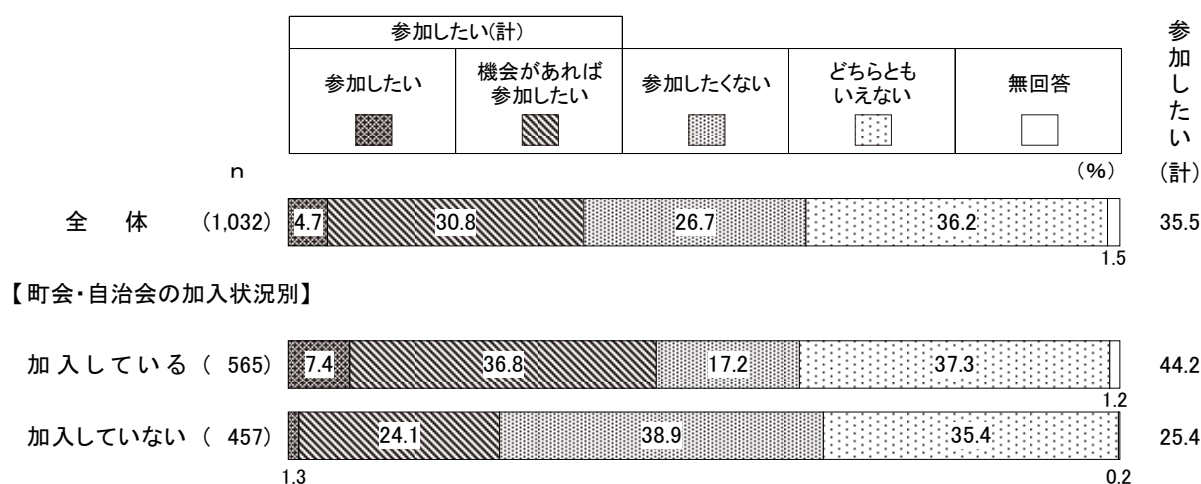
図5-6-2 町会・自治会への参加意欲—性別／性・年代別



性別にみると、「参加したくない」は男性の方が女性より3.0ポイント高くなっている。

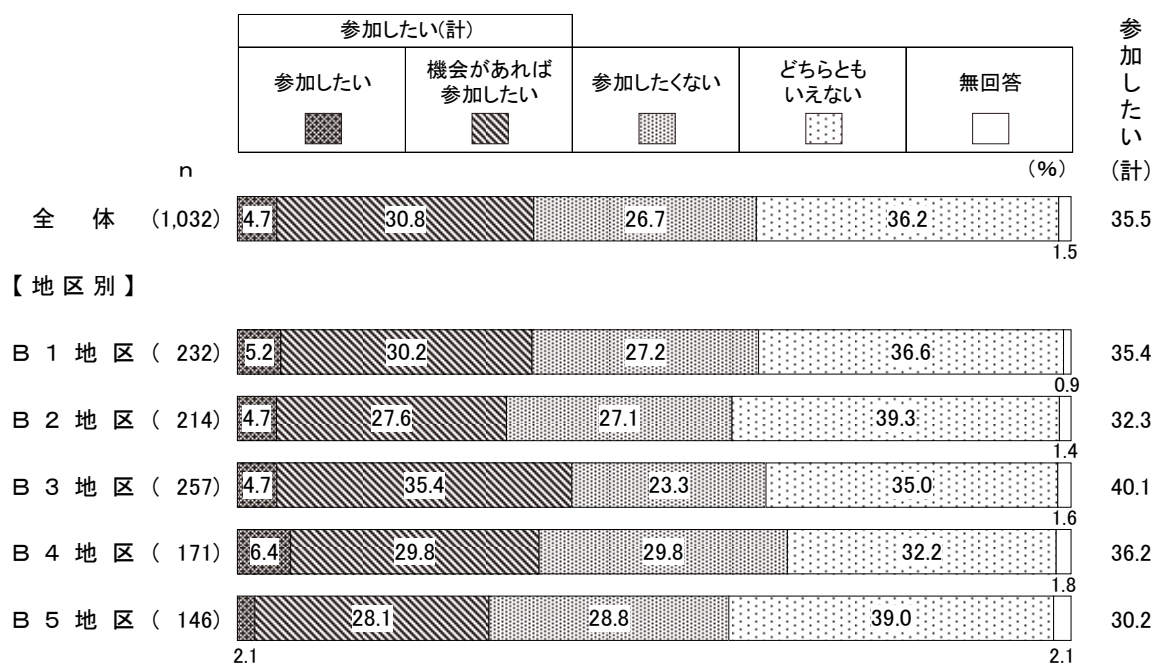
性・年代別にみると、『参加したい(計)』は女性の60代と70歳以上、男性50代で約4割と多くなっている。一方、「参加したくない」は男性10・20代で5割近くと多くなっている。(図5-6-2)

図5-6-3 町会・自治会への参加意欲—町会・自治会の加入状況別



町会・自治会の加入状況別にみると、『参加したい(計)』は加入している人の方が加入していない人より18.8ポイント高くなっている。(図5-6-3)

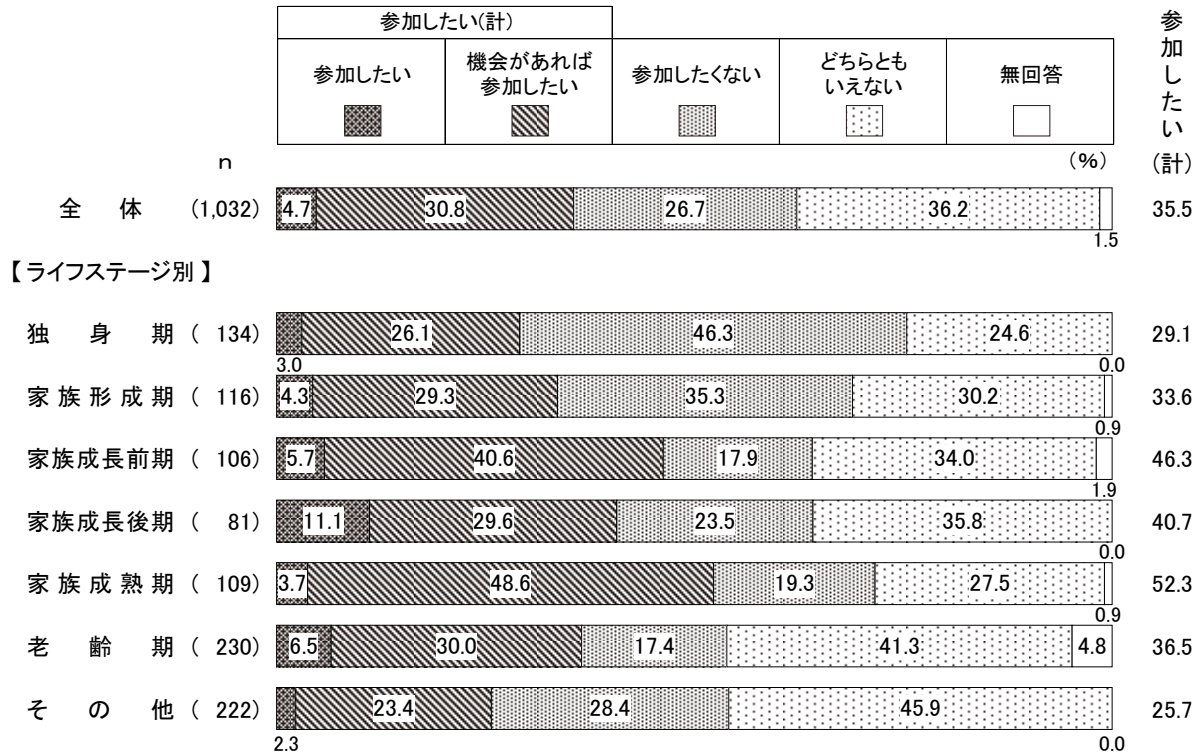
図5-6-4 町会・自治会への参加意欲—地区別



地区別にみると、『参加したい(計)』はB3地区で4割と多くなっている。一方、「参加したくない」はB4地区で3割と多くなっている。(図5-6-4)

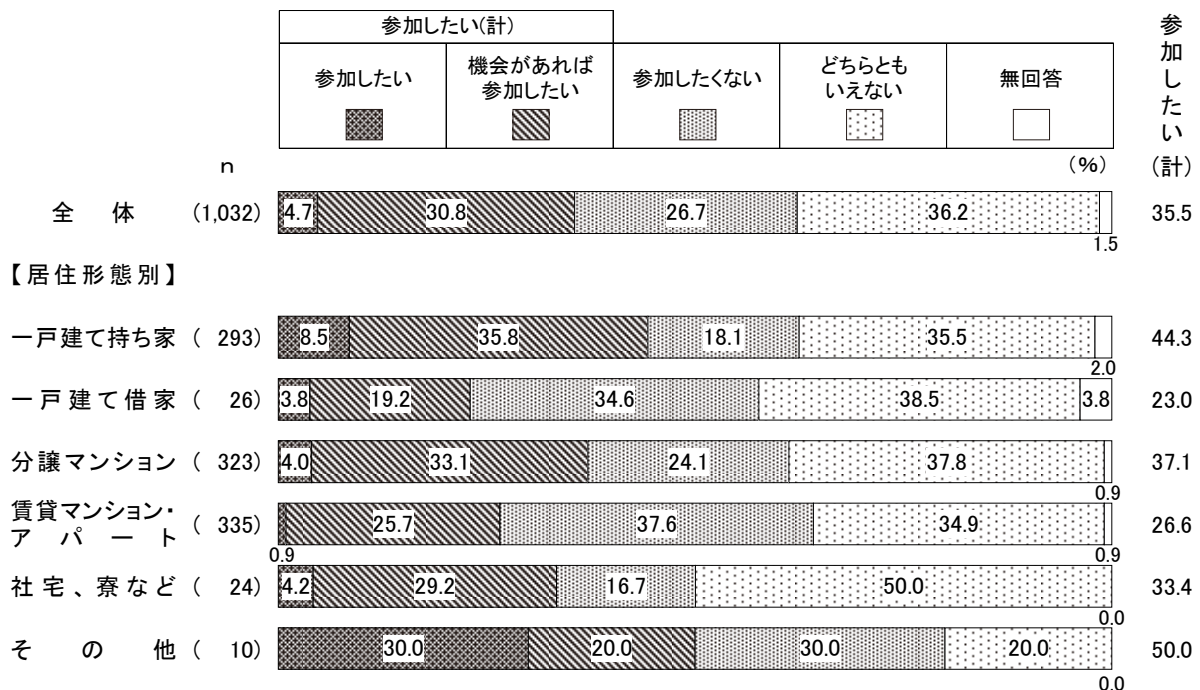
※地区区分は4ページ参照

図5-6-5 町会・自治会への参加意欲—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、『参加したい(計)』は家族成熟期で5割を超えて多くなっている。一方、「参加したくない」は独身期で4割半ばと多くなっている。(図5-6-5)

図5-6-6 町会・自治会への参加意欲—居住形態別



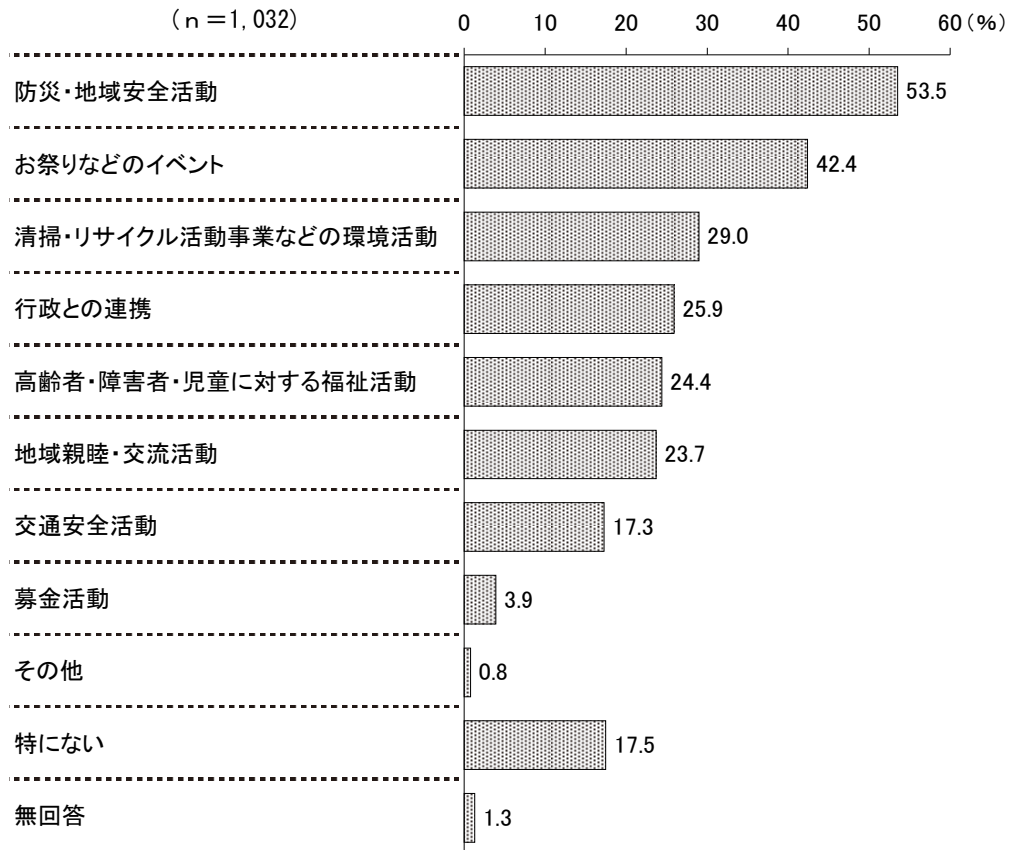
居住形態別にみると、『参加したい(計)』は一戸建て持ち家で4割半ばと多くなっている。一方、「参加したくない」は賃貸マンション・アパートで4割近くと多くなっている。(図5-6-6)

5-7 町会・自治会に期待すること

問24 町会・自治会に期待する内容はどのようなことですか。すべてお選びください。

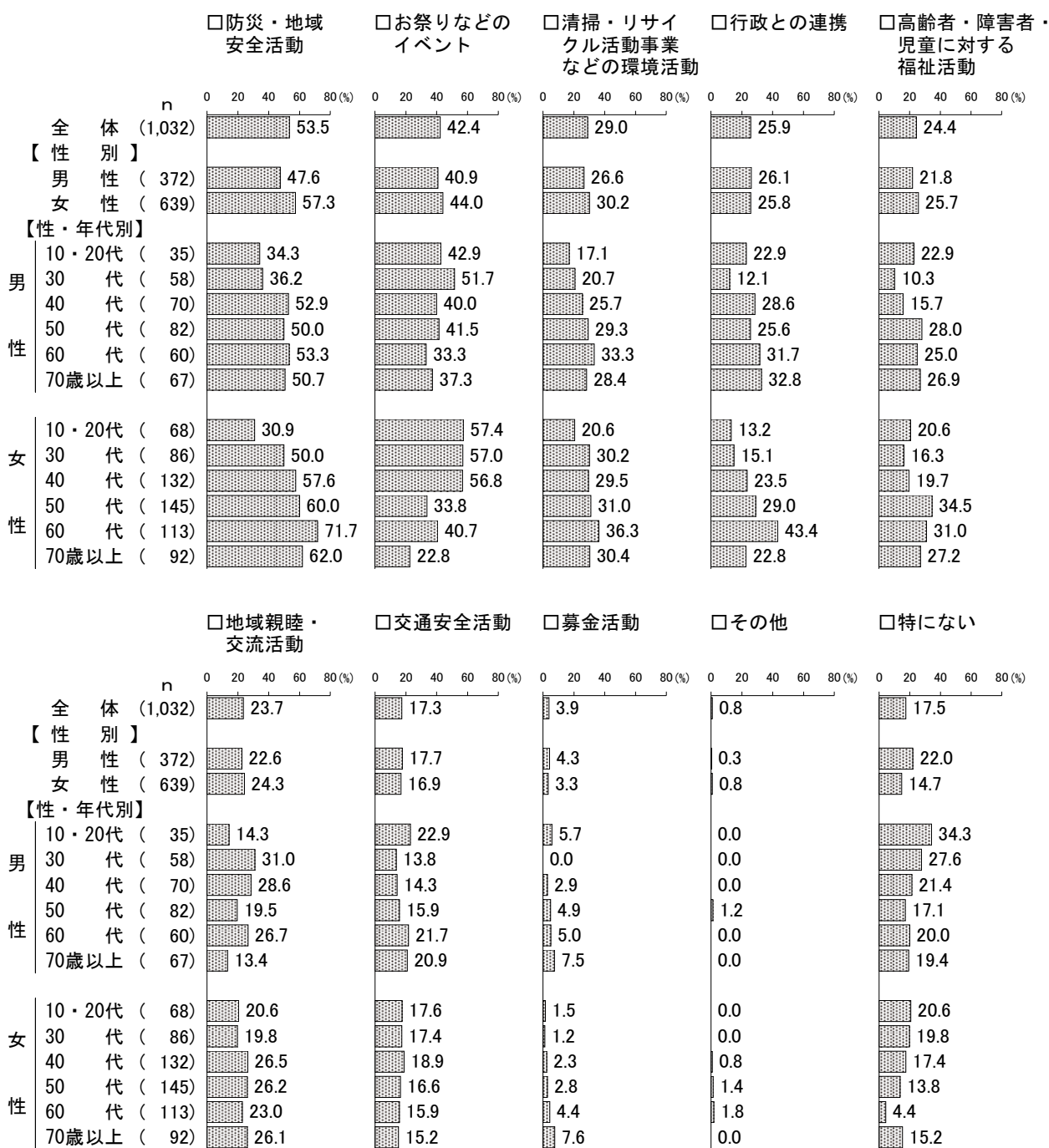
(○はいくつでも)

図5-7-1 町会・自治会に期待すること



町会・自治会に期待することについてたずねたところ、「防災・地域安全活動」(53.5%)が5割を超えて最も多く、次いで「お祭りなどのイベント」(42.4%)、「清掃・リサイクル活動事業などの環境活動」(29.0%)、「行政との連携」(25.9%)などの順となっている。(図5-7-1)

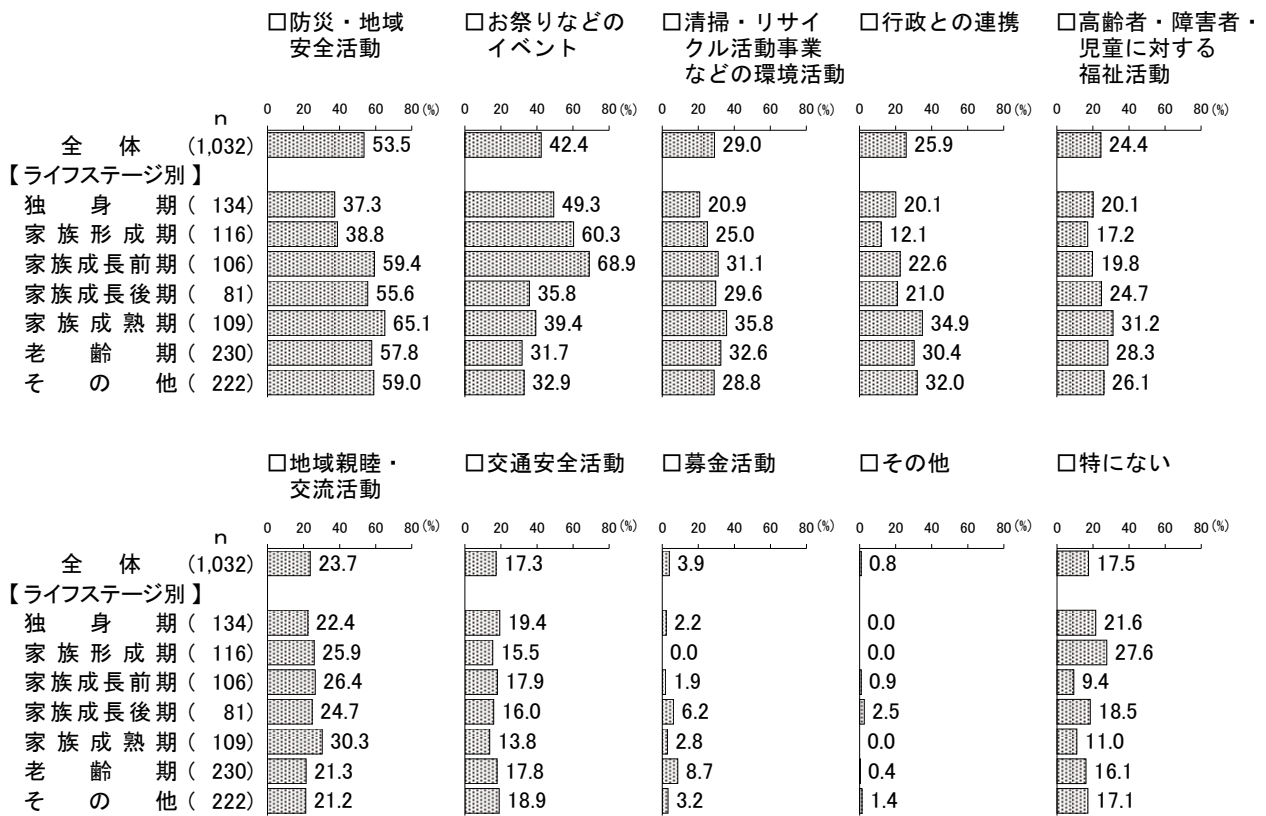
図5-7-2 町会・自治会に期待すること－性別／性・年代別



性別にみると、「防災・地域安全活動」は女性の方が男性より9.7ポイント、「高齢者・障害者・児童に対する福祉活動」は女性の方が男性より3.9ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「防災・地域安全活動」は女性60代で7割を超えて多くなっている。「お祭りなどのイベント」は女性の40代以下の年代で6割近くと多くなっている。「行政との連携」は女性60代で4割を超えて多くなっている。(図5-7-2)

図5-7-3 町会・自治会に期待すること—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「防災・地域安全活動」は家族成熟期で6割半ばと多くなっている。「お祭りなどのイベント」は家族成長前期で7割近くと多くなっている。「清掃・リサイクル活動事業などの環境活動」は家族成熟期で3割半ばと多くなっている。(図5-7-3)

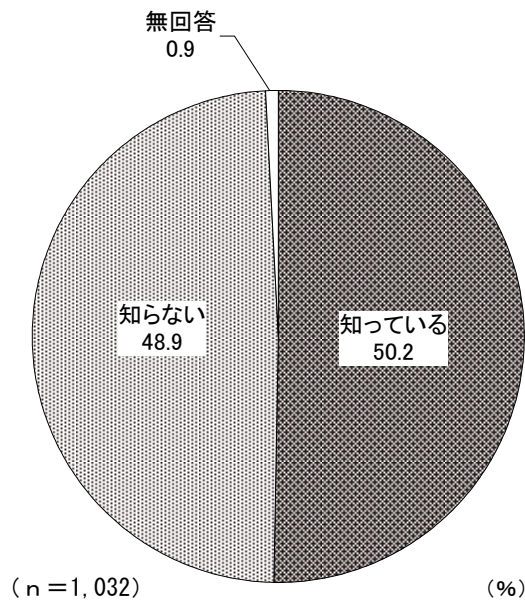
6. 消費者相談

6. 消費者相談

6-1 「消費者相談室」の認知度

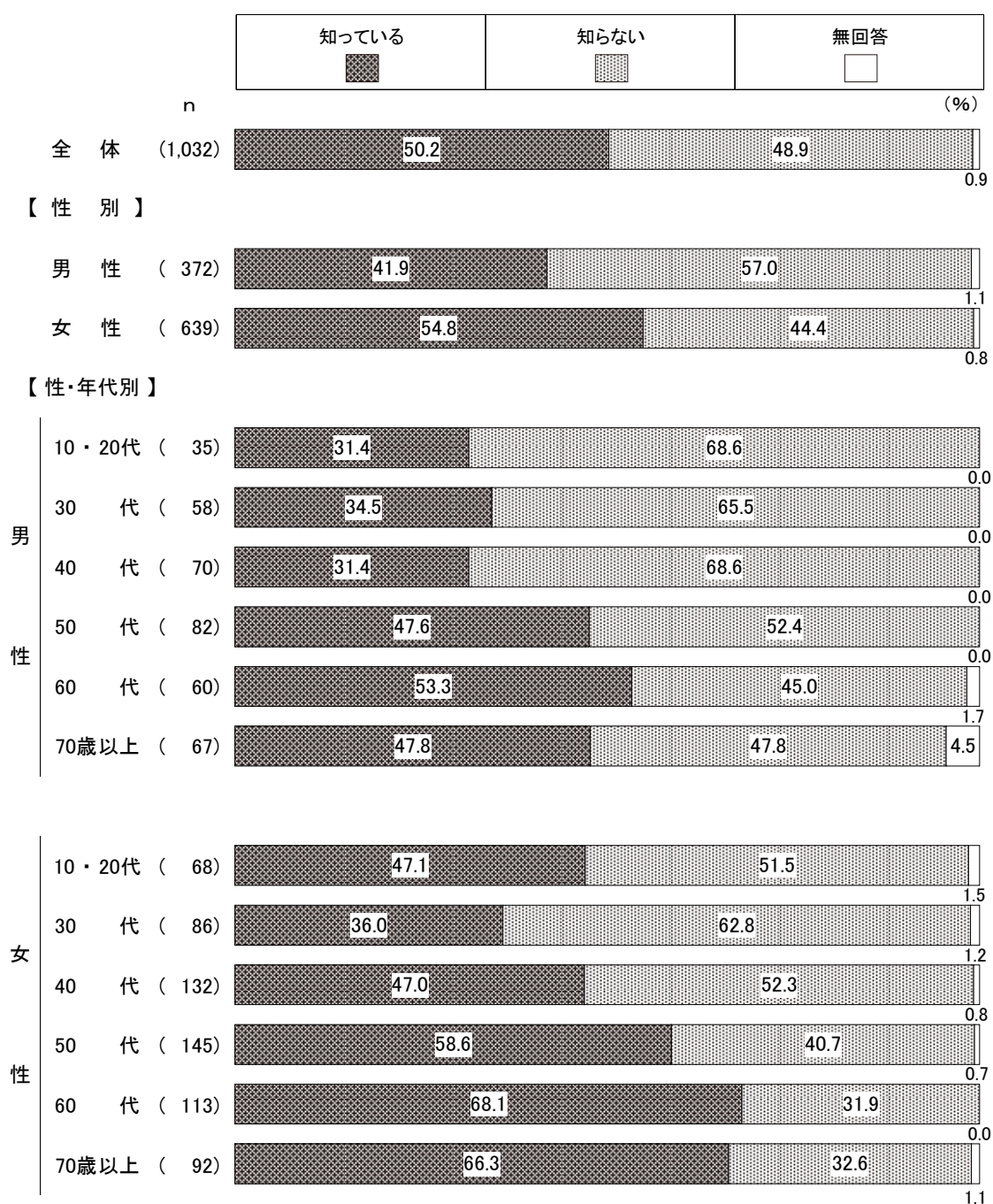
問25 区の消費生活センターに、消費者と事業者との間に生じたトラブルを相談する「消費者相談室」があることを知っていますか。(○は1つ)

図6-1-1 「消費者相談室」の認知度



「消費者相談室」の認知度についてたずねたところ、「知っている」(50.2%)が5割、「知らない」(48.9%)は5割近くとなっている。(図6-1-1)

図6-1-2 「消費者相談室」の認知度—性別／性・年代別



性別にみると、「知っている」は女性の方が男性より12.9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っている」は女性の60代以上の年代で6割台と多くなっている。一方、「知らない」は男性の10・20代と40代で7割近くと多くなっている。(図6-1-2)

7. 文化・芸術・スポーツ

7-1 文京ふるさと歴史館と森鷗外記念館があることの認知度

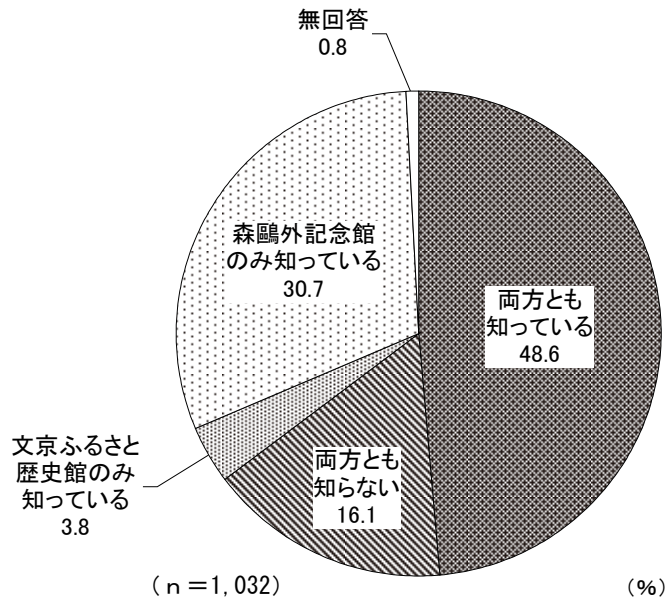
7-2 安心してスポーツに親しむことができる環境のために必要なこと

7. 文化・芸術・スポーツ

7-1 文京ふるさと歴史館と森鷗外記念館があることの認知度

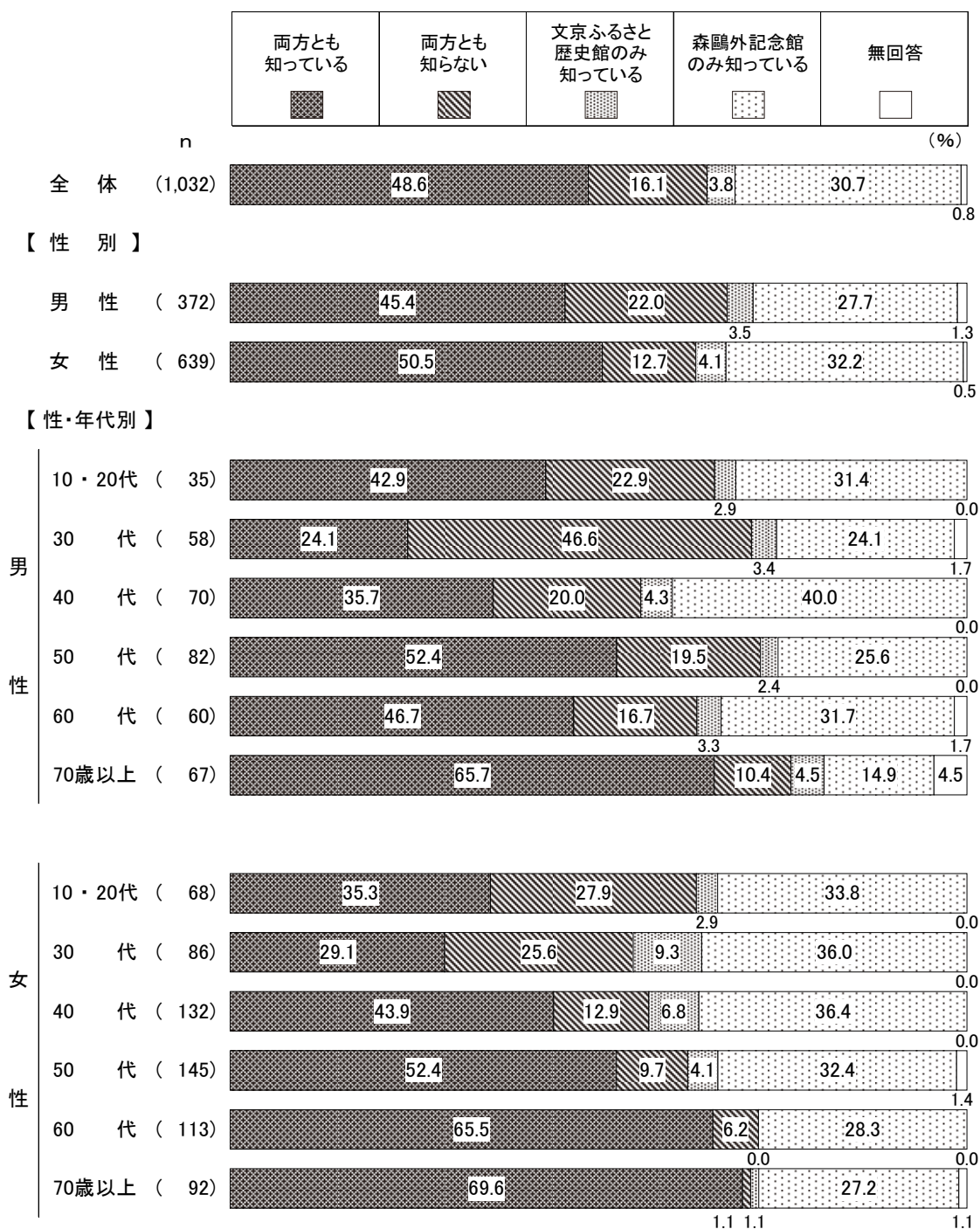
問26 文京区に文京ふるさと歴史館と森鷗外記念館があることを知っていますか。(○は1つ)

図7-1-1 文京ふるさと歴史館と森鷗外記念館があることの認知度



区に文京ふるさと歴史館と森鷗外記念館があることを知っているかたずねたところ、「両方とも知っている」(48.6%)が5割近くとなっている。また、「森鷗外記念館のみ知っている」(30.7%)が約3割、「文京ふるさと歴史館のみ知っている」(3.8%)は1割未満となっている。一方、「両方とも知らない」(16.1%)は1割半ばとなっている。(図7-1-1)

図7-1-2 文京ふるさと歴史館と森鷗外記念館があることの認知度－性別／性・年代別



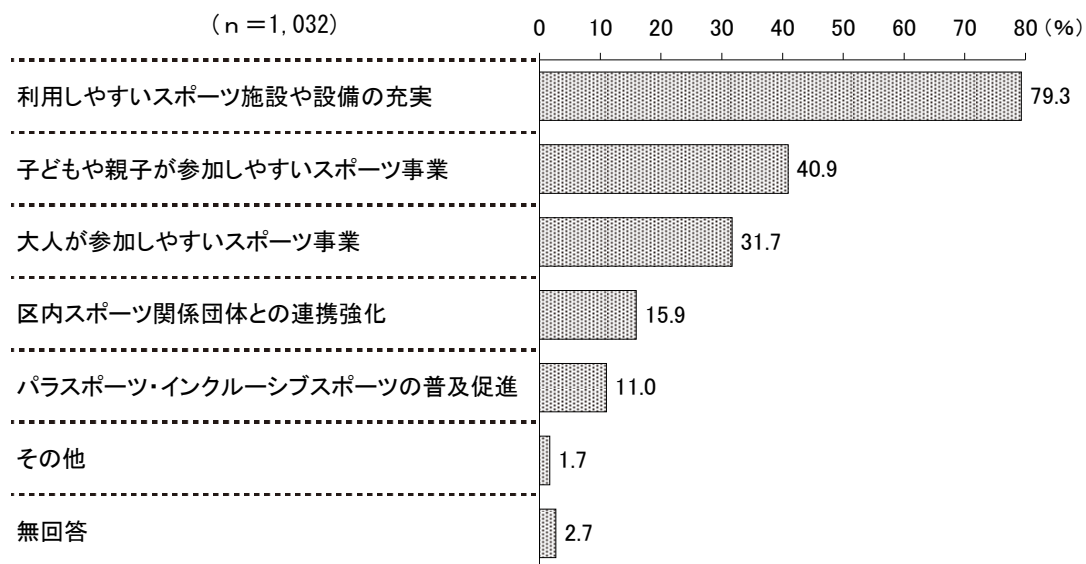
性別にみると、「両方とも知らない」は男性の方が女性より9.3ポイント高くなっている。一方、「両方とも知っている」は女性の方が男性より5.1ポイント、「森鷗外記念館のみ知っている」は女性の方が男性より4.5ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「両方とも知っている」は女性70歳以上で7割と多くなっている。「両方とも知らない」は男性30代で5割近くと多くなっている。「森鷗外記念館のみ知っている」は男性40代で4割と多くなっている。(図7-1-2)

7-2 安心してスポーツに親しむことができる環境のために必要なこと

問27 誰もが安心してスポーツに親しむことができる環境のためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

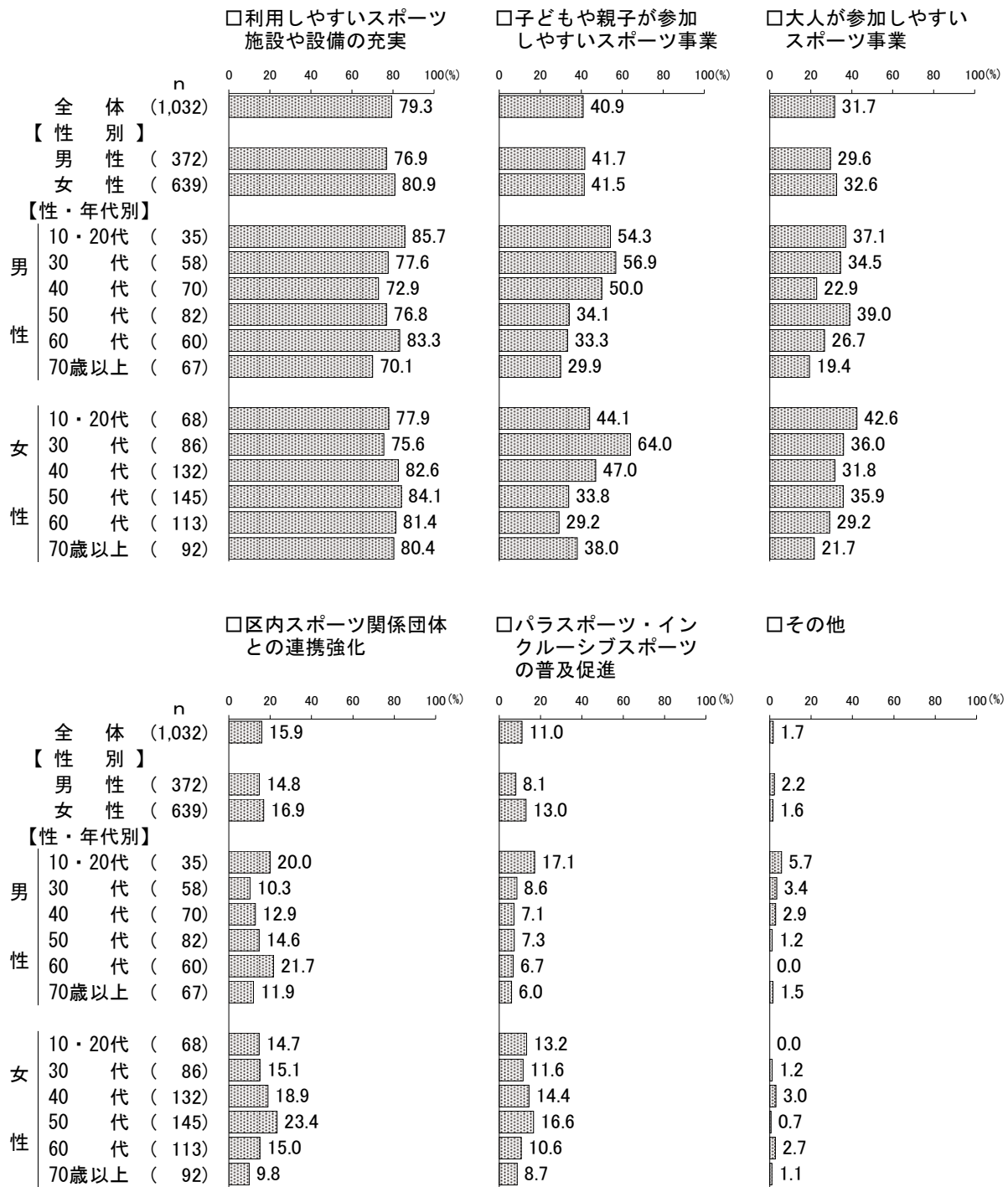
図7-2-1 安心してスポーツに親しむことができる環境のために必要なこと



安心してスポーツに親しむことができる環境のために必要なことについてたずねたところ、「利用しやすいスポーツ施設や設備の充実」(79.3%)が約8割で最も多く、次いで「子どもや親子が参加しやすいスポーツ事業」(40.9%)、「大人が参加しやすいスポーツ事業」(31.7%)、「区内スポーツ関係団体との連携強化」(15.9%)などの順となっている。(図7-2-1)

図7-2-2 安心してスポーツに親しむことができる環境のために必要なこと

ー性別／性・年代別



性別にみると、「パラスポーツ・インクルーシブスポーツの普及促進」は女性の方が男性より4.9ポイント、「利用しやすいスポーツ施設や設備の充実」は女性の方が男性より4.0ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「利用しやすいスポーツ施設や設備の充実」は男性10・20代と女性50代で8割半ばと多くなっている。「子どもや親子が参加しやすいスポーツ事業」は女性30代で6割半ばと多くなっている。(図7-2-2)

8. 高齢者・障害者

-
- 8-1 成年後見制度に関する認知度
 - 8-2 「高齢者あんしん相談センター」の認知度
 - 8-3 「フレイル」の認知度
 - 8-4 「合理的配慮」の認知度
 - 8-5 「ヘルプマーク」と「ヘルプカード」の認知度
 - 8-6 手話が日本語とは異なる独自の文法をもつ言語であることの認知度
-

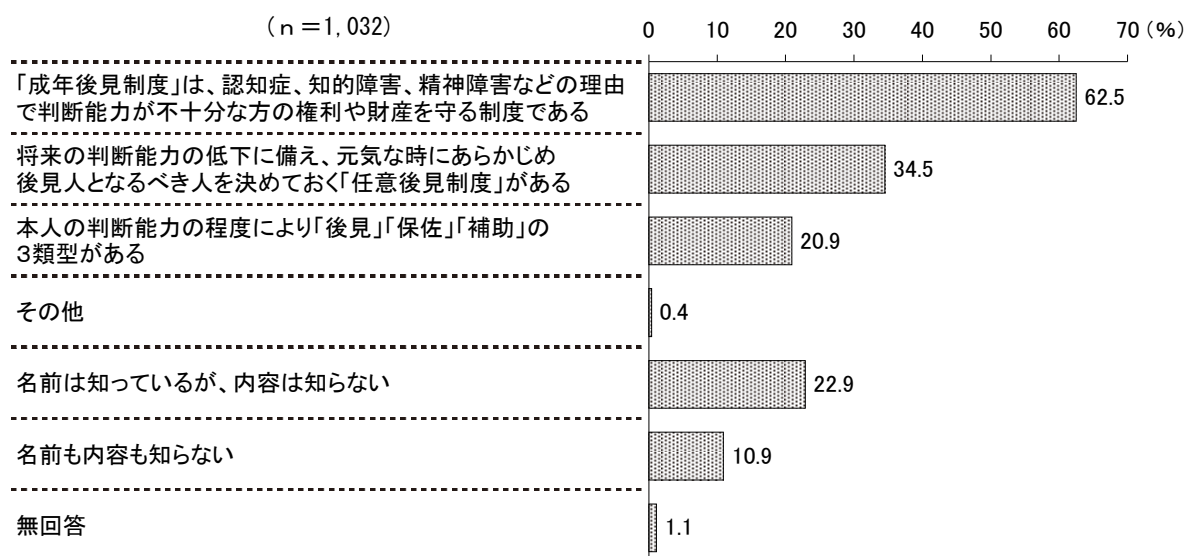
8. 高齢者・障害者

8-1 成年後見制度に関する認知度

問28 あなたは「成年後見制度」について、どのようなことを知っていますか。

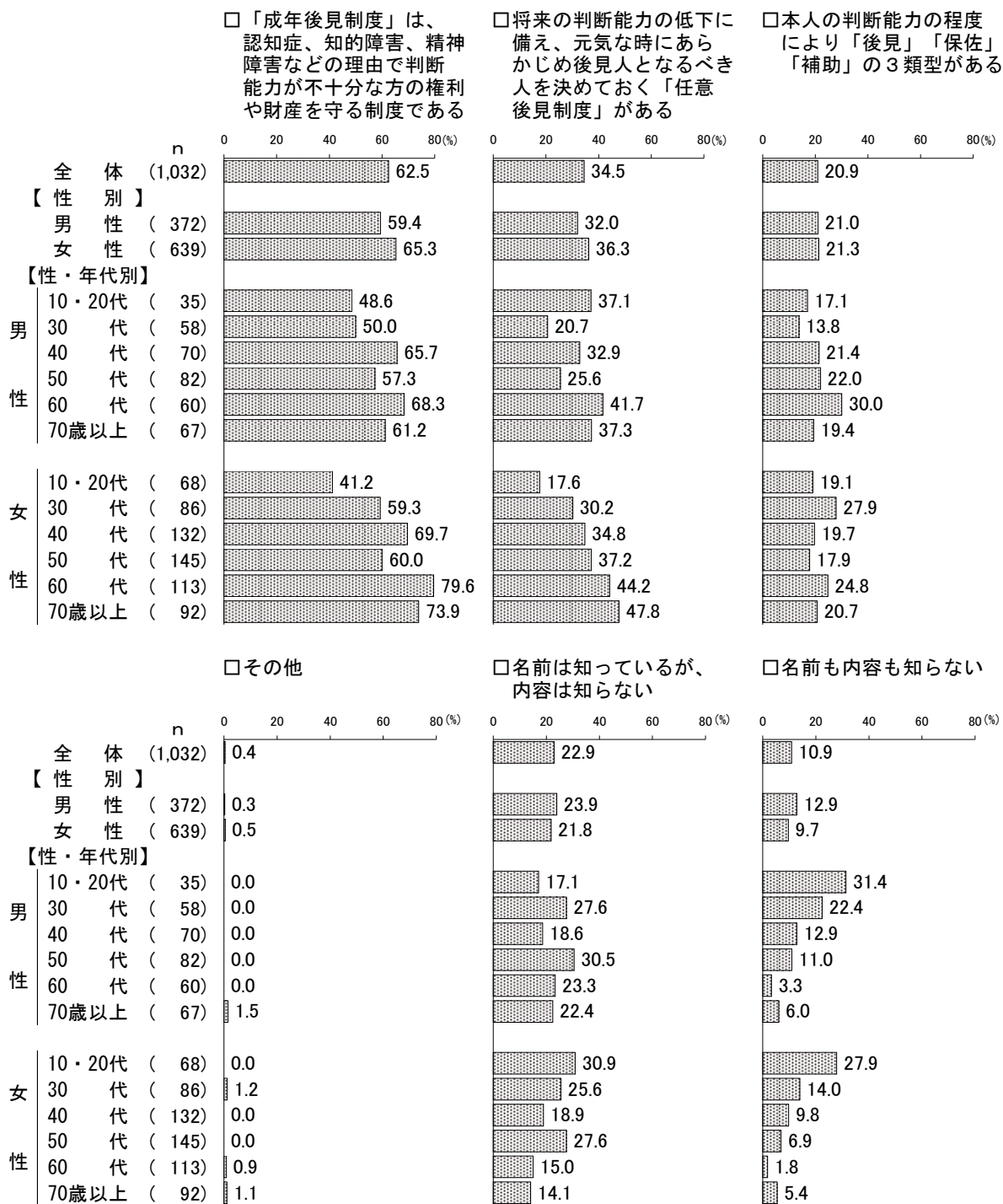
(○はいくつでも)

図8-1-1 成年後見制度に関する認知度



成年後見制度に関する認知度についてたずねたところ、「『成年後見制度』は、認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である」(62.5%)が6割を超えて最も多く、次いで「将来の判断能力の低下に備え、元気な時にあらかじめ後見人となるべき人を決めておく『任意後見制度』がある」(34.5%)などの順となっている。また、「名前は知っているが、内容は知らない」(22.9%)は2割を超え、「名前も内容も知らない」(10.9%)は約1割となっている。(図8-1-1)

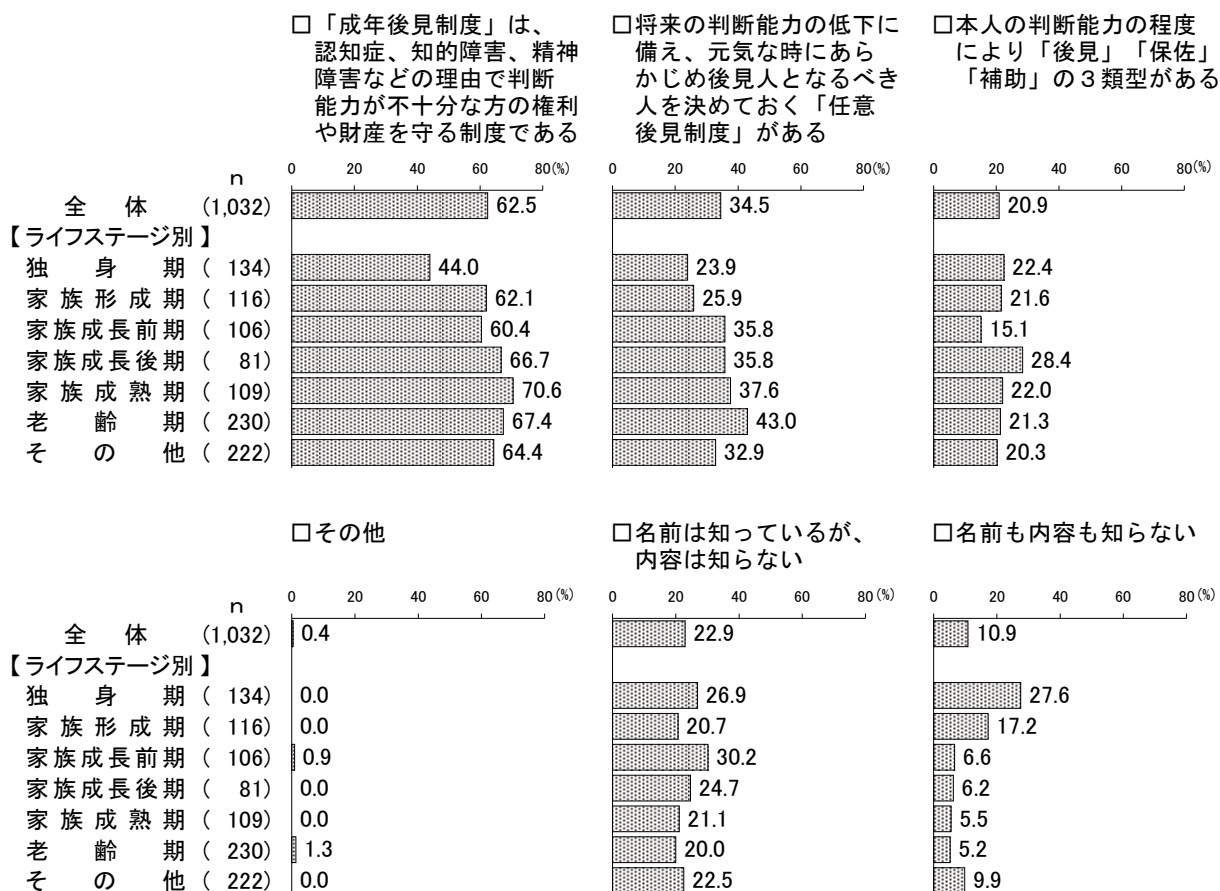
図8-1-2 成年後見制度に関する認知度—性別／性・年代別



性別にみると、『成年後見制度』は、認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である」は女性の方が男性より5.9ポイント高くなっている。一方、「名前も内容も知らない」は男性の方が女性より3.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『成年後見制度』は、認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である」は女性60代で8割と多くなっている。「将来の判断能力の低下に備え、元気な時にあらかじめ後見人となるべき人を決めておく『任意後見制度』がある」は女性70歳以上で5割近くと多くなっている。(図8-1-2)

図8-1-3 成年後見制度に関する認知度—ライフステージ別

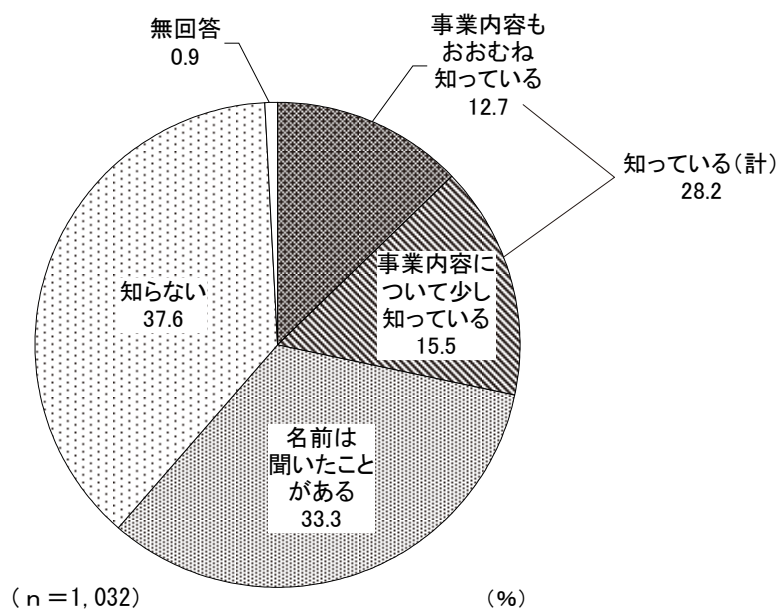


ライフステージ別にみると、『成年後見制度』は、認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である」は家族成熟期で約7割と多くなっている。「将来の判断能力の低下に備え、元気な時にあらかじめ後見人となるべき人を決めておく『任意後見制度』がある」は老齢期で4割を超えて多くなっている。「名前は知っているが、内容は知らない」は家族成長前期で3割と多くなっている。(図8-1-3)

8-2 「高齢者あんしん相談センター」の認知度

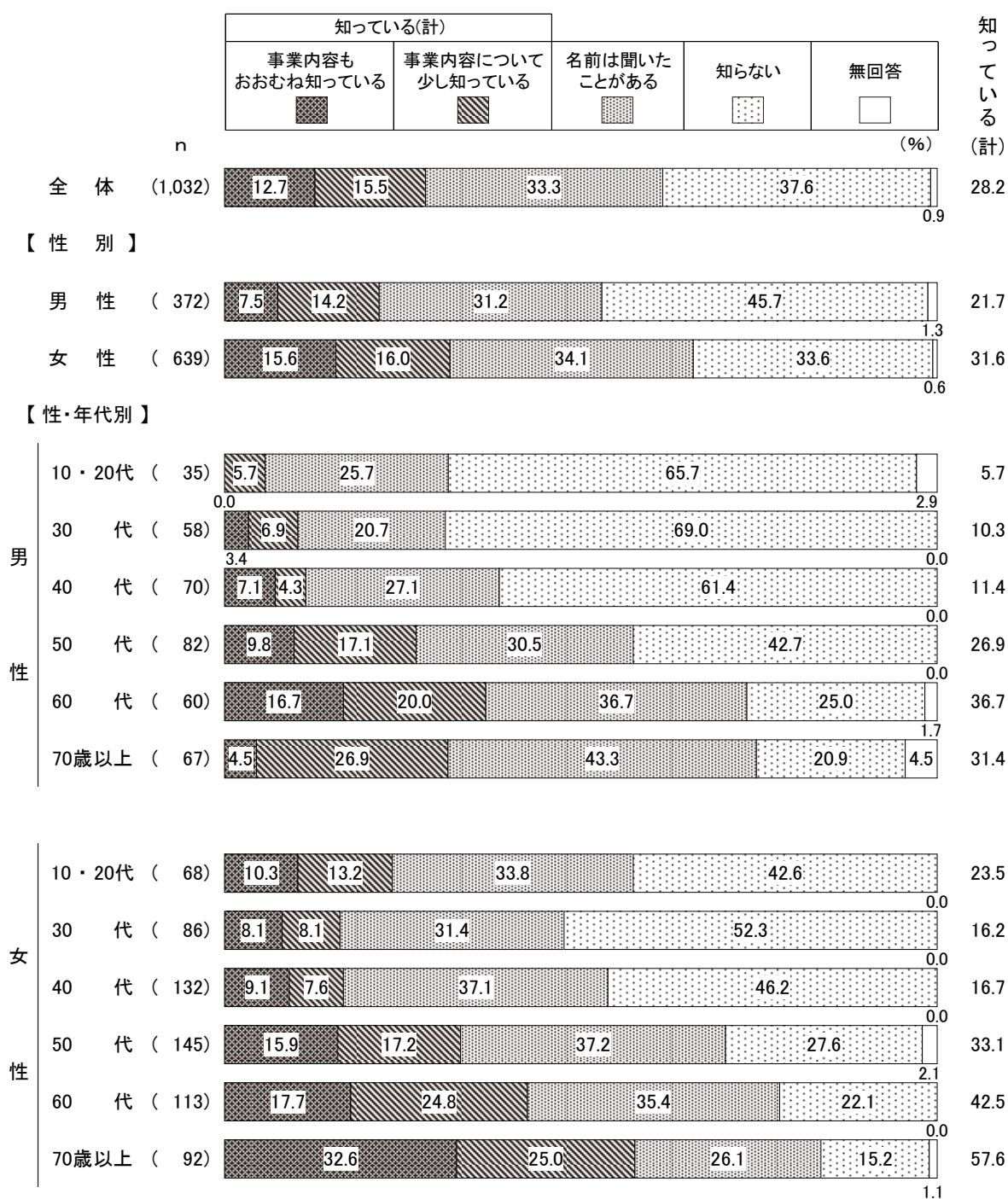
問29 地域における高齢者の相談窓口である「高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）」を知っていますか。（○は1つ）

図8-2-1 「高齢者あんしん相談センター」の認知度



「高齢者あんしん相談センター」の認知度についてたずねたところ、「事業内容もおおむね知っている」(12.7%)と「事業内容について少し知っている」(15.5%)を合わせた『知っている(計)』(28.2%)が3割近く、「名前はある聞いたことがある」(33.3%)は3割を超えている。一方、「知らない」(37.6%)は4割近くとなっている。(図8-2-1)

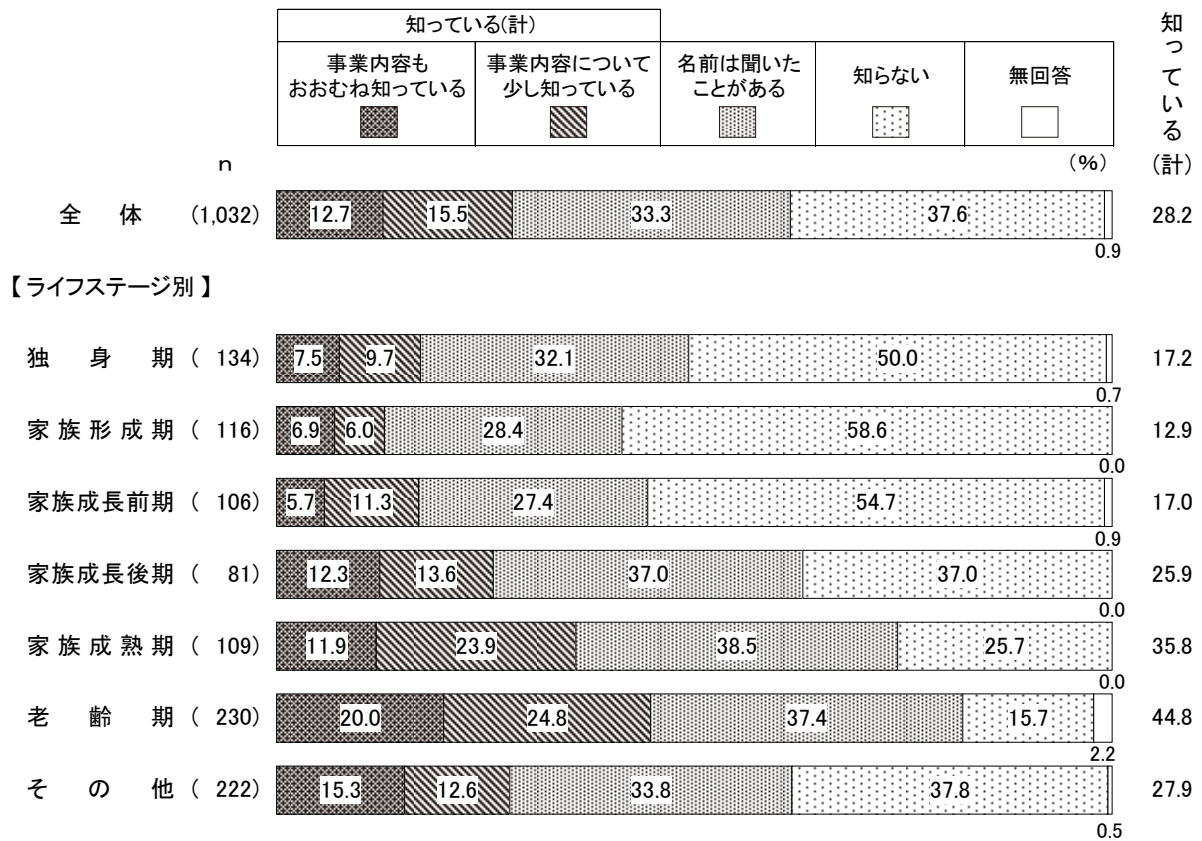
図 8-2-2 「高齢者あんしん相談センター」の認知度—性別／性・年代別



性別にみると、『知っている（計）』は女性の方が男性より9.9ポイント高くなっている。一方、「知らない」は男性の方が女性より12.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『知っている（計）』は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が高く、女性70歳以上で6割近くとなっている。一方、「知らない」は男性の40代以下の年代で6割台と多くなっている。（図8-2-2）

図 8-2-3 「高齢者あんしん相談センター」の認知度—ライフステージ別

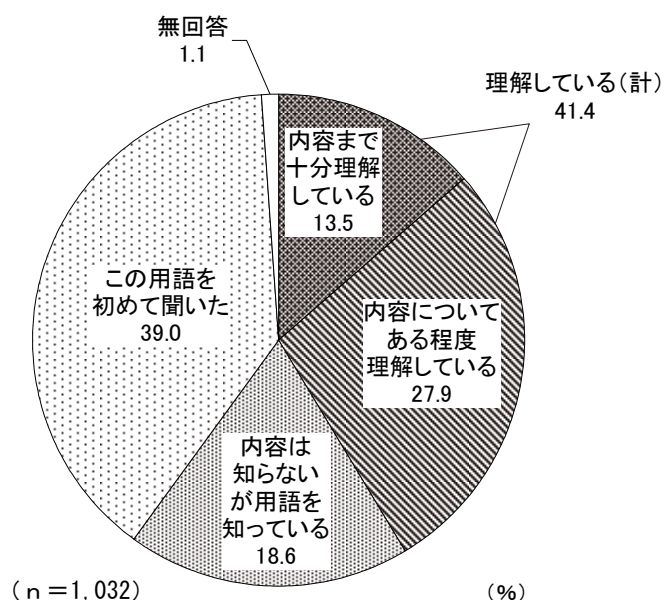


ライフステージ別にみると、『知っている(計)』は老齢期で4割半ばと多くなっている。一方、「知らない」は家族形成期で6割近くと多くなっている。(図8-2-3)

8-3 「フレイル」の認知度

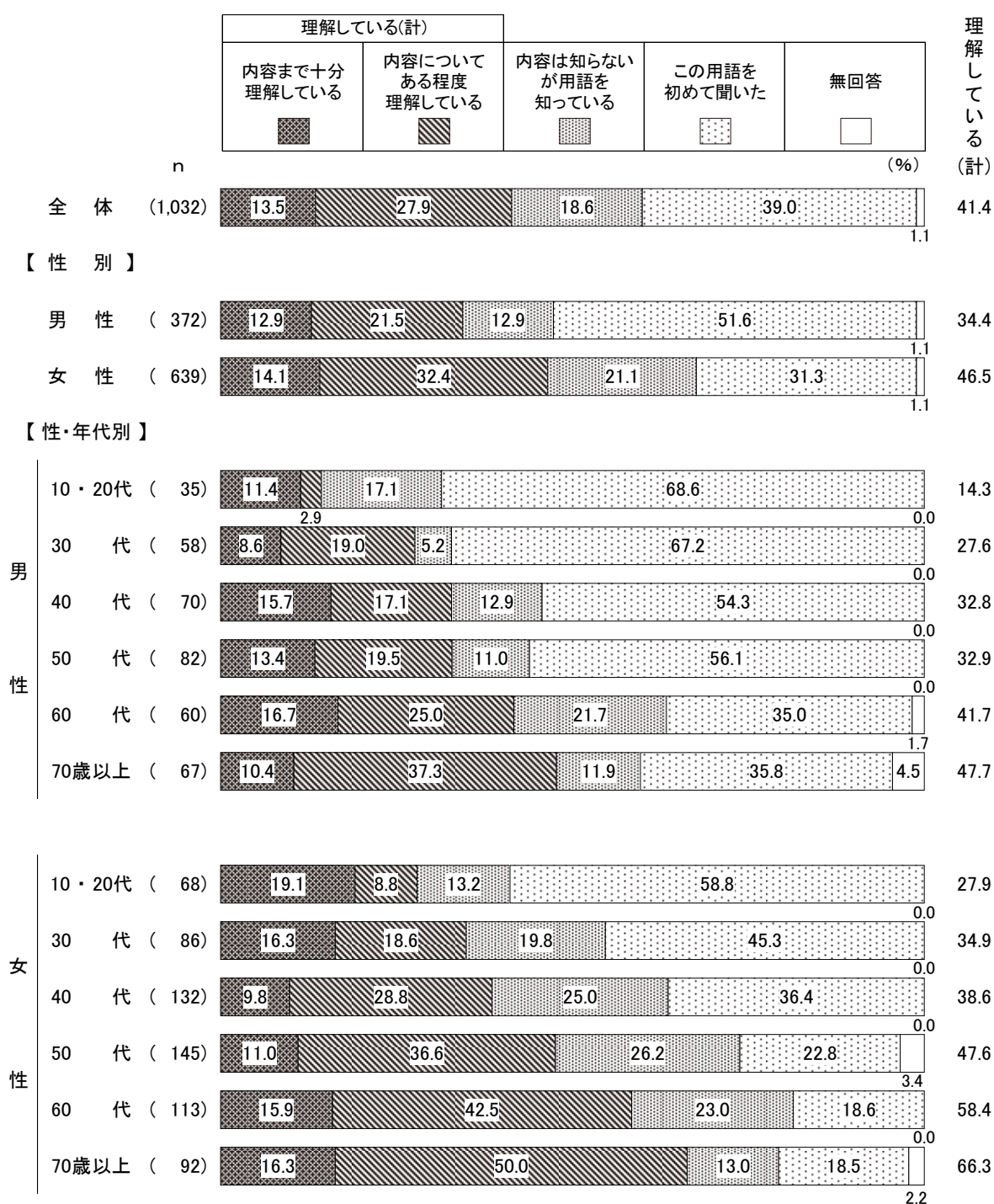
問30 『フレイル』とは、年齢を重ねることで心身の活力が低下した「健康」と「要介護状態」の間を指す用語です。この用語について、次の中からあてはまるものをお選びください。(○は1つ)

図8-3-1 「フレイル」の認知度



「フレイル」の認知度についてたずねたところ、「内容まで十分理解している」(13.5%)と「内容についてある程度理解している」(27.9%)を合わせた『理解している(計)』(41.4%)が4割を超え、「内容は知らないが用語を知っている」(18.6%)は2割近くとなっている。一方、「この用語を初めて聞いた」(39.0%)は約4割となっている。(図8-3-1)

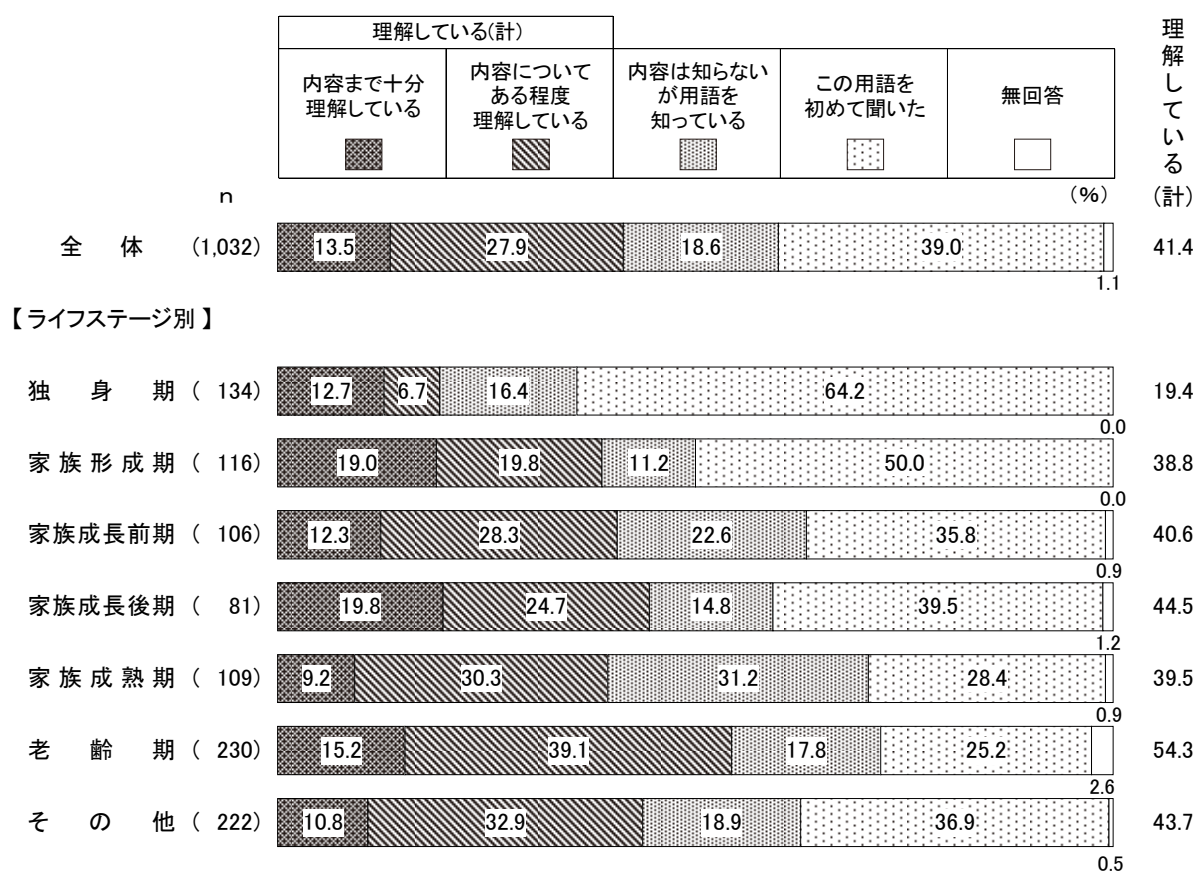
図8-3-2 「フレイル」の認知度—性別／性・年代別



性別にみると、『理解している(計)』は女性の方が男性より12.1ポイント高くなっている。一方、「この用語を初めて聞いた」は男性の方が女性より20.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『理解している(計)』は男女ともに年代が上がるほど割合が高く、女性70歳以上で6割半ばとなっている。一方、「この用語を初めて聞いた」は男性の30代以下の年代で7割近くと多くなっている。(図8-3-2)

図8-3-3 「フレイル」の認知度—ライフステージ別



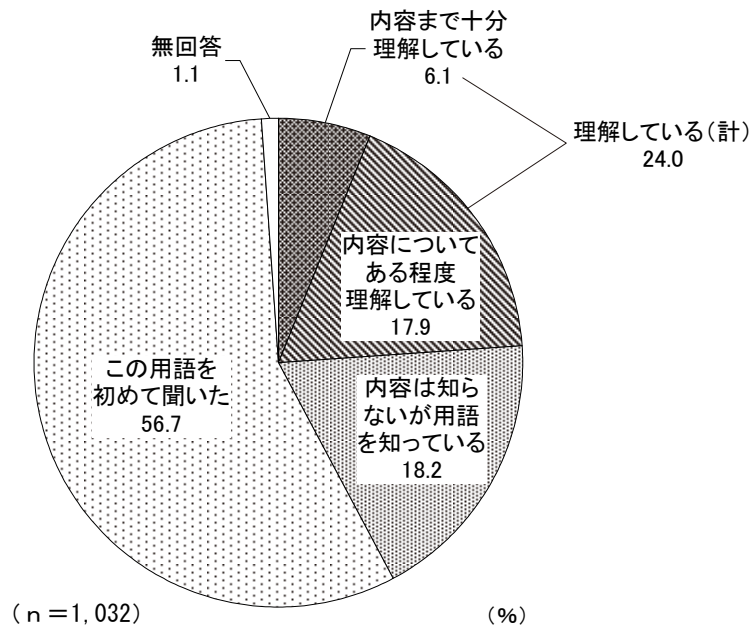
ライフステージ別にみると、『理解している(計)』は老齢期で5割半ばと多くなっている。一方、「この用語を初めて聞いた」は独身期で6割半ばと多くなっている。(図8-3-3)

8-4 「合理的配慮」の認知度

問31 『合理的配慮』とは、障害のある人から申出があった場合、負担が大きくなる範囲で手助けすることを指す用語です。国や市町村、会社やお店に「合理的配慮」の提供が求められています。この用語について、次の中からあてはまるものをお選びください。

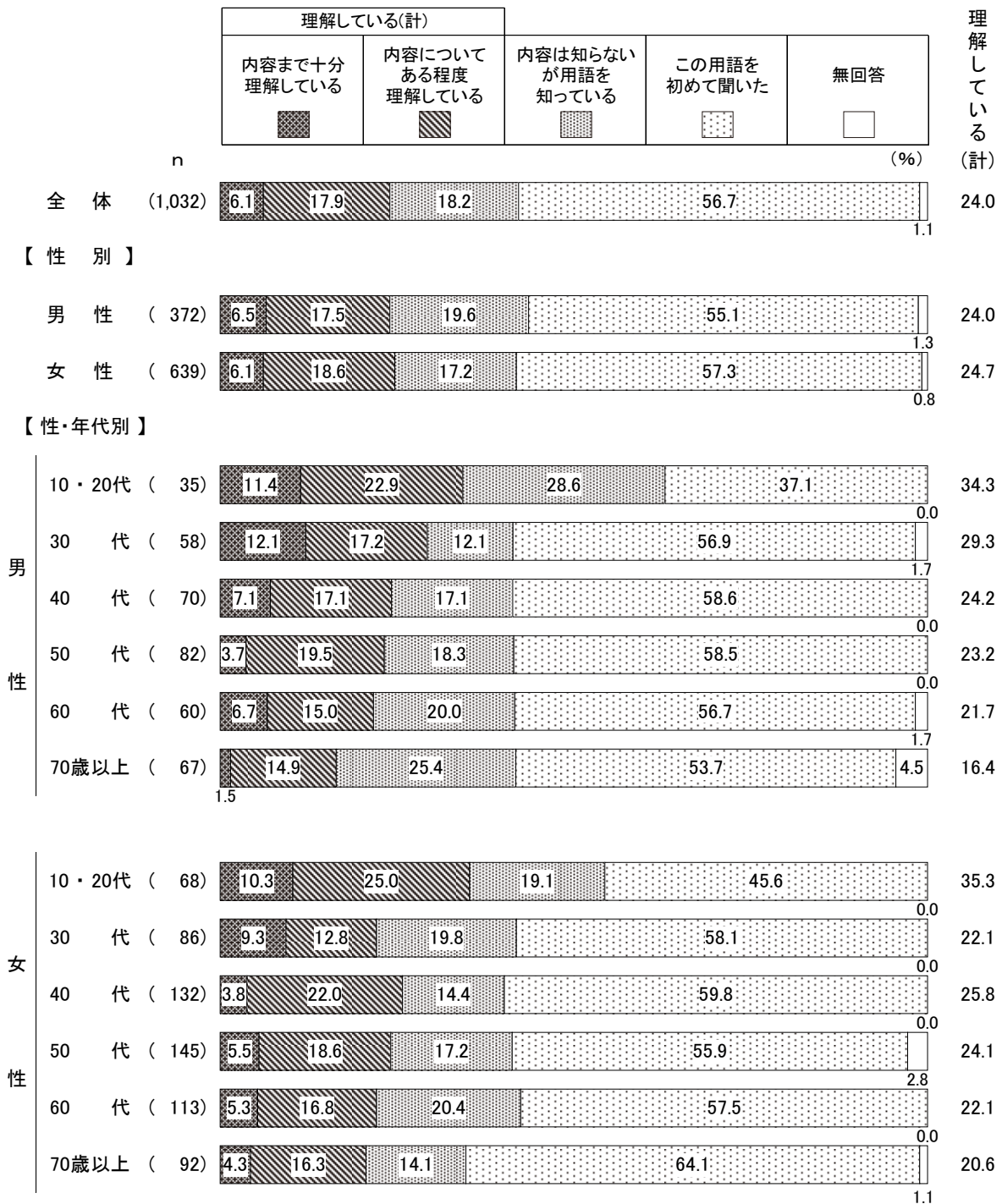
(○は1つ)

図8-4-1 「合理的配慮」の認知度



「合理的配慮」の認知度についてたずねたところ、「内容まで十分理解している」(6.1%)と「内容についてある程度理解している」(17.9%)を合わせた『理解している(計)』(24.0%)が2割半ば、「内容は知らないが用語を知っている」(18.2%)は2割近くとなっている。一方、「この用語を初めて聞いた」(56.7%)は6割近くとなっている。(図8-4-1)

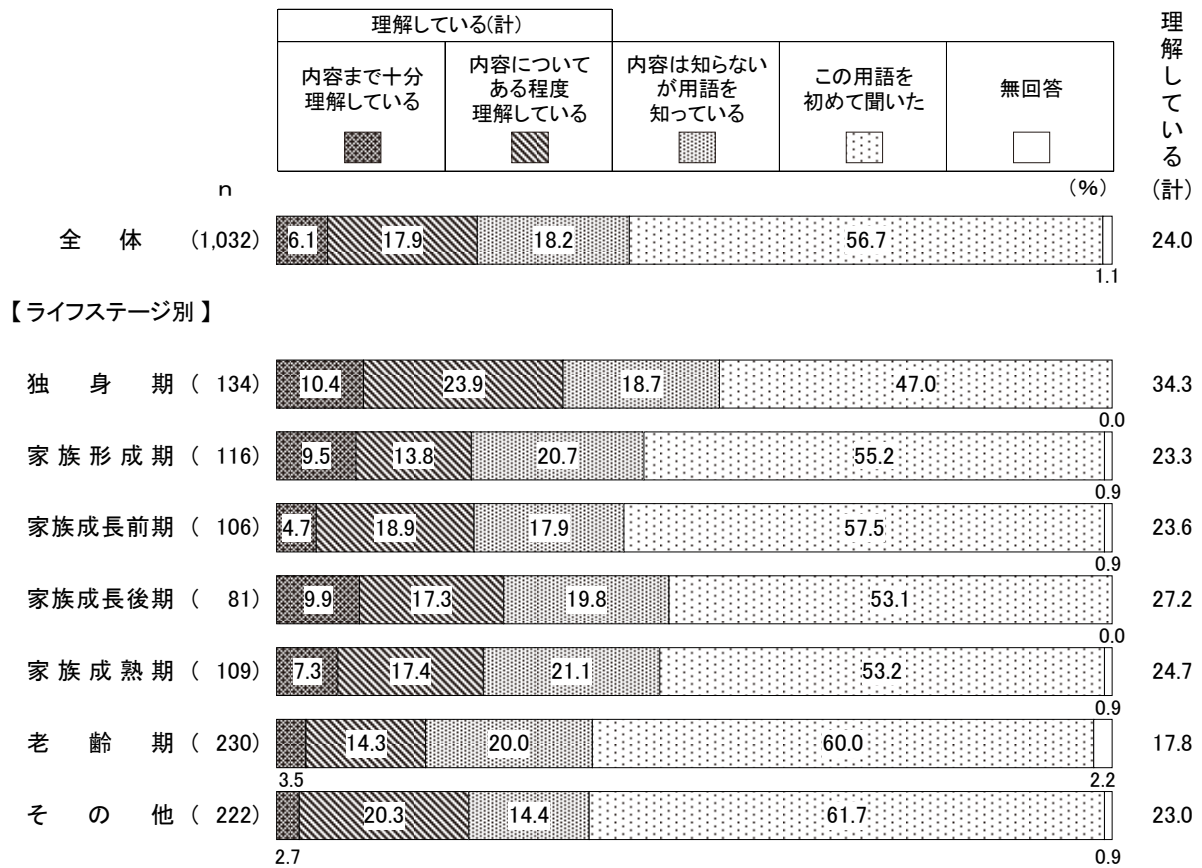
図8-4-2 「合理的配慮」の認知度—性別／性・年代別



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、『理解している(計)』は男女ともにおおむね年代が下がるほど割合が高く、男女ともに10・20代で3割半ばとなっている。一方、「この用語を初めて聞いた」は女性70歳以上で6割半ばと多くなっている。(図8-4-2)

図8-4-3 「合理的配慮」の認知度—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、『理解している(計)』は独身期で3割半ばと多くなっている。一方、「この用語を初めて聞いた」は老齢期とその他で6割台と多くなっている。(図8-4-3)

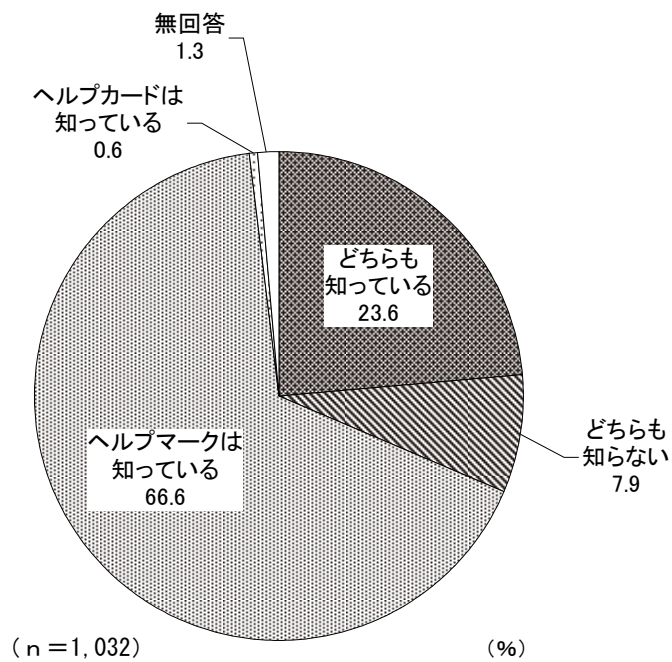
8-5 「ヘルプマーク」と「ヘルプカード」の認知度

問32 『ヘルプマーク』とは、外見からは分からなくても援助や配慮を必要としている人が、周囲の人に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう作成したマークです。かばんなど見えるところにつけています。

『ヘルプカード』とは、障害のある人が、日常生活の中で困ったときや、緊急時に周囲の人に手助けを求める際に、必要な配慮や連絡先が記載されているカードです。

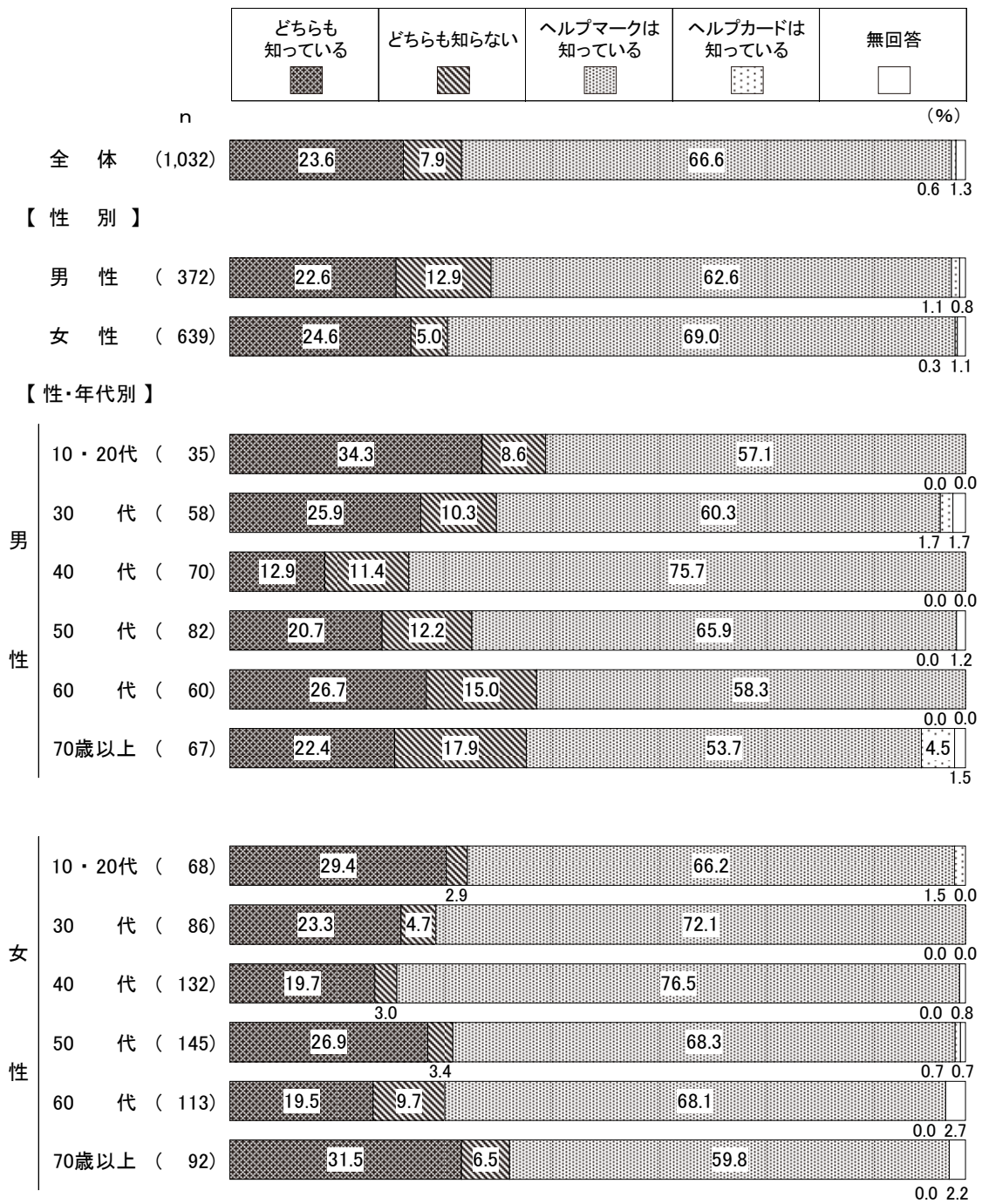
次の中からあてはまるものをお選びください。(○は1つ)

図8-5-1 「ヘルプマーク」と「ヘルプカード」の認知度



「ヘルプマーク」と「ヘルプカード」の認知度についてたずねたところ、「どちらも知っている」(23.6%)が2割を超えている。また、「ヘルプマークは知っている」(66.6%)は7割近く、「ヘルプカードは知っている」(0.6%)は1割未満となっている。一方、「どちらも知らない」(7.9%)は1割未満となっている。(図8-5-1)

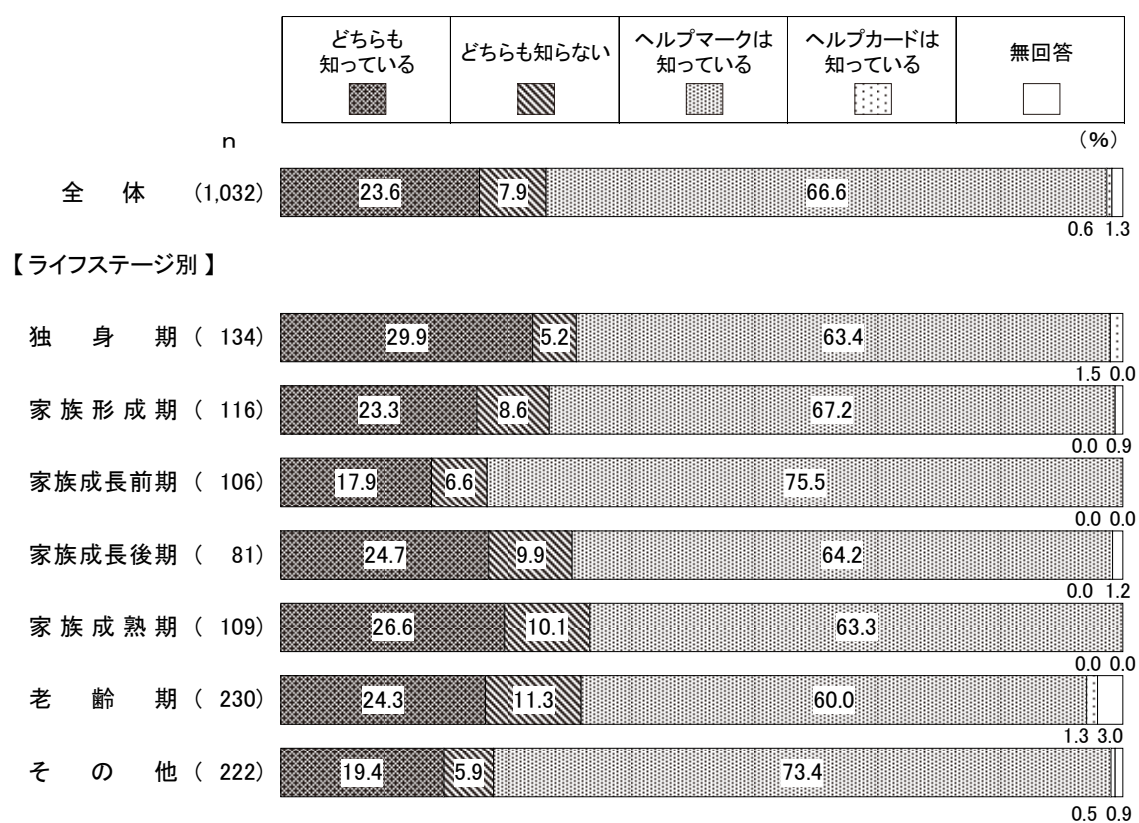
図8-5-2 「ヘルプマーク」と「ヘルプカード」の認知度—性別／性・年代別



性別にみると、「どちらも知らない」は男性の方が女性より7.9ポイント高くなっている。一方、「ヘルプマークは知っている」は女性の方が男性より6.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「どちらも知っている」は男性10・20代で3割半ばと多くなっている。「ヘルプマークは知っている」は女性40代で8割近くと多くなっている。(図8-5-2)

図 8-5-3 「ヘルプマーク」と「ヘルプカード」の認知度—ライフステージ別



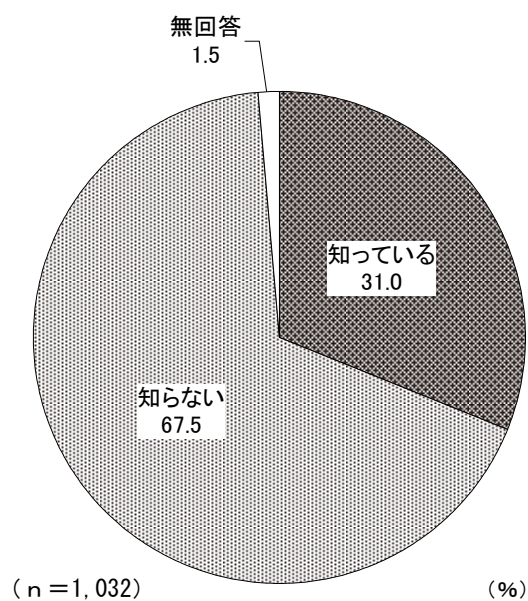
ライフステージ別にみると、「どちらも知っている」は独身期で3割と多くなっている。「ヘルプマークは知っている」は家族成長前期で7割半ばと多くなっている。(図 8-5-3)

8-6 手話が日本語とは異なる独自の文法をもつ言語であることの認知度

問33 区では、令和6年4月1日に「文京区手話言語条例」を制定しました。

手話が、日本語とは異なる独自の文法をもつ言語であることを知っていますか。(○は1つ)

図8-6-1 手話が日本語とは異なる独自の文法をもつ言語であることの認知度

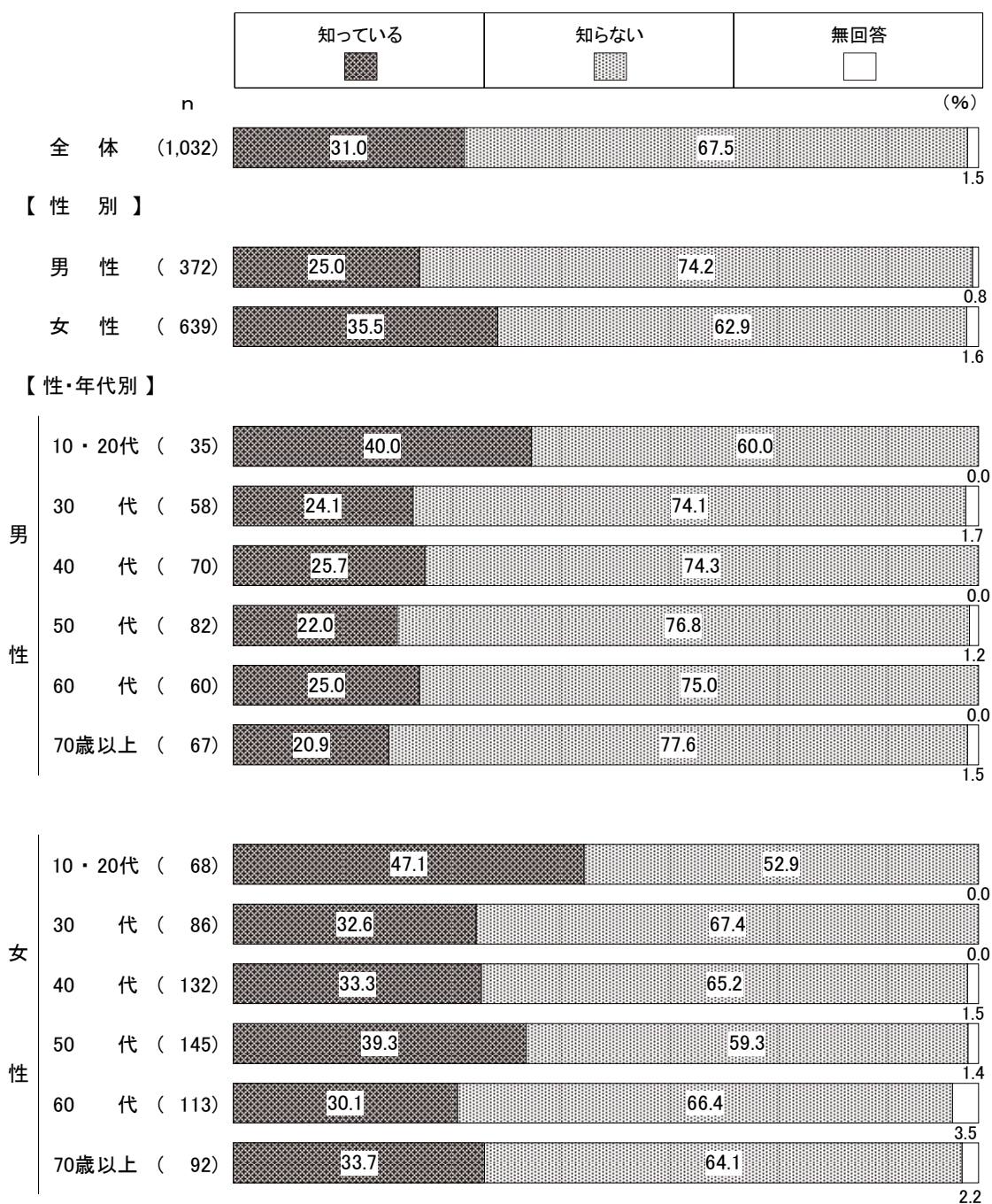


手話が日本語とは異なる独自の文法をもつ言語であることの認知度についてたずねたところ、「知っている」(31.0%)が3割を超え、「知らない」(67.5%)は7割近くとなっている。

(図8-6-1)

図 8-6-2 手話が日本語とは異なる独自の文法をもつ言語であることの認知度

—性別／性・年代別

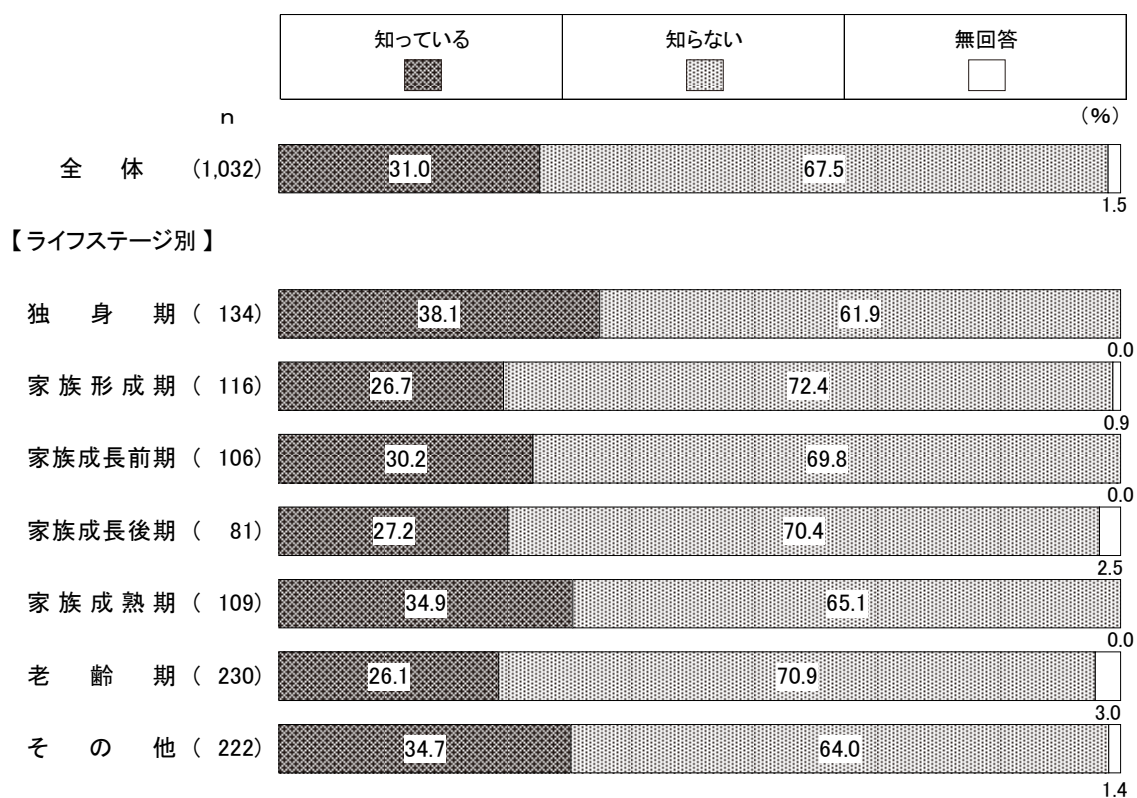


性別にみると、「知っている」は女性の方が男性より10.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っている」は男女ともに10・20代で4割台と多くなっている。一方、「知らない」は男性の30代以上の年代で7割台と多くなっている。(図8-6-2)

図 8-6-3 手話が日本語とは異なる独自の文法をもつ言語であることの認知度

—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「知っている」は独身期で4割近くと多くなっている。一方、「知らない」は家族形成期で7割を超えて多くなっている。(図8-6-3)

9. 子育て・教育

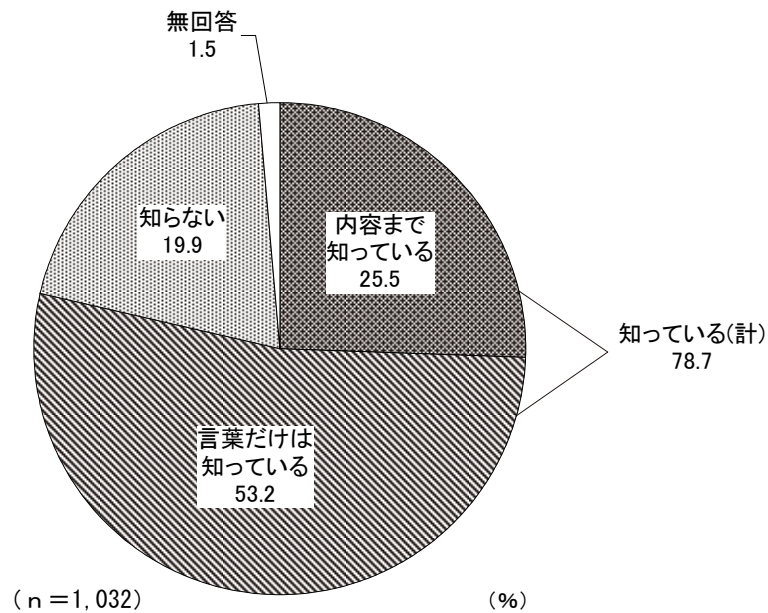
-
- 9-1 「子どもの権利」の認知度
 - 9-2 「部活動の地域連携・地域移行」が進められていることの認知度
 - 9-3 青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきこと
-

9. 子育て・教育

9-1 「子どもの権利」の認知度

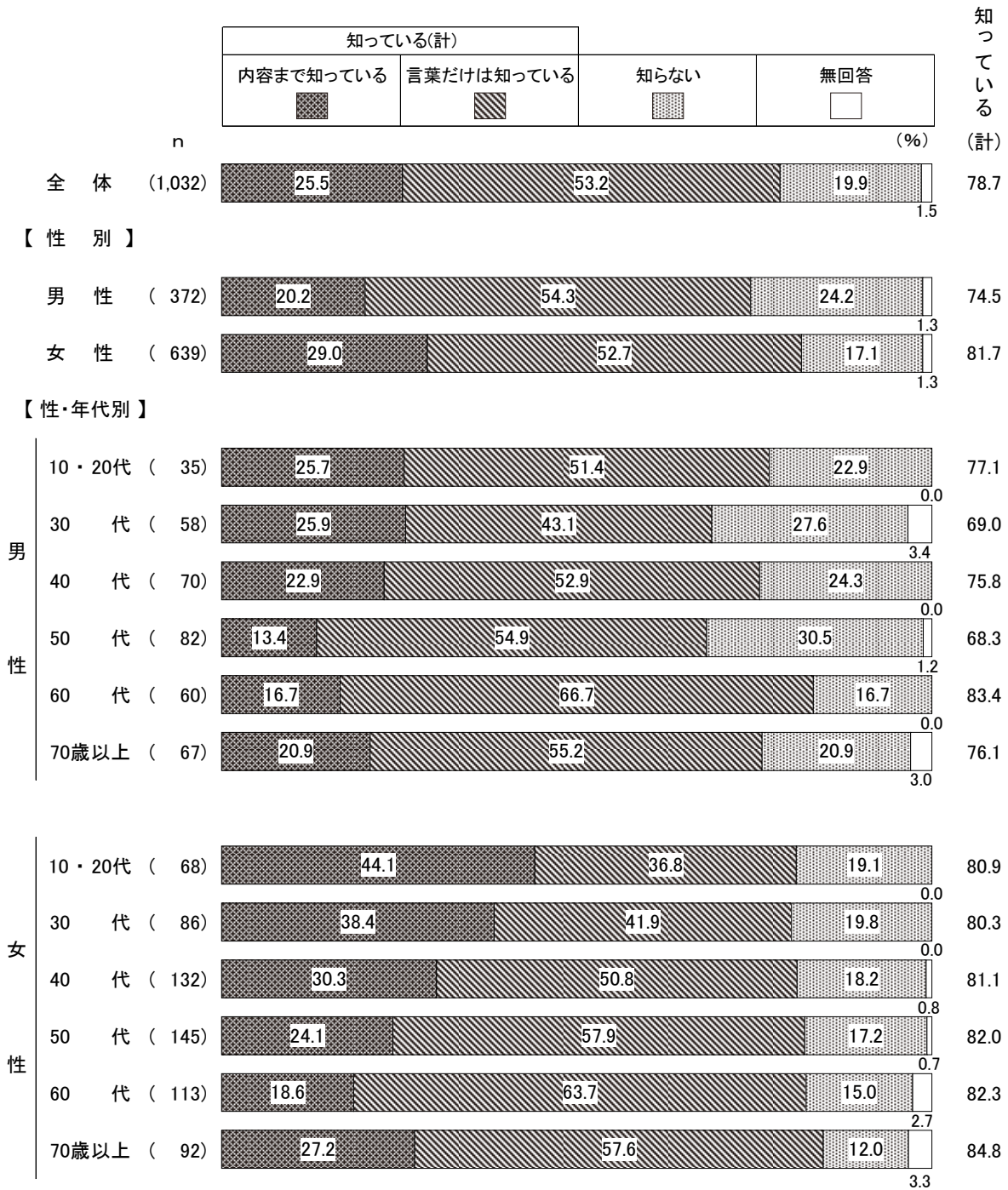
問34 すべての子どもには、守られて育つことや自分の意見を自由に発言するなど、ありのままの自分で生きるために大切な「子どもの権利」があります。こうした「子どもの権利」があることを知っていますか。(○は1つ)

図9-1-1 「子どもの権利」の認知度



「子どもの権利」の認知度についてたずねたところ、「内容まで知っている」(25.5%)と「言葉だけは知っている」(53.2%)を合わせた『知っている(計)』(78.7%)は8割近くとなっている。一方、「知らない」(19.9%)は2割となっている。(図9-1-1)

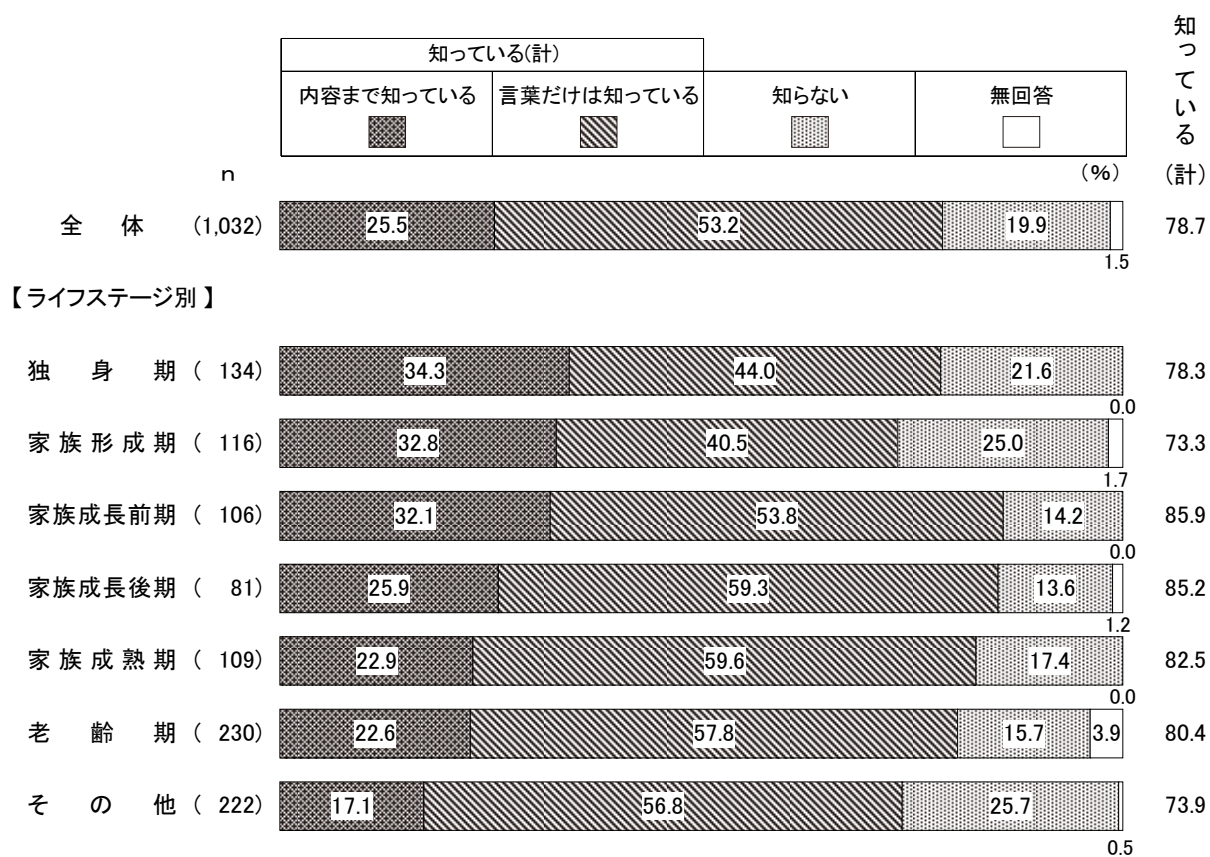
図9-1-2 「子どもの権利」の認知度—性別／性・年代別



性別にみると、『知っている（計）』は女性の方が男性より7.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『知っている（計）』は女性70歳以上で8割半ばと多くなっている。一方、「知らない」は男性50代で約3割と多くなっている。（図9-1-2）

図9-1-3 「子どもの権利」の認知度—ライフステージ別



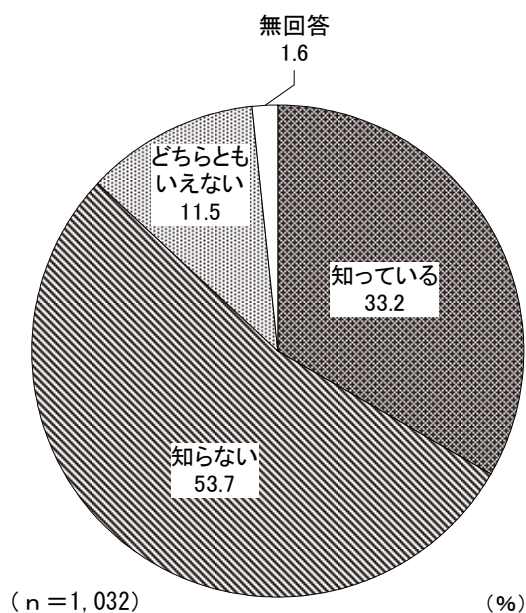
ライフステージ別にみると、『知っている（計）』は家族成長前期と家族成長後期で8割半ばと多くなっている。一方、「知らない」は家族形成期とその他で2割半ばと多くなっている。

(図9-1-3)

9-2 「部活動の地域連携・地域移行」が進められていることの認知度

問35 部活動で教員が行っている指導や運営について、地域のスポーツクラブ、専門的な団体や地域の方々などに部分的に協力してもらったり、全体的に任せたりする「部活動の地域連携・地域移行」の実現に向けて、環境の整備が段階的に進められていることを知っていますか。(○は1つ)

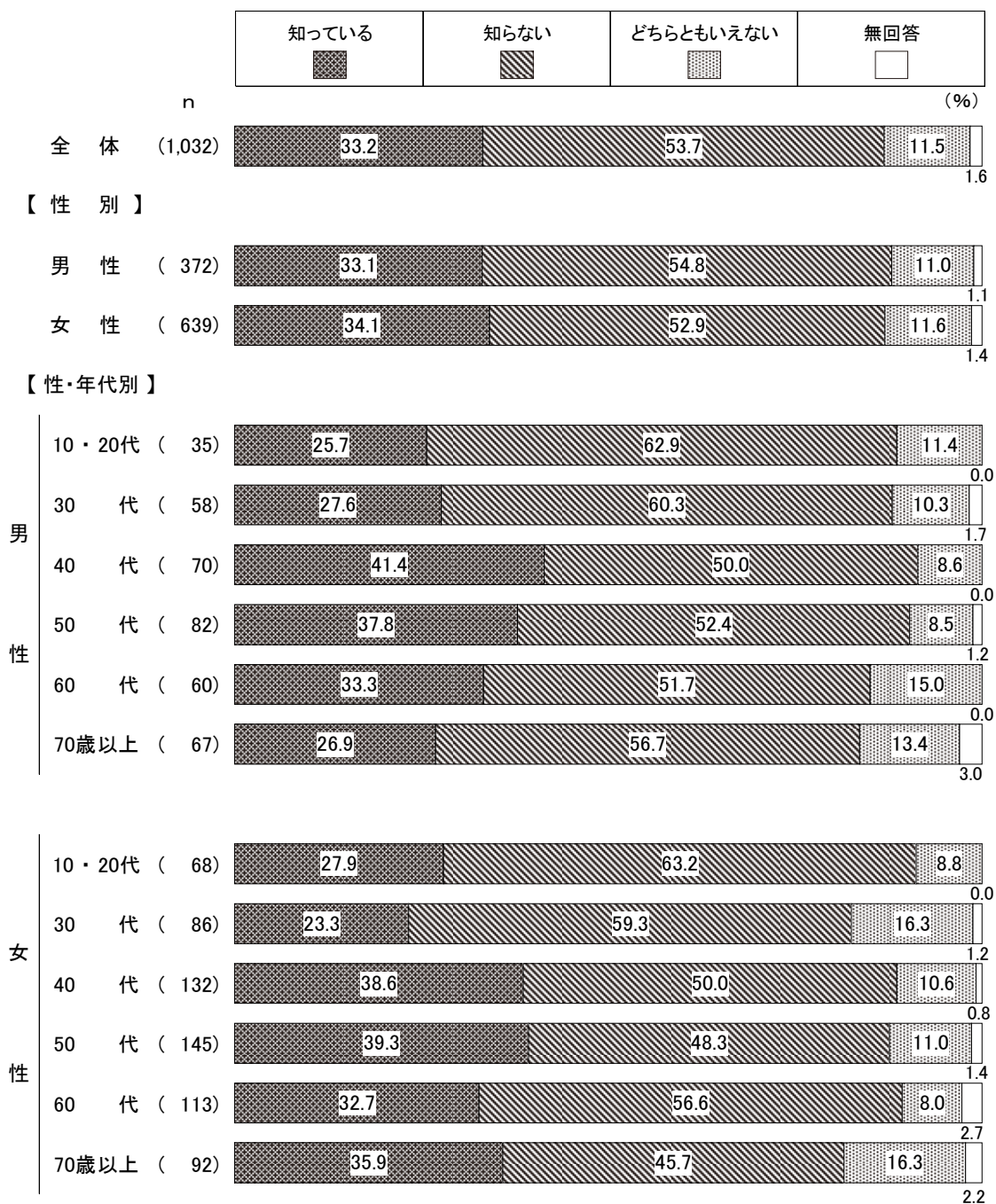
図9-2-1 「部活動の地域連携・地域移行」が進められていることの認知度



「部活動の地域連携・地域移行」の実現に向けて、環境の整備が段階的に進められていることの認知度についてたずねたところ、「知っている」(33.2%)が3割を超え、「知らない」(53.7%)は5割を超えている。また、「どちらともいえない」(11.5%)は1割を超えている。(図9-2-1)

図9-2-2 「部活動の地域連携・地域移行」が進められていることの認知度

—性別／性・年代別

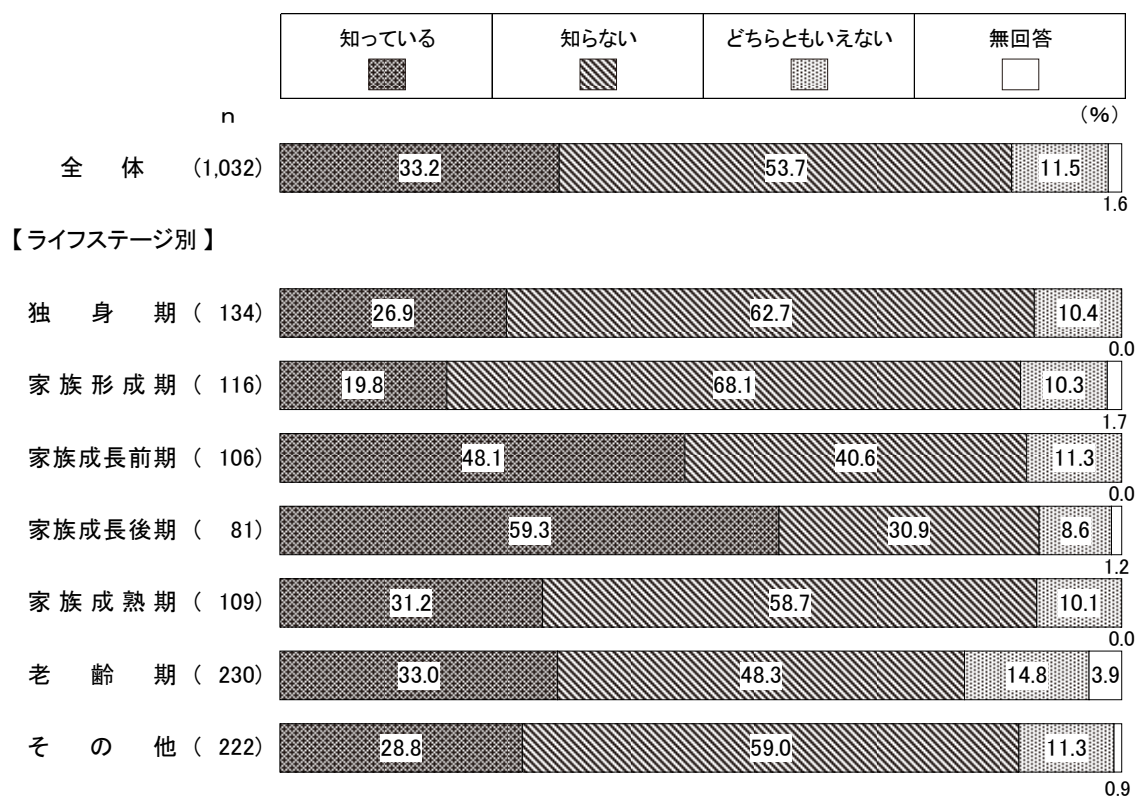


性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「知っている」は男性40代で4割を超えて多くなっている。一方、「知らない」は男女ともに10・20代で6割を超えて多くなっている。(図9-2-2)

図9-2-3 「部活動の地域連携・地域移行」が進められていることの認知度

—ライフステージ別

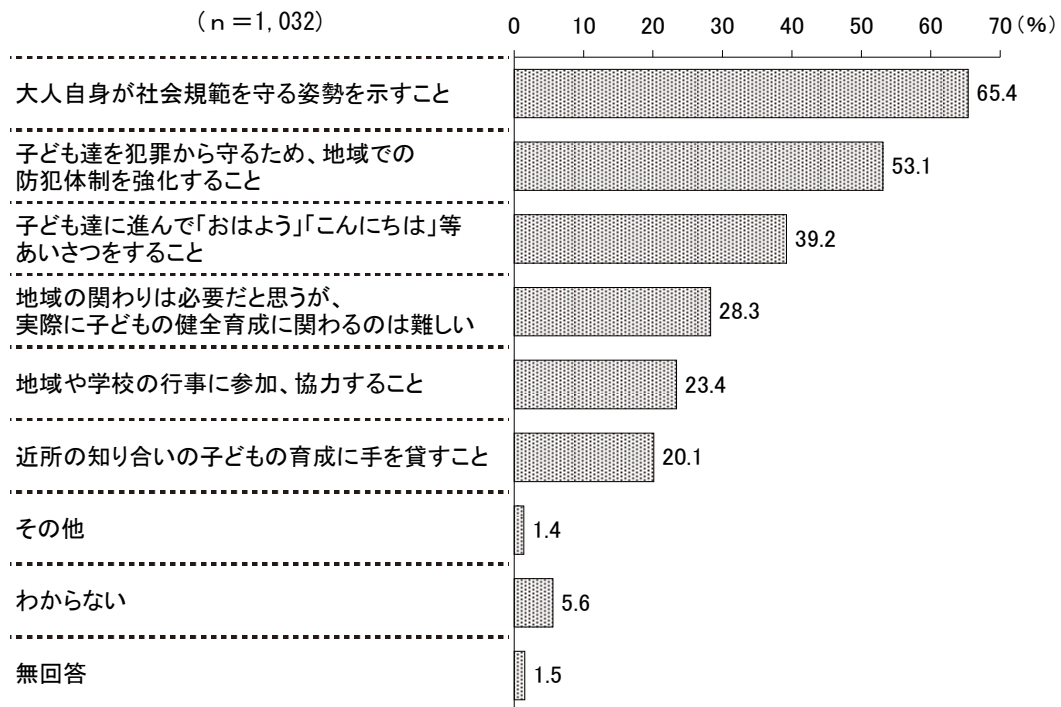


ライフステージ別にみると、「知っている」は家族成長後期で約6割と多くなっている。一方、「知らない」は家族形成期で7割近くと多くなっている。(図9-2-3)

9-3 青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきこと

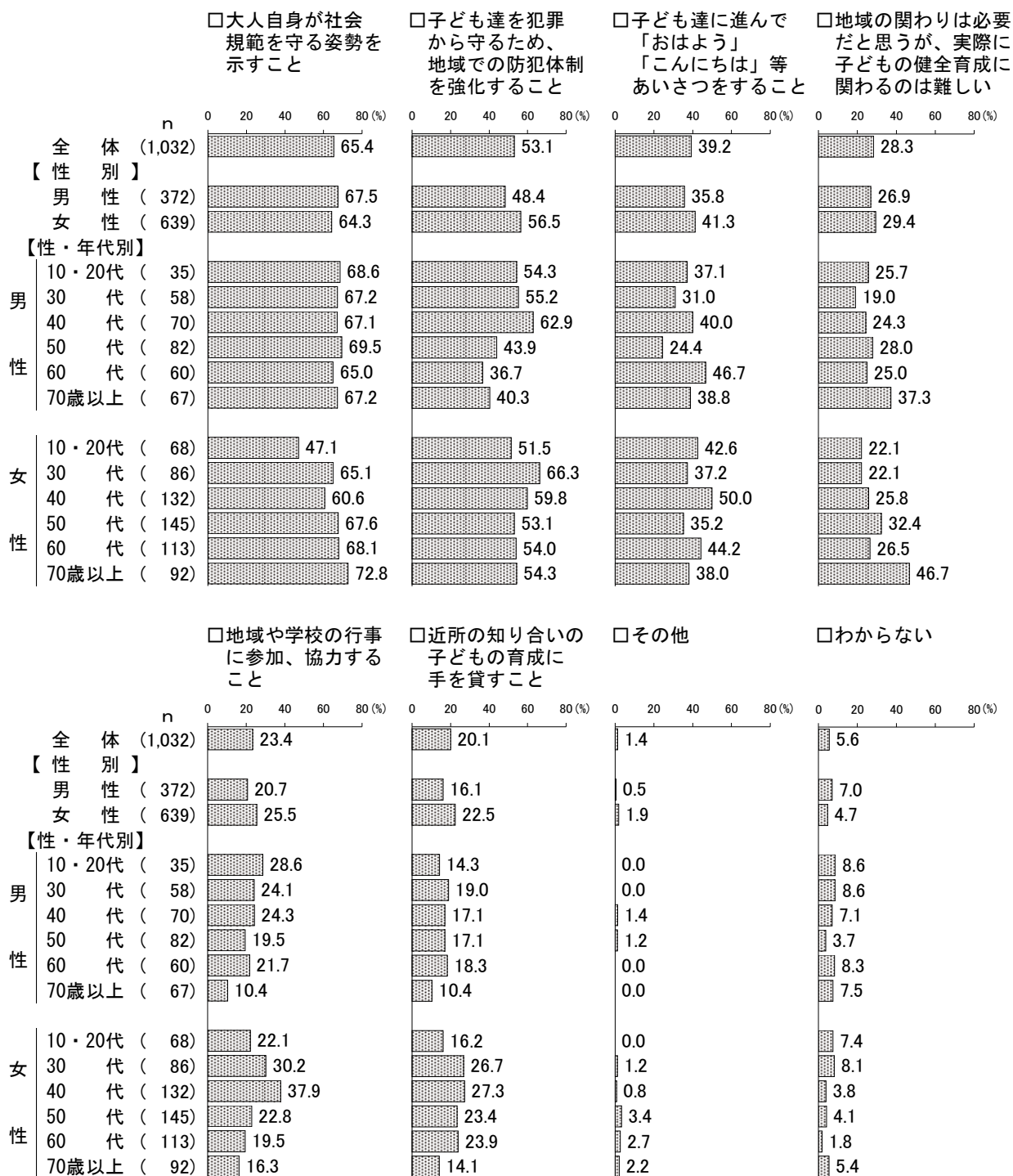
問36 青少年健全育成に関して地域の大人たちができること、またやるべきことは何だと思
いますか。(〇はいくつでも)

図9-3-1 青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきこと



青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきことについてたずねたところ、「大人自身が社会規範を守る姿勢を示すこと」(65.4%)が6割半ばで最も多く、次いで「子ども達を犯罪から守るため、地域での防犯体制を強化すること」(53.1%)、「子ども達に進んで『おはよう』『こんにちは』等あいさつをすること」(39.2%)、「地域の関わりは必要だと思うが、実際に子どもの健全育成に関わるのは難しい」(28.3%)などの順となっている。(図9-3-1)

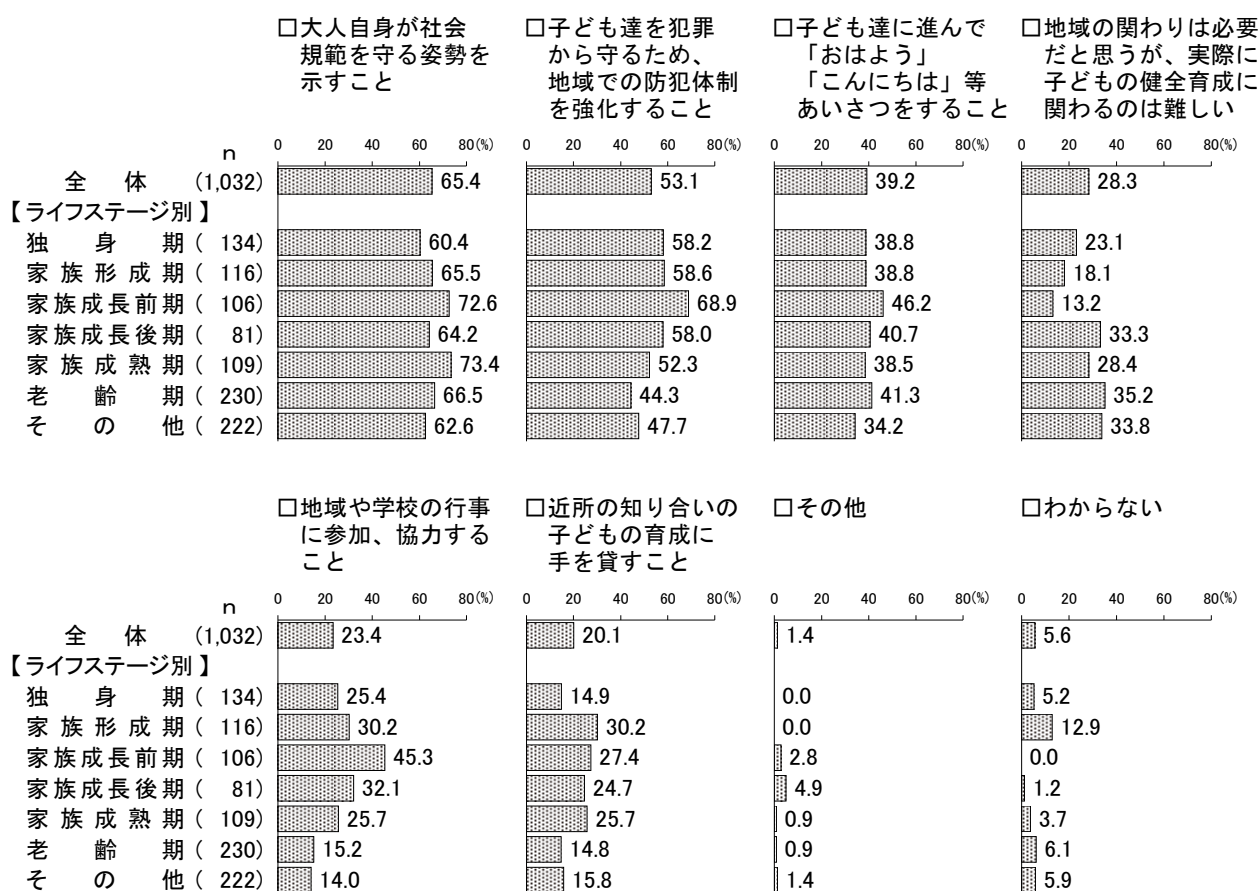
図9-3-2 青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきこと－性別／性・年代別



性別にみると、「子ども達を犯罪から守るため、地域での防犯体制を強化すること」は女性の方が男性より8.1ポイント、「近所の知り合いの子ども育成に手を貸すこと」は女性の方が男性より6.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「大人自身が社会規範を守る姿勢を示すこと」は女性70歳以上で7割を超えて多くなっている。「子ども達を犯罪から守るため、地域での防犯体制を強化すること」は女性30代で6割半ばと多くなっている。(図9-3-2)

図9-3-3 青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきこと—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「大人自身が社会規範を守る姿勢を示すこと」は家族成熟期と家族成長前期で7割を超えて多くなっている。「子ども達を犯罪から守るため、地域での防犯体制を強化すること」は家族成長前期で7割近くと多くなっている。「子ども達に進んで『おはよう』『こんにちは』等あいさつをすること」は家族成長前期で4割半ばと多くなっている。(図9-3-3)

10. 健康・保健

10-1 現在も引き続き行っている感染症対策

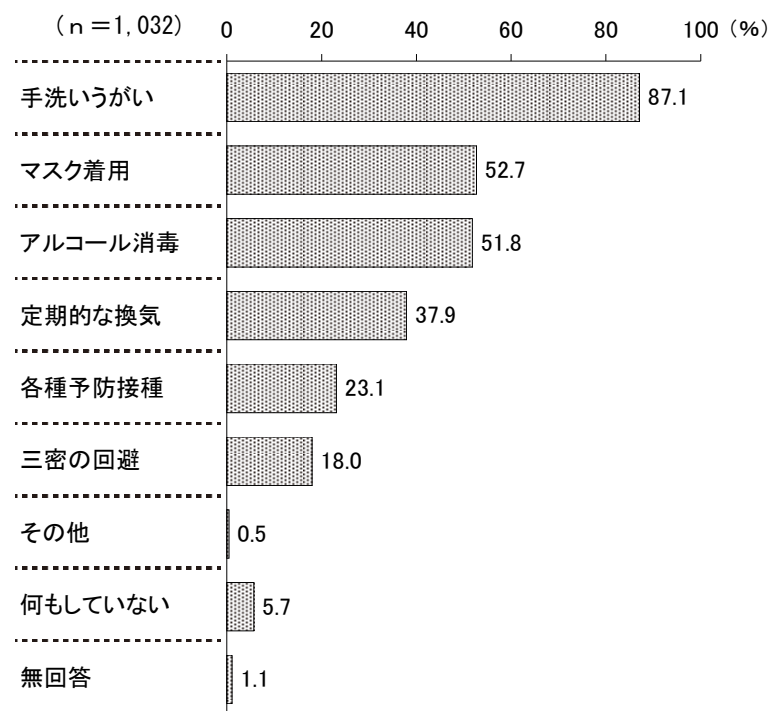
10-2 区の保健医療施策に関する情報の入手方法

10. 健康・保健

10-1 現在も引き続き行っている感染症対策

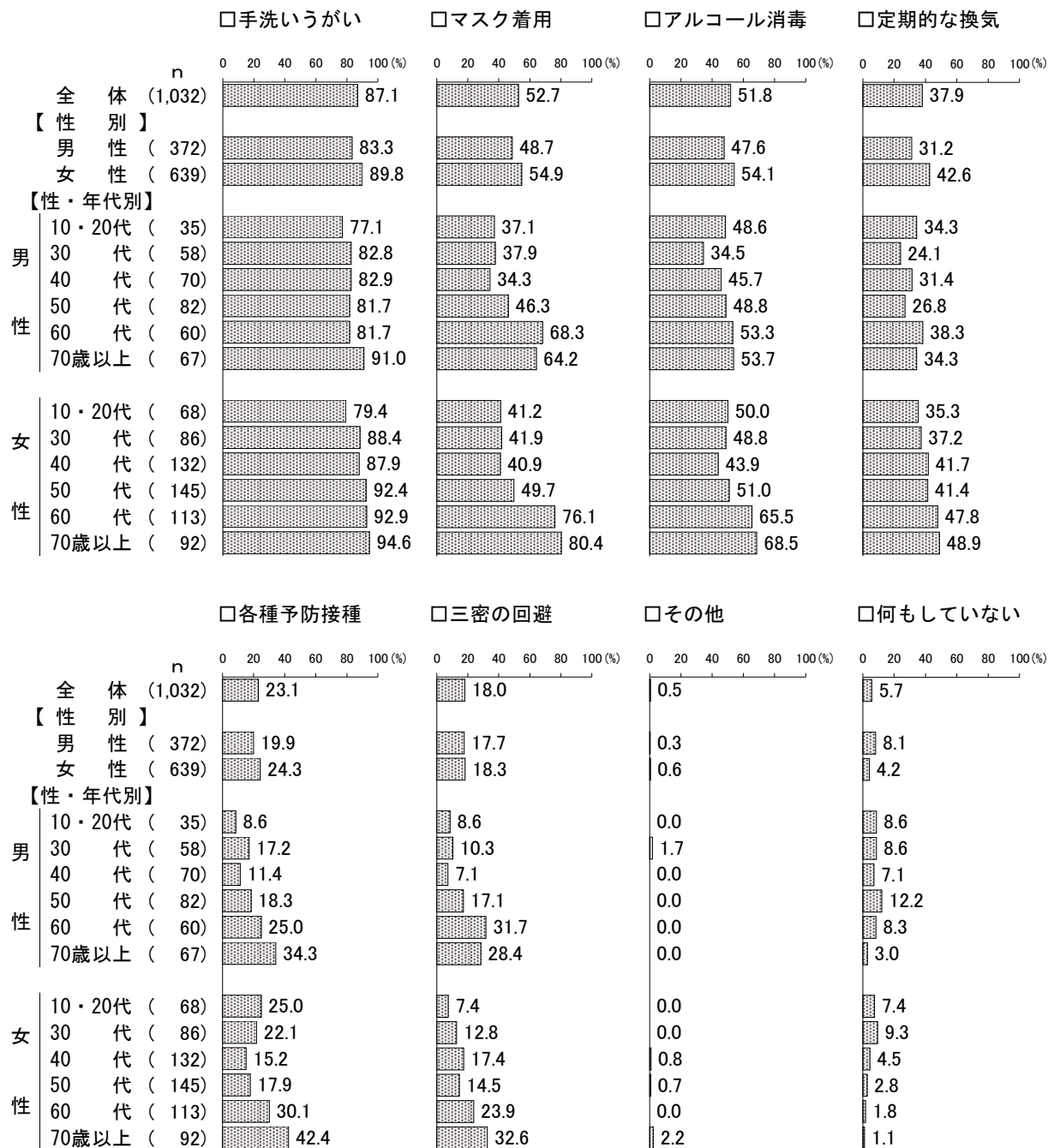
問37 新型コロナウイルス感染症流行時に予防のために行っていた対策で、現在も引き続き行っている感染症対策は何ですか。(〇はいくつでも)

図10-1-1 現在も引き続き行っている感染症対策



現在も引き続き行っている感染症対策についてたずねたところ、「手洗いうがい」(87.1%)が9割近くで最も多く、次いで「マスク着用」(52.7%)、「アルコール消毒」(51.8%)、「定期的な換気」(37.9%)などの順となっている。(図10-1-1)

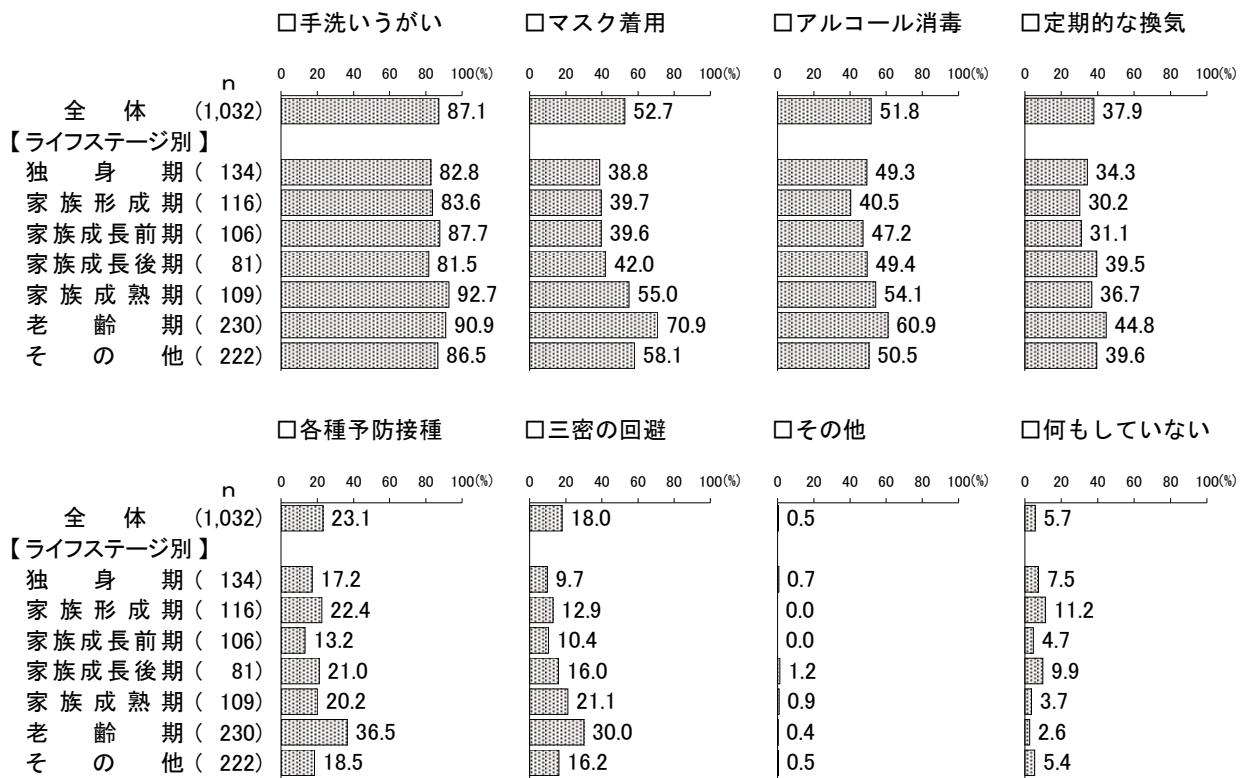
図10-1-2 現在も引き続き行っている感染症対策—性別／性・年代別



性別にみると、全ての項目で女性の方が男性より高くなっており、特に「定期的な換気」で11.4ポイント、「手洗いうがい」と「アルコール消毒」でともに6.5ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「手洗いうがい」は女性70歳以上で9割半ばと多くなっている。「マスク着用」は女性70歳以上で8割と多くなっている。「アルコール消毒」は女性70歳以上で7割近くと多くなっている。(図10-1-2)

図10-1-3 現在も引き続き行っている感染症対策—ライフステージ別

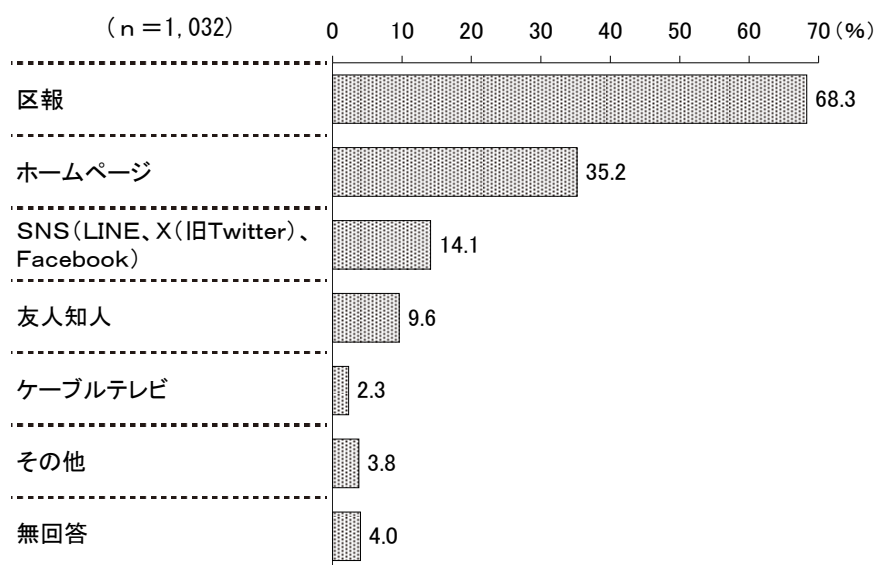


ライフステージ別にみると、「手洗いうがい」は家族成熟期で9割を超えて多くなっている。「マスク着用」は老齢期で約7割と多くなっている。「アルコール消毒」は老齢期で約6割と多くなっている。(図10-1-3)

10-2 区の保健医療施策に関する情報の入手方法

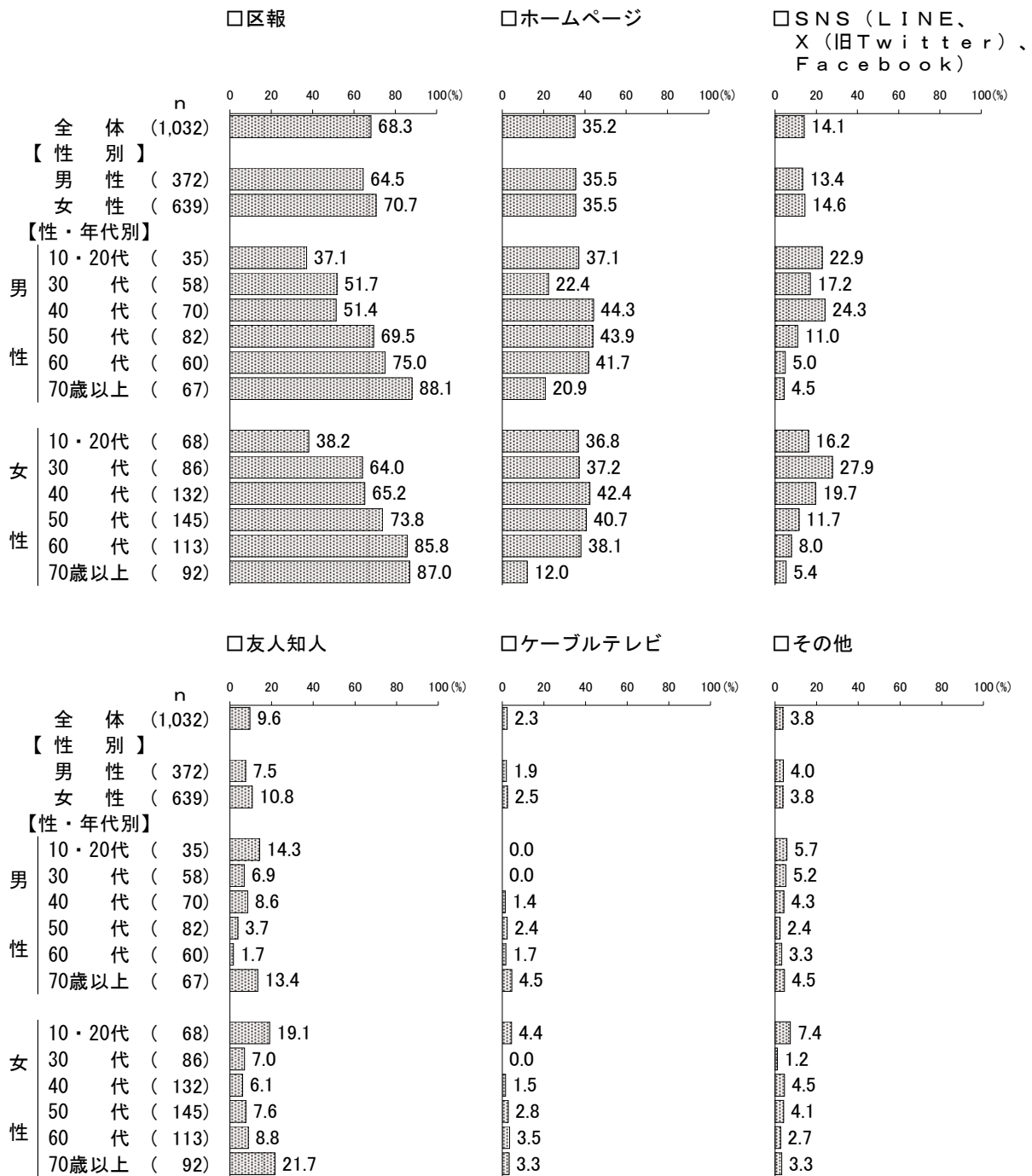
問38 区の保健医療施策（感染症、検診、予防接種、健康づくりなど）に関する情報をどのような方法で入手していますか。（○はいくつでも）

図10-2-1 区の保健医療施策に関する情報の入手方法



区の保健医療施策に関する情報の入手方法についてたずねたところ、「区報」(68.3%)が7割近くで最も多く、次いで「ホームページ」(35.2%)、「SNS(LINE、X(旧Twitter)、Facebook)」(14.1%)、「友人知人」(9.6%)などの順となっている。(図10-2-1)

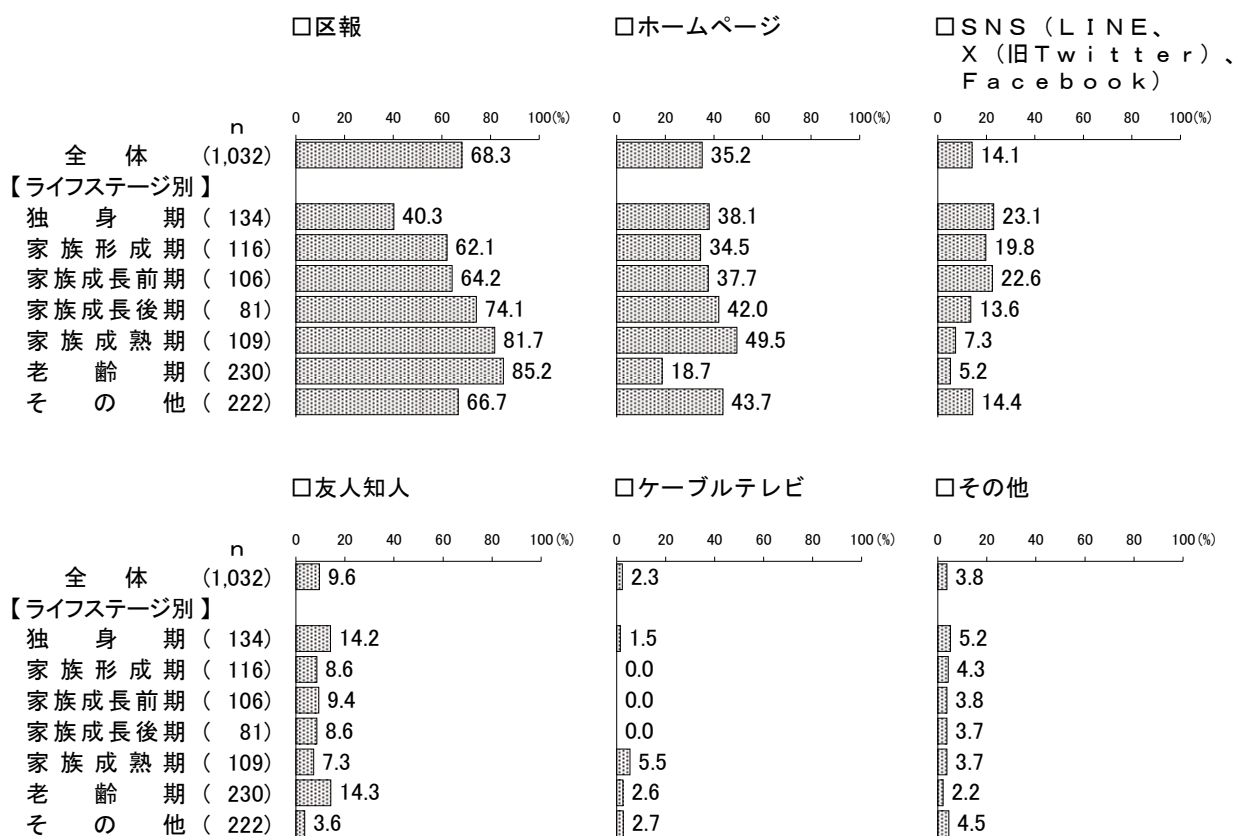
図10-2-2 区の保健医療施策に関する情報の入手方法—性別／性・年代別



性別にみると、「区報」は女性の方が男性より6.2ポイント、「友人知人」は女性の方が男性より3.3ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「区報」は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が高く、男女ともに70歳以上で9割近くとなっている。「ホームページ」は男性40代で4割半ばと多くなっている。「SNS (LINE、X (旧Twitter)、Facebook)」は女性30代で3割近くと多くなっている。(図10-2-2)

図10-2-3 区の保健医療施策に関する情報の入手方法—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「区報」は老齢期で8割半ばと多くなっている。「ホームページ」は家族成熟期で5割と多くなっている。「SNS (LINE、X (旧Twitter)、Facebook)」は独身期と家族成長前期で2割を超えて多くなっている。(図10-2-3)

11. 住環境・まちづくり

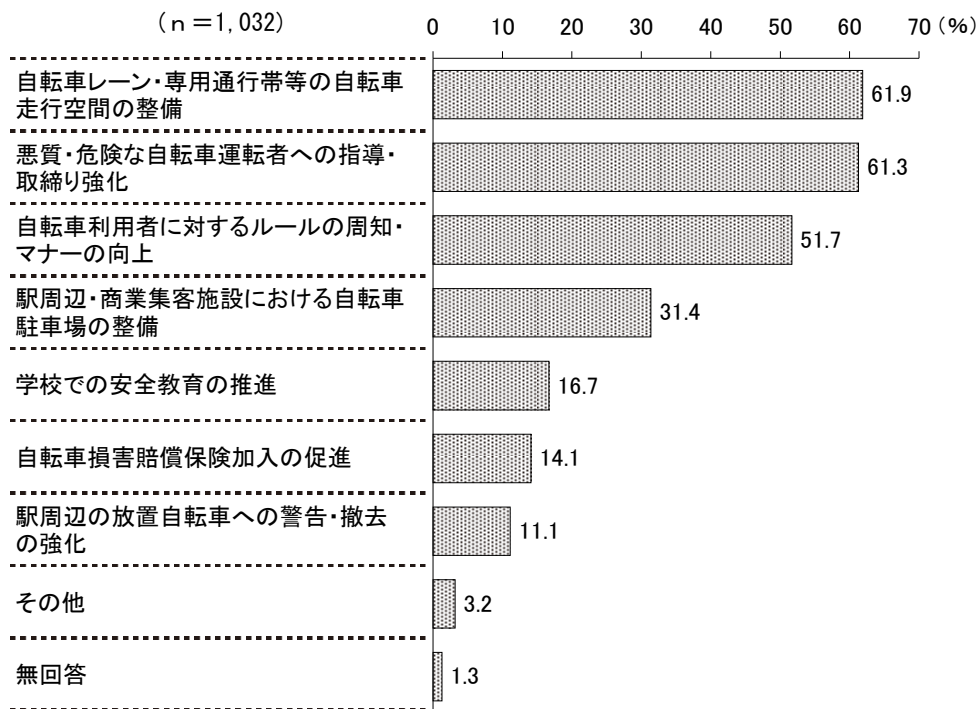
-
- 11-1 自転車の安全利用対策
 - 11-2 公園再整備にあたり求める役割
 - 11-3 「文京区公共の場所における喫煙等の禁止に関する条例」の認知度
-

11. 住環境・まちづくり

11-1 自転車の安全利用対策

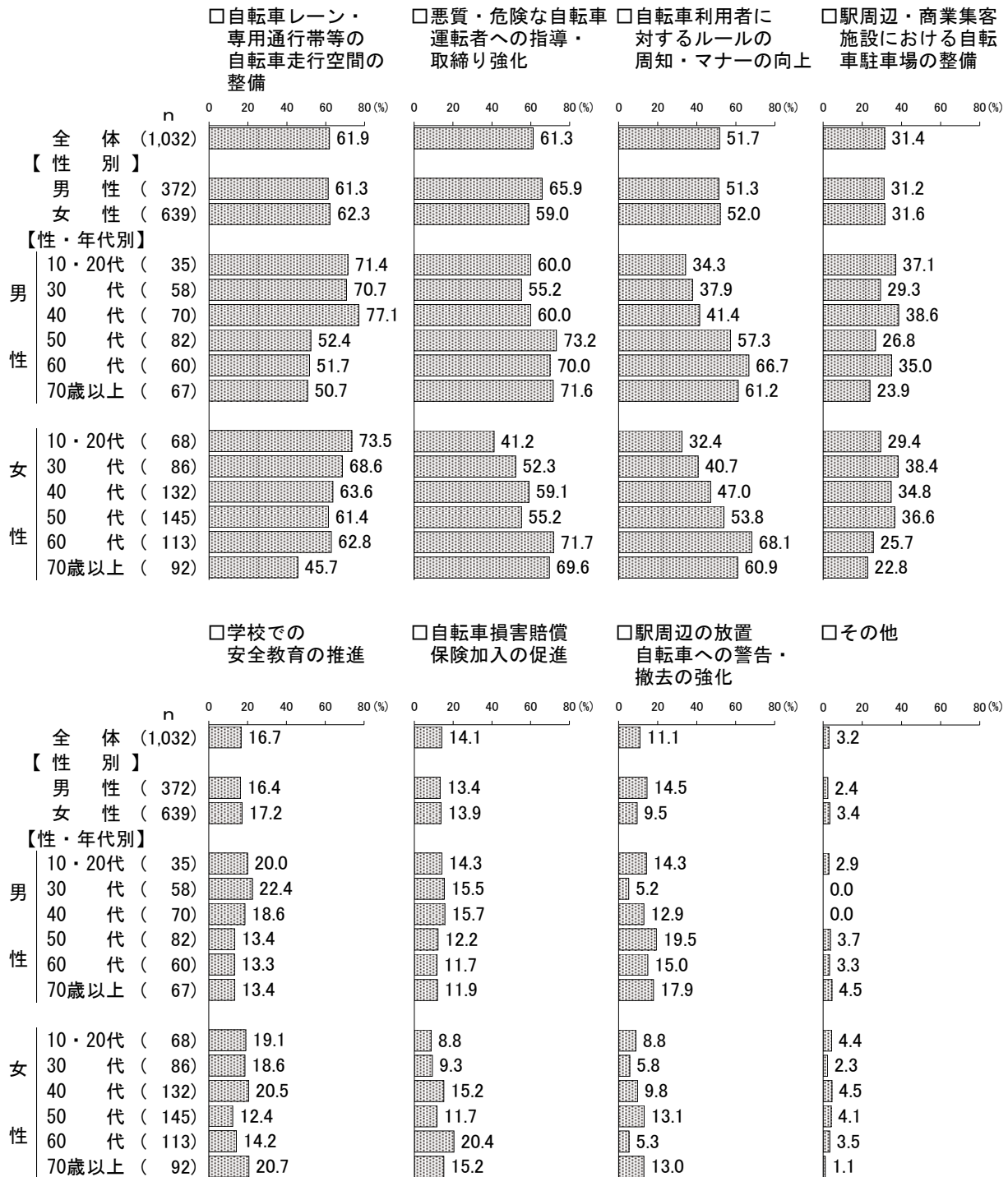
問39 自転車の安全利用推進のために、重点を置くべきと思う施策について、3つ以内で選びください。(〇は3つまで)

図11-1-1 自転車の安全利用対策



自転車の安全利用推進のために、重点を置くべきと思う施策についてたずねたところ、「自転車レーン・専用通行帯等の自転車走行空間の整備」(61.9%)が6割を超えて最も多く、次いで「悪質・危険な自転車運転者への指導・取締り強化」(61.3%)、「自転車利用者に対するルールの周知・マナーの向上」(51.7%)、「駅周辺・商業集客施設における自転車駐車場の整備」(31.4%)などの順となっている。(図11-1-1)

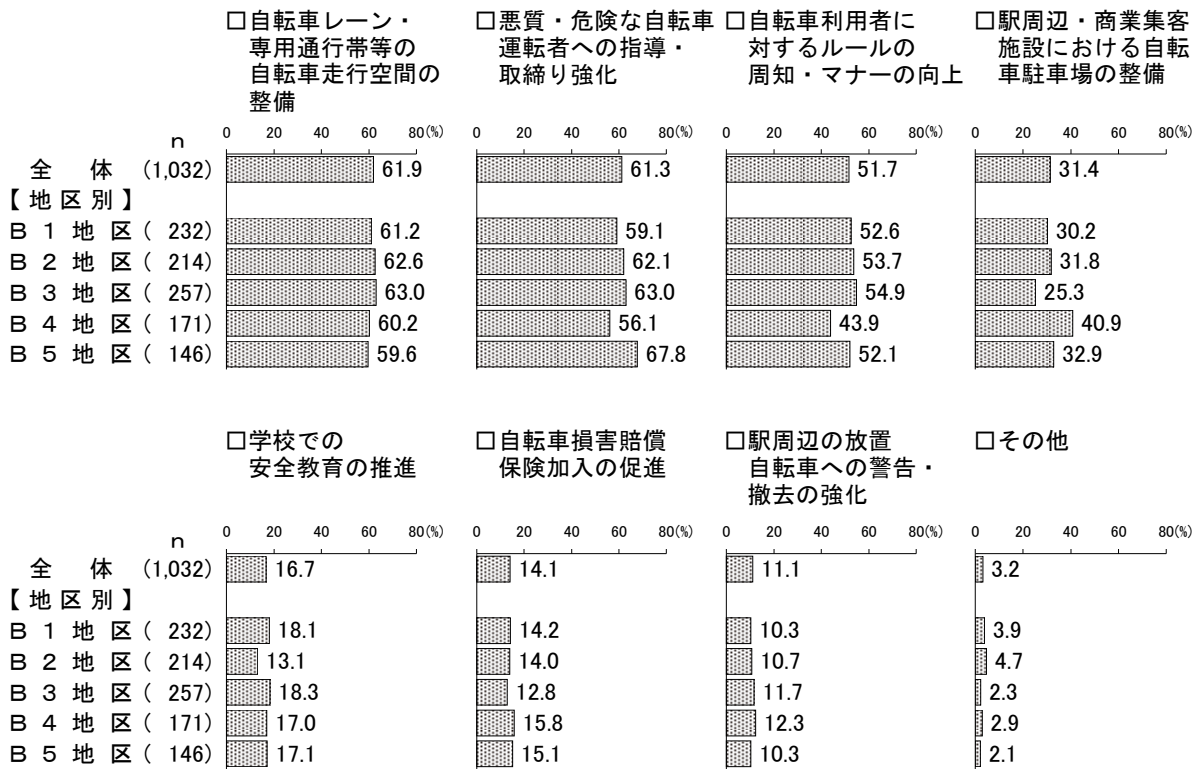
図11-1-2 自転車の安全利用対策—性別／性・年代別



性別にみると、「悪質・危険な自転車運転者への指導・取締り強化」は男性の方が女性より6.9ポイント、「駅周辺の放置自転車への警告・撤去の強化」は男性の方が女性より5.0ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「自転車レーン・専用通行帯等の自転車走行空間の整備」は男性40代で8割近くと多くなっている。「悪質・危険な自転車運転者への指導・取締り強化」は男性の50代以上の年代、女性60代で7割台と多くなっている。「自転車利用者に対するルールへの周知・マナーの向上」は男女ともに60代で7割近くと多くなっている。(図11-1-2)

図11-1-3 自転車の安全利用対策—地区別



地区別にみると、「悪質・危険な自転車運転者への指導・取締り強化」はB 5地区で7割近くと多くなっている。「自転車利用者に対するルールへの周知・マナーの向上」はB 3地区で5割半ばと多くなっている。「駅周辺・商業集客施設における自転車駐車場の整備」はB 4地区で約4割と多くなっている。(図11-1-3)

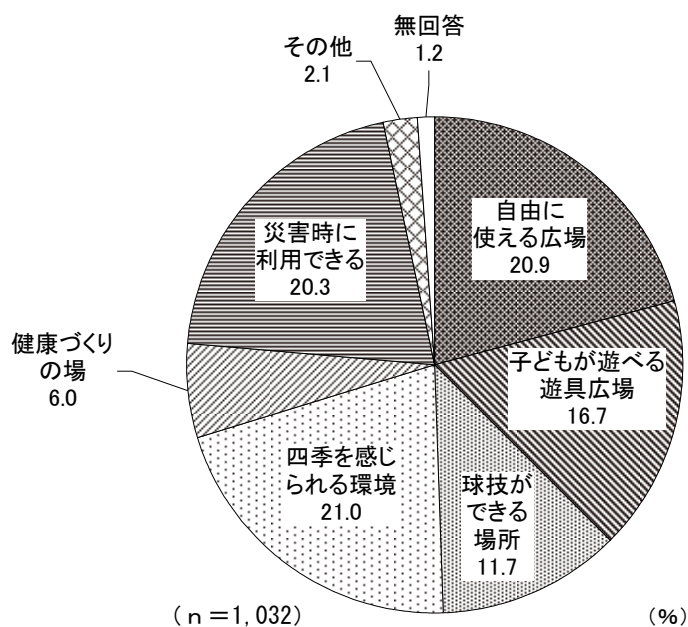
※地区区分は4ページ参照

11-2 公園再整備にあたり求める役割

問40 公園再整備にあたり、求める役割は何ですか。次の中から1つお選びください。

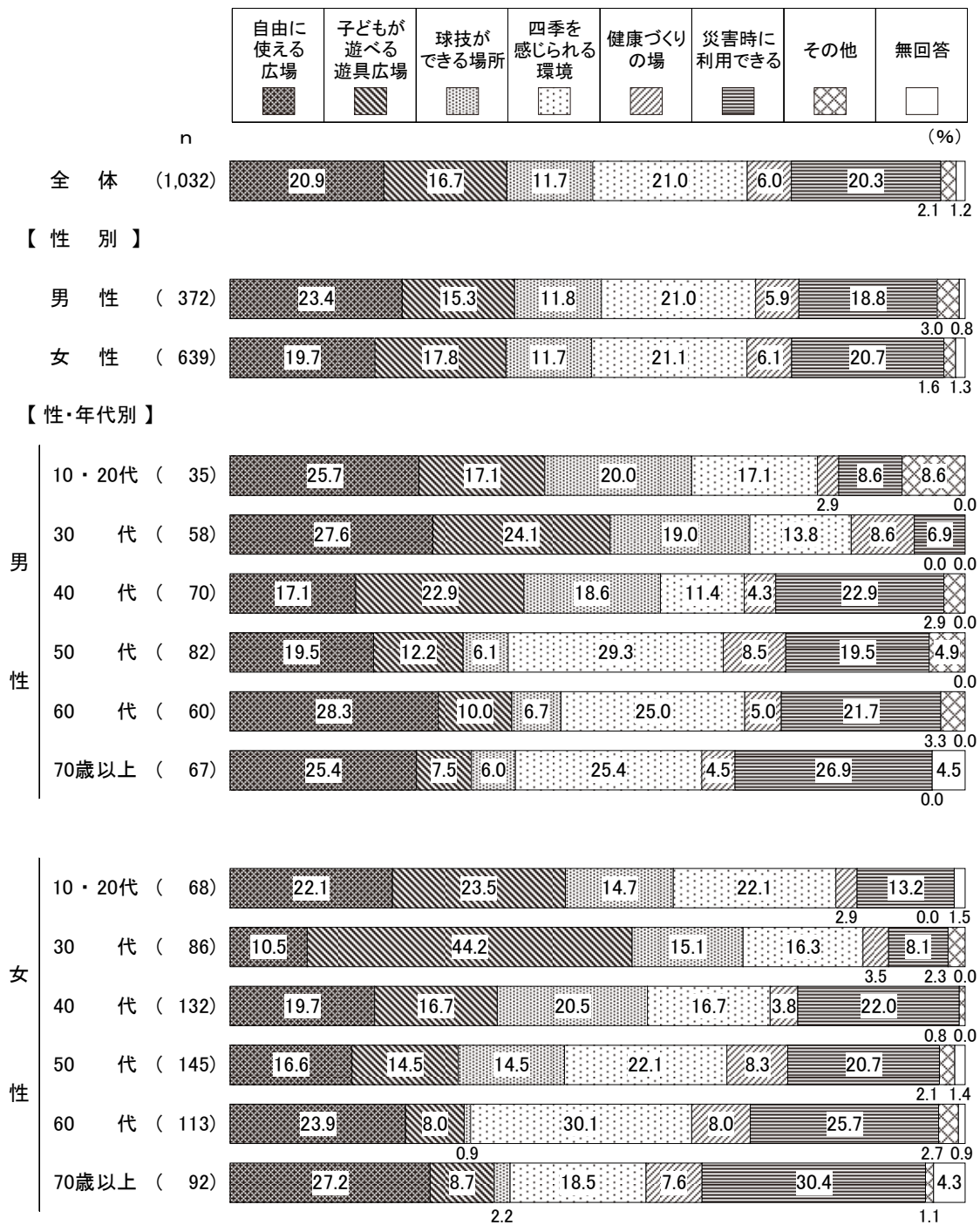
(○は1つ)

図11-2-1 公園再整備にあたり求める役割



公園再整備にあたり、求める役割についてたずねたところ、「四季を感じられる環境」(21.0%)が2割を超えて最も多く、次いで「自由に使える広場」(20.9%)、「災害時に利用できる」(20.3%)、「子どもが遊べる遊具広場」(16.7%)などの順となっている。(図11-2-1)

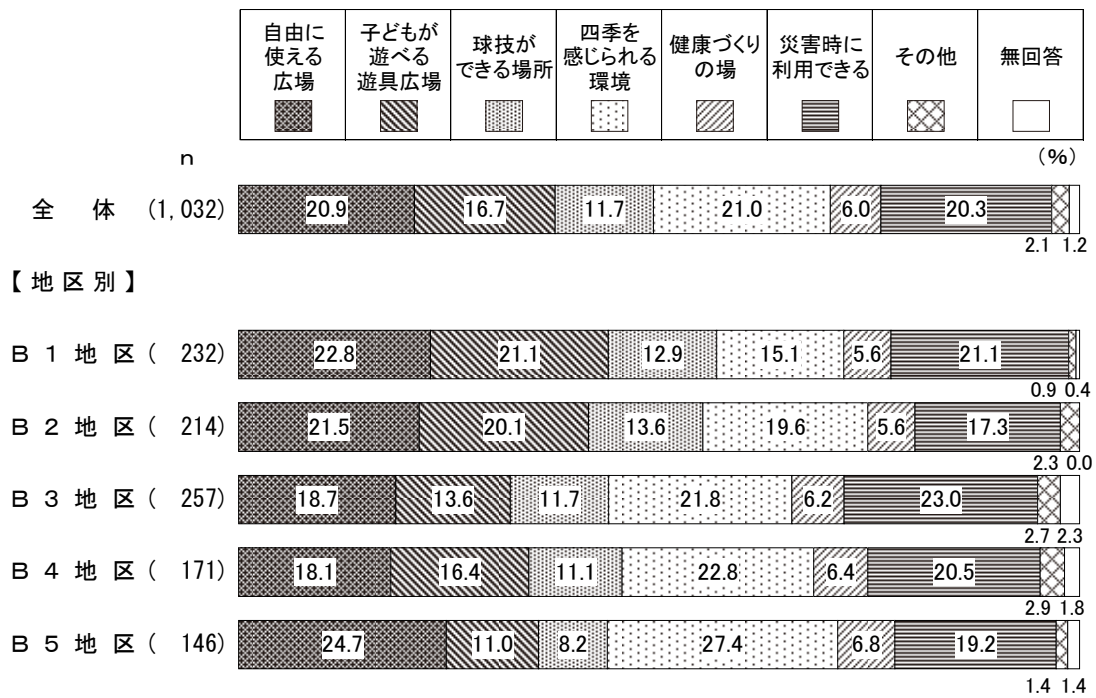
図11-2-2 公園再整備にあたり求める役割—性別／性・年代別



性別にみると、「自由に使える広場」は男性の方が女性より3.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「自由に使える広場」は男性の30代と60代、女性70歳以上で3割近くと多くなっている。「子どもが遊べる遊具広場」は女性30代で4割半ばと多くなっている。「四季を感じられる環境」は女性60代と男性50代で約3割と多くなっている。「災害時に利用できる」は女性70歳以上で3割と多くなっている。(図11-2-2)

図11-2-3 公園再整備にあたり求める役割—地区別



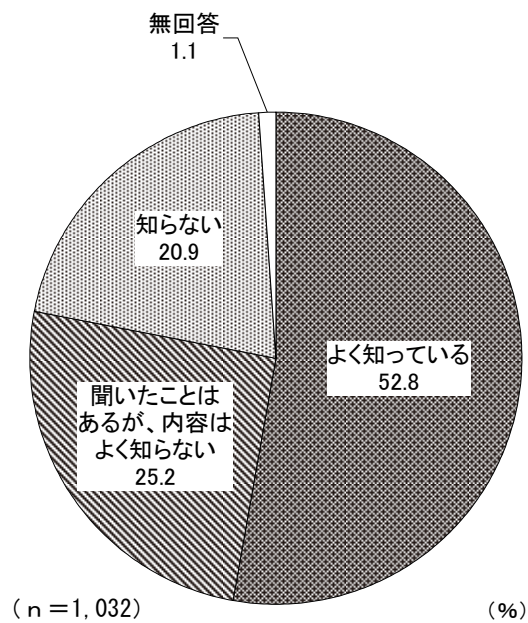
地区別にみると、「自由に使える広場」はB 5地区で2割半ばと多くなっている。「四季を感じられる環境」はB 5地区で3割近くと多くなっている。「災害時に利用できる」はB 1地区とB 3地区で2割を超えて多くなっている。(図11-2-3)

※地区区分は4ページ参照

11-3 「文京区公共の場所における喫煙等の禁止に関する条例」の認知度

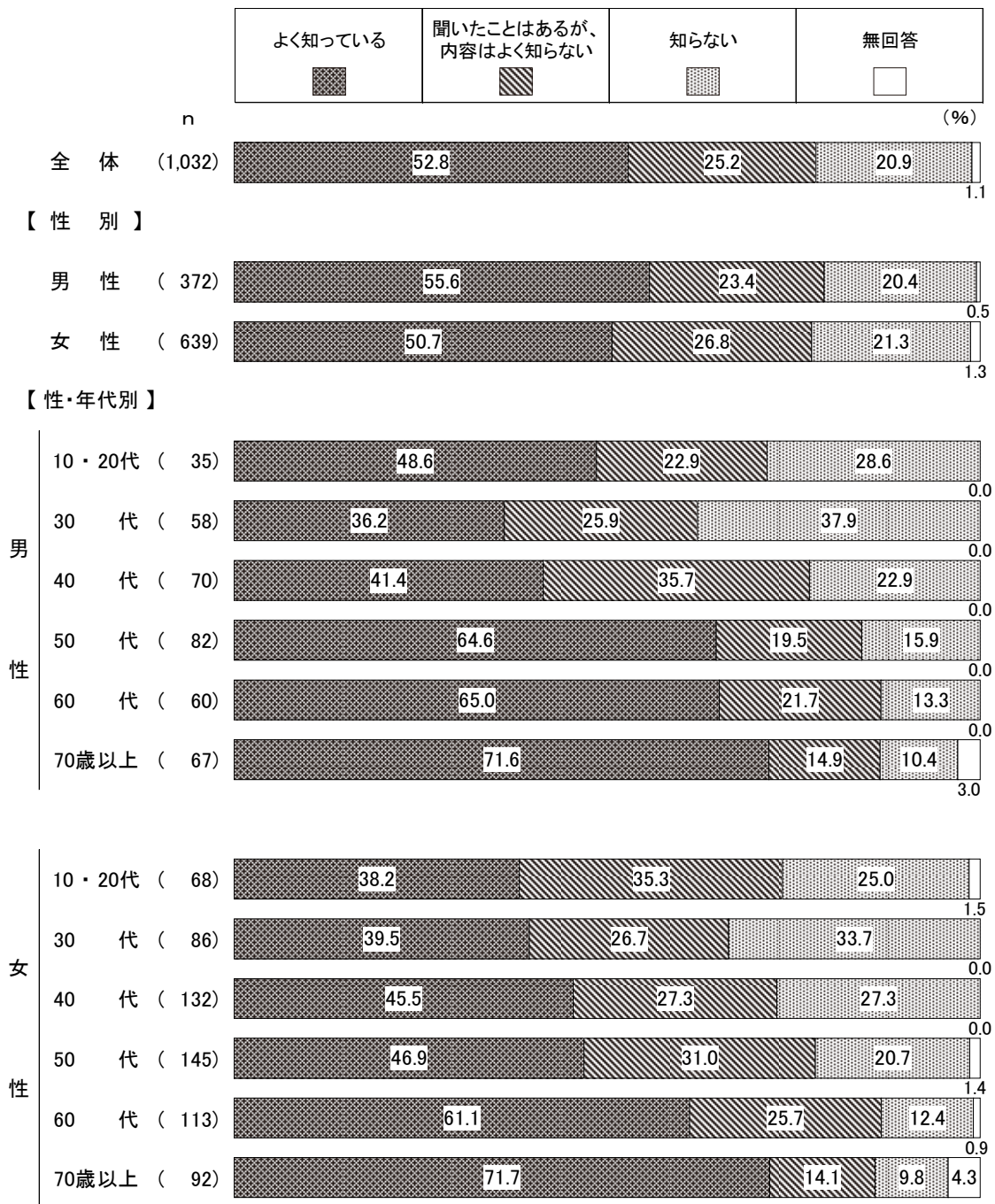
問41 令和2年7月から「文京区公共の場所における喫煙等の禁止に関する条例」が施行され、区内全域の道路や公園など、屋外の公共の場所での喫煙・ポイ捨てが禁止となりました。このことを知っていますか。(○は1つ)

図11-3-1 「文京区公共の場所における喫煙等の禁止に関する条例」の認知度



「文京区公共の場所における喫煙等の禁止に関する条例」の認知度についてたずねたところ、「よく知っている」(52.8%)が5割を超え、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」(25.2%)は2割半ばとなっている。一方、「知らない」(20.9%)は約2割となっている。(図11-3-1)

図11-3-2 「文京区公共の場所における喫煙等の禁止に関する条例」の認知度—性別／性・年代別

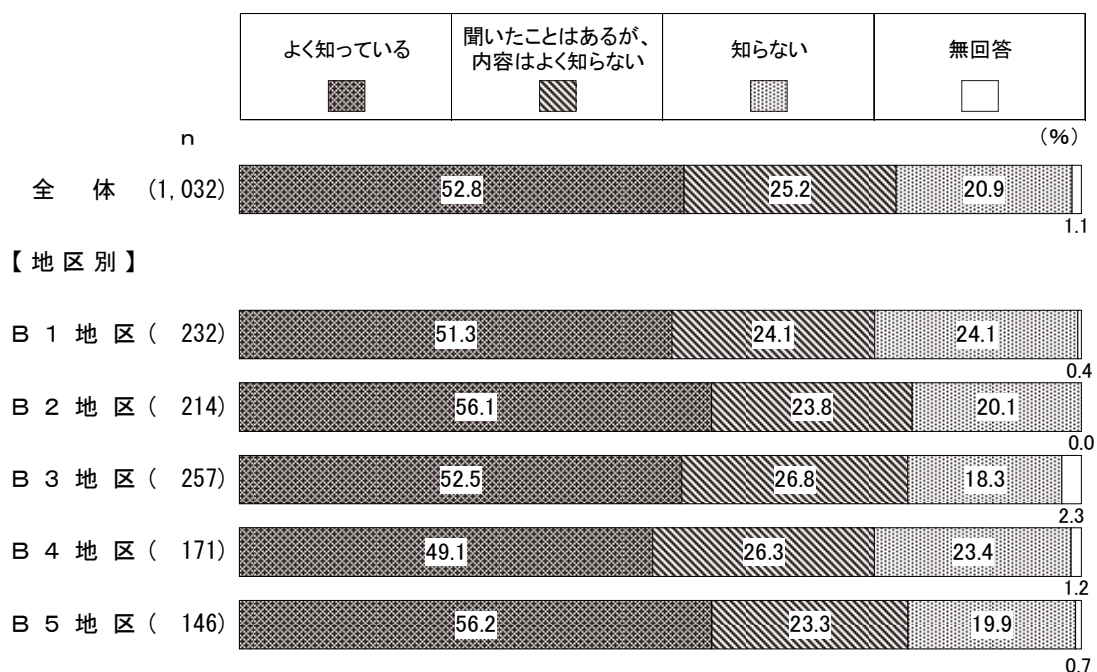


性別にみると、「よく知っている」は男性の方が女性より4.9ポイント高くなっている。一方、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」は女性の方が男性より3.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「よく知っている」は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が高く、男女ともに70歳以上で7割を超えている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」は男性40代と女性10・20代で3割半ばと多くなっている。「知らない」は男性30代で4割近くと多くなっている。

(図11-3-2)

図11-3-3 「文京区公共の場所における喫煙等の禁止に関する条例」の認知度—地区別



地区別にみると、「よく知っている」はB 2地区とB 5地区で5割半ばと多くなっている。「知らない」はB 1地区で2割半ばと多くなっている。(図11-3-3)

※地区区分は4ページ参照

12. 環境・循環型社会

12-1 環境について知りたい情報

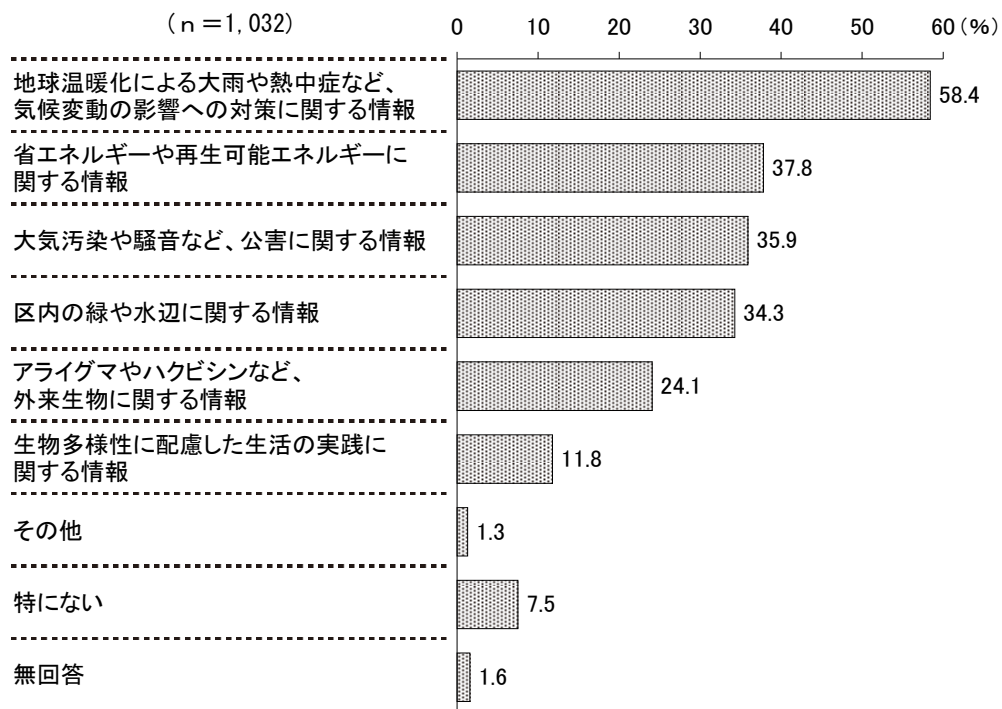
12-2 ごみ減量のために取り組むべきこと

12. 環境・循環型社会

12-1 環境について知りたい情報

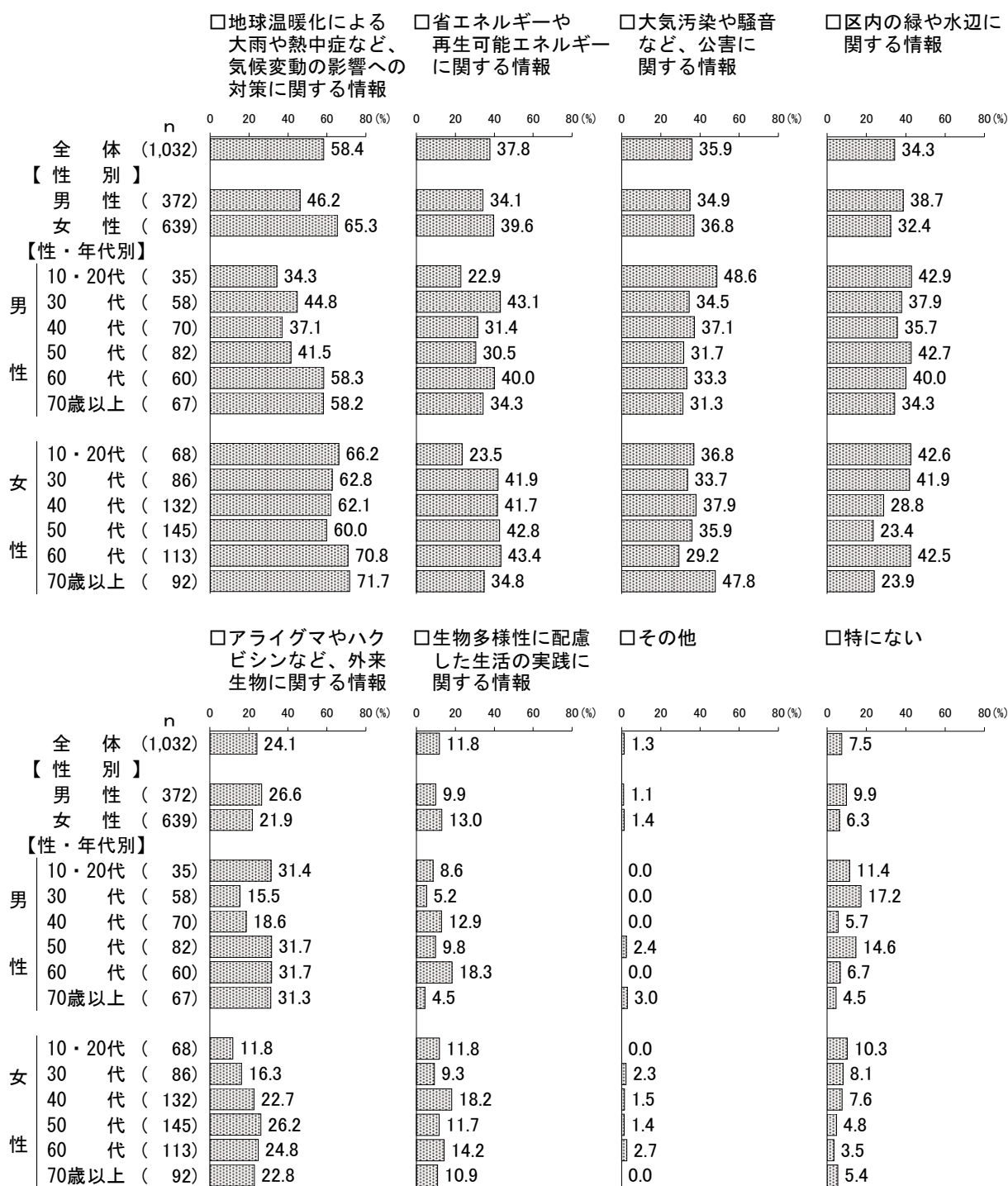
問42 環境について、あなたが知りたいと考えるものは何ですか。次の中からあてはまるものを3つ以内でお選びください。(〇は3つまで)

図12-1-1 環境について知りたい情報



環境について知りたい情報についてたずねたところ、「地球温暖化による大雨や熱中症など、気候変動の影響への対策に関する情報」(58.4%)が6割近くで最も多く、次いで「省エネルギーや再生可能エネルギーに関する情報」(37.8%)、「大気汚染や騒音など、公害に関する情報」(35.9%)、「区内の緑や水辺に関する情報」(34.3%)などの順となっている。(図12-1-1)

図12-1-2 環境について知りたい情報－性別／性・年代別



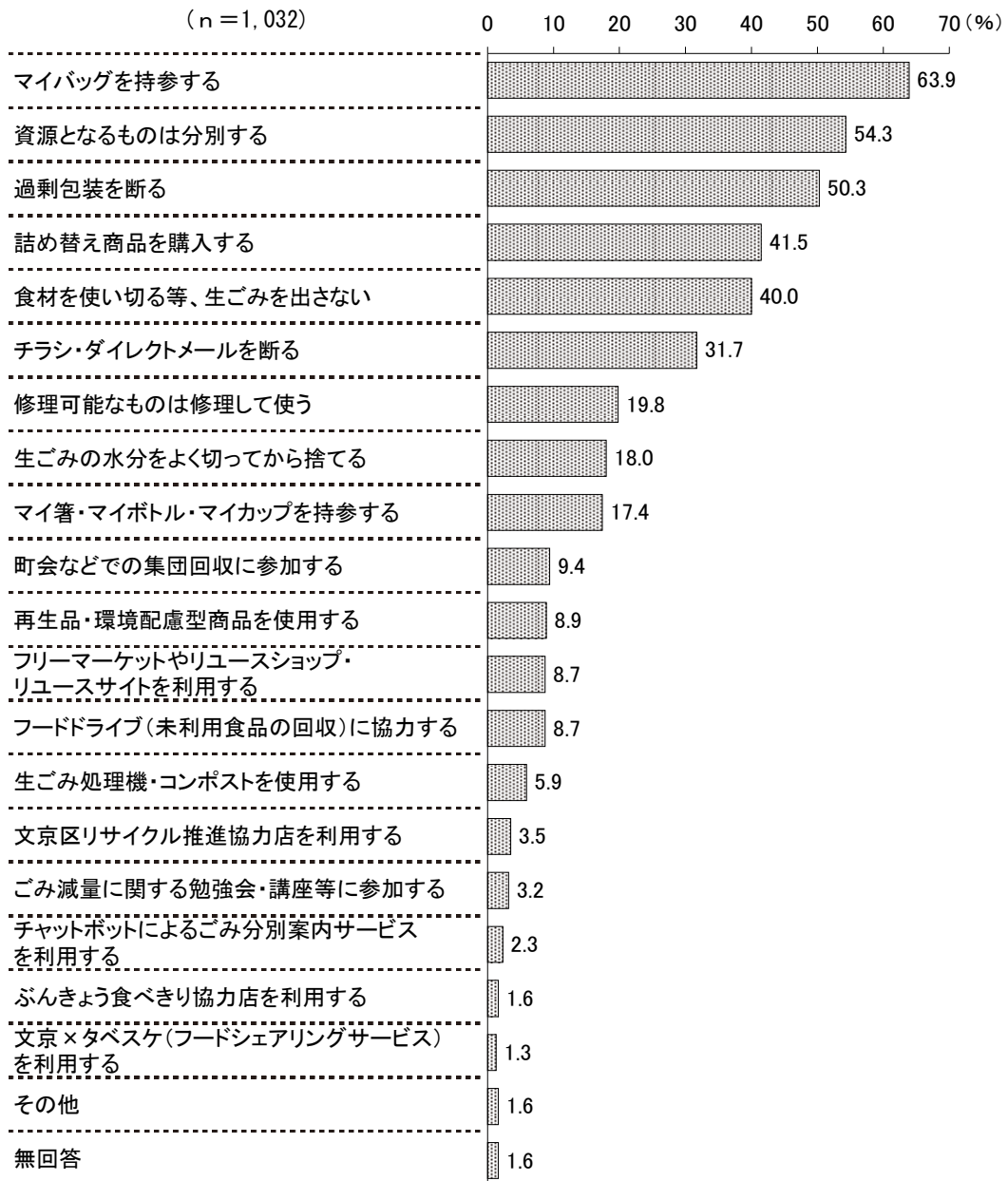
性別にみると、「地球温暖化による大雨や熱中症など、気候変動の影響への対策に関する情報」は女性の方が男性より19.1ポイント高くなっている。一方、「区内の緑や水辺に関する情報」は男性の方が女性より6.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「地球温暖化による大雨や熱中症など、気候変動の影響への対策に関する情報」は女性の60代以上の年代で7割台と多くなっている。「大気汚染や騒音など、公害に関する情報」は男性10・20代と女性70歳以上で5割近くと多くなっている。(図12-1-2)

12-2 ごみ減量のために取り組むべきこと

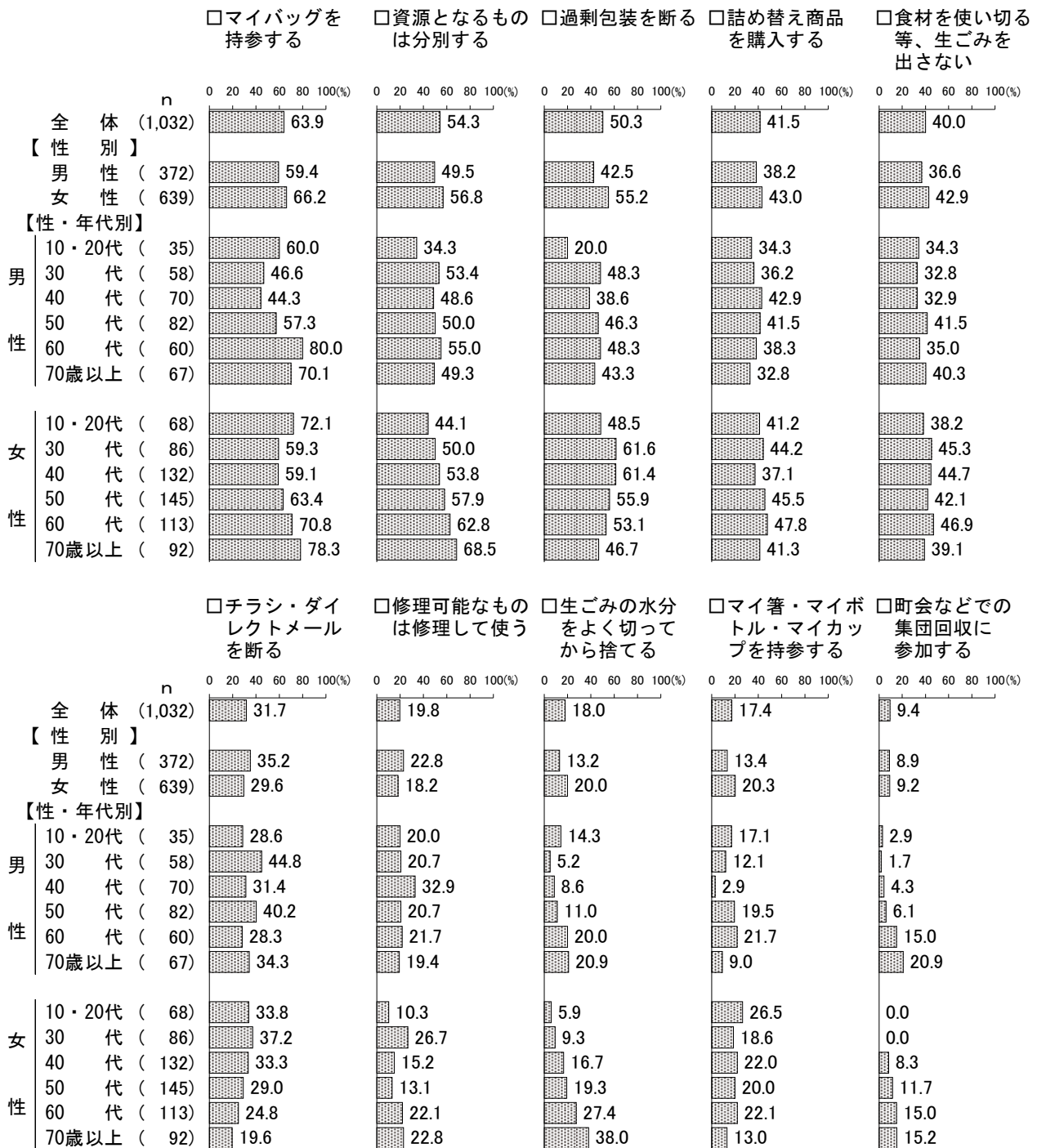
問43 文京区一般廃棄物処理基本計画（モノ・プラン文京）では、ごみ量について、令和3年度から12年度までの10年間で、区民1人1日当たりの総排出量及び家庭ごみ排出量の約20%削減を目標としています。あなたは、この目標を達成するために、どのようなことを実践すると良いとお考えですか。5つ以内でお選びください。（〇は5つまで）

図12-2-1 ごみ減量のために取り組むべきこと



ごみ減量のために取り組むべきことについてたずねたところ、「マイバッグを持参する」(63.9%)が6割を超えて最も多く、次いで「資源となるものは分別する」(54.3%)、「過剰包装を断る」(50.3%)、「詰め替え商品を購入する」(41.5%)などの順となっている。(図12-2-1)

図12-2-2 ごみ減量のために取り組むべきこと－性別／性・年代別（上位10項目）



上位10項目を性別にみると、多くの項目で女性の方が男性より高くなっており、特に「過剰包装を断る」で12.7ポイント、「資源となるものは分別する」で7.3ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「マイバッグを持参する」は男性60代で8割と多くなっている。「資源となるものは分別する」は女性70歳以上で7割近くと多くなっている。「過剰包装を断る」は女性の30代と40代で6割を超えて多くなっている。(図12-2-2)

13. 議会

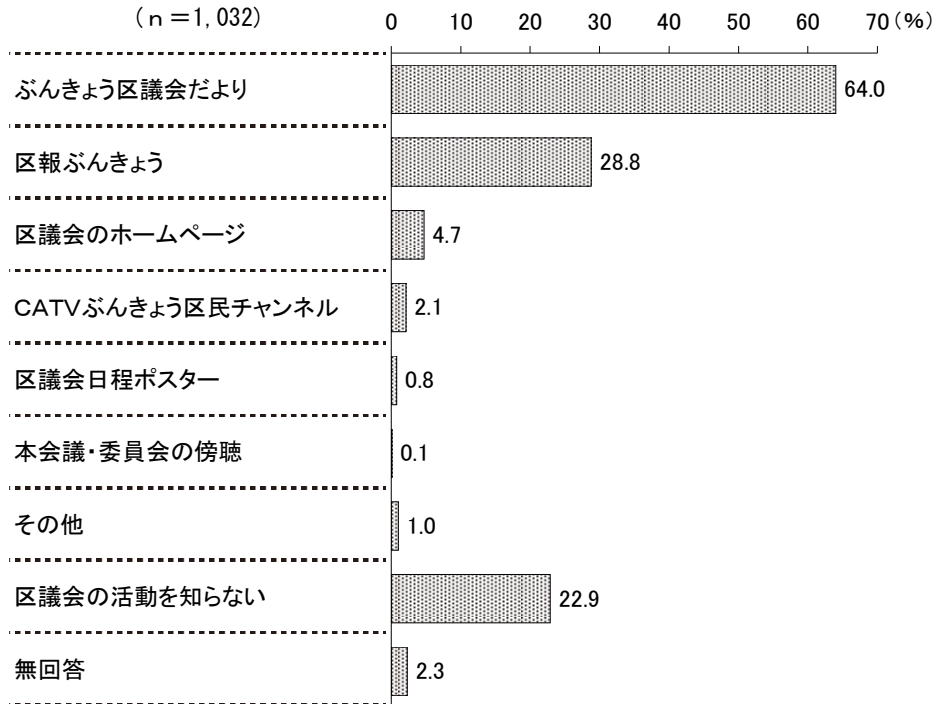
-
- 13-1 区議会の活動の認知媒体
 - 13-2 区議会の活動として期待すること
 - 13-3 区議会ホームページの閲覧頻度
-

13. 議会

13-1 区議会の活動の認知媒体

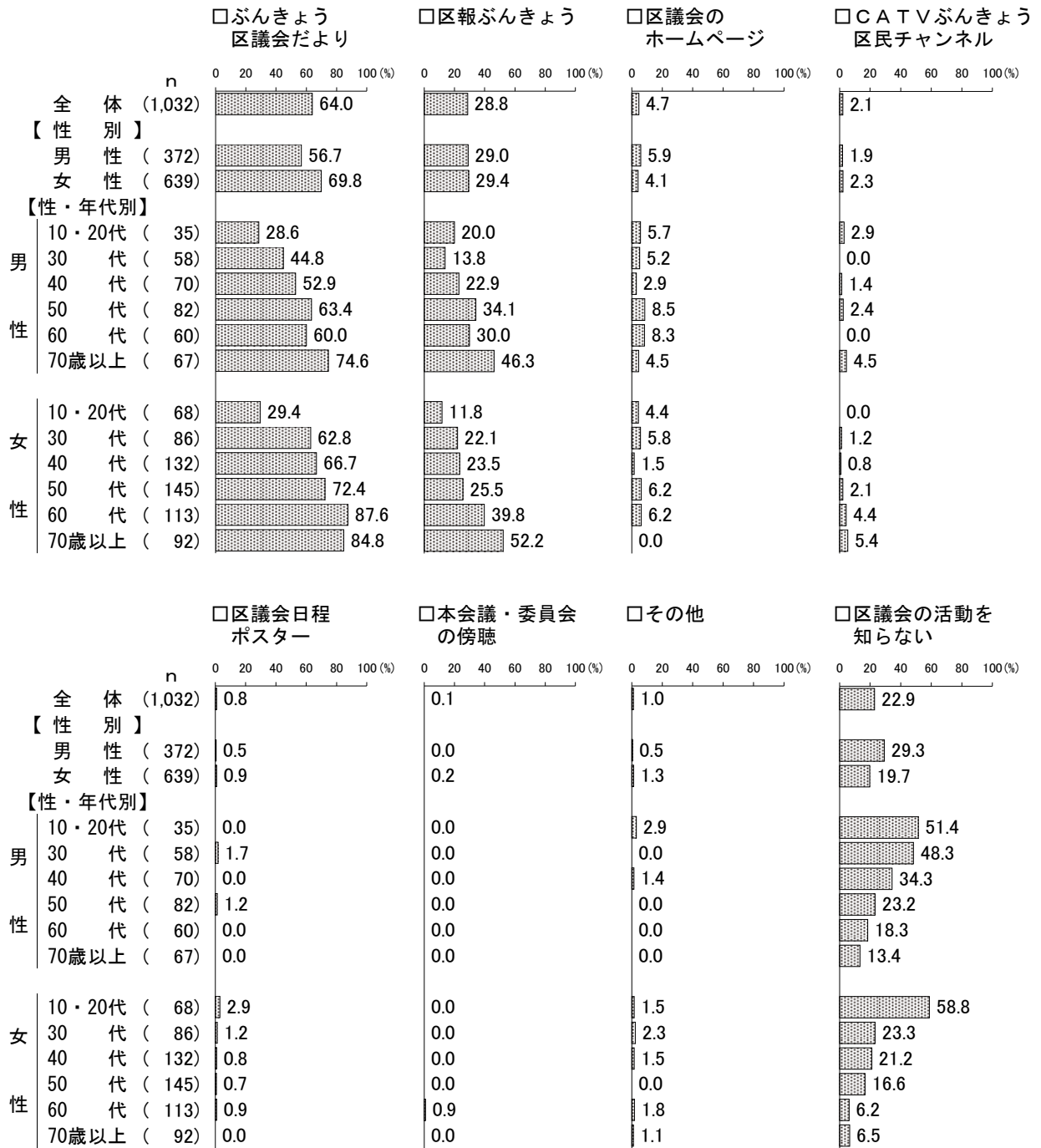
問44 区議会の活動を、どのようにしてお知りになっていますか。(〇はいくつでも)

図13-1-1 区議会の活動の認知媒体



区議会の活動の認知媒体についてたずねたところ、「ぶんきょう区議会だより」(64.0%)が6割半ばで最も多く、次いで「区報ぶんきょう」(28.8%)、「区議会のホームページ」(4.7%)などの順となっている。一方、「区議会の活動を知らない」(22.9%)は2割を超えている。(図13-1-1)

図13-1-2 区議会の活動の認知媒体－性別／性・年代別



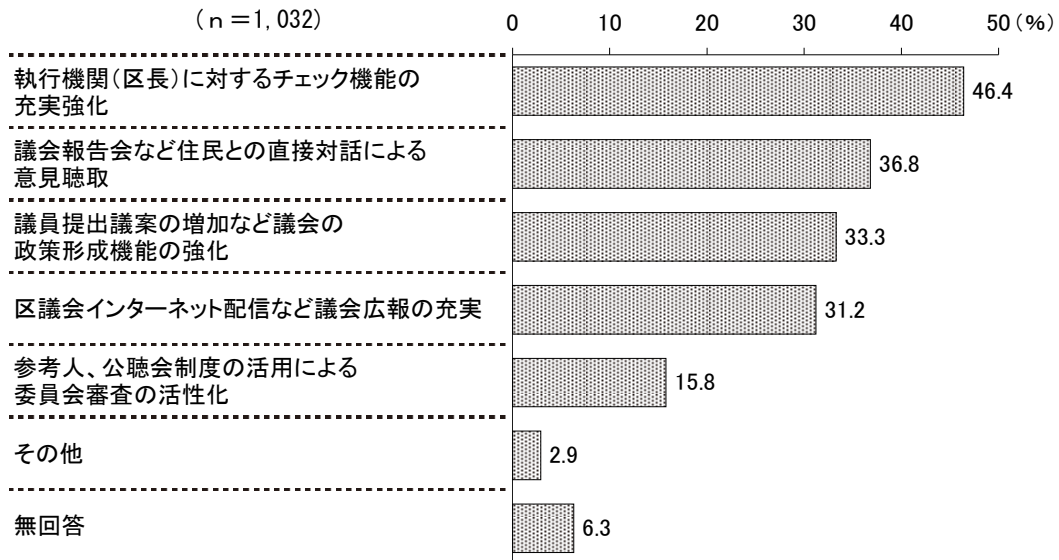
性別にみると、「ぶんきょう区議会だより」は女性の方が男性より13.1ポイント高くなっている。一方、「区議会の活動を知らない」は男性の方が女性より9.6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「ぶんきょう区議会だより」は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が高く、女性の60代以上の年代で8割台となっている。「区報ぶんきょう」は女性70歳以上で5割を超え、男性70歳以上で4割半ばと多くなっている。「区議会の活動を知らない」は男女ともにおおむね年代が下がるほど割合が高く、男女ともに10・20代で5割台となっている。(図13-1-2)

13-2 区議会の活動として期待すること

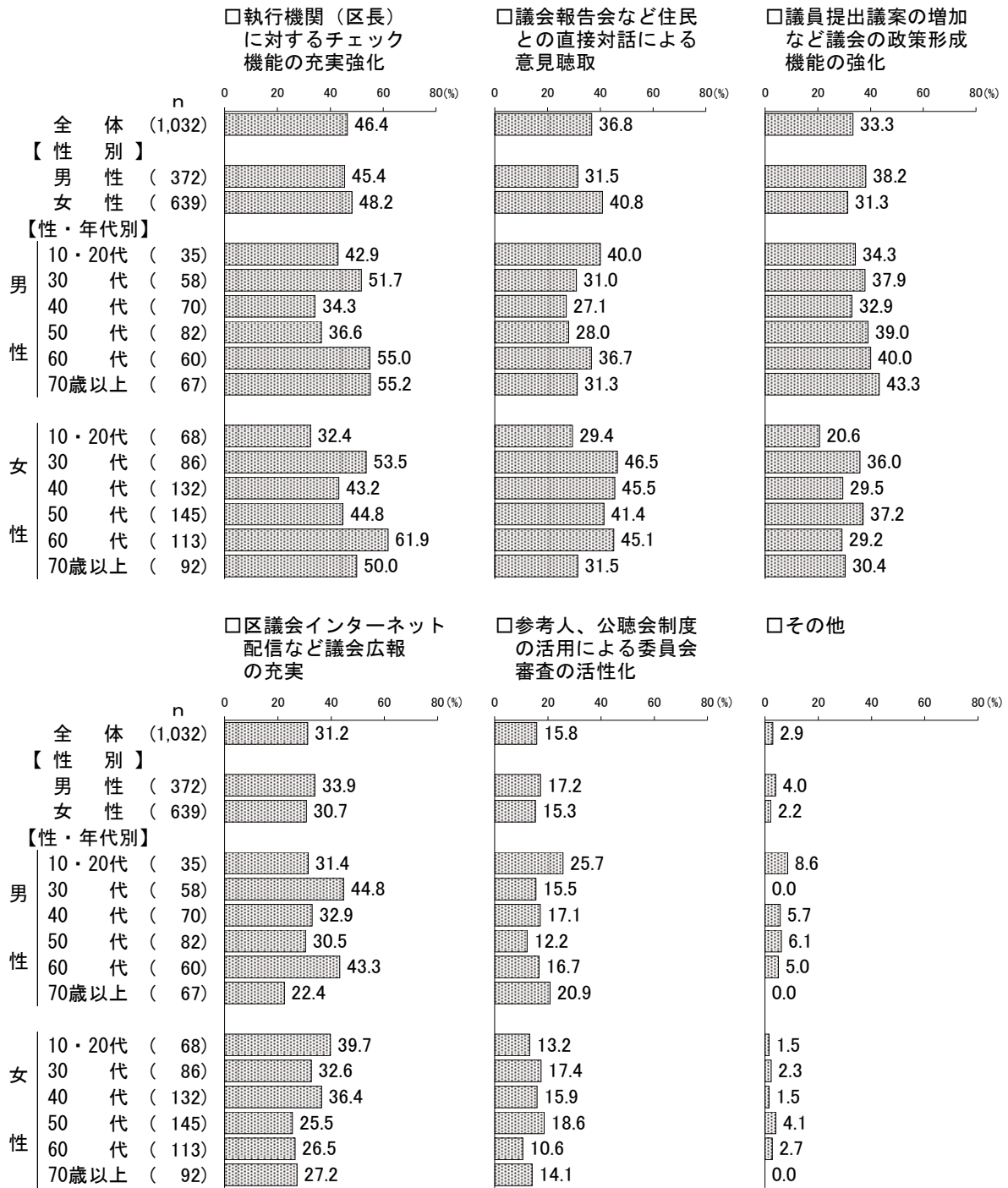
問45 地方議会の活性化や議会改革が求められていますが、区議会の活動として期待することとはどれですか。(〇はいくつでも)

図13-2-1 区議会の活動として期待すること



区議会の活動として期待することについてたずねたところ、「執行機関(区長)に対するチェック機能の充実強化」(46.4%)が4割半ばで最も多く、次いで「議会報告会など住民との直接対話による意見聴取」(36.8%)、「議員提出議案の増加など議会の政策形成機能の強化」(33.3%)、「区議会インターネット配信など議会広報の充実」(31.2%)などの順となっている。(図13-2-1)

図13-2-2 区議会の活動として期待すること—性別／性・年代別



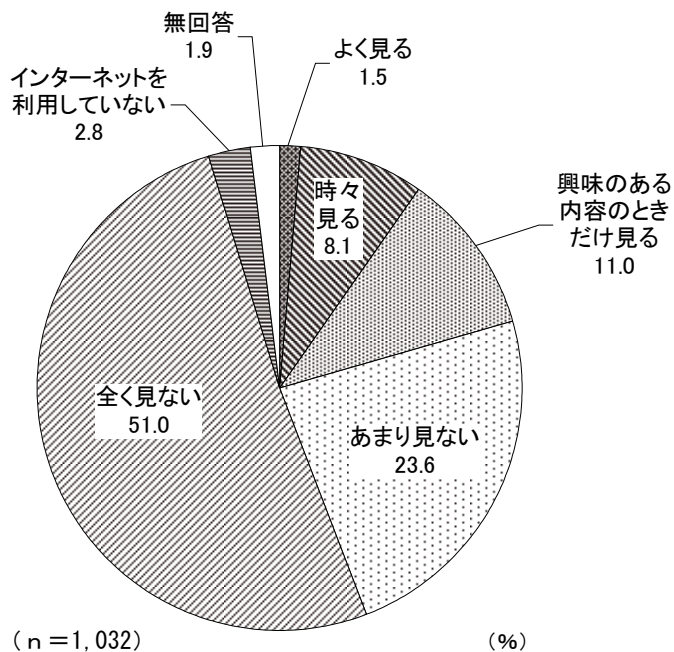
性別にみると、「議会報告会など住民との直接対話による意見聴取」は女性の方が男性より9.3ポイント高くなっている。一方、「議員提出議案の増加など議会の政策形成機能の強化」は男性の方が女性より6.9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「執行機関（区長）に対するチェック機能の充実強化」は女性60代で6割を超えて多くなっている。「議会報告会など住民との直接対話による意見聴取」は女性30代で5割近くと多くなっている。「区議会インターネット配信など議会広報の充実」は男性の30代と60代で4割台と多くなっている。（図13-2-2）

13-3 区議会ホームページの閲覧頻度

問46 あなたは、区議会ホームページをどの程度閲覧されていますか。(○は1つ)

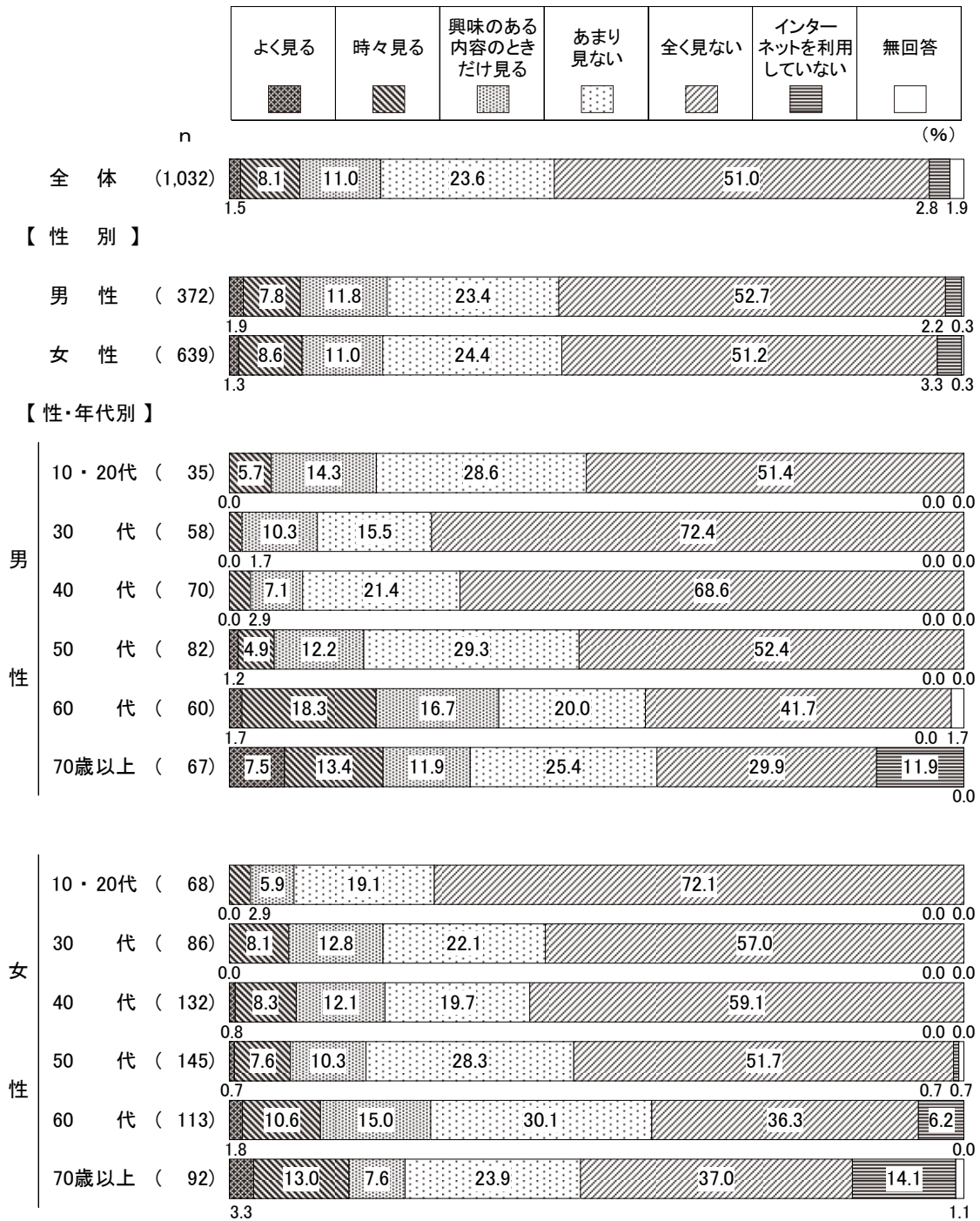
図13-3-1 区議会ホームページの閲覧頻度



区議会ホームページの閲覧頻度についてたずねたところ、「よく見る」(1.5%)と「時々見る」(8.1%)は1割未満、「興味のある内容のときだけ見る」(11.0%)は1割を超えている。一方、「あまり見ない」(23.6%)は2割を超え、「全く見ない」(51.0%)は5割を超えている。

(図13-3-1)

図13-3-2 区議会ホームページの閲覧頻度－性別／性・年代別



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「あまり見ない」は女性60代と男性50代で約3割と多くなっている。「全く見ない」は男性30代と女性10・20代で7割を超えて多くなっている。(図13-3-2)

Ⅲ 質問と回答

第26回 文京区政に関する世論調査

～ ご協力のお願い ～

皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、文京区では、区政の各分野について区民の皆様が日頃感じていらっしゃることをお伺いし、今後の区政に役立てるために「文京区政に関する世論調査」を3年ごとに実施しております。本年度は8月10日号の区報でお知らせしましたとおり、8月下旬より実施することとなりました。

調査にあたりまして、住民基本台帳から区内にお住まいの18歳以上の方を無作為に2,500人選ばせていただきました。調査結果は統計的数値としてまとめますので、個人のお名前などが公表されることは一切ありません。

ご多忙のところ、誠に恐縮ではございますが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和6年8月

文京区長 成澤 廣修

なお、ご回答は郵送によるご返送、もしくはインターネットによるご回答のいずれかでお願いたします。インターネットによるご回答をされる場合には、次のIDおよびパスワードを入力しログインのうえ回答サイトにお入りください。

【あなたのID・パスワード】（※インターネットでご回答いただく場合のログイン用）

ID	●●●●●●●●	※なお、このID・パスワードはランダムに配付しています。 <u>どなたがどのID・パスワードであるかは照合できないようになっており、個人を特定するものではありませんのでご安心ください。</u>
パスワード	●●●●●●●●	

【ご記入にあたってのお願い】

- 回答は、必ずあて名の方ご自身がお答えください。
- 回答不要の部分を除き、全ての質問にお答えください。
- 回答は、あてはまる番号を○印で囲んでください。
- 質問文に（○は1つ）（○はいくつでも）（○は3つまで）などのことわり書きがあります。これはお答えいただく数を意味します。
- 「その他」を選んだ場合には（ ）内に具体的な内容をご記入ください。

ご記入にあたってのご留意点、ご回答方法の詳細は次のページをご参照ください。

ご回答期限 : 9月9日(月)まで

【 ご回答の方法 】

「郵送」にてご返送、もしくは「インターネット」によるご回答のどちらか一方でご回答くださいますようお願いいたします。

◎「郵送」にてご返送の場合

ご記入いただいた調査票を同封の返信用封筒に入れて切手を貼らずにご投函ください。

◎「インターネット」にてご回答の場合

●文京区ホームページより <https://www.city.bunkyo.lg.jp/>

文京区ホームページのトップページにある

「注目情報『第26回 文京区政に関する世論調査を実施しています』」内のURLの入カフォームからご回答ください。

●二次元コード（QRコード）より

下記二次元コードを読み取ると、入カフォームに直接お入りいただけます。



※携帯電話の機種により対応していない場合があります。

※ご回答いただく際は、表紙にある個別のIDおよびパスワードによりサイトにお入りいただき、入カフォームからご回答ください。

【 アンケート調査に関するお問い合わせ先 】

文京区 企画政策部 広報課 広聴・相談担当

〒112-8555 東京都文京区春日一丁目16番21号

電話 03-5803-1129（直通）

1 定住意向

問1 文京区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つ) n = 1,032

1	5年未満	20.5%	3	10年～14年	11.9%	5	20年～24年	10.2%	
2	5年～9年	12.6%	4	15年～19年	10.6%	6	25年以上	33.6%	
								無回答	0.6%

問2 これからも文京区に住み続けたいと思いますか。(○は1つ) n = 1,032

1	ずっと住み続けたい	52.3%	3	いずれは転出したい	2.9%	→ 問3へ		
2	当分の間は住んでいたい	38.5%	4	近いうちに転出するつもり	2.2%			
					5		わからない	3.8%
					無回答		0.3%	

【問2で「1 ずっと住み続けたい」または「2 当分の間は住んでいたい」と回答された方にかがいます】

問2-1 住み続けたいと思う理由を3つ以内でお選びください。(○は3つまで) n = 937

1	通勤・通学などの交通の便がよい	71.2%	
2	緑や街並みなどが整備されている	34.9%	
3	図書館、学校、保育園などの公共機関が整備されている	26.6%	
4	福祉施設や医療施設が整備されている	21.6%	
5	地元の商店などで生活に必要なものがそろい、便利である	19.1%	
6	生まれ育った地域であり、愛着がある	19.9%	
7	持ち家のため、住み続けたい	40.6%	
8	その他(具体的に:)	7.8%	
		無回答	0.4%

2 区政運営

問3 次の区の施策のうち、あなたが関心のある分野を、3つ以内でお選びください。
(○は3つまで) n = 1,032

1	子育て支援	28.6%	9	地域コミュニティ	7.8%	17	環境保護	9.3%
2	教育	24.4%	10	産業振興	1.7%	18	災害対策	37.0%
3	青少年の健全育成	4.8%	11	生涯学習	7.4%	19	防犯・安全対策	31.8%
4	高齢者福祉	29.8%	12	文化振興	11.6%	20	特にない	2.3%
5	障害者福祉	7.0%	13	スポーツ振興	4.1%	21	その他	1.4%
6	生活福祉	10.7%	14	観光	3.3%	〔具体的に: 〕		
7	健康づくり	10.5%	15	交流	1.9%			
8	生活衛生環境	11.6%	16	住環境	28.7%	無回答		0.4%

問3-1へ

【問3で「1」から「19」および「21 その他」と回答された方にうかがいます】

問3-1 関心のある区の施策の分野について、どのように関わっていますか。(〇はいくつでも)
n=1,004

1 自ら団体や委員等(※)に参加している	15.5%
2 関わりのある団体等に相談している	4.1%
3 自ら区や区議会議員に問合せや、区議会の傍聴をしている	1.6%
4 選挙やパブリックコメントの機会を捉え、自分の意思を示している	32.9%
5 関わりたいと思っているが、していない	21.8%
6 区や団体等に伝えるほどではない	27.9%
無回答	6.4%

※「団体や委員等」とは、民生委員・児童委員、保護司、スポーツ推進委員、消防団、町会・自治会、明るい選挙推進協議会委員、高齢者・身体障害者家庭「話し合い員」、青少年健全育成会九地区連絡会、青少年委員、赤十字婦人奉仕団、PTA等のことを言います。

問4 文京区の施策に対する満足度を教えてください。(〇は1つ) n=1,032

1 満足	12.6%	4 どちらかといえば不満	3.7%
2 どちらかといえば満足	48.0%	5 不満	1.6%
3 どちらともいえない	32.5%	無回答	1.7%

問5 区の施策のうち、満足に感じているものを、3つ以内でお選びください。(〇は3つまで)

n=1,032

1 子育て支援	17.9%	9 地域コミュニティ	6.9%	17 環境保護	6.2%
2 教育	17.1%	10 産業振興	1.0%	18 災害対策	7.3%
3 青少年の健全育成	1.8%	11 生涯学習	4.8%	19 防犯・安全対策	19.4%
4 高齢者福祉	7.2%	12 文化振興	10.8%	20 特にない	21.8%
5 障害者福祉	2.3%	13 スポーツ振興	3.8%	21 その他	1.8%
6 生活福祉	3.6%	14 観光	1.7%	〔具体的に：〕	
7 健康づくり	9.1%	15 交流	1.0%	無回答	2.0%
8 生活衛生環境	11.9%	16 住環境	22.6%		

問6 区の施策のうち、不満に感じているものを、3つ以内でお選びください。(〇は3つまで)

n=1,032

1 子育て支援	7.5%	9 地域コミュニティ	4.0%	17 環境保護	4.0%
2 教育	6.8%	10 産業振興	4.6%	18 災害対策	9.8%
3 青少年の健全育成	1.9%	11 生涯学習	2.5%	19 防犯・安全対策	6.9%
4 高齢者福祉	9.3%	12 文化振興	2.0%	20 特にない	48.6%
5 障害者福祉	4.0%	13 スポーツ振興	3.7%	21 その他	5.6%
6 生活福祉	3.6%	14 観光	2.7%	〔具体的に：〕	
7 健康づくり	2.6%	15 交流	2.3%	無回答	2.0%
8 生活衛生環境	4.2%	16 住環境	10.1%		

問7 区の施策のうち、さらに力を入れるべきだと考えるものを、3つ以内でお選びください。

(○は3つまで) n=1,032

1	子育て支援	26.4%	9	地域コミュニティ	7.6%	17	環境保護	9.0%
2	教育	16.9%	10	産業振興	3.5%	18	災害対策	31.1%
3	青少年の健全育成	6.7%	11	生涯学習	3.8%	19	防犯・安全対策	21.7%
4	高齢者福祉	24.0%	12	文化振興	5.7%	20	特になし	9.4%
5	障害者福祉	6.9%	13	スポーツ振興	4.6%	21	その他	2.6%
6	生活福祉	9.3%	14	観光	3.3%	〔具体的に：〕		
7	健康づくり	6.8%	15	交流	2.1%	無回答		1.6%
8	生活衛生環境	8.2%	16	住環境	16.1%			

問8 区の財政状況に関心がありますか。(○は1つ)

n=1,032

1	大いにある	20.9%	3	あまりない	15.2%
2	少しはある	57.3%	4	わからない	5.7%
				無回答	0.9%

問9 区の財政状況について、どのような印象をお持ちですか。(○は1つ)

n=1,032

1	極めて厳しい	0.9%	3	普通	42.6%	5	わからない	34.1%
2	厳しい	7.9%	4	まだまだ余裕がある	13.7%	無回答		0.8%

問10 財政の健全化を更に進めていくには、今後どのようなことに力を入れていくべきだと考えますか。3つ以内でお選びください。(○は3つまで)

n=1,032

1	公共施設の老朽化や移転等に伴い、現施設や跡施設の有効活用を図る	40.6%
2	職員の人件費を抑制する	10.8%
3	必要性が低くなった事業を廃止・縮小する	52.4%
4	特定の人が利用する施設の利用料金を適正な利用料等にする	23.8%
5	民間委託や指定管理者制度を積極的に利用する	12.7%
6	区民やNPOなどと協働して、公共サービスの提供を行う	14.1%
7	新たな財源（ふるさと納税、広告料収入、区有財産の貸付収入など）を獲得する	28.2%
8	基金（家計における貯金）の一定の残高を確保する	2.8%
9	区民のニーズに基づく施策を実施する	26.7%
10	わからない	8.0%
11	その他〔具体的に：〕	3.1%
無回答		0.9%

問 11 手続きのデジタル化により実現すると良いと思う区のサービスは何ですか。(〇はいくつでも) n = 1,032

1	インターネット上で（窓口に行かなくても）行政手続きやサービスの申し込みができる『オンライン申請』	75.2%
2	マイナンバーカード等を読み取ることにより、申請者が氏名や住所等を記入しなくても手続きできる『書かない窓口』	48.1%
3	窓口での手数料の支払い等の際に、現金を使用せずに支払える『キャッシュレス決済』	50.0%
4	インターネットで24時間行政サービスについての問い合わせに答えられる『AIチャットボット』	24.4%
5	特になし	9.4%
6	その他（具体的に： 無回答	2.9% 1.5%

【問 11 で「1」と回答された方にうかがいます】

問 11-1 インターネットで申請・届出等ができる则认为良いと思う行政手続きや区のサービスは何ですか。(〇はいくつでも) n = 776

1	証明書（住民票の写し、印鑑登録証明書等）の交付申請	83.9%
2	子育て・保育に関する手続き	40.9%
3	介護・福祉に関する手続き	54.4%
4	防災（災害時の支給等）に関する手続き	55.5%
5	特になし	0.4%
6	その他（具体的に： 無回答	1.9% 6.6%

3 人権・ダイバーシティ

問 12 人権や差別・偏見についての問題の周知・理解や解決のために、区が今後どのようなことに力を入れていくべきと考えますか。5つ以内でお選びください。(〇は5つまで) n = 1,032

1	子どもへの虐待・体罰の防止、いじめの防止	67.2%	12	刑を終えて出所した人への支援	3.0%
2	高齢者への虐待の防止、差別の解消	35.6%	13	部落差別等の同和問題の解消	2.6%
3	障害者への虐待の防止、差別の解消	37.3%	14	アイヌの人々に対する差別の解消	2.0%
4	配偶者等からの暴力の防止と啓発	22.7%	15	わからない	7.4%
5	ジェンダー平等の実現	25.1%	16	その他	2.0%
6	性自認および性的指向に対する理解促進	9.4%		（具体的に： 無回答	1.6%
7	インターネットを悪用した書き込みの防止	50.3%			
8	外国人と共生する社会	24.8%			
9	犯罪被害者とその家族への支援	10.2%			
10	路上生活者への支援	7.5%			
11	エイズ・HIV感染者やハンセン病患者に対する差別の解消	3.1%			

4 防災・安全

問 13 警察以外の区や地域団体等が行う防犯対策で強化してほしいことは何ですか。3つ以内でお選びください。(〇は3つまで) n=1,032

1 区内で発生した犯罪発生情報の提供	48.4%	5 防犯カメラの設置	64.1%
2 青色防犯パトロールカーの運行	27.9%	6 特にない	6.4%
3 子どもや地域団体への犯罪対策に関する講座や講演会などの啓発活動	17.6%	7 その他〔具体的に：〕	1.6%
4 地域の防犯パトロール等の活動への支援	41.3%	無回答	1.5%

問 14 区が行う特殊詐欺対策で強化してほしいことは何ですか。3つ以内でお選びください。(〇は3つまで) n=1,032

1 公共施設などでのポスター掲示	15.4%	5 相談窓口に関する情報	35.3%
2 継続的な情報発信	63.0%	6 特にない	9.5%
3 警察署と連携をした啓発活動	57.6%	7 その他〔具体的に：〕	1.5%
4 青色防犯パトロールカーによる広報活動	16.0%	無回答	1.7%

問 15 あなたは、災害時に自宅の損傷や倒壊の危険性が少ない場合は、避難所への避難ではなく、自宅での生活を継続する「在宅避難」を区が推進していることを知っていますか。(〇は1つ) n=1,032

1 知っている	49.6%	2 知らない	48.9%	無回答	1.5%
---------	-------	--------	-------	-----	------

問 16 あなたは、災害に備えてどのような対策をしていますか。(〇はいくつでも) n=1,032

1 家具の転倒防止	45.3%	11 携帯ラジオ、懐中電灯の用意	57.8%
2 建物の耐震性及び耐火性の確保	19.3%	12 救急用品の用意	33.9%
3 ガラスの飛散防止	9.2%	13 避難所等への避難方法の確認	27.2%
4 感震ブレーカーの設置	4.7%	14 集合場所の確認	33.3%
5 住宅用消火器の用意・確認	28.7%	15 貴重品を持ち出す準備	16.5%
6 防災訓練への参加	9.6%	16 災害用伝言ダイヤルの確認方法	10.1%
7 飲料水、食料、感染症対策用品の確保(最低3日分以上)	65.3%	17 特に何もしていない	7.0%
8 携帯トイレ等トイレ関係用品の用意	49.3%	18 その他〔具体的に：〕	0.3%
9 充電機・発電機等の電源の用意	36.3%	無回答	1.1%
10 カセットコンロ等の熱源・燃料の用意	44.6%		

問 17 区からの災害情報の提供方法について、知っているものをすべてお選びください。

(○はいくつでも) n=1,032

1 文京区公式ホームページ	62.7%	8 防災行政無線 ((屋外スピーカー (電話応答システムを含む。))	25.2%
2 文京区防災ポータル	13.3%	9 Lアラート	7.1%
3 文京区防災アプリ	16.0%	10 エリアメール (緊急速報メール)	23.8%
4 文京区公式 X (旧ツイッター)・ フェイスブック	10.5%	11 Yahoo! 防災速報	26.0%
5 文京区公式 LINE	15.3%	12 臨時災害 FM 放送 (ラジオ)	3.4%
6 文の京安心・防災メール	8.8%	13 知っているものはない	13.5%
7 文京区民チャンネル	13.0%	無回答	2.0%

問 18 区では、災害情報を広域的に伝達する目的で、「防災行政無線 (屋外スピーカー)」を公園や区立学校等に設置しております。現在は、緊急性を強調するため、訓練を除き災害時のみ使用して
いますが、その使用方法について、あなたが最も適切と思うものをお選びください。(○は1つ)

n=1,032

1 夕焼けチャイムのように定期的に流したほうがよい	14.3%
2 区のイベント情報など不定期でも流したほうがよい	5.0%
3 大雨・洪水警報等の事前の災害情報も流したほうがよい	39.6%
4 これまでどおり災害時 (訓練を含む) のみ流したほうがよい	38.4%
無回答	2.6%

5 協働・協治

問 19 協働・協治 (※) とは、地域の課題解決のため、互いに連携・協力することを言いますが、
お住まいの地域で実施されている活動に関心がありますか。

(例：地域のお祭り・ラジオ体操・防災訓練等への参加、資源ごみの分別 (拠点回収への持ち
込み)、日赤・赤い羽根等に募金するなど) (○は1つ) n=1,032

1 大いにある	10.9%	3 あまりない	29.0%
2 少しはある	53.1%	4 わからない	5.4%
		無回答	1.6%

※協働・協治

地域活動団体、非営利活動団体、事業者及び区が対等の関係で協力し、地域の情報、人材、
場所、資金、技術等の社会資源を有効に活用しながら、地域社会の公共的な課題の解決を図
る社会のあり方をいい、本区においては「文の京」自治基本条例において定めています。

問 20 区内でNPO、ボランティア団体及び町会・自治会等の地域に貢献する活動を行っている団体、組織やグループの活動に参加していますか。次の中から参加しているものをすべてお選びください。(〇はいくつでも) n=1,032

1 町会・自治会	20.2%
2 PTA	7.3%
3 青少年健全育成会	0.8%
4 NPO法人	1.5%
5 ボランティア団体	2.6%
6 企業による地域貢献活動	0.7%
7 個人的なグループ・サークル	3.6%
8 参加していない → 問21へ	69.2%
9 その他〔具体的に： 無回答	1.1% 1.6%

→ 問 20-1 へ

【問 20 で「1」から「7」および「9 その他」と回答された方にうかがいます】

問 20-1 その活動はどのような分野ですか。参加しているものを、すべてお選びください。

(〇はいくつでも) n=302

1 区のイベント・行事の運営	22.2%	9 国際交流(協力)活動	2.0%
2 防犯・地域安全活動	21.2%	10 社会福祉活動	7.6%
3 自主防災活動や災害援助活動	7.9%	11 保健・医療・衛生活動	1.7%
4 子どもの健全育成活動	21.9%	12 自然・環境保護活動	1.3%
5 スポーツ活動	12.6%	13 交通安全活動	8.9%
6 文化・芸術活動	10.6%	14 募金活動、チャリティーバザー	20.2%
7 学習活動支援・指導活動	4.6%	15 その他〔具体的に：	7.6%
8 観光振興活動	1.0%	無回答	7.9%

問 21 今後参加してみたいと思う地域での活動は、どのような分野ですか。すべてお選びください。

(〇はいくつでも) n=1,032

1 区のイベント・行事の運営	11.2%	10 社会福祉活動	9.4%
2 防犯・地域安全活動	7.6%	11 保健・医療・衛生活動	5.7%
3 自主防災活動や災害援助活動	8.4%	12 自然・環境保護活動	13.1%
4 子どもの健全育成活動	11.2%	13 交通安全活動	2.6%
5 スポーツ活動	14.3%	14 募金活動、チャリティーバザー	5.6%
6 文化・芸術活動	23.2%	15 特にない	36.3%
7 学習活動支援・指導活動	7.5%	16 その他〔具体的に：	0.6%
8 観光振興活動	6.5%	無回答	3.4%
9 国際交流(協力)活動	13.3%		

問 22 町会や自治会に加入していますか。(○は1つ) n = 1,032

1 加入している	54.7%	2 加入していない	44.3%	無回答	1.0%
----------	-------	-----------	-------	-----	------

問 23 町会や自治会活動に参加したいと思いませんか。(○は1つ) n = 1,032

1 参加したい	4.7%	3 参加したくない	26.7%
2 機会があれば参加したい	30.8%	4 どちらともいえない	36.2%
		無回答	1.5%

問 24 町会・自治会に期待する内容はどのようなことですか。すべてお選びください。
(○はいくつでも) n = 1,032

1 防災・地域安全活動	53.5%	7 行政との連携	25.9%
2 交通安全活動	17.3%	8 募金活動	3.9%
3 清掃・リサイクル活動事業などの 環境活動	29.0%	9 特にない	17.5%
4 お祭りなどのイベント	42.4%	10 その他〔具体的に：	0.8%
5 地域親睦・交流活動	23.7%	無回答	1.3%
6 高齢者・障害者・児童に対する 福祉活動	24.4%		

6 消費者相談

問 25 区の消費生活センターに、消費者と事業者との間に生じたトラブルを相談する「消費者相談室」があることを知っていますか。(○は1つ) n = 1,032

1 知っている	50.2%	2 知らない	48.9%	無回答	0.9%
---------	-------	--------	-------	-----	------

7 文化・芸術・スポーツ

問 26 文京区に文京ふるさと歴史館と森鷗外記念館があることを知っていますか。(○は1つ) n = 1,032

1 両方とも知っている	48.6%	3 文京ふるさと歴史館のみ知っている	3.8%
2 両方とも知らない	16.1%	4 森鷗外記念館のみ知っている	30.7%
		無回答	0.8%

問 27 誰もが安心してスポーツに親しむことができる環境のためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを選んでください。(○はいくつでも) n = 1,032

1 子どもや親子が参加しやすいスポーツ事業	40.9%
2 大人が参加しやすいスポーツ事業	31.7%
3 利用しやすいスポーツ施設や設備の充実	79.3%
4 パラスポーツ・インクルーシブスポーツの普及促進	11.0%
5 区内スポーツ関係団体との連携強化	15.9%
6 その他〔具体的に：	1.7%
無回答	2.7%

8 高齢者・障害者

問 28 あなたは「成年後見制度」について、どのようなことを知っていますか。(○はいくつでも)

n=1,032

1 「成年後見制度」は、認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である	62.5%
2 本人の判断能力の程度により「後見」「保佐」「補助」の3種類がある	20.9%
3 将来の判断能力の低下に備え、元気な時にあらかじめ後見人となるべき人を決めておく「任意後見制度」がある	34.5%
4 名前は知っているが、内容は知らない	22.9%
5 名前も内容も知らない	10.9%
6 その他〔具体的に：〕	0.4%
無回答	1.1%

問 29 地域における高齢者の相談窓口である「高齢者あんしん相談センター(地域包括支援センター)」を知っていますか。(○は1つ)

n=1,032

1 事業内容もおおむね知っている	12.7%	3 名前は聞いたことがある	33.3%
2 事業内容について少し知っている	15.5%	4 知らない	37.6%
		無回答	0.9%

問 30 『フレイル』とは、年齢を重ねることで心身の活力が低下した「健康」と「要介護状態」の間を指す用語です。この用語について、次の中からあてはまるものをお選びください。(○は1つ)

n=1,032

1 内容まで十分理解している	13.5%
2 内容についてある程度理解している	27.9%
3 内容は知らないが用語を知っている	18.6%
4 この用語を初めて聞いた	39.0%
無回答	1.1%

問 31 『合理的配慮』とは、障害のある人から申出があった場合、負担が大きくなりえない範囲で手助けすることを指す用語です。国や市町村、会社やお店に「合理的配慮」の提供が求められています。この用語について、次の中からあてはまるものをお選びください。(○は1つ)

n=1,032

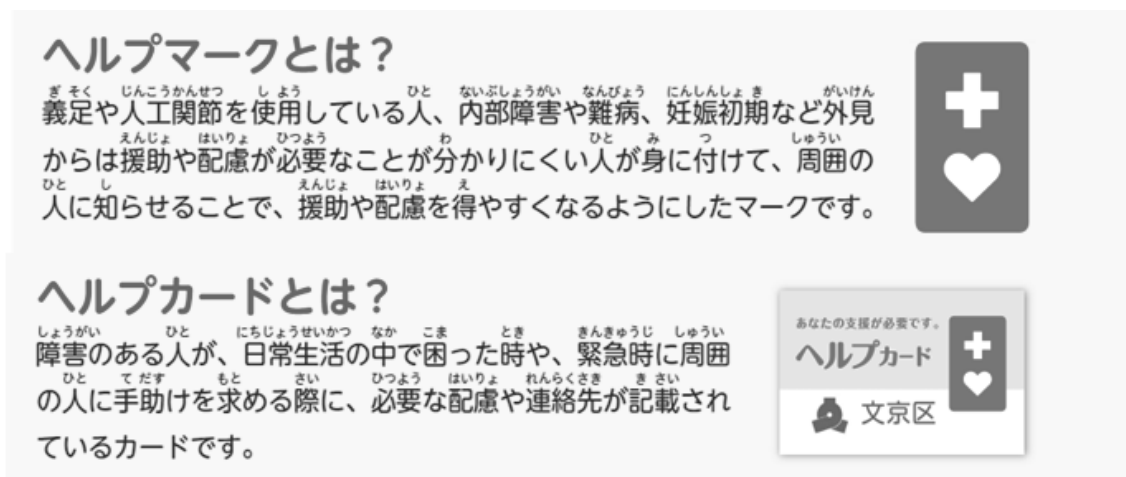
1 内容まで十分理解している	6.1%
2 内容についてある程度理解している	17.9%
3 内容は知らないが用語を知っている	18.2%
4 この用語を初めて聞いた	56.7%
無回答	1.1%

問 32 『ヘルプマーク』とは、外見からは分からなくても援助や配慮を必要としている人が、周囲の人に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう作成したマークです。かばんなど見えるところに付けています。

『ヘルプカード』とは、障害のある人が、日常生活の中で困ったときや、緊急時に周囲の人に手助けを求める際に、必要な配慮や連絡先が記載されているカードです。

次の中からあてはまるものをお選びください。(〇は1つ)

n = 1,032



1	どちらも知っている	23.6%	3	ヘルプマークは知っている	66.6%
2	どちらも知らない	7.9%	4	ヘルプカードは知っている	0.6%
				無回答	1.3%

問 33 区では、令和6年4月1日に「文京区手話言語条例」を制定しました。

手話が、日本語とは異なる独自の文法をもつ言語であることを知っていますか。(〇は1つ)

n = 1,032

1	知っている	31.0%	2	知らない	67.5%	無回答	1.5%
---	-------	-------	---	------	-------	-----	------

9 子育て・教育

問 34 すべての子どもには、守られて育つことや自分の意見を自由に発言するなど、ありのままの自分で生きるために大切な「子どもの権利」があります。こうした「子どもの権利」があることを知っていますか。(〇は1つ)

n = 1,032

1	内容まで知っている	25.5%	3	知らない	19.9%
2	言葉だけは知っている	53.2%		無回答	1.5%

問 35 部活動で教員が行っている指導や運営について、地域のスポーツクラブ、専門的な団体や地域の方々などに部分的に協力してもらったり、全体的に任せたりする「部活動の地域連携・地域移行」の実現に向けて、環境の整備が段階的に進められていることを知っていますか。(〇は1つ)

n = 1,032

1	知っている	33.2%	3	どちらともいえない	11.5%
2	知らない	53.7%		無回答	1.6%

問 36 青少年健全育成に関して地域の大人たちができること、またやるべきことは何だと思いますか。
(〇はいくつでも) n=1,032

1 大人自身が社会規範を守る姿勢を示すこと	65.4%
2 子ども達を犯罪から守るため、地域での防犯体制を強化すること	53.1%
3 子ども達に進んで「おはよう」「こんにちは」等あいさつをすること	39.2%
4 地域や学校の行事に参加、協力すること	23.4%
5 近所の知り合いの子どもの育成に手を貸すこと	20.1%
6 地域の関わりは必要だと思うが、実際に子どもの健全育成に関わるのは難しい	28.3%
7 わからない	5.6%
8 その他〔具体的に：〕	1.4%
無回答	1.5%

10 健康・保健

問 37 新型コロナウイルス感染症流行時に予防のために行っていた対策で、現在も引き続き行っている感染症対策は何ですか。(〇はいくつでも) n=1,032

1 マスク着用	52.7%	6 各種予防接種	23.1%
2 手洗いうがい	87.1%	7 何もしていない	5.7%
3 アルコール消毒	51.8%	8 その他〔具体的に：〕	0.5%
4 三密の回避	18.0%	無回答	1.1%
5 定期的な換気	37.9%		

問 38 区の保健医療施策（感染症、検診、予防接種、健康づくりなど）に関する情報をどのような方法で入手していますか。(〇はいくつでも) n=1,032

1 区報	68.3%
2 ホームページ	35.2%
3 SNS (LINE、X (旧 Twitter)、Facebook)	14.1%
4 ケーブルテレビ	2.3%
5 友人知人	9.6%
6 その他〔具体的に：〕	3.8%
無回答	4.0%

11 住環境・まちづくり

問 39 自転車の安全利用推進のために、重点を置くべきと思う施策について、**3つ以内**でお選びください。(〇は3つまで) n = 1,032

1	自転車レーン・専用通行帯等の自転車走行空間の整備	61.9%
2	悪質・危険な自転車運転者への指導・取締り強化	61.3%
3	自転車利用者に対するルールの周知・マナーの向上	51.7%
4	駅周辺・商業集客施設における自転車駐車場の整備	31.4%
5	自転車損害賠償保険加入の促進	14.1%
6	学校での安全教育の推進	16.7%
7	駅周辺の放置自転車への警告・撤去の強化	11.1%
8	その他〔具体的に：〕	3.2%
	無回答	1.3%

問 40 公園再整備にあたり、求める役割は何ですか。次の中から1つお選びください。(〇は1つ) n = 1,032

1	自由に使える広場	20.9%	5	健康づくりの場	6.0%
2	子どもが遊べる遊具広場	16.7%	6	災害時に利用できる	20.3%
3	球技ができる場所	11.7%	7	その他〔具体的に：〕	2.1%
4	四季を感じられる環境	21.0%		無回答	1.2%

問 41 令和2年7月から「文京区公共の場所における喫煙等の禁止に関する条例」が施行され、区内全域の道路や公園など、屋外の公共の場所での喫煙・ポイ捨てが禁止となりました。このことを知っていますか。(〇は1つ) n = 1,032

1	よく知っている	52.8%
2	聞いたことはあるが、内容はよく知らない	25.2%
3	知らない	20.9%
	無回答	1.1%

12 環境・循環型社会

問 42 環境について、あなたが知りたいと考えるものは何ですか。次の中からあてはまるものを3つ以内でお選びください。(〇は3つまで) n = 1,032

1	地球温暖化による大雨や熱中症など、気候変動の影響への対策に関する情報	58.4%
2	省エネルギーや再生可能エネルギーに関する情報	37.8%
3	大気汚染や騒音など、公害に関する情報	35.9%
4	区内の緑や水辺に関する情報	34.3%
5	生物多様性に配慮した生活の実践に関する情報	11.8%
6	アライグマやハクビシンなど、外来生物に関する情報	24.1%
7	特になし	7.5%
8	その他〔具体的に： 〕	1.3%
	無回答	1.6%

問 43 文京区一般廃棄物処理基本計画（モノ・プラン文京）では、ごみ量について、令和3年度から12年度までの10年間で、区民1人1日当たりの総排出量及び家庭ごみ排出量の約20%削減を目標としています。あなたは、この目標を達成するために、どのようなことを実践すると良いとお考えですか。**5つ以内**でお選びください。(〇は5つまで) n = 1,032

1	マイバッグを持参する	63.9%
2	マイ箸・マイボトル・マイカップを持参する	17.4%
3	過剰包装を断る	50.3%
4	チラシ・ダイレクトメールを断る	31.7%
5	食材を使い切る等、生ごみを出さない	40.0%
6	生ごみの水分をよく切ってから捨てる	18.0%
7	生ごみ処理機・コンポストを使用する	5.9%
8	フリーマーケットやリユースショップ・リユースサイトを利用する	8.7%
9	文京区リサイクル推進協力店を利用する	3.5%
10	ぶんきょう食べきり協力店を利用する	1.6%
11	文京×タバスケ（フードシェアリングサービス）を利用する	1.3%
12	フードドライブ（未利用食品の回収）に協力する	8.7%
13	町会などでの集団回収に参加する	9.4%
14	資源となるものは分別する	54.3%
15	チャットボットによるごみ分別案内サービスを利用する	2.3%
16	修理可能なものは修理して使う	19.8%
17	詰め替え商品を購入する	41.5%
18	再生品・環境配慮型商品を使用する	8.9%
19	ごみ減量に関する勉強会・講座等に参加する	3.2%
20	その他〔具体的に： 〕	1.6%
	無回答	1.6%

13 議会

問 44 区議会の活動を、どのようにしてお知りになっていますか。(〇はいくつでも) n=1,032

1	ぶんきょう区議会だより	64.0%	6	CATVぶんきょう区民チャンネル	2.1%
2	区議会のホームページ	4.7%	7	区議会の活動を知らない	22.9%
3	区議会日程ポスター	0.8%	8	その他〔 具体的に： 〕	1.0%
4	本会議・委員会の傍聴	0.1%		無回答	2.3%
5	区報ぶんきょう	28.8%			

問 45 地方議会の活性化や議会改革が求められていますが、区議会の活動として期待することはどれですか。(〇はいくつでも) n=1,032

1	執行機関（区長）に対するチェック機能の充実強化	46.4%
2	議員提出議案の増加など議会の政策形成機能の強化	33.3%
3	議会報告会など住民との直接対話による意見聴取	36.8%
4	参考人、公聴会制度の活用による委員会審査の活性化	15.8%
5	区議会インターネット配信など議会広報の充実	31.2%
6	その他〔 具体的に： 〕	2.9%
	無回答	6.3%

問 46 あなたは、区議会ホームページをどの程度閲覧されていますか。(〇は1つ) n=1,032

1	よく見る	1.5%	4	あまり見ない	23.6%
2	時々見る	8.1%	5	全く見ない	51.0%
3	興味のある内容のときだけ見る	11.0%	6	インターネットを利用していない	2.8%
				無回答	1.9%

■ 最後に、あなたとご家族のことについておたずねします

F 1 あなたの性別は、次のどれにあたりますか。(〇は1つ) n=1,032

1 男性	36.0%	2 女性	61.9%	3 その他の性自認	0.1%
				無回答	1.9%

F 2 あなたの年齢はおいくつですか。(〇は1つ) n=1,032

1 18~19歳	1.6%	4 40~49歳	19.6%	7 70歳以上	15.4%
2 20~29歳	8.4%	5 50~59歳	22.1%	無回答	2.0%
3 30~39歳	14.1%	6 60~69歳	16.9%		

F 3 あなたのご職業は次のどれですか。(〇は1つ) n=1,032

1 自営業・事業主	12.3%	4 パート・アルバイト	9.2%	7 無職	10.6%
2 自由業	2.3%	5 家事(専業)	11.7%	8 その他()	2.3%
3 会社員・公務員	45.9%	6 学生	3.6%	無回答	2.0%

F 4 一緒に住んでいるご家族は、あなたを含めて何人ですか。(〇は1つ) n=1,032

1 1人	22.8%	3 3人	20.8%	5 5人	3.4%
2 2人	30.3%	4 4人	18.9%	6 6人以上	1.6%
				無回答	2.1%

F 5 あなたの現在のお住まいは、次のどれにあたりますか。(〇は1つ) n=1,032

1 一戸建て持ち家	28.4%	4 賃貸マンション・アパート	32.5%
2 一戸建て借家	2.5%	5 社宅、寮など	2.3%
3 分譲マンション	31.3%	6 その他()	1.0%
		無回答	2.0%

※裏面に続きます →

F 6 あなたご自身は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

※同居・別居を問わず、現在の状況をお答えください。

n=1,032

◎独身である	1 18～39歳	13.0%
	2 40～64歳	13.0%
	3 65歳以上	7.9%
◎配偶者がいて 子どもがいない	4 本人 18～39歳	4.8%
	5 本人 40～64歳	8.5%
	6 本人 65歳以上	3.1%
◎配偶者がいて 子どもがいる	7 一番上の子どもが小学校入学前	6.4%
	8 一番上の子どもが小・中学生	10.3%
	9 一番上の子どもが高校生・大学生(短大・大学院・専門学校等含む)	7.8%
	10 本人が64歳以下で、一番上の子どもが学校卒業	10.6%
	11 本人が65歳以上で、一番上の子どもが学校卒業	11.2%
	無回答	3.3%

F 7 あなたはどちらの地区にお住まいですか。(○は1つ)

n=1,032

1 根津、弥生、本郷、湯島、西片、白山(1丁目)、向丘(1丁目)	22.5%
2 後楽、春日、水道、小石川(1～4丁目)、関口(1丁目)、小日向(1丁目)、白山(2丁目)	20.7%
3 千駄木、本駒込、向丘(2丁目)、白山(5丁目)	24.9%
4 千石、白山(3・4丁目)、大塚(3・4丁目)、小石川(5丁目)	16.6%
5 音羽、目白台、大塚(1・2・5・6丁目)、関口(2・3丁目)、小日向(2～4丁目)	14.1%
無回答	1.2%

ご協力ありがとうございました

～ 皆さまからの貴重なご意見を、区の施策に活かしてまいります ～

第26回 文京区政に関する世論調査 報告書

令和6年12月発行

印刷物番号 A0324004

- [発行] 文京区企画政策部広報課
〒112-8555 文京区春日1丁目16番21号
☎ 03(5803)1129 (直通)
- [実施] 株式会社エスピー研
〒102-0072 千代田区飯田橋3丁目11番20号
☎ 03(3239)0071 (代表)

資源有効利用のため再生紙を使用しています。